ACTIONSCRIPT 3.0 コンポーネントガイド



© 2007 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

ActionScript™3.0 コンポーネントガイド

本マニュアルがエンドユーザー使用許諾契約を含むソフトウェアと共に提供される場合、本マニュアルおよびその中に記載されているソフトウェアは、エンドユーザー使用許諾契約にもとづいて提供されるものであり、当該エンドユーザー使用許諾契約の契約条件に従ってのみ使用または複製することが可能となるものです。当該エンドユーザー使用許諾契約により許可されている場合を除き、本マニュアルのいかなる部分といえども、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の書面による事前の許可なしに、電子的、機械的、録音、その他いかなる形式・手段であれ、複製、検索システムへの保存、または伝送を行うことはできません。本マニュアルの内容は、エンドユーザー使用許諾契約を含むソフトウェアと共に提供されていない場合であっても、著作権法により保護されていることにご留意ください。

本マニュアルに記載される内容は、あくまでも参照用としてのみ使用されること、また、なんら予告なしに変更されることを条件として、提供されるものであり、従って、当該情報が、アドビシステムズ社による確約として解釈されてはなりません。アドビシステムズ社は、本マニュアルにおけるいかなる誤りまたは不正確な記述に対しても、いかなる義務や責任を負うものではありません。

新しいアートワークを創作するためにテンプレートとして取り込もうとする既存のアートワークまたは画像は、著作憲法により保護されている可能性のあるものであることをご留意ください。保護されているアートワークまたは画像を新しいアートワークに許可なく取り込んだ場合、著作権者の権利を侵害することがあります。従って、著作権者から必要なすべての許可を必ず取得してください。

例として使用されている会社名は、実在の会社・組織を示すものではありません。

Adobe、Adobe ロゴ、ActionScript、Flash、Flash Player、および Flash Video は、アドビシステムズ社の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Macintosh is a trademark of Apple Inc., registered in the United States and other countries. Windows is either a registered trademark or a trademark of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/). MPEG Layer-3 audio compression technology licensed by Fraunhofer IIS and Thomson Multimedia (http://www.iis.fhg.de/amm/). You cannot use the MP3 compressed audio within the Software for real time or live broadcasts. If you require an MP3 decoder for real time or live broadcasts, you are responsible for obtaining this MP3 technology license. Speech compression and decompression technology licensed from Nellymoser, Inc. (www.nellymoser.com). Flash CS3 video is powered by On2 TrueMotion video technology. © 1992-2005 On2 Technologies, Inc. All Rights Reserved. http://www.on2.com. This product includes software developed by the OpenSymphony Group (http://www.opensymphony.com/).

Sorenson Spark

Sorenson Spark™ video compression and decompression technology licensed from Sorenson Media. Inc.

Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, California 95110, USA.

Notice to U.S. Government End Users. The Software and Documentation are "Commercial Items," as that term is defined at 48 C.F.R. §2.101, consisting of "Commercial Computer Software" and "Commercial Computer Software Documentation," as such terms are used in 48 C.F.R. §12.212 or 48 C.F.R. §227.7202, as applicable. Consistent with 48 C.F.R. §12.212 or 48 C.F.R. §8227.7202-1 through 227.7202-4, as applicable, the Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation are being licensed to U.S. Government end users (a) only as Commercial Items and (b) with only those rights as are granted to all other end users pursuant to the terms and conditions herein. Unpublished-rights reserved under the copyright laws of the United States. Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704, USA. For U.S. Government End Users, Adobe agrees to comply with all applicable equal opportunity laws including, if appropriate, the provisions of Executive Order 11246, as amended, Section 402 of the Vietnam Era Veterans Readjustment Assistance Act of 1974 (38 USC 4212), and Section 503 of the Rehabilitation Act of 1973, as amended, and the regulations at 41 CFR Parts 60-1 through 60-60, 60-250, and 60-741. The affirmative action clause and regulations contained in the preceding sentence shall be incorporated by reference.

目次

はじめに	11
対象となる読者	12
システム要件	12
本マニュアルについて	12
表記規則	13
用語	13
その他のリソース	13
第1章: ActionScript 3.0 コンポーネントについて	15
コンポーネントを使用するメリット	16
コンポーネントタイプ	18
ドキュメントへの追加とドキュメントからの削除	
コンポーネントの削除	23
バージョンの検索	
ActionScript 3.0 のイベント処理モデル	
単純なアプリケーション	
アプリケーションの設計	
Greetings アプリケーションの作成	
以降の例の実行	32
第 2 章: コンポーネントの利用	33
コンポーネントアーキテクチャ	33
ActionScript 3.0 FLA ベースのコンポーネント	34
SWC ベースのコンポーネント	35
ActionScript 3.0 コンポーネント API	36
コンポーネントファイルの操作	37
コンポーネントファイルの格納場所	37
コンポーネントソースファイルの格納場所	
コンポーネントソースファイルおよびクラスパス	
コンポーネントファイルの編集	
コンポーネントアプリケーションのデバッグ	40

パラメータとプロパティの設定	40
ActionScript でのコンポーネントプロパティの設定	42
ライブラリ	
コンポーネントのサイズ変更	45
ライブプレビュー	46
イベント処理	47
イベントリスナーについて	47
イベントオブジェクトについて	48
表示リストの操作	
表示リストへのコンポーネントの追加	
表示リスト内のコンポーネントの移動	
表示リストからのコンポーネントの削除	51
FocusManager の操作	
リストベースのコンポーネントの操作	53
データプロバイダの操作	
データプロバイダの作成	
dataProvider パラメータの使用	55
ActionScript の使用	
データプロバイダの操作	60
CellRenderer の操作	
セルの形式化	
カスタム CellRenderer クラスの定義	65
CellRenderer プロパティ	
DataGrid オブジェクトの列への CellRenderer の適用	
編集可能セルの CellRenderer を定義	71
CellRenderer としてのイメージ、SWF ファイル、	
ムービークリップの使用	
コンポーネントをアクセス可能にする方法	72
# 0 # 11 = 1 1°	70
第 3 章: UI コンポーネントの使用	
Button の使用	
Button のユーザー操作	
Button のパラメータ	
Button を使用したアプリケーションの作成	
CheckBox の使用	
CheckBox のユーザー操作	
CheckBox のパラメータ	
CheckBox を使用したアプリケーションの作成	
ColorPicker の使用	
ColorPicker のユーザー操作	
ColorPicker のパラメータ	
ColorPicker を使用したアプリケーションの作成	82

ComboBox の使用	
ComboBox のユーザー操作	84
ComboBox のパラメータ	
ComboBox を使用したアプリケーションの作成	85
DataGrid の使用	
DataGrid のユーザー操作	88
DataGrid のパラメータ	
DataGrid を使用したアプリケーションの作成	90
Label の使用	94
Label のユーザー操作	94
Label のパラメータ	
Label を使用したアプリケーションの作成	
List の使用	
List のユーザー操作	
List のパラメータ	
List を使用したアプリケーションの作成	
NumericStepper の使用	
NumericStepper のユーザー操作	
NumericStepper のパラメータ	
NumericStepper を使用したアプリケーションの作成	
ProgressBar の使用	
ProgressBar のユーザー操作	
ProgressBar のパラメータ	
ProgressBar を使用したアプリケーションの作成	
RadioButton の使用	
RadioButton のユーザー操作	
RadioButton のパラメータ	
RadioButton を使用したアプリケーションの作成	
ScrollPane の使用	
ScrollPane のユーザー操作	
ScrollPane のパラメータ	
ScrollPane を使用したアプリケーションの作成	
Slider の使用	
Slider コンポーネントのユーザー操作	
Slider のパラメータ	
Slider を使用したアプリケーションの作成	
TextArea の使用	
TextArea のユーザー操作	
TextArea のパラメータ	
TextArea を使用したアプリケーションの作成	123

TextInput の使用	124
TextInput のユーザー操作	125
TextInput のパラメータ	125
TextInput を使用したアプリケーションの作成	125
TileList の使用	128
TileList のユーザー操作	128
TileList のパラメータ	129
TileList を使用したアプリケーションの作成	129
UILoader の使用	131
UILoader のユーザー操作	131
UILoader のパラメータ	132
UILoader を使用したアプリケーションの作成	132
UIScrollBar の使用	133
UIScrollBar のユーザー操作	133
UIScrollBar パラメータ	
UIScrollBar を使用したアプリケーションの作成	134
第4章: UI コンポーネントのカスタマイズ	137
UI コンポーネントのカスタマイズについて	138
スタイルの設定	
スタイル設定について	139
コンポーネントのデフォルトのスタイルへのアクセス	139
コンポーネントインスタンスのスタイルの設定と取得	139
TextFormat を使用したテキストプロパティの設定	140
コンポーネントのすべてのインスタンスへのスタイルの設定	141
すべてのコンポーネントのスタイルの設定	141
スキンについて	142
新規スキンの作成	145
すべてのインスタンスのスキンの作成	145
一部のインスタンスのスキンの作成	145
Button のカスタマイズ	147
Button でのスタイルの使用	147
Button でのスキンの使用	148
CheckBox のカスタマイズ	149
CheckBox でのスタイルの使用	150
CheckBox でのスキンの使用	151
ColorPicker のカスタマイズ	152
ColorPicker でのスタイルの使用	
ColorPicker でのスキンの使用	
ComboBox のカスタマイズ	154
ComboBox でのスタイルの使用	154
ComboBox でのスキンの使用	156

DataGrid のカスタマイズ	157
DataGrid でのスタイルの使用	157
各列のスタイルの設定	157
ヘッダースタイルの設定	160
DataGrid でのスキンの使用	161
Label のカスタマイズ	163
Label でのスタイルの使用	163
Label でのスキンの使用	164
List のカスタマイズ	164
List でのスタイルの使用	164
List でのスキンの使用	165
NumericStepper のカスタマイズ	167
NumericStepper でのスタイルの使用	167
NumericStepper でのスキンの使用	
ProgressBar のカスタマイズ	170
ProgressBar でのスタイルの使用	170
ProgressBar でのスキンの使用	171
RadioButton のカスタマイズ	172
RadioButton でのスタイルの使用	172
RadioButton でのスキンの使用	173
ScrollPane のカスタマイズ	174
ScrollPane でのスタイルの使用	175
ScrollPane でのスキンの使用	175
Slider のカスタマイズ	175
Slider でのスタイルの使用	176
Slider でのスキンの使用	176
TextArea のカスタマイズ	177
TextArea でのスタイルの使用	178
TextArea でのスキンの使用	
TextInput のカスタマイズ	180
TextInput でのスタイルの使用	181
TextInput でのスキンの使用	181
TileList のカスタマイズ	182
TileList でのスタイルの使用	182
TileList でのスキンの使用	184
UILoader のカスタマイズ	185
UIScrollBar のカスタマイズ	
UIScrollBar でのスタイルの使用	186
UIScrollBar でのスキンの使用	186

第5章: FLVPlayback コンポーネントの使用	189
FLVPlayback コンポーネントの使用	189
FLVPlayback コンポーネントを使用したアプリケーションの作成	191
FLVPlayback コンポーネントのパラメータ	
source パラメータの指定	195
ライブプレビューの使用	197
フルスクリーンのサポート	198
複数の FLV ファイルの再生でのレイアウトの配置	
プログレッシブダウンロードされる FLV ファイルの自動再生	198
キューポイントの使用	199
[Flash Video キューポイント] ダイアログボックスの使用	200
ActionScript とキューポイントの使用	202
ActionScript キューポイントの追加	202
cuePoint イベントの監視	203
キューポイントの検索	
ナビゲーションキューポイントのシーク	204
FLV ファイルの埋め込みキューポイントの有効化と無効化	
ActionScript キューポイントの削除	
複数の FLV ファイルの再生	
複数のビデオプレーヤーの使用	
Flash Media Server からの FLV ファイルのストリーミング	
ネイティブの帯域幅検出の場合と帯域幅検出なしの場合	
非ネイティブの帯域幅検出の場合	
FLVPlayback コンポーネントのカスタマイズ	
デザイン済みスキンの選択	211
FLV Playback カスタム UI コンポーネントへの個々のスキンの適用	
ボタンコンポーネント	
BufferingBar コンポーネント	
SeekBar コンポーネントおよび VolumeBar コンポーネント	
FLV Playback カスタム UI コンポーネントの接続	
新規スキンの作成	
スキンレイアウトの使用	
バッファリングバー	
シークバーとボリュームバー	
背景クリップと前景クリップ	
スキンのビヘイビアの変更	
SMIL ファイルの使用	
(smil)	
<pre><head></head></pre>	
<meta/> dayout>	
⟨layout⟩ ⟨root-layout⟩	
NUUL ⁻ IayUul/	∠∪∪

 	232 232
第 6 章 : FLVPlayback キャプションコンポーネントの使用	235
FLVPlaybackCaptioning コンポーネントの使用	235
FLVPlayback コンポーネントへのキャプションの追加	236
FLVPlaybackCaptioning コンポーネントパラメータの設定	238
source パラメータの指定	238
キャプションの表示	238
Timed Text キャプションの使用	239
キャプションでのキューポイントの使用	240
FLVPlaybackCaptioning キューポイントの標準について	241
埋め込まれたイベントキューポイントのキャプションの	
作成について	242
埋め込まれたキューポイントを使用した複数の言語トラックの	
サポート	
キャプションを使用した複数の FLV ファイルの再生	244
FLVPlaybackCaptioning コンポーネントのカスタマイズ	244
付録 A: Timed Text タグ	247
索引	253

はじめに

Adobe® Flash® CS3 Professional は、インパクトの強い Web 体験を生み出すための標準オーサリングツールです。コンポーネントとは、そのような体験を生むリッチなインターネットアプリケーションを構築するブロックのような部品です。"コンポーネント"は、Flashでのオーサリング中、または実行時に ActionScript™メソッド、プロパティ、およびイベントを使用してコンポーネントをカスタマイズできるパラメータを持つムービークリップです。開発者はコンポーネントを通じてコードを再利用および共有し、複雑な機能をカプセル化することができます。デザイナーは ActionScript を使わずに、それらを利用してカスタマイズすることができます。

コンポーネントを使用することにより、一貫した外観と操作性を備えた堅牢なアプリケーションをすばやく簡単に作成できます。本マニュアルでは、ActionScript 3.0 コンポーネントを使用してアプリケーションを作成する方法について説明します。『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』では、各コンポーネントのアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) について説明します。

アドビ システムズ社が作成したコンポーネントを使用することも、他の開発者が作成したコンポーネントをダウンロードすることも、独自のコンポーネントを作成することもできます。

この章には次の節が含まれています。

対象となる読者	12
システム要件	12
本マニュアルについて	12
表記規則	13
用語	13
その他のリソース	13

対象となる読者

本マニュアルは、Flash アプリケーションを作成しており、コンポーネントを使って開発を効率化したいと考えている開発者向けに書かれています。このため、Flash でのアプリケーションの開発とActionScript の記述について既に知識があることが望まれます。

ActionScript を作成した経験が少ない方でも、コンポーネントをドキュメントに追加し、プロパティインスペクタや[コンポーネントインスペクタ]パネルでパラメータを設定し、[ビヘイビア]パネルでイベントを操作することができます。たとえば、[Webページへ移動]ビヘイビアを Button コンポーネントに追加すると、ActionScript コードをいっさい記述しなくても、ボタンがクリックされると Web ブラウザの中で URL を開くことができます。

作成するアプリケーションの堅牢性を高めるには、コンポーネントを動的に作成します。 ActionScript を使用して、実行時にプロパティを設定し、メソッドを呼び出します。また、イベントリスナーモデルを使用して、イベントを処理します。

詳細については、33ページ、第2章の「コンポーネントの利用」を参照してください。

システム要件

Flash コンポーネントには、Flash のシステム要件を超えるシステム要件はありません。

Flash CS3 コンポーネントを使用する SWF ファイルは、Adobe® Flash® Player 9.0.28.0 以降で表示する必要があります。 さらに、ActionScript 3.0 を使用してパブリッシュする必要もあります ([ファイル]-[パブリッシュ設定]-[Flash] タブで設定できます)。

本マニュアルについて

本マニュアルでは、コンポーネントを使った Flash アプリケーションの開発について詳しく説明します。読者が Flash および ActionScript 3.0 の全般的な知識を持っていることが前提になります。 Flash および関連製品に関する資料は、個別に入手可能です。

本マニュアルは、PDF ファイルとオンラインヘルプの形式で提供されています。オンラインヘルプを表示するには、Flash を起動し、[ヘルプ]-[Flash ヘルプ]-[ActionScript 3.0 コンポーネントガイド] を選択します。

Flash の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- Flash ユーザーガイド
- ActionScript 3.0 のプログラミング
- ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド

表記規則

本マニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

- Code font (コードフォント) は、メソッドやプロパティ名など、ActionScript コードを示します。
- Code font italic(イタリック体のコードフォント) は、置き換える必要があるコードアイテム (ActionScript パラメータなど) を示します。
- Bold font (ボールドフォント)は、ユーザーが入力する値を示します。

用語

本マニュアルでは、次の用語を使用しています。

実行時 Flash Player でコードを実行しているときです。

オーサリング時 Flash オーサリング環境で作業をしているときです。

その他のリソース

これらのマニュアルの内容に加えて、記事、デザイン案、サンプルを定期的に更新し、アドビデベロッパーセンターとアドビデザインセンターで提供しています。

他のコンポーネントサンプルについては、www.adobe.com/go/learn_fl_samples_jp を参照してください。

アドビデベロッパーセンター

アドビデベロッパーセンターでは、ActionScript の最新情報、実際のアプリケーション開発に関する記事、新たに発生した重要な問題に関する情報を提供しています。デベロッパーセンター (http://www.adobe.com/devnet) を参照してください。

アドビデザインセンター

最新のデジタルデザインやモーショングラフィックを紹介しています。このサイトでは、最先端のアーティストによる作品を参照し、新しいデザインのトレンドを見つけることができます。また、チュートリアル、主要なワークフロー、高度な手法を参考にしてスキルを磨くこともできます。チュートリアルと記事、またインスピレーションが得られるギャラリーの作品を月に2回更新しています。デザインセンター(http://www.adobe.com/designcenter)を参照してください。

ActionScript 3.0 コンポーネント について

Adobe® Flash® CS3 Professional コンポーネントとは、外観やビヘイビアを変更するためのパラメータを持つムービークリップです。 コンポーネントには、RadioButton や CheckBox などのシンプルなユーザーインターフェイスコントロールから、List や DataGrid のように内容が含まれるものまでがあります。

コンポーネントを使用することにより、一貫したビヘイビアと外観を備えた堅牢な Flash アプリケーションをすばやく簡単に作成できます。カスタムボタン、コンボボックス、リストを作成するのではなく、これらのコントロールを実装する Flash コンポーネントを利用できます。[コンポーネント]パネルからこれらのコンポーネントをアプリケーションドキュメントにドラッグするだけです。これらのコンポーネントの外観は、アプリケーションのデザインに合わせて簡単にカスタマイズできます。

このようなすべての操作は ActionScript に精通していない場合でも実行できますが、

ActionScript 3.0 を使用すると、コンポーネントのビヘイビアの変更や、新しいビヘイビアの実装もできます。各コンポーネントには、その"アプリケーションプログラミングインターフェイス"(API)を構成する ActionScript メソッド、プロパティ、イベントの一意なセットがあります。API を使用すると、アプリケーションの実行中にコンポーネントを作成し、操作できます。

API を使用して、独自の新しいカスタムコンポーネントを作成することもできます。また、Flash コミュニティのメンバーが作成したコンポーネントを、Adobe Exchange

(http://www.adobe.com/exchange) からダウンロードすることもできます。コンポーネントの作成については、www.adobe.com/go/learn_fl_creating_components_ip を参照してください。

ActionScript 3.0 コンポーネントのアーキテクチャには、すべてのコンポーネントの基礎となるクラス、外観のカスタマイズに使用できるスキンとスタイル、イベント処理モデル、フォーカス管理、アクセシビリティインターフェイスなどが含まれます。

H X Adobe Flash CS3 には、ActionScript 3.0 コンポーネントに加えて ActionScript 2.0 コンポーネントも含まれています。これらの 2 つのコンポーネントセットを混合することはできません。1 つのアプリケーションにはいずれかのセットを使用する必要があります。Flash CS3 は、開いているファイルが ActionScript 2.0 であるか、ActionScript 3.0 であるかに応じて、ActionScript 2.0 コンポーネントと ActionScript 3.0 コンポーネントのいずれか一方を表示します。新しい Flash CS3 ドキュメントを作成する場合は、Flash ファイル (ActionScript 3.0) と Flash ファイル (ActionScript 2.0) のいずれかを指定する必要があります。既存のドキュメントを開くと、Flash は [パブリッシュ設定] を確認し、使用するコンポーネントセットを決定します。ActionScript 2.0 コンポーネントについては、『ActionScript 2.0 コンポーネントガイド』を参照してください。

Flash ActionScript 3.0 コンポーネントの一覧については、18 ページの「コンポーネントタイプ」を参照してください。

この章には次の節が含まれています。

コンポーネントを使用するメリット	. 16
コンポーネントタイプ	. 18
ドキュメントへの追加とドキュメントからの削除	. 20
バージョンの検索	. 23
ActionScript 3.0 のイベント処理モデル	. 24
単純なアプリケーション	. 25

コンポーネントを使用するメリット

コンポーネントを使用すると、アプリケーションの設計プロセスとコーディングプロセスを切り離すことができます。開発者は、コンポーネントによって、デザイナーがアプリケーションで使用できる機能を作成できます。開発者は、使用頻度の高い機能をコンポーネントにカプセル化でき、デザイナーは、コンポーネントのパラメータを変更することにより、コンポーネントのサイズ、位置、およびビヘイビアをカスタマイズできます。グラフィカルエレメントやスキンを編集して、コンポーネントの外観を変更することもできます。

コンポーネントは、スタイル、スキン、フォーカス管理などの中心的機能を共有しています。最初のコンポーネントをアプリケーションに追加すると、この中心的機能が約20キロバイトのサイズを占めます。別のコンポーネントを追加すると、追加されたコンポーネントにより最初のメモリ割り当てが共有されるので、アプリケーションのサイズ増加が抑えられます。

このセクションでは、ActionScript 3.0 コンポーネントのメリットをいくつか説明します。

ActionScript 3.0 の優れた機能により、Flash Player の機能向上のための重要な手段であるパワフルなオプジェクト指向プログラミング言語が提供されます。この言語は、再利用可能なコードに基づいてリッチなインターネットアプリケーションを作成できるように設計されています。ActionScript 3.0 は、スクリプト記述のための国際的な標準言語である ECMAScript に基づいています。つまり ECMAScript (ECMA-262) Edition 3 の言語仕様に準拠しています。ActionScript 3.0 のプログラミング』を参照してください。言語については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

FLA ベースのユーザーインターフェイスコンポーネントによって、スキンに簡単にアクセスし、オーサリング中に簡単にカスタマイズできます。これらのコンポーネントは、実行時にコンポーネントの外観のさまざまな側面をカスタマイズし、スキンをロードできるスキンスタイルなどのスタイルも提供します。詳細については、137ページ、第4章の「UIコンポーネントのカスタマイズ」および『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

新規の FVLPlayback コンポーネントにより、FLVPlaybackCaptioning コンポーネントが、フルスクリーンサポート、ライブプレビューの向上、色やアルファ設定を追加できるスキン、FLV ダウンロードおよびレイアウト機能の向上と共に追加されます。

プロパティインスペクタとコンポーネントインスペクタを使用すると、Flash でのオーサリング中にコンポーネントパラメータを変更できます。詳細については、20ページの「ドキュメントへの追加とドキュメントからの削除」 および 40ページの「パラメータとプロパティの設定」 を参照してください。

新規コレクションダイアログボックス (ComboBox、List、TileList コンポーネント用)を使用すると、ユーザーインターフェイスを通じてその dataProvider プロパティに値を指定できます。詳細については、54 ページの「データプロバイダの作成」を参照してください。

ActionScript 3.0 イベントモデルを使用すると、アプリケーションはイベントを待機し、イベントハンドラを呼び出して応答できます。詳細については、24 ページの「ActionScript 3.0 のイベント処理モデル」 および 47 ページの「イベント処理」を参照してください。

Manager クラスを使用すると、アプリケーションのフォーカスの操作とスタイルの管理が簡単になります。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。 UIComponent 基本クラスは、このクラスを拡張するコンポーネントに、核となるメソッド、プロパティ、およびイベントを提供します。すべての ActionScript 3.0 ユーザーインターフェイスコンポーネントは、UIComponent クラスから継承されます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の UIComponent クラスを参照してください。

SWC の使用 (UI FLA ベースのコンポーネント) により、コンパイル速度を上げるためのコンポーネントのタイムライン内部のアセットとして ActionScript 定義が提供されます。

クラス階層が、ActionScript 3.0 での継承が容易な構造になりました。一意の名前空間の作成や、必要に応じたクラスの読み込みができます。また、容易にサブクラスを作成してコンポーネントを拡張できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

H × Flash CS3 は、FLA ベースのコンポーネントと SWC ベースのコンポーネントの両方をサポートしています。詳細については、33 ページの「コンポーネントアーキテクチャ」を参照してください。

コンポーネントタイプ

Flash コンポーネントは、Flash CS3 のインストール時にインストールします。

ActionScript 3.0 コンポーネントには次のユーザーインターフェイス (UI) コンポーネントが含まれます。

	UIComponents	
Button	List	TextArea
CheckBox	NumericStepper	TextInput
ColorPicker	RadioButton	TileList
ComboBox	ProgressBar	UILoader
DataGrid	ScrollPane	UIScrollBar
Label	Slider	

ユーザーインターフェイスコンポーネントに加えて、Flash ActionScript 3.0 コンポーネントには次のコンポーネントとサポートクラスが含まれます。

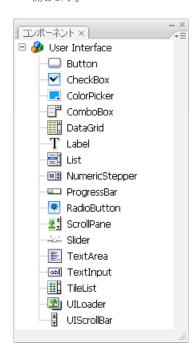
- FLVPlayback コンポーネント (fl.video.FLVPlayback)。これは SWC ベースのコンポーネントです。 FLVPlayback コンポーネントを使用すると、Flash アプリケーションにビデオプレーヤーを追加して、Adobe® Flash® Video Streaming Service (FVSS) や Adobe の Macromedia® Flash® Media Server (FMS) によりプログレッシブビデオストリーミングを HTTP 上で簡単に再生できます。詳細については、189ページ、第5章の「FLVPlayback コンポーネントの使用」を参照してください。
- FLVPlayback Custom UI コンポーネント。これは FLA ベースのコンポーネントで、ActionScript 2.0 と ActionScript 3.0 の両方のバージョンの FLVPlayback コンポーネントに使用できます。 詳細 については、189 ページ、第 5 章の「FLVPlayback コンポーネントの使用」を参照してください。
- FLVPlayback Captioning コンポーネント。FLVPlayback にクローズドキャプションを提供します。235 ページ、第6章の「FLVPlayback キャプションコンポーネントの使用」。

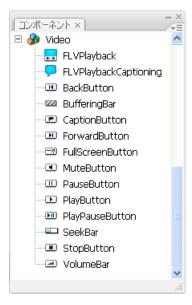
ActionScript 3.0 コンポーネントクラスとそのサポートクラスの一覧については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

Flash コンポーネントを表示するには:

次の手順に従って Flash ActionScript 3.0 コンポーネントを [コンポーネント] パネルに表示できます。

- 1. Flash を起動します。
- **2.** 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) を作成するか、[パブリッシュ設定]で[Action Script 3.0] が指定された既存の Flash ドキュメントを開きます。
- **3.** [コンポーネント] パネルが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[コンポーネント] を選択して 開きます。





ユーザーインターフェイスコンポーネントとビデオコンポーネントが表示された[コンポーネント]パネル

ここでは、場所を節約するために、ユーザーインターフェイスコンポーネントとビデオコンポーネントを個別に表示しています。実際の[コンポーネント]パネルには、ここに示したすべてのコンポーネントが含まれます。

Adobe Exchange (http://www.adobe.com/exchange/em_download) からその他のコンポーネントをダウンロードすることもできます。Exchange からダウンロードしたコンポーネントをインストールするには、http://www.adobe.com/go/exchange_jp から Adobe® Extension Manager をダウンロードしてインストールします。[Adobe Exchange home] リンクをクリックし、[Extension Manager] リンクを探します。

コンポーネントはすべて、Flash の[コンポーネント]パネルに表示できます。Windows® または Macintosh® コンピュータにコンポーネントをインストールするには、次の手順を実行します。

Windows ベースのコンピュータまたは Macintosh コンピュータにコンポーネントをインストールするには:

- 1. Flash を終了します。
- 2. コンポーネントが含まれる SWC ファイルまたは FLA ファイルをハードディスクの次のフォルダに配置します。
 - Windows:

C:\Program Files\Adobe\Flash CS3\ 言語 \Configuration\Components

- Macintosh:Macintosh HD: アプリケーション: Adobe Flash CS3: Configuration: Components
- 3. Flash を起動します。
- **4.** [コンポーネント]パネルが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[コンポーネント]を選択し、コンポーネントを表示します。

コンポーネントファイルの詳細については、**37** ページの「コンポーネントファイルの操作」を参照してください。

ドキュメントへの追加とドキュメントからの削除

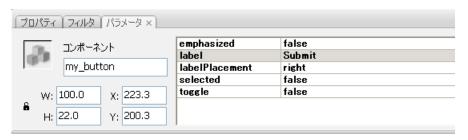
FLA ベースのコンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグすると、編集可能なムービークリップがライブラリにインポートされます。 SWC ベースのコンポーネントをステージにドラッグすると、コンパイルされたクリップがライブラリにインポートされます。 コンポーネントがライブラリにインポートされた後は、そのインスタンスを、 [ライブラリ] パネルまたは [コンポーネント] パネルからステージにドラッグできます。

オーサリング時のコンポーネントの追加

コンポーネントは、[コンポーネント]パネルからドラッグすることでドキュメントに追加できます。 コンポーネントの各インスタンスのプロパティは、プロパティインスペクタの[パラメータ]タブ、または[コンポーネントインスペクタ]の[パラメータ]タブで設定できます。

[コンポーネント] パネルを使用してコンポーネントを Flash ドキュメントに追加するには:

- 1. 「ウィンドウ]-[コンポーネント]を選択します。
- 2. [コンポーネント]パネルでコンポーネントをダブルクリックするか、コンポーネントをステージ にドラッグします。
- 3. ステージでコンポーネントを選択します。
- **4.** プロパティインスペクタが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ]-[プロパティ] を選択します。
- **5.** プロパティインスペクタで、コンポーネントインスタンスのインスタンス名を入力します。
- **6.** [パラメータ]タブをクリックして、インスタンスのパラメータを指定します。 次の図は、Button コンポーネントのプロパティインスペクタを示しています。



プロパティインスペクタでのコンポーネントの設定

詳細については、40ページの「パラメータとプロパティの設定」を参照してください。

7. 幅 (W:) と高さ (H:) の値を編集することにより、必要に応じてコンポーネントのサイズを変更します。

特定のコンポーネントタイプのサイズ変更の詳細については、137ページ、第4章の「UI コンポーネントのカスタマイズ」を参照してください。

8. [制御]-[ムービープレビュー]を選択するか、または Control+Enter キーを押して、ドキュメントをコンパイルし、設定の結果を表示します。

スタイルプロパティを設定してコンポーネントの色やテキストフォーマットを変更することも、コンポーネントのスキンを編集して外観をカスタマイズすることもできます。これらのトピックの詳細については、137ページ、第4章の「UIコンポーネントのカスタマイズ」を参照してください。

オーサリング時にコンポーネントをステージに追加する場合は、そのインスタンス名 (myButton など) だけでコンポーネントを参照できます。

ActionScript を使用した実行時のコンポーネントの追加

ActionScript を使用して実行時にコンポーネントをドキュメントに追加するには、SWF ファイルのコンパイル時に、最初にコンポーネントをアプリケーションのライブラリに置く必要があります ([ウィンドウ]-[ライブラリ])。コンポーネントをライブラリに追加するには、[コンポーネント]パネルから[ライブラリ]パネルにコンポーネントをドラッグします。ライブラリの詳細については、43ページの「ライブラリ」を参照してください。

また、コンポーネントのクラスファイルをインポートして、その API をアプリケーションで使用できるようにしなければなりません。コンポーネントクラスファイルは、1つまたは複数のクラスが含まれる"パッケージ"にインストールされます。コンポーネントクラスをインポートするには、importステートメントを使用し、パッケージ名とクラス名を指定します。たとえば、次の import ステートメントを使用して Button クラスをインポートできます。

import fl.controls.Button;

コンポーネントが含まれるパッケージについては、「ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド」を参照してください。コンポーネントのソースファイルの場所については、37ページの「コンポーネントファイルの操作」を参照してください。

コンポーネントのインスタンスを作成するには、コンポーネントの ActionScript コンストラクタメソッドを呼び出します。たとえば、次のステートメントによって、aButton と呼ばれる Button のインスタンスが作成されます。

var aButton:Button = new Button();

最後の手順では、静的な addChild() メソッドを呼び出して、コンポーネントインスタンスをステージまたはアプリケーションコンテナに追加します。たとえば、次のステートメントは aButton インスタンスを追加します。

addChild(aButton);

この時点でコンポーネントの API を使用して、コンポーネントのサイズとステージでの位置を動的に指定し、イベントを待機し、そのビヘイビアを変更するプロパティを設定できます。特定のコンポーネントの API の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

addChild()メソッドの詳細については、49ページの「表示リストの操作」を参照してください。

コンポーネントの削除

オーサリング中にコンポーネントインスタンスをステージから削除するには、そのインスタンスを選択し、Delete キーを押すだけです。この結果、そのインスタンスはステージから削除されますが、コンポーネントがアプリケーションから削除されることはありません。

ステージまたはライブラリに配置した後にコンポーネントを Flash ドキュメントから削除するには、このコンポーネントと、関連付けられたアセットをライブラリから削除する必要があります。ステージからコンポーネントを削除するだけでは十分ではありません。ライブラリから削除しないと、コンパイルしたときにそのコンポーネントはアプリケーションに含まれます。

コンポーネントをドキュメントから削除するには:

- 1. 「ライブラリーパネルで、そのコンポーネントのシンボルを選択します。
- 2. [ライブラリ]パネルの下部にある[削除]ボタンをクリックするか、[ライブラリ]パネルのメニューから[削除]を選択します。

この手順を繰り返して、そのコンポーネントに関連付けられたすべてのアセットを削除します。

アプリケーションの実行時にコンテナからコンポーネントを削除する方法の詳細については、51ページの「表示リストからのコンポーネントの削除」を参照してください。

バージョンの検索

Flash ActionScript 3.0 コンポーネントには、Adobe テクニカルサポートに提供する必要がある場合、または使用しているコンポーネントのバージョンを確認する必要がある場合に表示できるバージョンプロパティがあります。

ユーザーインターフェイスコンポーネントのバージョン番号を表示するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. コンポーネントをステージにドラッグし、インスタンス名を指定します。たとえば、ComboBox をステージにドラッグし、この名前を aCb と指定します。
- 3. F9 キーを押すか、「ウィンドウ]-「アクション]を選択して[アクション]パネルを開きます。
- **4.** メインタイムラインのフレーム1をクリックし、[アクション] パネルに次のコードを追加します。 trace(aCb.version);

次の図のようなバージョン番号が [出力] パネルに表示されます。

プロパティ | フィルタ | パラメータ | 出力 × | カラ 3.0.0.9 FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントでは、インスタンス名ではなくクラス名を参照する必要があります。これは、バージョン番号がクラス定数に保存されているからです。

FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントのバージョン番号を表示するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- 3. F9 キーを押すか、[ウィンドウ]-[アクション] を選択して [アクション] パネルを開きます。
- **4.** メインタイムラインのフレーム1をクリックし、[アクション] パネルに次のコードを追加します。

```
import fl.video.*;
trace("FLVPlayback.VERSION: " + FLVPlayback.VERSION);
trace("FLVPLaybackCaptioning.VERSION: " + FLVPlaybackCaptioning.VERSION);
```

次の図のようなバージョン番号が[出力]パネルに表示されます。

```
「プロパティ | フィルタ | パラメータ | 出力 × | コンパイルエラー | FLVP layback, VERSION: 2.0.0.31
```

FLVPTayback.VERSION: 2.0.0.31 FLVPLaybackCaptioning.VERSION: 2.0.0.29

FLVPlayback と FLVPlaybackCaptioning のバージョン番号

ActionScript 3.0 のイベント処理モデル

ActionScript 3.0 では、以前のバージョンの ActionScript で使用されていたさまざまなイベント処理 メカニズムに代わる 1 つのイベント処理モデルが導入されました。新しいイベントモデルは、ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) レベル 3 のイベント仕様に基づいています。

ActionScript 2.0 addListener() メソッドの使用経験がある開発者には、ActionScript 2.0 イベントリスナーモデルと ActionScript 3.0 イベントモデルの違いを説明することが有効でしょう。次のリストで、この 2 つのイベントモデルの主な違いをいくつか説明します。

- ActionScript 2.0 でイベントリスナーを追加するには、addListener()を使用する場合と addEventListener()を使用する場合がありますが、ActionScript 3.0 では、すべての場合に addEventListener()を使用します。
- ActionScript 2.0 にはイベントフローはありません。つまり、addListener()メソッドは、イベントをプロードキャストするオブジェクトだけで呼び出すことができますが、ActionScript 3.0 では、addEventListener()メソッドはイベントフローの一部であるどのオブジェクトでも呼び出せます。

- ActionScript 2.0 では、イベントリスナーは関数、メソッド、オブジェクトのいずれかですが、 ActionScript 3.0 では、関数とメソッドだけをイベントリスナーにできます。
- on(*event*) シンタックスが ActionScript 3.0 ではサポートされなくなったので、ActionScript イベントコードをムービークリップに追加できません。イベントリスナーは、addEventListener() だけを使用して追加できます。

次の例では、aButton という名前の Button コンポーネントの MouseEvent. CLICK イベントを待機しています。これは、ActionScript 3.0 の基本的なイベント処理モデルを示しています。

```
aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
function clickHandler(event:MouseEvent):void {
   trace("clickHandler detected an event of type: " + event.type);
   trace("the event occurred on: " + event.target.name);
}
```

ActionScript 3.0 のイベント処理の詳細については、『ActionScript 3.0 のプログラミング』を参照してください。ActionScript 3.0 のコンポーネントのイベント処理の詳細については、47 ページの「イベント処理」を参照してください。

単純なアプリケーション

このセクションでは、Flash コンポーネントと Flash オーサリングツールを使用して単純な ActionScript 3.0 アプリケーションを作成する手順について説明します。この例は、タイムラインに ActionScript コードが含まれる FLA ファイルと、ライブラリにコンポーネントだけが含まれる FLA ファイルを持つ外部 ActionScript クラスファイルの両方として提供されています。一般に、大規模なアプリケーションの開発は、クラスとアプリケーションの間でコードを共有できるように、また、アプリケーションの保守が簡単になるように、外部クラスファイルを使用して行います。

ActionScript 3.0 を使用したプログラミングの詳細については、『ActionScript 3.0 のプログラミング』を参照してください。

アプリケーションの設計

ActionScript コンポーネントアプリケーションの最初の例は標準の "Hello World" アプリケーションなので、その設計は非常に簡単です。

- このアプリケーションを "Greetings" と呼びます。
- ここでは、TextArea を使用して挨拶 (最初は Hello World)を表示します。
- テキストの色を変更できる ColorPicker を使用します。
- テキストのサイズを小、大、または最大に設定できる3つのRadioButtonを使用します。
- ドロップダウンリストからさまざまな挨拶を選択できる ComboBox を使用します。
- このアプリケーションでは、[コンポーネント]パネルのコンポーネントを使用し、ActionScript コードを使用してアプリケーションエレメントも作成します。

この定義を適切に設定したら、アプリケーションの作成を開始できます。

Greetings アプリケーションの作成

次の手順では、Flash オーサリングツールを使用して FLA ファイルを作成し、コンポーネントをステージ上に配置し、ActionScript コードをタイムラインに追加して、Greetings アプリケーションを作成します。

FLA ファイルで Greetings アプリケーションを作成するには:

- 1. 「ファイル]-[新規]を選択します。
- **2.** [新規ドキュメント] ダイアログボックスで [Flash ファイル (ActionScript 3.0)] を選択し、[OK] をクリックします。
 - Flash ウィンドウが開きます。
- 3. [ファイル]-[保存] を選択し、Flash ファイルの名前を Greetings.fla と指定し、[保存] ボタンをクリックします。
- **4.** Flash の [コンポーネント] パネルで TextArea コンポーネントを選択し、ステージにドラッグします。
- [プロパティ]ウィンドウのステージで TextArea を選択し、インスタンス名として「aTa」と入力し、次の情報を入力します。
 - Wの値(幅)に「230」と入力します。
 - Hの値(高さ)に「44」と入力します。
 - Xの値(水平位置)に「165」と入力します。
 - Yの値(垂直位置)に「57」と入力します。
 - 「パラメータ] タブで、テキストパラメータとして「Hello World!」と入力します。
- **6.** ColorPicker コンポーネントをステージ上にドラッグし、これを TextArea の左側に配置し、インスタンス名 txtCp を指定します。プロパティインスペクタに次の情報を入力します。
 - Xの値として「96」と入力します。
 - Yの値として「72」と入力します。
- 7. RadioButton コンポーネントを一度に1つずつステージにドラッグし、インスタンス名 smallRb、 largerRb、largestRb を指定します。プロパティインスペクタで、これらのコンポーネントに関する次の情報を入力します。
 - それぞれについて、Wの値として「100」、Hの値として「22」と入力します。
 - Xの値として「155」と入力します。
 - smallRbのYの値として「120」、largerRbに「148」、largestRbに「175」と入力します。
 - それぞれの groupName パラメータに「fontRbGrp」と入力します。
 - [パラメータ]タブで、それぞれのラベル「Small」、「Larger」、「Largest」を入力します。

- **8.** ComboBox をステージまでドラッグし、インスタンス名 msgCb を指定します。プロパティインスペクタで、このコンポーネントに関する次の情報を入力します。
 - Wの値として「130」と入力します。
 - Xの値として「265」と入力します。
 - Yの値として「120」と入力します。
 - 「パラメータ] タブで、プロンプトパラメータに「Greetings」と入力します。
 - dataProvider パラメータのテキストフィールドをダブルクリックして、[値] ダイアログボックスを開きます。
 - プラス記号をクリックし、ラベルの値を Hello World! で置き換えます。
 - これまでの手順を繰り返し、ラベル値 Have a nice day! と Top of the Morning! を追加します。
 - [OK]をクリックして、[値]ダイアログボックスを閉じます。
- 9. ファイルを保存します。
- **10.** この時点で [アクション] パネルが開いていない場合は、**F9** キーを押すか、[ウィンドウ] メニューの [アクション] を選択して開きます。メインタイムラインのフレーム1をクリックし、[アクション] パネルに次のコードを入力します。

```
import flash.events.Event;
import fl.events.ComponentEvent;
import fl.events.ColorPickerEvent;
import fl.controls.RadioButtonGroup;

var rbGrp:RadioButtonGroup = RadioButtonGroup.getGroup("fontRbGrp");
rbGrp.addEventListener(MouseEvent.CLICK, rbHandler);
txtCp.addEventListener(ColorPickerEvent.CHANGE,cpHandler);
msgCb.addEventListener(Event.CHANGE, cbHandler);
```

最初の3行で、アプリケーションが使用するイベントクラスを読み込みます。ユーザーがコンポーネントの1つを操作すると、イベントが発生します。次の5行で、アプリケーションが待機するイベントのイベントハンドラを登録します。click イベントは、ユーザーが Radio Button をクリックすると発生します。change イベントは、ユーザーが Color Picker で別の色を選択すると発生します。Combo Box の change イベントは、ユーザーがドロップダウンリストから別の挨拶を選択すると発生します。

4 行目では、アプリケーションがイベントリスナーを各ボタンに個別に割り当てるのはなく、RadioButtons のグループに割り当てることができるように、RadioButtonGroup クラスを読み込みます。

11. 次のコード行を [アクション] パネルに追加して、tf TextFormat オブジェクトを作成します。アプリケーションはこのオブジェクトを使用して、tf TextArea のテキストの size および color スタイルプロパティを変更します。

var tf:TextFormat = new TextFormat():

12. 次のコードを追加して、rbHandlerイベント処理関数を作成します。この関数は、ユーザーが RadioButton コンポーネントの1つをクリックしたときに clickイベントを処理します。

```
function rbHandler(event:MouseEvent):void {
   switch(event.target.selection.name) {
     case "smallRb":
        tf.size = 14;
        break;
   case "largerRb":
        tf.size = 18;
        break;
   case "largestRb":
        tf.size = 24;
        break;
}
aTa.setStyle("textFormat", tf);
}
```

この関数は、switch ステートメントを使用して、event オブジェクトの target プロパティを確認し、イベントをトリガした RadioButton を確定します。currentTarget プロパティには、イベントをトリガしたオブジェクトの名前が含まれます。ユーザーがクリックした RadioButton に応じて、アプリケーションは TextArea のテキストのサイズを 14、18、または 24 ポイントに変更します。

13. 次のコードを追加して cpHandler() 関数を実装します。この関数は、ColorPicker での値の変更を処理します。

```
function cpHandler(event:ColorPickerEvent):void {
  tf.color = event.target.selectedColor;
  aTa.setStyle("textFormat", tf);
}
```

この関数は、tf TextFormat オブジェクトの color プロパティを ColorPicker で選択した色に 設定し、次に setStyle()を呼び出して、これを aTa TextArea インスタンスのテキストに適用します。

14. 次のコードを追加して cbHandler() 関数を実装します。この関数は、ComboBox での選択内容の変更を処理します。

```
function cbHandler(event:Event):void {
  aTa.text = event.target.selectedItem.label;
}
```

この関数は、TextAreaのテキストを、ComboBoxで選択したテキスト、event.target.selectedItem.labelで置き換えるだけです。

15. [制御]-[ムービーをプレビューする] を選択するか、Control+Enter を押してコードをコンパイルし、Greetings アプリケーションをテストします。

次のセクションでは、外部 ActionScript クラスと、ライブラリの必要なコンポーネントだけが含まれる FLA ファイルを使用して同じアプリケーションを作成します。

外部クラスファイルを使用して Greetings2 アプリケーションを作成するには:

- 1. 「ファイル]-[新規] を選択します。
- 2. [新規ドキュメント] ダイアログボックスで [Flash ファイル (ActionScript 3.0)] を選択し、[OK] をクリックします。

Flash ウィンドウが開きます。

- 3. [ファイル]-[保存] を選択し、Flash ファイルの名前を Greetings2.fla と指定し、[保存] ボタンを クリックします。
- 4. 次の各コンポーネントを[コンポーネント]パネルからライブラリにドラッグします。
 - ColorPicker
 - ComboBox
 - RadioButton
 - TextArea

コンパイルされた SWF ファイルはこれらの各アセットを使用するので、ライブラリに追加する必要があります。コンポーネントを[ライブラリ]パネルの下部にドラッグします。これらのコンポーネントをライブラリに追加すると、他のアセット (List、TextInput、UIScrollBox など) が自動的に追加されます。

- 5. [プロパティ]ウィンドウで、[ドキュメントクラス]に「Greetings2」と入力します。 "このドキュメントクラスの定義が見つかりません"という内容の警告が表示される場合は、無視します。次の手順に従って Greetings2 クラスを定義します。このクラスは、アプリケーションの主要な機能を定義します。
- 6. "Greetings2.fla" ファイルを保存します。
- 7. 「ファイル]-[新規]を選択します。
- 8. [新規ドキュメント] ダイアログボックスで [ActionScript ファイル] を選択し、[OK] をクリックします。

新しいスクリプトウィンドウが開きます。

9. 次のコードをスクリプトウィンドウに追加します。

```
package {
  import flash.display.Sprite;
  import flash.events.Event;
  import flash.events.MouseEvent;
  import flash.text.TextFormat;
  import fl.events.ComponentEvent;
  import fl.events.ColorPickerEvent;
  import fl.controls.ColorPicker;
  import fl.controls.RadioButtonGroup;
  import fl.controls.RadioButton;
  import fl.controls.TextArea;
```

```
public class Greetings2 extends Sprite {
   private var aTa:TextArea;
   private var msgCb:ComboBox;
   private var smallRb:RadioButton;
   private var largerRb:RadioButton;
   private var largestRb:RadioButton;
   private var rbGrp:RadioButtonGroup;
   private var txtCp:ColorPicker;
   private var tf:TextFormat = new TextFormat();
   public function Greetings2() {
```

このスクリプトは、Greetings2 という名前の ActionScript 3.0 クラスを定義します。このスクリプトの動作は次のとおりです。

- ファイルで使用するクラスを読み込みます。通常は、これらの読み込みステートメントは、コードで別のクラスを参照するときに追加しますが、簡潔にするために、この例ではすべてを1回で読み込みます。
- コードに追加するさまざまなタイプのコンポーネントオブジェクトを表す変数を宣言します。別の変数が tf TextFormat オブジェクトを作成します。
- クラスのコンストラクタ関数、Greetings2()を定義します。次の手順で、この関数に数行を追加し、他のメソッドをクラスに追加します。
- 10. [ファイル]-[保存] を選択し、Flash ファイルの名前を Greetings2.as と指定し、[保存] ボタンを クリックします。
- 11. 次のコード行を Greeting2() 関数に追加します。

```
createUI();
setUpHandlers();
}
関数は次のようになります。
public function Greetings2() {
createUI();
setUpHandlers();
```

12. 次のコード行を Greeting2()メソッドの右括弧の後に追加します。

```
private function createUI() {
    bldTxtArea();
    bldColorPicker();
    bldRadioBox();
    bldRadioButtons();
}
private function bldTxtArea() {
    aTa = new TextArea();
    aTa.setSize(230, 44);
    aTa.text = "Hello World!";
    aTa.move(165, 57);
    addChild(aTa);
```

```
private function bldColorPicker() {
  txtCp = new ColorPicker();
  txtCp.move(96, 72);
  addChild(txtCp):
private function bldComboBox() {
  msgCb = new ComboBox();
  msqCb.width = 130;
  msqCb.move(265, 120);
  msgCb.prompt = "Greetings";
  msgCb.addItem({data:"Hello.", label:"English"});
  msgCb.addItem({data:"Bonjour.", label:"Fran 溝is"});
  msgCb.addItem({data:"iHola!", label:"Espa 撲 l"});
  addChild(msgCb);
private function bldRadioButtons() {
  rbGrp = new RadioButtonGroup("fontRbGrp");
  smallRb = new RadioButton();
  smallRb.setSize(100, 22);
  smallRb.move(155, 120);
  smallRb.group = rbGrp; //"fontRbGrp";
  smallRb.label = "Small";
  smallRb.name = "smallRb";
  addChild(smallRb);
  largerRb = new RadioButton():
  largerRb.setSize(100, 22);
  largerRb.move(155, 148);
  largerRb.group = rbGrp;
  largerRb.label = "Larger";
  largerRb.name = "largerRb";
  addChild(largerRb):
  largestRb = new RadioButton();
  largestRb.setSize(100, 22);
  largestRb.move(155, 175);
  largestRb.group = rbGrp;
  largestRb.label = "Largest";
  largestRb.name = "largestRb":
  addChild(largestRb);
これらの行の動作は次のとおりです。
```

- アプリケーションで使用するコンポーネントをインスタンス化します。
- 各コンポーネントのサイズ、位置、プロパティを設定します。
- addChild()メソッドを使用して、各コンポーネントをステージに追加します。

13. bldRadioButtons()メソッドの右括弧の後に、setUpHandlers()メソッドの次のコードを追加します。

```
private function setUpHandlers():void {
  rbGrp.addEventListener(MouseEvent.CLICK, rbHandler);
  txtCp.addEventListener(ColorPickerEvent.CHANGE,cpHandler);
  msgCb.addEventListener(Event.CHANGE, cbHandler);
private function rbHandler(event:MouseEvent):void {
  switch(event.target.selection.name) {
    case "smallRb":
      tf.size = 14:
       break:
    case "largerRb":
      tf.size = 18:
       break:
    case "largestRb":
       tf.size = 24;
       break;
  aTa.setStyle("textFormat", tf);
private function cpHandler(event:ColorPickerEvent):void {
  tf.color = event.target.selectedColor;
  aTa.setStyle("textFormat", tf);
private function cbHandler(event:Event):void {
  aTa.text = event.target.selectedItem.data;
```

これらの関数は、コンポーネントのイベントリスナーを定義します。

- 14. [ファイル]-[保存]を選択してファイルを保存します。
- **15.** [制御]-[ムービーをプレビューする] を選択するか、Control+Enter を押してコードをコンパイルし、Greetings2 アプリケーションをテストします。

以降の例の実行

Greetings アプリケーションの開発と実行が終了すると、本マニュアルに示した他のコード例の実行 に必要な基本的な知識を修得しているはずです。個々の例では関連する ActionScript 3.0 コードを 強調表示して説明するので、本マニュアルの各例をカットし、FLA ファイルにペーストした後、コンパイルして実行できます。

コンポーネントの利用

この章では、ドキュメント内のコンポーネントを利用する方法について学習します。この章では、次のトピックについて説明します。

コンポーネントアーキテクチャ	33
コンポーネントファイルの操作	37
コンポーネントアプリケーションのデバッグ	40
パラメータとプロパティの設定	
ライブラリ	43
コンポーネントのサイズ変更	45
ライブプレビュー	46
イベント処理	
表示リストの操作	
FocusManager の操作	
リストベースのコンポーネントの操作	53
データプロバイダの操作	54
CellRenderer の操作	64
コンポーネントをアクセス可能にする方法	72

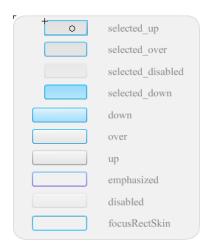
コンポーネントアーキテクチャ

ActionScript 3.0 コンポーネントは、Adobe Flash Player バージョン 9.0.28.0 以降でサポートされます。Flash CS3 より前に作成されたコンポーネントとは互換性がありません。ActionScript 2.0 コンポーネントガイド』および『ActionScript 2.0 コンポーネントガイド』および『ActionScript 2.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

ActionScript 3.0 User Interface (UI) コンポーネントは FLA ベースのコンポーネントとして実装されますが、Flash CS3 は SWC ベースのコンポーネントと FLA ベースのコンポーネントを両方ともサポートします。たとえば、FLVPlayback コンポーネントと FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは SWC ベースのコンポーネントです。どちらのタイプのコンポーネントも Components フォルダに置いて Components パネルに表示することができます。この 2 種類のコンポーネントは異なる方法で構築されるため、ここでは別々に説明しています。

ActionScript 3.0 FLA ベースのコンポーネント

ActionScript 3.0 User Interface (UI) コンポーネントは、ビルトインスキンを持つ FLA ベース (.fla) のファイルです。ステージ上のコンポーネントをダブルクリックすることによってスキンにアクセス し、編集できます。コンポーネントのスキンおよびその他のアセットは、タイムラインのフレーム 2 に置かれます。コンポーネントをダブルクリックすると、Flash は自動的にフレーム 2 に移動し、コンポーネントのスキンのパレットを開きます。次の図は、Button コンポーネントのスキンのパレットを示しています。



Button コンポーネントのスキン

コンポーネントスキン、およびコンポーネントのカスタマイズの詳細については、137ページ、第4章の「UIコンポーネントのカスタマイズ」および210ページの「FLVPlaybackコンポーネントのカスタマイズ」を参照してください。

アプリケーションのコンパイルを高速化し、ActionScript 3.0 の設定との衝突を避けるために、Flash CS3 FLA ベースの UI コンポーネントには、コンポーネントのコンパイル済み ActionScript コードを含む SWC も含まれています。ComponentShim SWC は、ユーザーインターフェイスコンポーネントごとにフレーム 2 のステージに置かれ、プリコンパイルされた定義を提供します。ActionScriptで利用できるようにするには、コンポーネントをステージかライブラリ内に置き、そのリンケージプロパティの [最初のフレームに書き出し]オプションを選択しておく必要があります。ActionScriptを使用してコンポーネントを作成するには、import ステートメントでそのクラスを読み込み、それにアクセスすることも必要です。import ステートメントの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

SWC ベースのコンポーネント

SWC ベースのコンポーネントは、やはり FLA ファイルおよび ActionScript クラスファイルを持ちますが、コンパイルされ、SWC として書き込まれています。SWC ファイルはプリコンパイルされた Flash シンボルと ActionScript コードのパッケージであり、これにより、変更されないシンボルとコードをリコンパイルする必要がなくなります。

FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは SWC ベースのコンポーネントです。それらは、ビルトインスキンではなく外部スキンを持ちます。FLVPlayback コンポーネントにはデフォルトのスキンがあり、このスキンは、デザイン済みスキンのコレクションから選択するか、[コンポーネント]パネルの UI コントロール (BackButton、BufferingBar など)からコントロールをカスタマイズするか、カスタムスキンを作成することによって変更できます。詳細については、210 ページの「FLVPlayback コンポーネントのカスタマイズ」を参照してください。

Flash では、次のようにしてムービークリップをコンパイルされたクリップに変換できます。

ムービークリップをコンパイルするには:

■ [ライブラリ]パネルにあるムービークリップを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[コンパイルされたクリップに変換]を選択します。

コンパイルされたクリップは、コンパイル前の通常のムービークリップと同じように動作しますが、表示やパブリッシュの処理をはるかに高速に実行できます。コンパイルされたクリップを編集することはできませんが、そのプロパティはプロパティインスペクタと[コンポーネントインスペクタ]パネルに表示されます。

SWC コンポーネントには、コンパイルされたクリップ、コンポーネントのプリコンパイルされた ActionScript 定義、およびこのコンポーネントについて記述したその他のファイルが入ります。ユーザー独自のコンポーネントを作成した場合は、それを SWC ファイルとして書き出し、配布できます。

SWC ファイルを書き出すには:

■ [ライブラリ]パネルにあるムービークリップを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[SWC ファイル書き出し]を選択します。

Flash CS3 SWC ファイルの形式と Flex SWC の形式には互換性があるため、2 つ製品は交換可能ですが、変更が必要になることがあります。

SWC ベースのコンポーネントの作成の詳細については、

www.adobe.com/go/learn_fl_creating_components_jp を参照してください。

ActionScript 3.0 コンポーネント API

各 ActionScript 3.0 コンポーネントは、パッケージフォルダに置かれた ActionScript 3.0 クラスを基にしており、名前の形式は fl.

くパッケージ名 \times クラス名 \times のようになります。たとえば、Button コンポーネントは Button クラスのインスタンスであり、そのパッケージ名は fl.controls.Button です。コンポーネントクラスをアプリケーションに読み込むときには、このパッケージ名を参照する必要があります。次のステートメントで Button クラスを読み込みます:

import fl.controls.Button;

コンポーネントクラスファイルの場所の詳細については、**37**ページの「コンポーネントファイルの操作」を参照してください。

コンポーネントのクラスは、メソッド、プロパティ、イベント、スタイルを定義します。アプリケーションの中ではこれらを使用してクラスとやり取りできます。ActionScript 3.0 UI コンポーネントは、Sprite クラスと UIComponent クラスのサブクラスであり、それらのクラスからプロパティ、メソッド、イベントを継承します。Sprite クラスは、基本的な表示リスト構成要素であり、MovieClipに似ていますが、タイムラインは持ちません。UIComponent クラスは、インタラクティブ、非インタラクティブを問わず、すべてのビジュアルコンポーネントの基本クラスです。各コンポーネントの継承パスは、そのプロパティ、メソッド、イベント、スタイルと共に、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』に示されています。

すべての ActionScript 3.0 コンポーネントが ActionScript 3.0 イベント処理モデルを使用します。イベント処理の詳細については、47ページの「イベント処理」および『ActionScript 3.0 のプログラミング』を参照してください。

コンポーネントファイルの操作

このセクションでは、コンポーネントファイルの格納場所、ActionScript ソースファイルの検索先、「コンポーネント] パネルからコンポーネントを追加および削除する方法について説明します。

コンポーネントファイルの格納場所

Flash コンポーネントは、アプリケーションレベルの設定フォルダ内にあります。

| これらのフォルダの詳細については、『Flash ユーザーガイド』の「Flash と共にインストールされる設定フォルダ」を参照してください。

コンポーネントは、次の場所にインストールされます。

- Windows 2000 または Windows XP:

 C:¥Program Files¥Adobe¥Adobe Flash CS3¥<言語 >¥Configuration¥Components
- Mac OS X :
 Macintosh HD:Applications:Adobe Flash CS3:Configuration:Components

コンポーネントフォルダ内で、User Interface (UI) コンポーネントは User Interface.fla ファイルに、FLVPlayback(FLVPlaybackAS3.swc) コンポーネントと FLVPlaybackCaptioning コンポーネントはビデオフォルダにあります。

コンポーネントは次のユーザー別の場所に格納することもできます。

- Windows 2000 または Windows XP:

 C:¥Documents and Settings¥〈ユーザー名〉¥Local Settings¥Application Data¥Adobe¥

 Adobe Flash CS3¥en¥Configuration¥Components
- Mac OS X :

Macintosh HD:Users:< ユーザー名 >:Library:Application Support:Adobe Flash CS3:Configuration:Components

コンポーネントソースファイルの格納場所

Windows 2000 または Windows XP の場合、コンポーネントの ActionScript (.as) クラスファイル (または "ソースファイル") は、次のアプリケーションフォルダにインストールされます。

■ ユーザーインターフェイスコンポーネント C:¥Program Files¥Adobe¥Adobe Flash CS3¥en¥Configuration¥Component Source¥ ActionScript 3.0¥User Interface¥fl ■ FLVPlayback

■ FLVPlaybackCaptioning

C:\Program Files\Adobe\Adobe Flash CS3\Left\end{configuration}\Component Source\ActionScript 3.0\Left\End{configuration}\Left\Component Source\Left\end{configuration}\Left\Component Source\Left\End{configuration}\Left\End{configuration}\Left\Component Source\Left\End{configuration}\Left\Component Source\Left\End{configuration}\Left\End{configuration}\Left\Component\Left\End{configuration}\Left\Component\Left\End{configuration}\Left\End{configur

Mac OS X の場合、コンポーネントソースファイルは次の場所にあります:

■ ユーザーインターフェイスコンポーネント

Macintosh HD:Applications:Adobe Flash CS3:Configuration:Component Source:ActionScript 3.0:User Interface:fl

■ FLVPlayback

Macintosh HD:Applications:Adobe Flash CS3:Configuration:Component Source:ActionScript 3.0:FLVPlayback:fl:video

■ FLVPlaybackCaptioning

Macintosh HD:Applications:Adobe Flash CS3:Configuration:Component Source:ActionScript 3.0:FLVPlaybackCaptioning:fl:video

コンポーネントソースファイルおよびクラスパス

ActionScript 3.0 コンポーネントはコードをコンパイルインしているため、ActionScript クラスファイルの場所をクラスパス変数に指定しないでください。場所をクラスパスに指定すると、アプリケーションのコンパイル時間が余分にかかります。ただし、Flash がクラスパス設定の中にコンポーネントクラスファイルを発見すると、そのクラスファイルは常にコンポーネントのコンパイルインされたコードよりも優先されます。

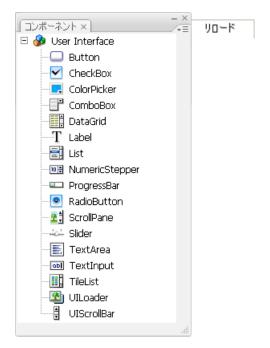
コンポーネントソースファイルの場所をクラスパス設定に追加することが望ましいのは、コンポーネントを含むアプリケーションをデバッグする場合です。詳細については、40 ページの「コンポーネントアプリケーションのデバッグ」を参照してください。

コンポーネントファイルの編集

SWC ベースのコンポーネントを更新、追加、削除する場合、または FLA ベースの新しいコンポーネントを Flash に追加する場合は、それらを [コンポーネント] パネルにリロードし、利用可能にする必要があります。コンポーネントをリロードするには、Flash を再起動するか、[コンポーネント] パネルメニューから [リロード] を選択します。その結果、Flash はコンポーネントフォルダに追加されたコンポーネントを認識します。

Flash の実行中にコンポーネントを [コンポーネント] パネルにリロードするには:

■ 「コンポーネント」パネルメニューから「リロード」を選択します。



[コンポーネント]パネルメニューの[リロード]メニューアイテム

[コンポーネント] パネルからコンポーネントを削除するには:

■ コンポーネントフォルダから FLA、SWC、または MXP ファイルを削除し、Flash を再起動するか、[コンポーネント] パネルメニューから [リロード] を選択します。 MXP ファイルは、Adobe Exchange からダウンロードされたコンポーネントファイルです。

Flash の実行中に SWC ベースのコンポーネントを削除および置換し、リロードによってその変更を反映できますが、FLA ベースのコンポーネントを変更または削除した場合、その変更は Flash を終了し、再起動するまで反映されません。ただし、FLA ベースのコンポーネントを追加して、[リロード] コマンドでロードすることは可能です。

てソ

はじめに、変更する Flash コンポーネントファイル (.fla または .as) のコピーを作成するようにしてください。その後、必要に応じてそれを復元できます。

コンポーネントアプリケーションのデバッグ

ActionScript 3.0 コンポーネントは、アプリケーションのコンパイル時間を短縮するために、すべてのソースコードを取り込んでいます。ただし、Flash デバッガはコンパイルされたクリップ内のコードを検査できません。そのため、コンポーネントのソースコードのレベルまでアプリケーションをデバッグする場合には、コンポーネントソースファイルをクラスパス設定に追加する必要があります。

コンポーネントパッケージフォルダの場所は、そのコンポーネント型のソースファイルの場所を基準としています。すべての UI コンポーネントのすべての ActionScript 3.0 ソースファイルを参照するには、ユーザーインターフェイスパッケージのクラスパスに次の場所を追加します:

\$(AppConfig)/Component Source/ActionScript 3.0/User Interface



これにより、すべての UI コンポーネントのコンパイルインコードが無効になり、アプリケーションのコンパイル時間が増加します。何らかの理由でコンポーネントのソースファイルを変更していると、そのコンポーネントの動作が変わっている可能性があります。

クラスパスを設定するには、[編集]メニューから[環境設定]を選択し、[カテゴリ]リストで [ActionScript]を選択してから、[ActionScript 3.0 設定]ボタンをクリックします。新しい項目を 追加するには、現在の設定を表示しているウィンドウの上にあるプラスをクリックします。

\$(AppConfig) 変数は、Flash CS3 をインストールした場所にある Flash CS3 設定フォルダを参照しています。通常、このパスは次のようになります:

Windows 2000 または Windows XP の場合

C:\Program Files\Adobe\Adobe Flash CS3\Capaca 言語 >\Configuration\

Mac OS X の場合

Macintosh HD: Applications: Adobe Flash CS3: Configuration:



コンポーネントソースファイルを変更する必要があるときは、元のソースファイルを別の場所 にコピーし、その場所をクラスパスに追加することを強くお勧めします。

コンポーネントソースファイルの場所の詳細については、**37**ページの「コンポーネントソースファイルの格納場所」を参照してください。

パラメータとプロパティの設定

各コンポーネントには、その外観やビヘイビアを変更するためのパラメータがあります。パラメータは、コンポーネントのクラスのプロパティであり、プロパティインスペクタとコンポーネントインスペクタに表示されます。最もよく使用されるプロパティはオーサリングパラメータとして表示されます。その他のものは ActionScript を使用して設定する必要があります。オーサリング時に設定できるすべてのパラメータは、ActionScript を使用して設定することもできます。ActionScript で設定したパラメータは、オーサリング時に設定したどの値よりも優先されます。

ほとんどの ActionScript 3.0 User Interface (UI) コンポーネントは、UIComponent クラスおよび基本クラスからプロパティとメソッドを継承します。たとえば、Button クラスと CheckBox クラスは、UIComponent クラスおよび BaseButton クラスの両方からプロパティを継承します。ユーザーは、コンポーネントの継承されたプロパティ、および独自のクラスプロパティにアクセスできます。たとえば、ProgressBar コンポーネントは ProgressBar enabled プロパティを UIComponent から継承しますが、独自の ProgressBar .percentComplete プロパティも持っています。ユーザーは両方のプロパティにアクセスし、ProgressBar コンポーネントのインスタンスとやり取りできます。コンポーネントのプロパティの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』のクラス項目を参照してください。

プロパティインスペクタかコンポーネントインスペクタを使用してコンポーネントインスタンスのパラメータを設定できます。

プロパティインスペクタでコンポーネントのインスタンス名を入力するには:

- 1. 「ウィンドウ]-「プロパティ]-「プロパティ] を選択します。
- 2. ステージでコンポーネントのインスタンスを選択します。
- 3. [ムービークリップ] ドロップダウンリストの下にある [<インスタンス名>] ボックスにコンポーネントインスタンスの名前を入力します。または、[パラメータ] タブをクリックして、"コンポーネント"の下にあるボックスに名前を入力します。設定するすべてのパラメータの値を入力します。このとき、コンポーネントの種類を表す接尾辞をインスタンス名に付加するとよいでしょう。ActionScript コードが理解しやすくなります。この例では、コンポーネントが licenseTa テキストエリアの使用許諾契約書をスクロールするスクロールバーであるため、インスタンス名は licenseSb となっています。



コンポーネントのインスタンス名フィールド

[コンポーネントインスペクタ] でコンポーネントのインスタンスのパラメータを入力する には :

- 1. [ウィンドウ]-[コンポーネントインスペクタ]を選択します。
- 2. ステージでコンポーネントのインスタンスを選択します。





コンポーネントインスペクタのコンポーネントパラメータ

ActionScript でのコンポーネントプロパティの設定

ActionScript では、ドット(.) 演算子(ドットシンタックス)を使用して、ステージ上のオブジェクト またはインスタンスに属するプロパティまたはメソッドにアクセスします。ドットシンタックス式 は、インスタンスの名前、ドット、エレメントの順に記述します。たとえば、次の ActionScript コー ドは、CheckBox インスタンス aCh の width プロパティを 50 ピクセルに設定します。

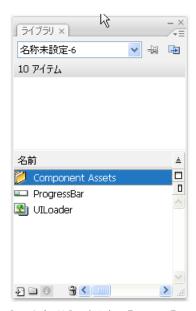
```
aCh.width = 50:
```

次の if ステートメントは、ユーザーがそのチェックボックスを選択しているかどうかをチェックし ます。

```
if (aCh.selected == true) {
  displayImg(redCar);
```

ライブラリ

ユーザーが最初にコンポーネントをドキュメントに追加したときに、Flash はそれをムービークリップとして[ライブラリ]パネルに読み込みます。[コンポーネント]パネルからコンポーネントを[ライブラリ]パネルに直接ドラッグし、そのインスタンスをステージに追加することもできます。いずれの場合も、コンポーネントをライブラリに追加した後でなければ、そのクラスエレメントにアクセスできません。

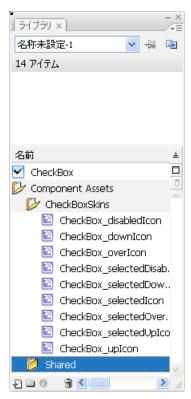


[ライブラリ]パネル内の ProgressBar コンポーネント

コンポーネントをライブラリに追加し、ActionScriptを使用してそのインスタンスを作成する場合は、最初に import ステートメントを使用してそのクラスを読み込む必要があります。 import ステートメントには、コンポーネントのパッケージ名とそのクラス名を両方とも指定します。たとえば、次のステートメントによって Button クラスを読み込みます。

import fl.controls.Button;

コンポーネントをライブラリに入れると、Flash は、さまざまな状態のスキンを含むそのアセットの フォルダも読み込みます。コンポーネントの"スキン"は、アプリケーション内でグラフィック表示 を構築するシンボルのコレクションです。1つのスキンは、コンポーネントの特定の状態を示したグ ラフィカル表現、またはムービークリップです。たとえば、CheckBox の Component Assets フォ ルダにある CheckBox disabledIcon スキンは、無効状態にあるときのコンポーネントのグラフィカ ル表現です。CheckBox_selectedDownlcon スキンは、ユーザーがクリックし、マウスボタンを押 しているときに表示される CheckBox のグラフィカルイメージです。



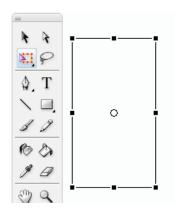
[ライブラリ]パネルのコンポーネントアセット

Component Assets フォルダ内のアセットを使用して、好きなときにコンポーネントのスキンを変更 できます。詳細については、137ページ、第4章の「UI コンポーネントのカスタマイズ」を参照して ください。

コンポーネントをライブラリに入れておくと、[コンポーネント]パネルか[ライブラリ]パネルから アイコンをステージにドラッグすることによって、そのインスタンスをドキュメントに追加できます。

コンポーネントのサイズ変更

コンポーネントインスタンスのサイズを変更するには、自由変形ツール、または setSize()メソッドを使用します。

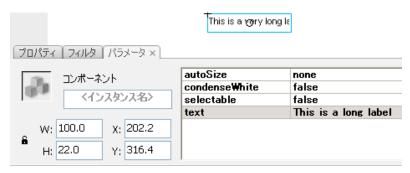


自由変形ツールによるステージ上での List コンポーネントのサイズ変更

setSize() メソッドは、すべてのコンポーネントインスタンスから呼び出して、コンポーネントのサイズを変更することができます (UIComponent.setSize() を参照してください)。次のコードでは、List コンポーネントのインスタンスのサイズが、幅 200 ピクセル、高さ 300 ピクセルに変更されます。

aList.setSize(200, 300);

コンポーネントのラベルは、適切に表示されるようにそのサイズが自動的に調整されることはありません。ドキュメントに追加されたコンポーネントインスタンスが小さすぎてラベルを表示できない場合は、ラベルのテキストの一部が省略されます。ラベルが適切に表示されるように、コンポーネントのサイズを調整する必要があります。



ラベルコンポーネントの切り捨てられたテキスト

コンポーネントのサイズ変更の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』 の各コンポーネントの説明を参照してください。

ライブプレビュー

ライブプレビュー機能はデフォルトで有効になっており、ステージ上のコンポーネントがパブリッシュされた Flash コンテンツでどのように表示されるかを確認できます。コンポーネントは、おおよそのサイズで表示されます。

ライブプレビューのオンとオフを切り替えるには:

■ [制御]-[ライブプレビューを有効にする]を選択します。オプションの横にチェックマークが付いていれば、そのオプションは有効になっています。

ライブプレビューには、さまざまなコンポーネントに指定された各パラメータが反映されます。ライブプレビューに反映されるコンポーネントのパラメータの詳細については、「ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド」の各コンポーネントのセクションを参照してください。

Button

ライブプレビューを有効にした Button コンポーネント

ライブプレビューを無効にした Button コンポーネント

ライブプレビュー内のコンポーネントは機能しません。コンポーネントの機能をテストするには、[制御]-[ムービープレビュー]コマンドを使用します。

イベント処理

すべてのコンポーネントが、ユーザーとやり取りしたときに、イベントをブロードキャストします。たとえば、ユーザーが Button をクリックすると、Button は MouseEvent . CLICK イベントを送り出し、ユーザーがリスト内の項目を選択すると、List は Event . CHANGE イベントを送り出します。コンポーネントにとって重要な事態が起きたときにもイベントが発生する場合があります。たとえば、UILoader インスタンスでコンテンツがロードを完了し、Event . COMPLETE イベントが生成される場合などです。イベントを処理するには、イベントが発生したときに実行する ActionScript コードを作成します。

コンポーネントのイベントには、コンポーネントが継承しているすべてのクラスのイベントが含まれます。つまり、すべての ActionScript 3.0 User Interface (UI) コンポーネントが、UIComponent クラスからイベントを継承します。これは、UIComponent クラスが ActionScript 3.0 User Interface (UI) コンポーネントの基本クラスであるためです。コンポーネントがブロードキャストするイベントのリストについては、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』のコンポーネントのクラス項目のイベントセクションを参照してください。

ActionScript 3.0 におけるイベント処理の詳細については、『ActionScript 3.0 のプログラミング』を参照してください。

イベントリスナーについて

ActionScript 3.0 コンポーネントのイベント処理では次のような点が重要です。

- すべてのイベントは、コンポーネントクラスのインスタンスによってブロードキャストされます。 ブロードキャストを実行したコンポーネントインスタンスが " ブロードキャスター " です。
- コンポーネントインスタンスについて addEventListener() メソッドを呼び出すことによって、イベント " リスナー "を登録します。たとえば、次のコード行は、MouseEvent.CLICK イベントのリスナーを Button インスタンス aButton に追加します:

aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK. clickHandler):

addEventListener() メソッドの 2番目のパラメータは、イベントが発生したときに呼び出される関数の名前、clickHandler を登録します。この関数は、"コールバック関数"とも呼ばれます。

■ 1つのコンポーネントインスタンスには複数のリスナーを登録できます。 aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler1); aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler2):

- また、1つのリスナーを複数のコンポーネントインスタンスに登録することもできます。 aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler1); bButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler1);
- イベントハンドラ関数は、イベントタイプと、イベントをブロードキャストするインスタンスに関する情報を含むイベントオブジェクトに渡されます。詳細については、48ページの「イベントオブジェクトについて」を参照してください。
- リスナーは、アプリケーションが終了するか、ユーザーが removeEventListener() メソッド を使用して明示的に削除するまではアクティブな状態を維持します。たとえば、次のコード行は、aButtonの MouseEvent.CLICK イベントのリスナーを削除します。 aButton.removeEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);

イベントオブジェクトについて

イベントオブジェクトは、Event オブジェクトクラスから継承され、発生したイベントに関する情報を含むプロパティを持ちます。たとえば、イベントに関する重要な情報を提供する target プロパティや type プロパティなどがあります。

プロパティ	説明
type	イベントのタイプを示すストリングです。
target	イベントをブロードキャストしたコンポーネントインスタンスへの参照です。

イベントに他のプロパティがあるときは、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の イベントのクラスの説明に示されています。

イベントオブジェクトは、イベントが発生したときに自動的に生成され、イベントハンドラ関数に渡されます。

関数内でイベントオブジェクトを使用すると、プロードキャストされたイベントの名前や、イベントをプロードキャストしたコンポーネントのインスタンス名にアクセスできます。インスタンス名から、他のコンポーネントプロパティにアクセスすることもできます。たとえば、次のコードは evt0bjイベントオブジェクトの target プロパティを使用して、aButtonの label プロパティにアクセスし、[出力]パネルに表示します。

```
import fl.controls.Button;
import flash.events.MouseEvent;

var aButton:Button = new Button();
aButton.label = "Submit";
addChild(aButton);
aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);

function clickHandler(evtObj:MouseEvent){
   trace("The " + evtObj.target.label + " button was clicked");
}
```

表示リストの操作

すべての ActionScript 3.0 コンポーネントは、DisplayObject クラスから継承されるため、そのメソッドとプロパティにアクセスし、表示リストとやり取りします。"表示リスト"は、表示されるオブジェクトとビジュアルエレメントのアプリケーション内での階層です。この階層には次のエレメントが含まれます。

- ステージ。トップレベルのコンテナです。
- 表示オブジェクト。シェイプ、ムービークリップ、テキストフィールドなどを含みます。
- 表示オブジェクトコンテナ。子表示オブジェクトを含むことができる特殊な表示オブジェクト です。

表示リスト内のオブジェクトの順序によって、親コンテナ内での深度が決まります。オブジェクトの深度は、ステージ上または表示コンテナ内の一番上から下へ、または最前面から背面への位置を示しています。深度の順序はオブジェクトが重なっているときには明白ですが、重なっていないときでも存在します。表示リストのすべてのオブジェクトが対応するステージ上の深度を持っています。オブジェクトを他のオブジェクトの前面または背面に移動してオブジェクトの深度を変更するときは、表示リスト内の位置を変更する必要があります。表示リスト内のオブジェクトのデフォルト順序は、オブジェクトがステージ上に置かれた順序です。表示リストの位置 0 は、深度順序の底にあるオブジェクトです。

表示リストへのコンポーネントの追加

コンテナの addChild() または addChildAt() メソッドを呼び出して、オブジェクトを DisplayObjectContainer オブジェクトに追加できます。ステージの場合は、オーサリング中にオブ ジェクトを作成するか、コンポーネントの場合はオブジェクトを [コンポーネント] パネルからス テージにドラッグすることによってオブジェクトを表示リストに追加することもできます。

ActionScript を使用してオブジェクトをコンテナに追加するには、まず new 演算子を指定してコンストラクタを起動し、そのインスタンスを作成してから、addChild()または addChildAt()メソッドを呼び出してそれをステージ上および表示リストに配置します。addChild()メソッドはオブジェクトを表示リストの次の位置に配置しますが、addChildAt()メソッドはオブジェクトを追加する位置を指定します。既に占有されている位置を指定すると、その位置にあるオブジェクト、およびそれよりも高い位置にあるオブジェクトが1つ上の位置に移されます。DisplayObjectContainerオブジェクトの numChildren プロパティには、その中にある表示オブジェクトの数が入っています。表示リストからオブジェクトを取得するには、getChildAt()メソッドを呼び出してその位置を指定するか、オブジェクトの名前がわかっているときには、getChildByName()メソッドを呼び出します。

チド

表示リスト内のコンポーネントに名前でアクセスしたい場合は、ActionScript を使用してコンポーネントを追加するときに、名前プロパティに名前を割り当てる必要があります。

次の例は、表示リスト内の3つのコンポーネントの名前と位置を表示します。最初に、

NumericStepper、Button、ComboBox をそれぞれが互いに重なるようにステージにドラッグし、インスタンス名 aNs、aButton、aCb を与えます。続いて、次のコードをタイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに追加します。

```
var i:int = 0;
while(i < numChildren) {
   trace(getChildAt(i).name + " is at position: " + i++);
}
[出力]パネルに次の行が表示されます。
aNs is at position: 0
aButton is at position: 1
aCb is at position: 2</pre>
```

表示リスト内のコンポーネントの移動

表示リスト内のオブジェクトの位置、および表示深度を変更するには、addChildAt()メソッドを呼び出して、オブジェクトの名前とオブジェクトを配置する位置をメソッドのパラメータとして与えます。たとえば、次のコードを前の例に追加して、NumericStepperを一番上に配置し、このループを繰り返して表示リスト内のコンポーネントの新しい位置を表示します。

```
this.addChildAt(aNs, numChildren - 1);
i = 0;
while(i < numChildren) {
   trace(getChildAt(i).name + " is at position: " + i++);
}</pre>
```

[出力]パネルに次の内容が表示されます。

```
aNs is at position: 0 aButton is at position: 1 aCb is at position: 2 aButton is at position: 0 aCb is at position: 1 aNs is at position: 2
```

NumericStepperは、画面上の他のコンポーネントの前にも表示されます。

numChildren は表示リスト内のオブジェクトの数であり $(1 \sim n)$ 、リスト内の最初の位置は 0 です。そのため、リスト内に 3 つのオブジェクトがある場合、3 番目のオブジェクトのインデックス位置は 2 になります。したがって、表示リストの最後の位置、または表示深度の一番上のオブジェクトは、numChildren - 1 として参照できます。

表示リストからのコンポーネントの削除

表示オブジェクトコンテナおよびその表示リストからコンポーネントを削除するには、 removeChild()メソッドと removeChildAt()メソッドを使用します。次の例は、3つの Button コンポーネントをステージ上で互いの前に配置し、それぞれのイベントリスナーを追加します。各 Button をクリックすると、イベントハンドラがそれを表示リストおよびステージから削除します。

表示リストからコンポーネントを削除するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. Button を [コンポーネント] パネルから [ライブラリ] パネルまでドラッグします。
- **3.** [アクション]パネルを開き、メインタイムラインのフレーム1を選択して、次のコードを追加します。

```
import fl.controls.Button;

var i:int = 0;
while(i++ < 3) {
    makeButton(i);
}

function removeButton(event:MouseEvent):void {
    removeChildAt(numChildren -1);
}

function makeButton(num) {
    var aButton:Button = new Button();
    aButton.name = "Button" + num;
    aButton.label = aButton.name;
    aButton.move(200, 200);
    addChild(aButton);
    aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, removeButton);
}</pre>
```

表示リストの詳細については、『ActionScript 3.0 のプログラミング』の第 12 章の「表示のプログラミング」を参照してください。

FocusManager の操作

ユーザーが Tab キーを押して Flash アプリケーション内を移動したり、アプリケーション内をクリックしたりすると、FocusManager クラスは入力フォーカスを受け取るコンポーネントを判別します。コンポーネントを作成している場合を除いて、FocusManager を有効にするために、FocusManager インスタンスをアプリケーションに追加したり、コードを書いたりする必要はありません。

RadioButton オブジェクトがフォーカスを取得した場合、FocusManager は、そのオブジェクトと 共通の groupName 値を持つすべてのオブジェクトを検査し、selected プロパティが true である オブジェクトにのみフォーカスを設定します。 各モーダル Window コンポーネントは FocusManager インスタンスをそれぞれ備えており、そのウィンドウ上のコントロールは独自のタブセットになります。そのため、ユーザーが Tab キーを押して、意図せずに他のウィンドウ上にあるコンポーネントに移動することはありません。

FocusManagerでは、コンテナ内のエレメントの深度 (z 順序)が、デフォルトのナビゲーション順序(タブループ)として使用されます。通常、タブループ内の移動には Tab キーを使用します。Tab キーを押すごとに、フォーカスは先頭の(フォーカスを持つ)コンポーネントから最後のコンポーネントまで移動し、再び先頭のコンポーネントに戻ります。深度は主に、コンポーネントがステージにドラッグされた順序によって設定されます。ただし、[修正]メニューの[重ね順]-[最前面へ]または[重ね順]-[最背面へ]の各コマンドを使用して、最終的な z 順序を決定することもできます。深度の詳細については、49 ページの「表示リストの操作」を参照してください。

アプリケーションでコンポーネントにフォーカスを設定するには、setFocus()メソッドを呼び出します。たとえば、次の例では、現在のコンテナ (this) の FocusManager インスタンスを作成し、Button インスタンス aButton にフォーカスを設定しています。

```
var fm:FocusManager = new FocusManager(this):
fm.setFocus(aButton):
getFocus()メソッドを呼び出すことで、フォーカスのあるコンポーネントを調べることができま
す。また、タブループ内で次にフォーカスを取得するコンポーネントを調べるには、
getNextFocusManagerComponent()メソッドを呼び出します。次の例では、ステージ上に
CheckBox、RadioButton、および Button があり、各コンポーネントについて MouseEvent . CLICK
イベントおよび Focus Event.MOUSE FOCUS CHANGE イベントのリスナーが存在します。ユーザーが
コンポーネントをクリックしたことで MouseEvent. CLICK イベントが発生すると、showFocus() 関
数が getNextFocusManagerComponent() メソッドを呼び出し、タブループ内で次にフォーカス
を取得するコンポーネントを確認します。次に、setFocus()メソッドを呼び出して、そのコン
ポーネントにフォーカスを設定します。FocusEvent.MOUSE_FOCUS_CHANGE イベントが発生する
と、fc() 関数がこのイベントが発生したコンポーネントの名前を表示します。このイベントは、タ
ブループで次の順番でないコンポーネントをユーザーがクリックしたときにトリガされます。
// This example assumes a CheckBox (aCh), a RadioButton (aRb) and a Button
// (aButton) have been placed on the Stage.
import fl.managers.FocusManager;
import flash.display.InteractiveObject;
var fm:FocusManager = new FocusManager(this):
aCh.addEventListener(MouseEvent.CLICK, showFocus);
aRb.addEventListener(MouseEvent.CLICK. showFocus):
aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, showFocus);
aCh.addEventListener(FocusEvent.MOUSE_FOCUS_CHANGE, fc);
aRb.addEventListener(FocusEvent.MOUSE_FOCUS_CHANGE, fc);
```

aButton.addEventListener(FocusEvent.MOUSE_FOCUS_CHANGE, fc);

```
function showFocus(event:MouseEvent):void {
  var nextComponent:InteractiveObject = fm.getNextFocusManagerComponent();
  trace("Next component in tab loop is: " + nextComponent.name);
  fm.setFocus(nextComponent);
}

function fc(fe:FocusEvent):void {
  trace("Focus Change: " + fe.target.name);
}
```

ユーザーが Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押した場合にフォーカスを受け取るボタンを作成するには、次のコードのように、デフォルトボタンにする Button のインスタンスを FocusManager.defaultButton プロパティに設定します。

```
import fl.managers.FocusManager;
```

```
var fm:FocusManager = new FocusManager(this);
fm.defaultButton = okButton;
```

FocusManager クラスは、Flash Player のデフォルトのフォーカス領域を表す矩形を無効にして、角の丸いカスタムのフォーカス用矩形を描きます。

Flash アプリケーションでのフォーカス順序の作成に関する詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FocusManager クラスを参照してください。カスタムフォーカスマネージャを作成するには、IFocusManager インターフェイスを実装するクラスを作成する必要があります。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の IFocusManager を参照してください。

リストベースのコンポーネントの操作

List、DataGrid、TileList コンポーネントはすべて SelectableList 基本クラスから継承されます。そのため、これらのコンポーネントはリストベースのコンポーネントと考えられます。ComboBox は、テキストボックスとリストで構成されるため、やはりリストベースのコンポーネントです。

リストは行で構成されています。DataGrid と TileList は、複数の列に分割できる行で構成されています。行と列が交差する部分がセルです。単一列の行であるリストでは、各行がセルになります。セルには次に示す 2 つの重要な特徴があります。

■ セルに格納されるデータ値はアイテムと呼ばれます。"アイテム"とは、リスト内の情報の単位を 格納するために使用する ActionScript オブジェクトです。リストは配列のようなものと考えるこ とができます。配列内の個々のインデックス付き領域にあたるのがアイテムです。リスト内では、 アイテムは一般に表示される label プロパティと、データの格納に使用する data プロパティを 備えたオブジェクトです。"データプロバイダ"は、リスト内のアイテムのデータモデルです。 データプロバイダを使用すると、コンポーネントの dataProvider プロパティに割り当てるだけ で、リストベースのコンポーネントにデータを入力することができます。 ■ セルには、テキストからイメージ、ムービークリップまでのさまざまなタイプのデータや、ユーザーが作成できるすべてのクラスを格納できます。そのため、セルはコンテンツに適した方法で描画またはレンダリングする必要があります。したがって、リストベースのコンポーネントは、セルをレンダリングするための " セルレンダラー " を備えています。 DataGrid の場合は、各列がDataGridColumn オブジェクトであり、やはり cellRenderer プロパティを持つため、コンテンツに合わせて各列を適切にレンダリングすることができます。

すべてのリストベースのコンポーネントが cellRenderer プロパティと dataProvider プロパティを持っており、ユーザーはそれらを設定して、各コンポーネントのセルをロードおよびレンダリングすることができます。これらのプロパティの使用とリストベースのコンポーネントの操作の詳細については、54ページの「データプロバイダの操作」および 64ページの「CellRenderer の操作」を参照してください。

データプロバイダの操作

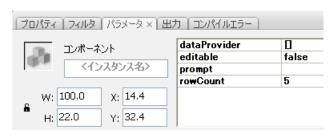
データプロバイダは、ComboBox、DataGrid、List、TileList コンポーネントにデータを供給するために使用できるデータソースです。それらのコンポーネントクラスはそれぞれ dataProvider プロパティを持っています。ユーザーはそれらのプロパティにデータプロバイダオブジェクトを割り当て、コンポーネントのセルにデータを設定できます。通常、データプロバイダは Array や XML オブジェクトなどのデータのコレクションです。

データプロバイダの作成

ComboBox、List、TileList コンポーネントの場合は、オーサリング環境で dataProvider パラメータを使用することによって、データプロバイダを作成できます。DataGrid コンポーネントの場合、プロパティインスペクタに dataProvider パラメータがありません。これは、DataGrid コンポーネントは複数の列を持つことができるため、データプロバイダが複雑になるからです。ActionScript を使用してこれらのコンポーネント、および DataGrid のデータプロバイダを作成することもできます。

dataProvider パラメータの使用

プロパティインスペクタまたはコンポーネントインスペクタの [パラメータ] タブで dataProvider パラメータをクリックして、ComboBox、List、TileList コンポーネントの簡単なデータプロバイダを作成できます。次の図は、プロパティインスペクタのパラメータを示しています。



プロパティインスペクタの dataProvider パラメータ

最初は空の配列を表示している[値]セルをダブルクリックすると、[値]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスに複数のラベルおよびデータ値を入力し、データプロバイダを作成できます。



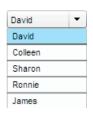
dataProvider 用の [値] ダイアログボックス

プラス記号をクリックしてアイテムを dataProvider に追加します。マイナス記号をクリックすると、アイテムが削除されます。上矢印をクリックすると選択したアイテムがリストの上方に移動し、下矢印をクリックすると下方に移動します。次の図は、子供の名前と誕生日のリストを作成する[値]ダイアログボックスです。



データを設定した[値]ダイアログボックス

ユーザーが作成する配列は、ラベルフィールドと値フィールドのペアで構成されています。ラベルフィールドは label と data であり、値フィールドは子供の名前と誕生日です。ラベルフィールドには、リストに表示されるコンテンツを指定します。この場合は、子供の名前です。ComboBox はこのように表示されます。



データプロバイダでデータを設定した ComboBox

データの追加が終了したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。これでdataProvider パラメータの配列にユーザーが作成したアイテムが設定されました。

allowMultipleSelection	false
dataProvider	[{label:David,data:11/19/1995}, {label:Colleen,data:4/20/1993}, {label:Sharon,data:9/6/1997},
horizontalLineScrollSize	1
horizontalPageScrollSize	0
horizontalScrollPolicy	auto
verticalLineScrollSize	1

データが設定された dataProvider パラメータ

ユーザーが作成したラベルとデータ値にアクセスするには、ActionScript を使用して、コンポーネントの dataProvider プロパティにアクセスします。

ActionScript の使用

データプロバイダは、Array または XML オブジェクトにデータを作成し、そのオブジェクトをvalue パラメータとしてデータプロバイダコンストラクタに与えることによって作成できます。

H × ActionScript 3.0 では、Array または XML オブジェクトを dataProvider プロパティに直接割り当てることができません。これは、このプロパティがデータプロバイダオブジェクトとして定義されており、取得できるのがデータプロバイダ型のオブジェクトに限られるためです。

次の例では、単一列の行である List コンポーネントに数人の子供の名前と誕生日を設定します。この例は、items 配列にリストを定義し、データプロバイダインスタンスを作成するときにそれをパラメータとして指定し (new DataProvider(items)) List コンポーネントの dataProvider プロパティに割り当てています。

```
import fl.controls.List;
import fl.data.DataProvider;

var aList:List = new List();
var items:Array = [
{label:"David", data:"11/19/1995"},
{label:"Colleen", data:"4/20/1993"},
{label:"Sharon", data:"9/06/1997"},
{label:"Ronnie", data:"7/6/1993"},
{label:"James", data:"2/15/1994"},
];
aList.dataProvider = new DataProvider(items);
addChild(aList);
aList.move(150,150);
```

配列は、ラベルフィールドと値フィールドのペアで構成されています。ラベルフィールドは label と data であり、値フィールドは子供の名前と誕生日です。ラベルフィールドには、リストに表示されるコンテンツを指定します。この場合は、子供の名前です。List はこのように表示されます。

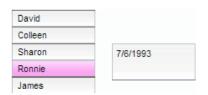


データプロバイダでデータを設定した List

データフィールドの値は、ユーザーがリスト内のアイテムをクリックして選択し、change イベントを発生させたときに利用可能になります。次の例は、TextArea (aTa) とイベントハンドラ (changeHandler) を前の例に追加し、ユーザーがリスト内の名前を選択したときに、子供の誕生日を表示しています。

```
import fl.controls.List;
import fl.controls.TextArea;
import flash.events.Event;
import fl.data.DataProvider;
var aList:List = new List():
var aTa:TextArea = new TextArea();
var items:Array = [
{label: "David", data: "1/19/1995"},
{label: "Colleen", data: "4/20/1993"},
{label: "Sharon", data: "9/06/1994"},
{label: "Ronnie", data: "7/6/1993"},
{label: "James", data: "2/15/1994"},
aList.dataProvider = new DataProvider(items);
addChild(aList);
addChild(aTa):
aList.move(150,150);
aTa.move(150, 260):
aList.addEventListener(Event.CHANGE, changeHandler);
function changeHandler(event:Event):void {
  aTa.text = event.target.selectedItem.data;
};
```

これで、ユーザーがリスト内の子供の名前を選択したときに、次の図のように、その子の誕生日が **TextArea** に表示されます。これは、changeHandler() 関数が、**TextArea** の text プロパティ (aTa.text)を、選択されたアイテムのデータフィールドの値(event.target.selectedItem.data) に設定することによって実現されます。event.target プロパティは、イベントをトリガしたオブジェクトであり、この場合は List になります。



List のデータプロバイダのデータフィールドを表示

データプロバイダにはテキスト以外のデータを入れることができます。次の例では、TileList にデータを供給するデータプロバイダにムービークリップが入っています。これは、色付きのボックスのムービークリップを作成した後に addItem()を呼び出して各アイテムを追加することによってデータプロバイダを構築します。

```
import fl.data.DataProvider:
import flash.display.DisplayObject;
var aBox:MovieClip = new MovieClip();
var i:uint = 0:
var colors: Array = new Array(0x00000, 0xFF0000, 0x0000CC, 0x000CC00, 0xFFFF00);
var colorNames:Array = new Array("Midnight", "Cranberry", "Sky", "Forest",
  "July"):
var dp:DataProvider = new DataProvider();
for(i=0; i < colors.length; i++) {</pre>
  drawBox(aBox, colors[i]);// draw box w next color in array
  dp.addItem( {label:colorNames[i], source:aBox} );
aTl.dataProvider = dp;
aTl.columnWidth = 110:
aTl.rowHeight = 130;
aTl.setSize(280,150);
aTl.move(150. 150):
aTl.setStyle("contentPadding", 5);
function drawBox(box:MovieClip,color:uint):void {
       box.graphics.beginFill(color, 1.0);
       box.graphics.drawRect(0, 0, 100, 100);
       box.graphics.endFill();
```

XML データを (配列の代わりに)使用して、データプロバイダオブジェクトにデータを設定することもできます。たとえば、次のコードは、employees XML という名前の XML オブジェクトにデータを格納し、そのオブジェクトを Data Provider() コンストラクタ関数の値パラメータとして渡します。

```
import fl.controls.DataGrid;
import fl.data.DataProvider:
var aDg:DataGrid = new DataGrid();
addChild(aDq):
var employeesXML:XML =
  <employees>
    <employee Name="Edna" ID="22" />
    <employee Name="Stu" ID="23" />
  </employees>;
var myDP:DataProvider = new DataProvider(employeesXML);
aDg.columns = ["Name", "ID"];
aDg.dataProvider = myDP;
前のコードのように、データを XML データの属性として供給すること、または次のコードのように
XML データのプロパティとして供給することができます。
var employeesXML:XML =
  <employees>
    <employee>
      <Name>Edna</Name>
      <ID>22</ID>
    </employee>
    <employee>
      <Name>Stu</Name>
      <ID>23</ID>
    </employee>
  </employees>;
```

データプロバイダにはメソッドとプロパティのセットもあり、ユーザーはそれを使用してデータプロバイダにアクセスし、操作できます。データプロバイダ API を使用して、データプロバイダのアイテムの追加、削除、置換、並べ替え、結合を行うことができます。

データプロバイダの操作

addItem()メソッドと addItemAt()メソッドを使用して、データプロバイダにアイテムを追加できます。次の例は、ユーザーが編集可能な ComboBox のテキストフィールドに入力するアイテムを追加しています。ComboBox はステージ上にドラッグされ、aCb というインスタンス名が与えられているものとします。

```
import fl.data.DataProvider;
import fl.events.ComponentEvent;

var items:Array = [
{label:"Roger"},
{label:"Carolyn"},
{label:"Darrell"},
{label:"Rebecca"}.
```

```
{label:"Natalie"},
{label:"Mitchell"},
1:
aCb.dataProvider = new DataProvider(items);
aCb.addEventListener(ComponentEvent.ENTER, newItemHandler);
function newItemHandler(event:ComponentEvent):void {
  var newRow:int = event.target.length + 1;
  event.target.addItemAt({label:event.target.selectedLabel},
    event.target.length);
データプロバイダを通じてコンポーネント内のアイテムを置換および削除することもできます。次の
例は、2つの別々の List コンポーネント、listA と listB を実装し、Sync というラベルの付いた
ボタンを提供しています。この例では、ユーザーがこのボタンをクリックしたときに、
replaceItemAt()メソッドを使用して listB のアイテムを listA のアイテムに置換します。
listA のほうが listB よりも長い場合は、addItem() メソッドを呼び出して、余分のアイテムを
listB に追加します。listB のほうが listA よりも長い場合は、removeItemAt() メソッドを呼
び出して、ListB の余分のアイテムを削除します。
// Requires the List and Button components to be in the library
import fl.controls.List;
import fl.controls.Button;
import flash.events.Event;
import fl.data.DataProvider;
var listA:List = new List():
var listB:List = new List();
var syncButton:Button = new Button();
syncButton.label = "Sync";
var itemsA:Array = [
{label: "David" }.
{label: "Colleen"},
{label: "Sharon"},
{label: "Ronnie"},
{label:"James"},
];
var itemsB:Array = [
{label: "Roger"},
{label: "Carolyn"},
{label:"Darrell"}.
{label: "Rebecca"},
{label:"Natalie"},
{label: "Mitchell" }.
listA.dataProvider = new DataProvider(itemsA);
listB.dataProvider = new DataProvider(itemsB);
```

```
addChild(listA):
addChild(listB);
addChild(syncButton);
listA.move(100, 100);
listB.move(250, 100);
syncButton.move(175, 220);
syncButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, syncHandler);
function syncHandler(event:MouseEvent):void {
  var i:uint = 0:
  if(listA.length > listB.length) { //if listA is longer, add items to B
    while(i < listB.length) {</pre>
      listB.dataProvider.replaceItemAt(listA.dataProvider.getItemAt(i). i):
    while(i < listA.length) {</pre>
      listB.dataProvider.addItem(listA.dataProvider.getItemAt(i++));
  } else if(listA.length == listB.length) { //if listA and listB are equal
    while(i < listB.length) {</pre>
      listB.dataProvider.replaceItemAt(listA.dataProvider.getItemAt(i), i);
  } else { //if listB is longer, remove extra items from B
    while(i < listA.length) {</pre>
      listB.dataProvider.replaceItemAt(listA.dataProvider.getItemAt(i), i);
      ++i:
    while(i < listB.length) {</pre>
      listB.dataProvider.removeItemAt(i++):
  }
merge()、sort()、sortOn()メソッドを使用して、データプロバイダの結合と並べ替えを行うこ
ともできます。次の例は、2つの DataGrid インスタンス (aDg と bDg) に2つのソフトボールチーム
の名簿の一部を設定しています。"Merge"というラベルのボタンを追加し、ユーザーがそのボタンを
クリックしたときに、イベントハンドラ (mrgHandler) が bDg の名簿と aDg の名簿を結合し、得ら
れた DataGrid を Name 列の内容で並べ替えます。
import fl.data.DataProvider;
import fl.controls.DataGrid;
import fl.controls.Button;
var aDg:DataGrid = new DataGrid();
var bDg:DataGrid = new DataGrid();
var mrgButton:Button = new Button();
addChild(aDg);
addChild(bDg):
```

```
addChild(mrgButton);
bldRosterGrid(aDg):
bldRosterGrid(bDa):
var aRoster:Array = new Array();
var bRoster:Array = new Array();
aRoster = [
    {Name: "Wilma Carter", Bats: "R", Throws: "R", Year: "So", Home: "Redlands,
    {Name: "Sue Pennypacker", Bats: "L", Throws: "R", Year: "Fr", Home: "Athens,
    {Name: "Jill Smithfield", Bats: "R", Throws: "L", Year: "Sr", Home: "Spokane,
    {Name: "Shirley Goth", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Sr", Home: "Carson, NV"}
bRoster = \Gamma
    {Name: "Angelina Davis", Bats: "R", Throws: "R", Year: "So", Home: "Odessa,
    {Name: "Maria Santiago", Bats: "L", Throws: "L", Year: "Sr", Home: "Tacoma,
  WA"}.
    {Name: "Debbie Ferguson", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Jr", Home: "Bend, OR"}
];
aDg.dataProvider = new DataProvider(aRoster);
bDg.dataProvider = new DataProvider(bRoster);
aDg.move(50,50);
aDg.rowCount = aDg.length;
bDg.move(50,200);
bDg.rowCount = bDg.length;
mrgButton.label = "Merge";
mrgButton.move(200, 315);
mrgButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK. mrgHandler):
function bldRosterGrid(dq:DataGrid){
  dg.setSize(400, 300);
  dg.columns = ["Name", "Bats", "Throws", "Year", "Home"];
  dq.columns[0].width = 120;
  dg.columns[1].width = 50;
  dg.columns[2].width = 50;
  dg.columns[3].width = 40;
  dg.columns[4].width = 120;
}:
function mrgHandler(event:MouseEvent):void {
  aDg.dataProvider.merge(bDg.dataProvider);
  aDg.dataProvider.sortOn("Name");
詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』のデータプロバイダクラ
```

スを参照してください。

CellRenderer の操作

CellRenderer は、List、DataGrid、TileList、ComboBox などのリストベースのコンポーネントが、行のカスタムセルコンテンツを操作および表示するために使用するクラスです。カスタマイズされたセルには、テキスト、CheckBox などの作成済みコンポーネント、またはユーザーが作成できるすべての表示オブジェクトクラスを入れることができます。カスタム CellRenderer を使用してデータをレンダリングするには、CellRenderer クラスを拡張するか、ICellRenderer インターフェイスを実装して独自のカスタム CellRenderer クラスを作成します。

List、DataGrid、TileList、ComboBox クラスは、SelectableList クラスのサブクラスです。
SelectableList クラスは cellRenderer スタイルを含みます。このスタイルは、コンポーネントがセルのレンダリングに使用する表示オブジェクトを定義します。

CellRenderer が使用するスタイルの形式を調整するには、List オブジェクトの setRenderer Style() メソッドを呼び出します(次のセクション「セルの形式化」を参照)。または、CellRenderer として使用するカスタムクラスを定義することができます(65ページの「カスタム CellRenderer クラスの定義」を参照)。

セルの形式化

CellRenderer クラスには多くのスタイルが含まれており、ユーザーはそれらを使用してセルの形式を 制御できます。

次のスタイルを使用すると、さまざまな状態 (無効、ダウン、オーバー、アップ)のセルに使用されるスキンを定義できます:

- disabledSkin および selectedDisabledSkin
- downSkin および selectedDownSkin
- overSkin および selectedOverSkin
- upSkin および selectedUpSkin

次のスタイルはテキスト形式に適用されます:

- disabledTextFormat
- textFormat
- textPadding

これらのスタイルを設定するには、List オブジェクトの set Renderer Style() メソッドを呼び出すか、CellRenderer オブジェクトの set Style() メソッドを呼び出します。これらのスタイルを取得するには、List オブジェクトの get Renderer Style() メソッドを呼び出すか、CellRenderer オブジェクトの get Style() メソッドを呼び出します。List オブジェクトの renderer Styles プロパティ、または CellRenderer オブジェクトの get Style Definition() メソッドを通じて、すべてのレンダラースタイルを定義するオブジェクトに(オブジェクトの指定プロパティとして)アクセスすることもできます。

clearRendererStyle()メソッドを呼び出して、スタイルをデフォルト値にリセットできます。 リスト内の行の高さを取得または設定するには、List オブジェクトの rowHeight プロパティを使用 します。

カスタム CellRenderer クラスの定義

たとえば、次のコードには 2 つのクラスが含まれています。ListSample クラスは List コンポーネントをインスタンス化し、他のクラスの CustomRenderer を使用して List コンポーネントに使用するセルレンダラーを定義します。CustomRenderer クラスは CellRenderer クラスを拡張します。

CellRenderer クラスを拡張するクラスを使用してカスタム CellRenderer を定義するには:

- 1. [ファイル]-[新規]を選択します。
- **2.** 表示される [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[Flash ファイル (ActionScript 3.0)] を選択して、[OK] をクリックします。
- 3. [ウィンドウ]-[コンポーネント]を選択して、[コンポーネント]パネルを表示します。
- **4.** 「コンポーネント 1 パネルで、List コンポーネントをステージまでドラッグします。
- **5.** プロパティインスペクタが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ]-[プロパティ] を選択します。
- 6. List コンポーネントを選択した状態で、プロパティインスペクタでプロパティを設定します。
 - インスタンス名: myList
 - W(幅):200
 - H(高さ):300
 - X:20
 - Y:20
- 7. タイムラインのレイヤー1のフレーム1を選択し、[ウィンドウ]-[アクション]を選択します。
- 8. 「アクション] パネルで、次のスクリプトを入力します。

```
myList.setStyle("cellRenderer", CustomCellRenderer);
myList.addItem({label:"Burger -- $5.95"});
myList.addItem({label:"Fries -- $1.95"});
```

- 9. [ファイル]-「保存]を選択します。ファイル名を指定し、[OK]をクリックします。
- 10. 「ファイル]-[新規]を選択します。
- **11.** 表示される[新規ドキュメント]ダイアログボックスで、[ActionScript ファイル]を選択して、[OK]をクリックします。
- 12. スクリプトウィンドウで、次のコードを入力し、CustomCellRenderer クラスを定義します。

```
package {
  import fl.controls.listClasses.CellRenderer;
  import flash.text.TextFormat;
  import flash.filters.BevelFilter;
  public class CustomCellRenderer2 extends CellRenderer {
    public function CustomCellRenderer2() {
       var format:TextFormat = new TextFormat("Verdana", 12);
       setStyle("textFormat", format);
       this.filters = [new BevelFilter()];
    }
}
```

- **13.** [ファイル]-[保存] を選択します。CustomCellRenderer.as ファイルに名前を付けて、FLA ファイルと同じディレクトリに入れ、[OK] をクリックします。
- 14. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

DisplayObject クラスを継承し、ICellRenderer インターフェイスを実装するいずれかのクラスを使用して CellRenderer を定義することもできます。たとえば、次のコードは 2 つのクラスを定義します。ListSample2 クラスは List オブジェクトを表示リストに追加し、その CellRenderer を定義して CustomRenderer クラスを使用します。CustomRenderer クラスは CheckBox クラスを拡張し (CheckBox クラスは DisplayObject クラスを拡張する)、ICellRenderer インターフェイスを実装します。CustomRenderer クラスは、ICellRenderer インターフェイスに定義された data プロパティと 1istData プロパティに関する getter メソッドと setter メソッドを定義します。ICellRenderer インターフェイスに定義されたその他のプロパティとメソッド (selected プロパティと 15 setSize() メソッド (selected プロパティと 16 setSize() メソッド (dumic CheckBox クラスに定義されています。

ICellRenderer インターフェイスを実装するクラスを使用してカスタム CellRenderer を 定義するには:

- 1. [ファイル]-[新規]を選択します。
- 2. 表示される [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[Flash ファイル (ActionScript 3.0)] を選択して、[OK] をクリックします。
- [ウィンドウ]-[コンポーネント]を選択して、[コンポーネント]パネルを表示します。
- 4. [コンポーネント]パネルで、List コンポーネントをステージまでドラッグします。
- **5.** プロパティインスペクタが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ]-[プロパティ] を選択します。

- 6. List コンポーネントを選択した状態で、プロパティインスペクタでプロパティを設定します。
 - インスタンス名: myList
 - W(幅):100
 - H(高さ):300
 - X:20
 - Y:20
- 7. タイムラインのレイヤー1のフレーム1を選択し、[ウィンドウ]-[アクション]を選択します。
- 8. 「アクション] パネルで、次のスクリプトを入力します。

```
myList.setStyle("cellRenderer", CustomCellRenderer);
myList.addItem({name:"Burger", price:"$5.95"});
myList.addItem({name:"Fries", price:"$1.95"});
```

- 9. [ファイル]-[保存]を選択します。ファイル名を指定し、[OK]をクリックします。
- 10. [ファイル]-[新規]を選択します。
- 11. 表示される[新規ドキュメント]ダイアログボックスで、[ActionScript ファイル]を選択して、[OK]をクリックします。
- 12. スクリプトウィンドウで、次のコードを入力し、CustomCellRenderer クラスを定義します。

```
package
  import fl.controls.CheckBox;
  import fl.controls.listClasses.ICellRenderer;
  import fl.controls.listClasses.ListData;
  public class CustomCellRenderer extends CheckBox implements ICellRenderer {
    private var _listData:ListData;
    private var _data:Object;
    public function CustomCellRenderer() {
    public function set data(d:Object):void {
       data = d;
       label = d.label:
    public function get data():Object {
       return _data;
    public function set listData(ld:ListData):void {
       _listData = ld:
    public function get listData():ListData {
      return _listData:
  }
```

- **13.** [ファイル]-[保存] を選択します。CustomCellRenderer.as ファイルに名前を付けて、FLA ファイルと同じディレクトリに入れ、[OK] をクリックします。
- 14. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ライブラリのシンボルを使用して CellRenderer を定義することもできます。シンボルを ActionScript 用に書き出す必要があります。また、ライブラリシンボルのクラス名に、ICellRenderer インターフェイスを実装するか、CellRenderer クラス (またはそのサブクラスの1つ) を拡張するクラスファイルが 関連付けられていることが必要です。

次の例は、ライブラリシンボルを使用してカスタム CellRenderer を定義しています。

ライブラリシンボルを使用して CellRenderer を定義するには:

- 1. [ファイル]-[新規]を選択します。
- 2. 表示される [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[Flash ファイル (ActionScript 3.0)] を 選択して、[OK] をクリックします。
- 3. [ウィンドウ]-[コンポーネント]を選択して、[コンポーネント]パネルを表示します。
- 4. [コンポーネント]パネルで、List コンポーネントをステージまでドラッグします。
- **5.** プロパティインスペクタが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ]-[プロパティ] を選択します。
- 6. List コンポーネントを選択した状態で、プロパティインスペクタでプロパティを設定します。
 - インスタンス名: mvList
 - W(幅):100
 - H(高さ):400
 - X:20
 - Y:20
- 7. 「パラメータ] パネルをクリックして、dataProvider 行の 2 列目をダブルクリックします。
- 8. 表示される [値] ダイアログボックスで、プラス記号 (+) を 2回クリックして (ラベルが labelO と label1 に設定された) 2つのデータエレメントを追加し、 [OK] をクリックします。
- 9. テキストツールで、ステージ上のテキストフィールドを描画します。
- 10. テキストフィールドを選択した状態で、プロパティインスペクタでプロパティを設定します。
 - テキストの種類:ダイナミックテキスト
 - インスタンス名: textField
 - W(幅):100
 - フォントサイズ:24
 - X:0
 - Y:0

- 11. テキストフィールドを選択した状態で、「修正]-[シンボルに変換]を選択します。
- 12. [シンボルに変換]ダイアログボックスで次の設定を行い、[OK]をクリックします。
 - 名前: MyCellRenderer
 - タイプ: MovieClip
 - ActionScript に書き出し: 選択
 - 最初のフレームに書き出し:選択
 - クラス: MyCellRenderer
 - 基本クラス: flash.display.SimpleButton

ActionScript クラス警告が表示されたら、警告ボックスの [OK] ボタンをクリックします。

- 13. 新しいムービークリップシンボルのインスタンスをステージから削除します。
- 14. タイムラインのレイヤー1のフレーム1を選択し、「ウィンドウ]-「アクション]を選択します。
- **15.** [アクション]パネルで、次のスクリプトを入力します。 myList.setStyle("cellRenderer", MyCellRenderer);
- 16. [ファイル]-「保存]を選択します。ファイル名を指定し、[OK]ボタンをクリックします。
- 17. 「ファイル]-[新規]を選択します。
- **18.** 表示される [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[ActionScript ファイル] を選択して、 [OK] をクリックします。
- **19.** スクリプトウィンドウで、次のコードを入力し、MyCellRenderer クラスを定義します。

```
package {
  import flash.display.MovieClip;
  import flash.filters.GlowFilter;
  import flash.text.TextField;
  import fl.controls.listClasses.ICellRenderer;
  import fl.controls.listClasses.ListData;
  import flash.utils.setInterval;
  public class MyCellRenderer extends MovieClip implements ICellRenderer {
    private var _listData:ListData;
    private var _data:Object;
    private var _selected:Boolean;
    private var glowFilter:GlowFilter;
    public function MyCellRenderer() {
       glowFilter = new GlowFilter(0xFFFF00);
       setInterval(toggleFilter, 200);
    public function set data(d:Object):void {
       data = d:
       textField.text = d.label;
    public function get data():Object {
       return _data;
```

```
public function set listData(ld:ListData):void {
       _listData = ld;
    public function get listData():ListData {
       return listData:
    public function set selected(s:Boolean):void {
       _selected = s:
    public function get selected():Boolean {
       return _selected;
    public function setSize(width:Number, height:Number):void {
    public function setStyle(style:String, value:Object):void {
    private function toggleFilter():void {
       if (textField.filters.length == 0) {
         textField.filters = [glowFilter];
       } else {
         textField.filters = [];
    }
  }
}
```

- **20.** [ファイル]-[保存]を選択します。MyCellRenderer.as ファイルに名前を付けて、FLA ファイルと同じディレクトリに入れ、[OK] をクリックします。
- 21. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

CellRenderer プロパティ

data プロパティは、CellRenderer 用に設定されたすべてのプロパティを含むオブジェクトです。たとえば、Checkbox クラスを拡張するカスタム CellRenderer を定義している次のクラスでは、dataプロパティの setter 関数が、data.label の値を、CheckBox クラスから継承される label プロパティに渡しています。

```
public class CustomRenderer extends CheckBox implements ICellRenderer {
   private var _listData:ListData;
   private var _data:Object;
   public function CustomRenderer() {
   }
   public function set data(d:Object):void {
    _data = d;
    label = d.label;
   }
   public function get data():Object {
      return _data;
   }
}
```

```
public function set listData(ld:ListData):void {
    _listData = ld;
}
public function get listData():ListData {
    return _listData;
}
}
```

selected プロパティは、リスト内でセルが選択されているかどうかを定義します。

DataGrid オブジェクトの列への CellRenderer の適用

DataGrid オブジェクトは複数の列を持つことができ、ユーザーは各列に別々のセルレンダラーを指定できます。DataGrid の各列は DataGridColumn オブジェクトによって表され、DataGridColumn クラスは cellRenderer プロパティを含みます。このプロパティに、ユーザーは列の CellRenderer を定義できます。

編集可能セルの CellRenderer を定義

DataGridCellEditor クラスは、DataGrid オブジェクトの編集可能セルに使用されるレンダラーを定義します。これがセルのレンダラーになるのは、DataGrid オブジェクトの editable プロパティが true に設定されていて、ユーザーが編集するセルをクリックしたときです。編集可能セルの CellRenderer を定義するには、DataGrid オブジェクトの columns 配列の各エレメントについて itemEditor プロパティを設定します。

CellRenderer としてのイメージ、SWF ファイル、ムービークリップの使用

ImageCell クラスは、CellRenderer のサブクラスであり、メインコンテンツがイメージ、SWF ファイル、またはムービークリップであるセルのレンダリングに使用されるオブジェクトを定義します。 ImageCell クラスは、セルの表示を定義する次のスタイルを含みます。

- imagePadding- セルのエッジとイメージのエッジを隔てるパディング(ピクセル単位)
- selectedSkin-選択された状態を示すために使用されるスキン
- textOverlayAlpha-セルラベルの背後のオーバーレイの不透明度
- textPadding-セルのエッジとテキストのエッジを隔てるパディング(ピクセル単位)

ImageCell クラスは、TileList クラスのデフォルト CellRenderer です。

コンポーネントをアクセス可能にする方法

Flash アプリケーションのビジュアルコンテンツは、画面の内容を音声出力するスクリーンリーダーを使用することにより、視覚障害のあるユーザーにも利用可能になります。Flash アプリケーションをスクリーンリーダーからアクセス可能にする方法の詳細については、『Flash ユーザーガイド』の第18章「アクセシビリティコンテンツの作成」を参照してください。

ActionScript 3.0 コンポーネントをスクリーンリーダーからアクセス可能にするには、そのアクセシビリティクラスを書き出し、そのクラスの enableAccessibility() メソッドを呼び出すことも必要になります。次の ActionScript 3.0 コンポーネントをスクリーンリーダーからアクセス可能にできます。

コンポーネント	アクセシビリティクラス
Button	ButtonAccImpl
CheckBox	CheckBoxAccImpl
ComboBox	ComboBoxAccImpl
List	ListAccImpl
RadioButton	RadioButtonAccImpl
TileList	TileListAccImpl

コンポーネントアクセシビリティクラスは、fl.accessibility パッケージに入っています。たとえば、CheckBox をスクリーンリーダーからアクセス可能にするには、次のステートメントをアプリケーションに追加します。

import fl.accessibility.CheckBoxAccImpl;

CheckBoxAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、インスタンスをいくつ作成するかに関係なく、一度だけ実行します。



ほとんどのコンポーネントはキーボードからも操作が可能です。アクセス可能コンポーネントの有効化とキーボードからの操作の詳細については、「UI コンポーネントの使用」のユーザー操作のセクションと、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の Accessibility クラスを参照してください。

3

UI コンポーネントの使用

この章では、Flash に付属する以下の ActionScript 3.0 ユーザーインターフェイス (UI) コンポーネントの使用方法について説明します。

Button の使用	73
CheckBox の使用	77
ColorPicker の使用	81
ComboBox の使用	84
DataGrid の使用	88
Label の使用	94
List の使用	96
NumericStepper の使用	101
ProgressBar の使用	105
RadioButton の使用	111
ScrollPane の使用	114
Slider の使用	
TextArea の使用	121
TextInput の使用	124
TileList の使用	128
UlLoader の使用	131
UIScrollBar の使用	133

Button の使用

Button コンポーネントは、サイズ変更可能な長方形のボタンです。ユーザーがアプリケーション内でマウスやスペースバーを使用してこのボタンを押すと、特定のアクションを開始することができます。Button には、カスタムアイコンを追加できます。また、Button の動作をプッシュボタンからトグルボタンに変更することもできます。トグルボタンにした Button は、ユーザーが一度クリックすると押し込まれた状態になり、もう一度クリックすると元の状態に戻ります。

Button は、多くのフォームと Web アプリケーションに使用される基本的な要素です。ユーザーの操 作でイベントを起動するような場所ならば、どこにでもボタンを配置できます。たとえば、ほとんど のフォームには [送信] ボタンがあります。また、プレゼンテーションのアプリケーションでは [前] ボタンや [次]ボタンを使用します。

Button のユーザー操作

ボタンは、アプリケーション内で有効または無効にすることができます。無効状態のときは、マウス およびキーボードからの入力を受け付けません。有効状態のボタンは、ユーザーがクリックするか Tab キーでナビゲートしてくると、フォーカスを取得します。フォーカスを取得している Button コ ンポーネントのインスタンスでは、次のキーを使用した操作が可能です。

+-	説明
Shift+Tab	フォーカスを前のオブジェクトに移動します。
スペースバー	ボタンを押して(または離して)、click イベントをトリガします。
Tab	フォーカスを次のオブジェクトに移動します。
Enter/Return	ボタンが FocusManager のデフォルト Button として設定されている場合は、フォーカスを次のオブジェクトに移動します。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の IFocusManager インターフェイスおよび FocusManager クラスと、51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペ クタ] パネルで各 Button インスタンスのパラメータに加えた変更が反映されます。

アイコンがボタンよりも大きい場合は、ボタンの境界線からはみ出します。

ボタンをアプリケーションのデフォルトプッシュボタン (ユーザーが Enter キーを押したときにクリッ クイベントを受け取るボタン)として指定するには、そのボタンを FocusManager.defaultButton に 設定します。たとえば、次のコードでは submitButton という Button インスタンスがデフォルトボタ ンに設定されます。

FocusManager.defaultButton = submitButton;

Button コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次の ActionScript コード行を追加する ことで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.ButtonAccImpl;

ButtonAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、インスタンスをいくつ作 成するかに関係なく、一度だけ実行します。

Button のパラメータ

プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]-[プロパティ]) または [コンポーネントインスペクタ] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネントインスペクタ]) で Button の各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、emphasized、label、label Placement、selected、およびtoggle です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに値を割り当てると、アプリケーション内でプロパティの初期状態が設定されます。ActionScript で設定したプロパティは、パラメータで設定した値よりも優先されます。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の Buttonクラスを参照してください。

Button を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に Button コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、Button をクリックしたときに ColorPicker コンポーネントの状態を変化させます。

Button コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** Button コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を入力します。
 - インスタンス名として「aButton」と入力します。
 - label パラメータに「表示」と入力します。
- 3. ステージに ColorPicker を追加し、インスタンス名を aCp にします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
aCp.visible = false;
aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
function clickHandler(event:MouseEvent):void {
    switch(event.currentTarget.label) {
        case "Show":
            aCp.visible = true;
            aButton.label = "Disable";
            break;
        case "Disable":
            aCp.enabled = false;
            aButton.label = "Enable";
            break;
        case "Enable":
            aCp.enabled = true;
            aButton.label = "Hide";
```

```
break;
case "Hide":
    aCp.visible = false;
    aButton.label = "Show";
    break;
}
```

コードの2行目では、MouseEvent.CLICK イベントのイベントハンドラ関数として clickHandler() 関数を登録しています。ユーザーが Button をクリックしてイベントが発生すると、clickHandler() 関数が Button の値に応じて次のいずれかのアクションを実行します。

- Show の場合は ColorPicker を表示し、Button のラベルを "無効"に変更します。
- Disable の場合は ColorPicker を無効にし、Button のラベルを " 有効 " に変更します。
- Enable の場合は ColorPicker を有効にし、Button のラベルを " 非表示 " に変更します。
- Hide の場合は ColorPicker を非表示にし、Button のラベルを "表示"に変更します。
- 5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

次の手順では、ActionScript を使用してトグルボタンにした Button を作成し、Button をクリックしたときに [出力] パネルにイベントタイプを表示します。この例では、このクラスのコンストラクタを呼び出して Button インスタンスを作成し、addChild() メソッドを呼び出してステージにインスタンスを追加しています。

ActionScript を使用して Button を作成するには:

- **1.** 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. Button コンポーネントを[コンポーネント]パネルから現在のドキュメントの[ライブラリ]パネルにドラッグします。

これにより、アプリケーションには表示されませんが、コンポーネントはライブラリに間違いなく追加されます。

3. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力して Button インスタンスを作成します。

```
import fl.controls.Button;

var aButton:Button = new Button();
addChild(aButton);
aButton.label = "Click me";
aButton.toggle = true;
aButton.move(50, 50);
```

move() メソッドにより、ステージ上の 50(X 座標)、50(Y 座標)の位置にボタンが配置されます。

4. ここで、次の ActionScript を追加して、イベントリスナーとイベントハンドラ関数を作成します。 aButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK.clickHandler):

```
function clickHandler(event:MouseEvent):void {
  trace("Event type: " + event.type);
}
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ボタンをクリックすると、" イベントタイプ : click" というメッセージが [出力] パネルに表示されます。

CheckBox の使用

CheckBox は、選択状態と非選択状態がある四角形のボックスです。選択状態のときは、ボックス内にチェックマークが表示されます。CheckBox には、テキストラベルを追加して、上、下、左、右のいずれかの位置に表示することができます。

複数の CheckBox を使用すると、相互排他的ではないブール値 (true または false) のセットを収集できます。たとえば、購入したいと思う自動車の種類に関する情報を収集するアプリケーションで複数の CheckBox を使用すると、色々な特徴をユーザーに選択させることができます。

CheckBox のユーザー操作

CheckBox は、アプリケーション内で有効または無効にすることができます。CheckBox が有効なときにユーザーが CheckBox (またはそのラベル)をクリックすると、CheckBox は入力フォーカスを取得し、押された状態になります。ユーザーがマウスボタンを押し下げ、そのままの状態でマウスポインタを CheckBox (またはそのラベル)の領域外に移動すると、その CheckBox は入力フォーカスを保持したまま、最初の状態に戻ります。ユーザーが CheckBox 上でマウスボタンを離さない限り、CheckBox の状態は変化しません。さらに、CheckBox には、選択状態と非選択状態の 2 種類の無効状態があります。それぞれの状態を表すには selectedDisabledSkin および disabledSkin が使用されます。無効状態の CheckBox はマウスやキーボードで選択できません。

無効状態の CheckBox は、ユーザーの操作に関係なく無効状態の外観で表示されます。無効状態のときは、マウスおよびキーボードからの入力を受け付けません。

CheckBox インスタンスは、ユーザーがクリックするか Tab キーでナビゲートしてくると、フォーカスを取得します。フォーカスを取得している CheckBox コンポーネントのインスタンスでは、次のキーを使用した操作が可能です。

+-	説明
Shift+Tab	フォーカスを前のエレメントに移動します。
スペースバー	コンポーネントを選択または選択解除して、change イベントをトリガ します。
Tab	フォーカスを次のエレメントに移動します。

フォーカスの制御の詳細については、51 ページの「FocusManager の操作」と、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FocusManager クラスを参照してください。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ]パネルで各 CheckBox インスタンスのパラメータに加えた変更が反映されます。

CheckBox コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次の ActionScript コード行を追加することで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.CheckBoxAccImpl;

CheckBoxAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、そのコンポーネントのインスタンスをいくつ使用するかに関係なく、一度だけ実行します。

CheckBox のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで CheckBox コンポーネントの各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、label、label Placement、および selected です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の CheckBox クラスを参照してください。

CheckBox を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に CheckBox コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。ここでは、ローン計算アプリケーションのフォームから抜粋したものを使用しています。このフォームには、ユーザーに持ち家があるかどうかを問う質問があり、"はい"と回答するための CheckBox が用意されています。はいと回答があった場合は、その家に関連する値を指定するための 2つのラジオボタンを表示します。

CheckBox コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. CheckBox コンポーネントを 「コンポーネント 1 パネルからステージまでドラッグします。
- 3. プロパティインスペクタ内で次のように設定します。
 - インスタンス名として「homeCh」と入力します。
 - 幅(W)の値として「140」と入力します。
 - label パラメータに「**持ち家がある**」と入力します。
- **4.** 2 つの RadioButton コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、 CheckBox の右側の下に配置します。プロパティインスペクタで、各コンポーネントについて以下の値を入力します。
 - それぞれのインスタンス名として「underRb」および「overRb」と入力します。
 - 両方の RadioButton の W (幅) パラメータとして「120」と入力します。
 - underRb の label パラメータに「\$500,000 未満」と入力します。
 - overRb の label パラメータに「\$500,000 以上」と入力します。
 - 両方の RadioButton の groupName パラメータとして「valueGrp」と入力します。
- 5. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
homeCh.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
underRb.enabled = false;
overRb.enabled = false;

function clickHandler(event:MouseEvent):void {
   underRb.enabled = event.target.selected;
   overRb.enabled = event.target.selected;
}
```

このコードでは、CLICK イベントのイベントハンドラを作成しています。このイベントハンドラは、homeCh CheckBox が選択された場合に underRb と overRb の RadioButton を有効にし、homeCh が選択されていない場合には、それらを無効にします。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の MouseEvent クラスを参照してください。

6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

次の例は、前のアプリケーションを複製したものですが、ここでは ActionScript を使用して CheckBox と複数の RadioButton を作成します。

ActionScript を使用して CheckBox を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. CheckBox コンポーネントと RadioButton コンポーネントを[コンポーネント]パネルから現在のドキュメントの[ライブラリ]パネルにドラッグします。[ライブラリ]パネルが表示されていない場合は、Ctrl+Lキーを押すか、[ウィンドウ]-[ライブラリ]を選択して、[ライブラリ]パネルを表示します。

これにより、コンポーネントがアプリケーションで利用できるようになりますが、ステージ上に は表示されません。

3. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力してコンポーネントインスタンスを作成し、配置します。

```
import fl.controls.CheckBox;
import fl.controls.RadioButton;
var homeCh:CheckBox = new CheckBox();
var underRb:RadioButton = new RadioButton():
var overRb:RadioButton = new RadioButton();
addChild(homeCh);
addChild(underRb):
addChild(overRb);
underRb.groupName = "valueGrp";
overRb.groupName = "valueGrp":
homeCh.move(200, 100);
homeCh.width = 120;
homeCh.label = "Own your home?";
underRb.move(220, 130);
underRb.enabled = false;
underRb.width = 120;
underRb.label = "Under $500,000?";
overRb.move(220, 150);
overRb.enabled = false:
overRb.width = 120;
overRb.label = "Over $500,000?";
```

このコードでは、CheckBox() および RadioButton() のコンストラクタを使用してそれらのコンポーネントを作成し、addChild() メソッドを使用してステージに配置しています。ステージ上のコンポーネントを移動するには、move() メソッドを使用します。

4. ここで、次の ActionScript を追加して、イベントリスナーとイベントハンドラ関数を作成します。

```
homeCh.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
```

```
function clickHandler(event:MouseEvent):void {
  underRb.enabled = event.target.selected;
  overRb.enabled = event.target.selected;
}
```

このコードでは、CLICK イベントのイベントハンドラを作成しています。このイベントハンドラは、homeCh CheckBox が選択された場合に underRb RadioButton と overRb RadioButton を有効にし、homeCh が選択されていない場合には、それらを無効にします。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の MouseEvent クラスを参照してください。

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ColorPicker の使用

ColorPicker コンポーネントを使用すると、ユーザーが色見本リストからカラーを選択できます。 ColorPicker のデフォルトモードでは、四角形のボタンに単一のカラーが表示されます。ユーザーが ボタンをクリックすると、現在選択されているカラーの 16 進数値を示すテキストフィールドと共に、 利用できるカラーの一覧が [色見本] パネルに表示されます。

ColoPicker に表示するカラーは、カラー値を ColoPicker の colors プロパティに設定することで指定できます。

ColorPicker のユーザー操作

ColorPicker を使用すると、ユーザーがカラーを選択して、アプリケーション内の別のオブジェクトに適用できます。たとえば、ユーザーが背景色やテキストの色などのアプリケーションのエレメントをパーソナライズできるようにする場合は、ColorPicker を組み込むと、ユーザーが選択したカラーを適用できます。

ユーザーがカラーを選択するには、パネルでそのカラーの色見本をクリックするか、テキストフィールドにそのカラーの16進数値を入力します。ユーザーがいずれかのカラーを選択すると、ColorPickerの selectedColor プロパティを使用して、アプリケーション内のテキストなどのオブジェクトにそのカラーを適用できます。

ColorPicker インスタンスは、ユーザーがポインタをその上に移動するか Tab キーで移動してくると、フォーカスを取得します。ColorPicker の [色見本]パネルが表示されているときは、次のキーを使用した操作が可能です。

+ -	
ホーム	[色見本] パネルで先頭のカラーを選択します。
↑(上矢印)	[色見本] パネルで 1 行上のアイテムを選択します。
↓ (下矢印)	[色見本] パネルで 1 行下のアイテムを選択します。
→(右矢印)	[色見本] パネルで1つ右のカラーを選択します。

+-	説明
← (左矢印)	[色見本] パネルで1つ左のカラーを選択します。
End	[色見本] パネルで最後のカラーを選択します。

ColorPicker のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで ColorPicker の各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、selectedColor および showTextField です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の ColorPicker クラスを参照してください。

ColorPicker を使用したアプリケーションの作成

次の例では、オーサリング時に、アプリケーションに ColorPicker コンポーネントを追加します。この例では、ColorPicker でカラーを変更するたびに、changeHandler() 関数が drawBox() 関数を呼び出し、ColorPicker で選択されたカラーの新しいボックスを描画します。

ColorPicker コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- ColorPicker を [コンポーネント] パネルからステージの中央までドラッグし、インスタンス名を aCp にします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.events.ColorPickerEvent;
var aBox:MovieClip = new MovieClip();
drawBox(aBox, OxFF0000);//draw a red box
addChild(aBox);
aCp.addEventListener(ColorPickerEvent.CHANGE,changeHandler);
function changeHandler(event:ColorPickerEvent):void {
    drawBox(aBox, event.target.selectedColor);
}

function drawBox(box:MovieClip,color:uint):void {
    box.graphics.beginFill(color, 1);
    box.graphics.drawRect(100, 150, 100, 100);
    box.graphics.endFill();
}
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

5. ColorPicker をクリックし、ボックスに塗るカラーを選択します。

次の例では、ColorPicker() コンストラクタおよび addChild() を使用して、ステージ上に ColorPicker を作成します。ColorPicker で表示するカラーを指定するために、colors プロパティを、赤色 (OxFF0000)、緑色 (Ox00FF00)、および青色 (Ox0000FF) のカラー値に設定しています。さらに TextArea を作成して、ColorPicker で別のカラーを選択するたびに、その TextArea 内のテキストが同じ色になるように変更します。

ActionScript を使用して ColorPicker を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** ColorPicker コンポーネントを [コンポーネント] パネルから [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- 3. TextArea コンポーネントを[コンポーネント]パネルから[ライブラリ]パネルにドラッグします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.ColorPicker;
import fl.controls.TextArea;
import fl.events.ColorPickerEvent;
var aCp:ColorPicker = new ColorPicker();
var aTa:TextArea = new TextArea();
var aTf:TextFormat = new TextFormat():
aCp.move(100, 100);
aCp.addEventListener(ColorPickerEvent.CHANGE. changeHandler):
aTa.text = "Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit. Vivamus
  quis nisl vel tortor nonummy vulputate. Quisque sit amet eros sed purus
  euismod tempor. Morbi tempor. Class aptent taciti sociosqu ad litora
  torquent per conubia nostra, per inceptos hymenaeos. Curabitur diam.
  Suspendisse at purus in ipsum volutpat viverra. Nulla pellentesque libero
  id libero.";
aTa.setSize(200, 200);
aTa.move(200,100);
addChild(aCp):
addChild(aTa);
function changeHandler(event:ColorPickerEvent):void {
  if(TextFormat(aTa.getStyle("textFormat"))){
     aTf = TextFormat(aTa.getStyle("textFormat"));
  aTf.color = event.target.selectedColor;
  aTa.setStyle("textFormat", aTf);
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ComboBox の使用

ComboBox コンポーネントを使用すると、ユーザーがドロップダウンリストから 1つのアイテムを選択できます。ComboBox には、静的なコンポボックスと編集可能なコンポボックスがあります。編集可能な ComboBox では、リストの一番上にあるテキストフィールドにユーザーがテキストを直接入力できます。ドロップダウンリストがドキュメントの下端にぶつかる場合は、リストが下ではなく上に伸びます。ComboBox は、3つのサブコンポーネントから構成されます。つまり、BaseButton、TextInput、および List の各コンポーネントです。

編集可能な ComboBox の場合は、ボタンの部分だけがヒット領域になり、テキストボックスはヒット領域に含まれません。静的な ComboBox の場合は、ボタンとテキストボックスの両方がヒット領域になります。ヒット領域をクリックすると、ドロップダウンリストの開閉を切り替えることができます。

ユーザーがマウスまたはキーボードのいずれかを使用してリストからアイテムを選択すると、選択したアイテムのラベルが ComboBox の上部にあるテキストフィールドにコピーされます。

ComboBox のユーザー操作

ComboBox コンポーネントは、フォームやアプリケーション内でユーザーにリストから1つのアイテムを選択させたい場合に使用できます。たとえば、顧客の住所を入力するフォームで州名をドロップダウンリストから選択できるようにする用途などが考えられます。もっと複雑なシナリオでは、編集可能な ComboBox を使用することもできます。たとえば、道順を案内するアプリケーションで、出発地と目的地の住所を入力する欄に編集可能な ComboBox を使用し、以前に入力した住所をドロップダウンリストから選択できる機能を作成できます。

ComboBox が編集可能、つまり editable プロパティが true の場合は、次のキーを使用するとテキスト入力ボックスからフォーカスが離れ、前の値がそのまま残ります。ユーザーが入力したテキストを、Enter キーで新しい値として最初に適用する場合は例外です。

+-	 説明
Shift + Tab	フォーカスを前のアイテムに移動します。新しいアイテムが選択される と、change イベントが送り出されます。
Tab	フォーカスを次のアイテムに移動します。新しいアイテムが選択される と、change イベントが送り出されます。
↓ (下矢印)	1つ下のアイテムを選択します。
End	リストの一番下のアイテムを選択します。
Esc	ドロップダウンリストを閉じて、フォーカスを ComboBox に戻します。

+-	説明
Enter	ドロップダウンリストを閉じて、フォーカスを ComboBox に戻します。 編集可能な ComboBox にユーザーがテキストを入力した場合は、入力 されたテキストが値として設定されます。
ホーム	リストの一番上のアイテムを選択します。
PageUp	1ページ上のアイテムを選択します。
PageDown	1ページ下のアイテムを選択します。

ComboBox コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次の ActionScript コード行を追加することで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.ComboBoxAccImpl;

ComboBoxAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、そのコンポーネントのインスタンスをいくつ使用するかに関係なく、一度だけ実行します。

ComboBox のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで ComboBox の各インスタンスに設定できるパラメータは、dataProvider、editable、prompt、および rowCount です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の ComboBox クラスを参照してください。dataProvider パラメータの使用については、55 ページの「dataProvider パラメータの使用」を参照してください。

ComboBox を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に ComboBox コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では ComboBox が編集可能であり、テキストフィールドに「Add」と入力すると、ドロップダウンリストにアイテムが追加されます。

ComboBox コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** ComboBox をステージにドラッグし、インスタンス名を **aCb** にします。[パラメータ] タブで、 editable パラメータを true に設定します。

3. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力します。

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

次の例では、ActionScript を使用して ComboBox を作成し、サンフランシスコおよびカリフォルニアの地域にある大学のリストを設定します。ComboBox の width プロパティはプロンプトに表示するテキストの幅に合わせて設定され、dropdownWidth プロパティは最も長い大学の名前よりも若干広く設定されます。

この例では、Array インスタンス内に大学のリストを作成します。 label プロパティを使用して学校の名前を格納し、data プロパティを使用して各学校の Web サイトの URL を格納しています。この Array は、dataProvider プロパティを設定することで ComboBox に割り当てられます。

ユーザーがリストから大学を選択すると、**Event**.CHANGE イベントおよび changeHandler() 関数の呼び出しがトリガされ、学校の **Web** サイトにアクセスするために data プロパティが **URL** 要求にロードされます。

最後の行では、リストを閉じたときにプロンプトを再表示するために、ComboBox インスタンスの selectedIndex プロパティを -1 に設定しています。この設定がないと、プロンプトは選択された学校の名前に置き換えられます。

ActionScript を使用して ComboBox を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- ComboBox コンポーネントを[コンポーネント]パネルから[ライブラリ]パネルにドラッグします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.ComboBox;
import fl.data.DataProvider;
import flash.net.navigateToURL;
var sfUniversities:Array = new Array(
        {label: "University of California, Berkeley",
           data: "http://www.berkeley.edu/"},
        {label: "University of San Francisco",
           data:"http://www.usfca.edu/"},
        {label: "San Francisco State University",
           data: "http://www.sfsu.edu/"},
        {label: "California State University, East Bay",
           data: "http://www.csuhayward.edu/"},
        {| label: "Stanford University", data: "http://www.stanford.edu/"}, 
{| label: "University of Santa Clara", data: "http://www.scu.edu/"}, 
{| label: "San Jose State University", data: "http://www.sjsu.edu/"}
);
var aCb:ComboBox = new ComboBox();
aCb.dropdownWidth = 210:
aCb.width = 200;
aCb.move(150, 50);
aCb.prompt = "San Francisco Area Universities";
aCb.dataProvider = new DataProvider(sfUniversities);
aCb.addEventListener(Event.CHANGE, changeHandler);
addChild(aCb);
function changeHandler(event:Event):void {
        var request:URLRequest = new URLRequest();
        request.url = ComboBox(event.target).selectedItem.data;
        navigateToURL(request):
        aCb.selectedIndex = -1;
```

4. 「制御]-「ムービープレビュー]を選択します。

この例は Flash オーサリング環境に実装して実行できますが、ComboBox でアイテムをクリックして大学の Web サイトにアクセスしようとすると、警告メッセージが表示されます。インターネットから ComboBox の機能に完全にアクセスするには、次の URL を参照してください。

http://www.helpexamples.com/peter/bayAreaColleges/bayAreaColleges.html

DataGrid の使用

DataGrid コンポーネントを使用すると、配列またはデータプロバイダの配列に解析できる外部 XMLファイルのデータを描画する際に、グリッドの行と列内にデータを表示できます。DataGrid コンポーネントには、垂直および水平のスクロール、イベントサポート (編集可能なセルのサポートを含む)、および並べ替えの機能が備わっています。

グリッド内の列のサイズを変更したり、フォントや色、境界線などの特性をカスタマイズしたりすることができます。グリッド内の列に対して、カスタムムービークリップをセルレンダラーとして使うことができます。セルレンダラーはセルの内容を表示します。スクロールバーを無効にして DataGrid メソッドを使用すると、ページビュースタイルの表示を作成できます。カスタマイズの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の DataGridColumn クラスを参照してください。

DataGrid のユーザー操作

DataGrid コンポーネントは、マウスとキーボードを使って操作することができます。

sortableColumns プロパティと列の sortable プロパティの両方が true の場合は、列ヘッダをクリックすると、その列の値に従ってデータが並べ替えられます。各列の sortable プロパティを false に設定すると、列ごとに並べ替えを無効にできます。

resizableColumns プロパティが true の場合は、ヘッダ行で列の分割線をドラッグすると、列のサイズを変更できます。

編集可能なセル内をクリックすると、そのセルにフォーカスが移動します。編集不可能なセル内をクリックしても、フォーカスには影響しません。それぞれのセルは、そのセルの DataGrid.editable プロパティと DataGridColumn.editable プロパティの両方が true である場合に編集可能になります。

詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の DataGrid クラスと DataGridColumn クラスを参照してください。

クリックするか Tab キーで移動することによって DataGrid インスタンスにフォーカスが移動した場合は、次のキーを使って操作することができます。

キー	説明
↓ (下矢印)	セルの編集中は、挿入ポインタがセルのテキストの最後に移動します。 セルが編集不可能な場合は、List コンポーネントと同様の方法で選択操 作が処理されます。
↑ (上矢印)	セルの編集中は、挿入ポインタがセルのテキストの先頭に移動します。 セルが編集不可能な場合は、List コンポーネントと同様の方法で選択操 作が処理されます。

+-	説明
Shift+ ↑ / Shift+ ↓	DataGrid が編集不可能で、allowMultipleSelection が true の場合は、連続した複数の行が選択されます。逆向きの矢印キーで反対方向に移動すると、元の方向に複数行の選択を開始した行を過ぎるまで、選択されていた行が選択解除されます。
Shift キーを押しながら クリック	allowMultipleSelection が true の場合は、選択された行と現在のキャレット位置 (ハイライトされているセル) の間にある行がすべて選択されます。
Ctrl キーを押しながらク リック	allowMultipleSelectionがtrueの場合は、連続する必要のない複数の 行を選択行に追加できます。
→(右矢印)	セルが編集中の場合は、挿入ポインタが1文字右に移動します。セルが編集不可能な場合は何も起こりません。
←(左矢印)	セルが編集中の場合は、挿入ポインタが1文字左に移動します。セルが編集不可能な場合は何も起こりません。
ホーム	DataGrid の先頭の行が選択されます。
End	DataGrid の最後の行が選択されます。
PageUp	DataGrid のページ内の先頭の行が選択されます。ページは、DataGrid がスクロールせずに表示できる行数で構成されます。
PageDown	DataGrid のページ内の最後の行が選択されます。ページは、DataGrid がスクロールせずに表示できる行数で構成されます。
Return/Enter/ Shift+Enter	セルが編集可能な場合は、変更内容が確定され、挿入ポインタが次の行の同じ列のセルに移動します。次の行が上か下かは Shift キーの状態によって決まります。
Shift+Tab/Tab	DataGrid が編集可能な場合は、列の終端に達するまで、前のアイテム(次のアイテム)にフォーカスが移動します。列の終端に到達すると、先頭のセル(最後のセル)に達するまで、前の行(次の行)にフォーカスが移動します。先頭のセルが選択されている場合は、Shift+Tab キーを押すと、前のコントロールにフォーカスが移動します。最後のセルが選択されている場合は、Tab キーを押すと、次のコントロールにフォーカスが移動します。DataGrid が編集不可能な場合は、前のコントロール(次のコントロール)にフォーカスが移動します。

DataGrid コンポーネントは、データを中心とするさまざまな種類のアプリケーションの基盤として使うことができます。データを書式設定し、表形式で表示することが簡単にできます。また、セルレンダラー機能を使用して、さらに洗練された編集可能なユーザーインターフェイス要素を作成することもできます。次に、DataGrid コンポーネントの使用例を示します。

- Webメールクライアント
- 検索結果ページ
- ローン計算や税金申告書などのスプレッドシートアプリケーション

DataGrid クラスは SelectableList クラスを拡張したものなので、DataGrid コンポーネントを使用してアプリケーションをデザインするときは、List コンポーネントのデザインを理解することが大切です。 SelectableList クラスおよび List コンポーネントの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の SelectableList クラスと List クラスを参照してください。

DataGrid コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次の ActionScript コード行を追加することで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.DataGridAccImpl;

DataGridAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、そのコンポーネントがインスタンスをいくつ持つかに関係なく、一度だけ実行します。詳細については、『Flash ユーザーガイド』の第18章「アクセシビリティコンテンツの作成」を参照してください。

DataGrid のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで DataGrid コンポーネントの 各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、allowMultipleSelection、editable、headerHeight、horizontalLineScrollSize、horizontalPageScrollSize、horizontalScrollIPolicy、resizableColumns、rowHeight、showHeaders、verticalLineScrollSize、verticalPageScrollSize、および verticalScrollPolicy です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の DataGrid クラスを参照してください。

DataGrid を使用したアプリケーションの作成

DataGrid コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには、まずデータをどこから取り出すかを決める必要があります。通常は、dataProvider プロパティを設定することでグリッドに読み込むことができる Array からデータを取り出します。また、DataGrid クラスと DataGridColumnクラスのメソッドを使用して、データをグリッドに追加することもできます。

次の例では、DataGrid を作成して、ソフトボールチームの名簿を表示します。この例では、名簿をArray (aRoster) に定義し、DataGrid の dataProvider プロパティに割り当てています。

DataGrid コンポーネントでローカルデータプロバイダを使用するには:

- 1. Flash で、[ファイル]-[新規]を選択し、[Flash ファイル(ActionScript 3.0)]を選択します。
- 2. DataGrid コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 3. プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aDg」と入力します。

4. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.data.DataProvider:
bldRosterGrid(aDg):
var aRoster:Array = new Array();
aRoster = [
     {Name: "Wilma Carter", Bats: "R", Throws: "R", Year: "So", Home: "Redlands,
  CA" } .
     {Name: "Sue Pennypacker", Bats: "L", Throws: "R", Year: "Fr", Home: "Athens,
  GA" },
     {Name: "Jill Smithfield", Bats: "R", Throws: "L", Year: "Sr", Home:
  "Spokane, WA"},
     {Name: "Shirley Goth", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Sr", Home: "Carson,
  NV"}.
     {Name: "Jennifer Dunbar", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Fr", Home:
  "Seaside, CA"},
     {Name: "Patty Crawford", Bats: "L", Throws: "L", Year: "Jr", Home:
  "Whittier, CA"},
     {Name: "Angelina Davis", Bats: "R", Throws: "R", Year: "So", Home: "Odessa,
     {Name: "Maria Santiago", Bats: "L", Throws: "L", Year: "Sr", Home: "Tacoma,
  WA"},
     {Name: "Debbie Ferguson", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Jr", Home: "Bend,
  OR"},
     {Name: "Karen Bronson", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Sr", Home:
  "Billings, MO"},
     {Name: "Sylvia Munson", Bats: "R", Throws: "R", Year: "Jr", Home:
  "Pasadena, CA"},
     {Name: "Carla Gomez", Bats: "R", Throws: "L", Year: "Sr", Home: "Corona,
     {Name: "Betty Kay". Bats: "R". Throws: "R". Year: "Fr". Home:
  "Palo Alto, CA"},
aDg.dataProvider = new DataProvider(aRoster);
aDg.rowCount = aDg.length;
function bldRosterGrid(dg:DataGrid){
  dg.setSize(400, 300);
  dg.columns = ["Name", "Bats", "Throws", "Year", "Home"];
  dg.columns[0].width = 120;
  dg.columns[1].width = 50;
  dg.columns[2].width = 50;
  dq.columns[3].width = 40:
  dg.columns[4].width = 120;
  dg.move(50.50):
bldRosterGrid() 関数では、DataGrid のサイズと共に、列の順序とサイズを設定しています。
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

いずれかの列へッダをクリックすると、その列の値に従って DataGrid の内容を降順に並べ替えることができます。

次の例では、addColumn()メソッドを使用して DataGridColumn インスタンスを DataGrid に追加します。各列は、選手の名前と得点を表しています。また、各列の並べ替えオプションを指定するために、sortOptions プロパティも設定します。この例では、Name 列に Array.CASEINSENSITIVE、Score 列に Array.NUMERIC を設定します。長さを行数に、幅を 200 に設定することで、DataGridのサイズが適切に設定されます。

アプリケーションで列を指定して DataGrid コンポーネントの並べ替えを追加するには:

- 1. Flash で、[ファイル]-[新規]を選択し、[Flash ファイル (ActionScript 3.0)]を選択します。
- 2. DataGrid コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 3. プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aDg」と入力します。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.dataGridClasses.DataGridColumn;
import fl.events.DataGridEvent;
import fl.data.DataProvider;
// Create columns to enable sorting of data.
var nameDGC:DataGridColumn = new DataGridColumn("name");
nameDGC.sortOptions = Array.CASEINSENSITIVE;
var scoreDGC:DataGridColumn = new DataGridColumn("score");
scoreDGC.sortOptions = Array.NUMERIC;
aDg.addColumn(nameDGC);
aDg.addColumn(scoreDGC);
var aDP_array:Array = new Array({name:"clark", score:3135}, {name:"Bruce", score:403}, {name:"Peter", score:25})
aDg.dataProvider = new DataProvider(aDP_array);
aDg.rowCount = aDg.length;
aDg.width = 200;
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

次の例では、ActionScript を使用して DataGrid を作成し、選手の名前と得点の Array を設定します。

ActionScript を使用して DataGrid コンポーネントインスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. DataGrid コンポーネントを [コンポーネント] パネルから現在のドキュメントの [ライブラリ] ペインにドラッグします。
 - これにより、アプリケーションには表示されませんが、コンポーネントはライブラリに間違いな く追加されます。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

import fl.controls.DataGrid:

```
import fl.data.DataProvider;
var aDg:DataGrid = new DataGrid();
addChild(aDg);
aDg.columns = [ "Name", "Score" ];
aDg.setSize(140, 100);
aDg.move(10, 40);
このコードでは、DataGrid インスタンスを作成し、グリッドのサイズと配置を設定しています。
```

4. 配列を作成し、データを配列に追加して、配列を DataGrid のデータプロバイダとして指定します。

```
var aDP_array:Array = new Array();
aDP_array.push({Name:"Clark", Score:3135});
aDP_array.push({Name:"Bruce", Score:403});
aDP_array.push({Name:"Peter", Score:25});
aDg.dataProvider = new DataProvider(aDP_array);
aDg.rowCount = aDg.length;
```

5. 「制御]-「ムービープレビュー]を選択します。

次の例では、DataGridColumn クラスを使用して、DataGrid の列を作成します。XML オブジェクトを データプロバイダ () コンストラクタの value パラメータとして渡し、DataGrid に格納しています。

DataGrid に XML ファイルを格納してロードするには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** [コンポーネント]パネルで DataGrid コンポーネントをダブルクリックしてステージに追加します。
- 3. プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aDg」と入力します。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

aDg.dataProvider = myDP; aDg.rowCount = aDg.length;

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

Label の使用

Label コンポーネントは、単一行のテキストを表示し、通常は、Webページ上の他のエレメントやアクティビティを識別するために使用します。ラベルを HTML でフォーマットするように設定すると、そのテキストでフォーマットタグを利用できます。また、ラベルの行揃えやサイズも制御できます。Label コンポーネントには境界線がなく、フォーカスを受け取らず、イベントもブロードキャストしません。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ]パネルで各 Label インスタンスのパラメータに加えた変更が反映されます。Label には境界線がないので、text パラメータを設定しなければライブプレビューを確認できません。

Label のユーザー操作

Label コンポーネントは、フォーム内の別のコンポーネントにテキストラベルを付けたい場合に使用します (たとえば、ユーザーの名前を受け付ける TextInput フィールドの左側に "名前:"というラベルを作成するなど)。プレーンテキストフィールドではなく Label コンポーネントを使用することをお勧めします。そうすれば、スタイルを使用して一貫性のある外観と操作性を保つことができます。Label コンポーネントを回転させる場合は、フォントを埋め込む必要があります。そうしないと、ムービープレビュー時にテキストが表示されません。

Label のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで Label コンポーネントの各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、autoSize、condenseWhite、selectable、text、および wordWrap です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の Label クラスを参照してください。

Label を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に Label コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、単に " 有効期限 " というテキストをラベルで表示します。

Label コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を設定します。
 - インスタンス名として「aLabel」と入力します。
 - Wの値として「80」と入力します。
 - Xの値として「100」と入力します。
 - Yの値として「100」と入力します。
 - text パラメータとして「**有効期限**」と入力します。
- 3. TextArea コンポーネントをステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を設定します。
 - インスタンス名として「aTa」と入力します。
 - Hの値として「22」と入力します。
 - Xの値として「200」と入力します。
 - Yの値として「100」と入力します。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
var today:Date = new Date();
var expDate:Date = addDays(today, 14);
aTa.text = expDate.toDateString();

function addDays(date:Date, days:Number):Date {
    return addHours(date, days*24);
}

function addHours(date:Date, hrs:Number):Date {
    return addMinutes(date, hrs*60);
}

function addMinutes(date:Date, mins:Number):Date {
    return addSeconds(date:Date, secs:Number):Date {
    var mSecs:Number = secs * 1000;
    var sum:Number = mSecs + date.getTime();
    return new Date(sum);
}
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

次の例では、ActionScript を使用して Label パラメータを作成します。Label を使用して ColorPicker コンポーネントの機能を識別し、html Text プロパティを使用して Label のテキストに 書式を適用しています。

ActionScript を使用して Label コンポーネントインスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** Label コンポーネントを[コンポーネント]パネルから現在のドキュメントの[ライブラリ]パネルにドラッグします。
- **3.** ColorPicker コンポーネントを[コンポーネント]パネルから現在のドキュメントの[ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.Label;
import fl.controls.ColorPicker;

var aLabel:Label = new Label();
var aCp:ColorPicker = new ColorPicker();

addChild(aLabel);
addChild(aCp);

aLabel.htmlText = '<font face="Arial" color="#FF0000" size="14">Fill:</font>';
aLabel.x = 200;
aLabel.y = 150;
aLabel.width = 25;
aLabel.width = 25;
aLabel.height = 22;
aCp.x = 230;
aCp.y = 150;
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

List の使用

List コンポーネントは、スクロール可能な単一選択または複数選択のリストボックスです。リストにはグラフィックや他のコンポーネントを表示することもできます。リスト内に表示するアイテムを追加するには、label または data パラメータフィールドをクリックすると表示される [値]ダイアログボックスを使用します。また、List.addItem()メソッドや List.addItemAt()メソッドを使用してリストにアイテムを追加することもできます。

List コンポーネントでは、0 から始まるインデックスを使用します。つまり、リストの先頭アイテムはインデックス0 で表されます。List クラスのメソッドとプロパティを使用してリストアイテムを追加、削除、または置換するときには、リストアイテムのインデックスを指定する必要がある場合があります。

List のユーザー操作

リストは、ユーザーが単一アイテムのみ選択できるようにも、また複数アイテムを選択できるようにも設定できます。たとえば、ユーザーが電子商取引 Web サイトで購入したい商品を選択するとします。この場合、多数の商品が掲載されているリストをスクロールし、リスト内のアイテムをクリックすることで選択できます。

また、より詳しい情報をユーザーに提供するために、独自のムービークリップを行として使用する List を作成することもできます。たとえば、電子メールアプリケーションのメールボックスを List コンポーネントで表示する場合、重要度や状態を示すアイコンを各行に含めることができます。

List をクリックしたり、Tab キーを押したことにより List にフォーカスが移ると、次のキーを使用して List を制御できます。

+-	説明
英数字キー	ラベルの先頭文字が Key.getAscii() と一致する次のアイテムにジャンプします。
Ctrl	連続しない複数のアイテムを選択および選択解除するときに使用するト グルキーです。
↓ (下矢印)	1つ下のアイテムを選択します。
ホーム	リストの一番上にあるアイテムを選択します。
PageDown	1ページ下のアイテムを選択します。
PageUp	1ページ上のアイテムを選択します。
Shift	連続する複数のアイテムを選択するときに使用します。
↑(上矢印)	1つ上のアイテムを選択します。

H X PageUp キーと PageDown キーでは、一度に表示できるアイテム数から1を引いた数をページのサイズとして使用します。たとえば10行のドロップダウンリストで PageDown キーを押すと、 $0 \sim 9$ 、 $9 \sim 18$ 、 $18 \sim 27$ 番目のアイテムが順に表示されます。必ず1つのアイテムが前後のページと重複することになります。また、スクロールするサイズはピクセル単位であり、行単位ではありません。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の IFocusManager インターフェイスおよび FocusManager クラスと、51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルでパラメータに加えた変更が、ステージ上の各 List インスタンスに反映されます。

List コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次の ActionScript コード行を追加することで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.ListAccImpl;

ListAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、そのコンポーネントがインスタンスをいくつ持つかに関係なく、一度だけ実行します。詳細については、『Flash ユーザーガイド』の第18章「アクセシビリティコンテンツの作成」を参照してください。

List のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで List コンポーネントの各インスタンスに設定できるパラメータは、allowMultipleSelection、dataProvider、horizontalLineScrollSize、horizontalSize、horizontalScrollPolicy、multipleSelection、verticalLineScrollSize、verticalPageScrollSize、および verticalScrollPolicy です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の List クラスを参照してください。dataProvider パラメータの使用については、55 ページの「dataProvider パラメータの使用。

List を使用したアプリケーションの作成

次の例は、オーサリング時に List コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、自動車の車種が記載されたラベルと価格が入力されたデータフィールドでリストを構成します。

単純な List コンポーネントをアプリケーションに追加するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. List コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 3. プロパティインスペクタ内で次のように設定します。
 - インスタンス名として「aList」と入力します。
 - 値として 200 を W (幅)に割り当てます。
- **4.** テキストツールを使用して、aList の下にテキストフィールドを作成し、インスタンス名を aTf にします。
- 5. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.List;
import flash.text.TextField;
aTf.type = TextFieldType.DYNAMIC;
aTf.border = false;
```

```
// Create these items in the Property inspector when data and label // parameters are available. aList.addItem({label:"1956 Chevy (Cherry Red)", data:35000}); aList.addItem({label:"1966 Mustang (Classic)", data:27000}); aList.addItem({label:"1976 Volvo (Xcllnt Cond)", data:17000}); aList.adlowMultipleSelection = true; aList.allowMultipleSelection = true; aList.addEventListener(Event.CHANGE, showData); function showData(event:Event) { aTf.text = "This car is priced at: $" + event.target.selectedItem.data; } COJINTO CONTROL CONT
```

6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択し、このアプリケーションをコンパイルして実行します。次の例でも、自動車の車種と価格の List を作成します。ここではデータプロバイダを使用して List を設定し、addItem() メソッドは使用しません。

データプロバイダを使用して List インスタンスを設定するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. List コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 3. プロパティインスペクタ内で次のように設定します。
 - インスタンス名として「aList」と入力します。
 - 値として 200 を W (幅)に割り当てます。
- 4. テキストツールを使用して、aList の下にテキストフィールドを作成し、インスタンス名を aTf にします。
- **5.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.List;
import fl.data.DataProvider;
import flash.text.TextField;

aTf.type = TextFieldType.DYNAMIC;
aTf.border = false;

var cars:Array = [
{label:"1956 Chevy (Cherry Red)", data:35000},
{label:"1966 Mustang (Classic)", data:27000},
{label:"1976 Volvo (Xcllnt Cond)", data:17000},
];
aList.dataProvider = new DataProvider(cars);
aList.allowMultipleSelection = true;
```

```
aList.addEventListener(Event.CHANGE, showData);
function showData(event:Event) {
   aTf.text = "This car is priced at: $" + event.target.selectedItem.data;
}
```

6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択して、List にアイテムが追加されたことを確認します。 次の例では、カラー名の List を作成します。いずれかのカラー名を選択すると、MovieClip にそのカラーが適用されます。

List コンポーネントを使用して MovieClip インスタンスを制御するには:

- 1. Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. List コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を設定します。
 - インスタンス名として「aList」と入力します。
 - Hの値として「60」と入力します。
 - Xの値として「100」と入力します。
 - Yの値として「150」と入力します。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
aList.addItem({label:"Blue", data:0x00000CC});
aList.addItem({label:"Green", data:0x00000C0});
aList.addItem({label:"Yellow", data:0xFFFF00});
aList.addItem({label:"Orange", data:0xFF6600});
aList.addItem({label:"Black", data:0x0000000});

var aBox:MovieClip = new MovieClip();
addChild(aBox);
aList.addEventListener(Event.CHANGE, changeHandler);
function changeHandler(event:Event) {
    drawBox(aBox, event.target.selectedItem.data);
};
function drawBox(box:MovieClip,color:uint):void {
        box.graphics.beginFill(color, 1.0);
        box.graphics.drawRect(225, 150, 100, 100);
        box.graphics.endFill();
}
```

- 4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。
- 5. List 内のカラーをクリックし、そのカラーが MovieClip に表示されることを確認します。

次の例では、ActionScript を使用して、単純なリストを作成します。このリストは、addItem()メソッドを使用して設定します。

ActionScript を使用して List コンポーネントインスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. List コンポーネントを「コンポーネント 1パネルから「ライブラリ 1パネルにドラッグします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.List;

var aList:List = new List();
aList.addItem({label:"One", data:1});
aList.addItem({label:"Two", data:2});
aList.addItem({label:"Three", data:3});
aList.addItem({label:"Four", data:4});
aList.addItem({label:"Five", data:5});
aList.setSize(60, 40);
aList.move(200,200);
addChild(aList);
aList.addEventListener(Event.CHANGE, changeHandler);
function changeHandler(event:Event):void {
    trace(event.target.selectedItem.data);
}
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

NumericStepper の使用

NumericStepper コンポーネントを使用すると、ユーザーは、数値を一定の幅で順に変化させて選択することができます。このコンポーネントは、小さな上下の矢印ボタンの隣に表示されるテキストボックス内の数値で構成されています。ユーザーがボタンを押すと、そのボタンを離すまで、または数値が最大値か最小値に到達するまで、stepSize パラメータで単位として指定した値ずつ数値が増減します。NumericStepper コンポーネントのテキストボックスに表示されるテキストは、編集することもできます。

各 NumericStepper インスタンスのライブプレビューでは、プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで指定した value パラメータの設定が反映されます。 ただし、ライブプレビューでは NumericStepper の矢印ボタンをマウスやキーボードで操作することはできません。

NumericStepper のユーザー操作

NumericStepper コンポーネントは、ユーザーに数値を選択させる場合に使用します。たとえば、 フォームでクレジットカードの有効期限の年月日を設定する場合などに NumericStepper コンポーネ ントを使用できます。ユーザーがフォントサイズを増減できるようにする場合にも、NumericStepper コンポーネントを使用できます。

NumericStepper コンポーネントは数値データのみを扱います。また、2 桁より大きな数値(たとえ ば 5246 や 1.34 など) を表示するには、オーサリング時にサイズを変更する必要があります。

NumericStepper は、アプリケーション内で有効または無効にすることができます。無効状態のとき は、マウスおよびキーボードからの入力を受け付けません。有効状態のときは、ユーザーがクリック するか Tab キーで移動してくると、フォーカスを取得します。このとき、内部フォーカスはテキスト ボックスに設定されます。フォーカスを取得している NumericStepper コンポーネントのインスタン スでは、次のキーを使用した操作が可能です。

+-	説明
↓ (下矢印)	値を1単位ずつ変化させます。
←(左矢印)	挿入ポインタをテキストボックス内で左に移動します。
→(右矢印)	挿入ポインタをテキストボックス内で右に移動します。
Shift+Tab	フォーカスを前のオブジェクトに移動します。
Tab	フォーカスを次のオブジェクトに移動します。
↑(上矢印)	値を1単位ずつ変化させます。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FocusManager クラスと 51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

NumericStepper のパラメータ

プロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ]パネルで NumericStepper コンポー ネントの各インスタンスに設定できるパラメータは、maximum、minimum、stepSize、および value です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパ ラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の NumericStepperクラスを参照してください。

NumericStepper を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に NumericStepper コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。次の例では、NumericStepper コンポーネントと Label コンポーネントをステージ上に配置し、NumericStepper インスタンスの Event. CHANGE イベントのリスナーを作成します。数値ステッパーの値が変化すると、新しい値を Label インスタンスの text プロパティに表示します。

NumericStepper コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. NumericStepper コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 2. プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aNs」と入力します。
- 3. Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- **4.** プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aLabel」と入力します。
- 5. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import flash.events.Event;
aLabel.text = "value = " + aNs.value;
aNs.addEventListener(Event.CHANGE, changeHandler);
function changeHandler(event:Event) :void {
  aLabel.text = "value = " + event.target.value;
};
```

この例では、ラベルの text プロパティを NumericStepper の値に設定します。

NumericStepper インスタンスの値が変更されるたびに、changeHandler() 関数によってラベルの text プロパティが更新されます。

6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

次の例では、ActionScript コードを使用して3つの NumericSteppers を作成します。この3つはそれぞれ、ユーザーの誕生日の年、月、日を入力するためのものです。また、各 NumericSteppers のプロンプトや識別子として使用する Label も追加します。

ActionScript を使用して NumericStepper を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** Label を [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- 3. NumericStepper コンポーネントを [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.Label;
import fl.controls.NumericStepper;
var dobPrompt:Label = new Label();
var moPrompt:Label = new Label();
```

```
var dayPrompt:Label = new Label();
var yrPrompt:Label = new Label();
var moNs:NumericStepper = new NumericStepper();
var dayNs:NumericStepper = new NumericStepper();
var yrNs:NumericStepper = new NumericStepper();
addChild(dobPrompt):
addChild(moPrompt);
addChild(dayPrompt);
addChild(yrPrompt);
addChild(moNs);
addChild(dayNs);
addChild(yrNs);
dobPrompt.setSize(65, 22);
dobPrompt.text = "Date of birth:"
dobPrompt.move(80, 150);
moNs.move(150. 150):
moNs.setSize(40, 22);
moNs.minimum = 1;
moNs.maximum = 12:
moNs.stepSize = 1;
moNs.value = 1;
moPrompt.setSize(25, 22);
moPrompt.text = "Mo.";
moPrompt.move(195, 150);
dayNs.move(225, 150);
dayNs.setSize(40, 22);
dayNs.minimum = 1;
dayNs.maximum = 31;
dayNs.stepSize = 1;
dayNs.value = 1;
dayPrompt.setSize(25, 22);
dayPrompt.text = "Day";
dayPrompt.move(270, 150);
yrNs.move(300, 150);
yrNs.setSize(55, 22);
yrNs.minimum = 1900;
yrNs.maximum = 2006;
yrNs.stepSize = 1;
yrNs.value = 1980;
yrPrompt.setSize(30, 22);
yrPrompt.text = "Year":
yrPrompt.move(360, 150);
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

ProgressBar の使用

ProgressBar コンポーネントは、コンテンツのロードの進行状況を表示します。これにより、コンテンツが大きくて、アプリケーションの実行までに時間がかかる場合でも、ユーザーを不安にさせずに済みます。ProgressBar は、イメージやアプリケーションのロードの進行状況を表示させるときに役立ちます。プログレスバーは有限または無限にすることができます。有限のプログレスバーは、処理の進行状況を時間経過に沿って直線的に表現するもので、ロードするコンテンツの量が事前にわかっているときに使用します。無限のプログレスバーは、ロードするコンテンツの量が不明なときに使用します。Label コンポーネントを追加して、ロードの進行状況をパーセンテージとして表示することもできます。

ProgressBar コンポーネントでは、9 スライスの拡大 / 縮小を使用しており、バーのスキン、トラックのスキン、および無限のバーのスキンが使用されます。

ProgressBar のユーザー操作

ProgressBar コンポーネントには、使用するモードが 3 種類あります。最もよく使用されるのは、event モードおよび polled モードです。これらのモードでは、ロードプロセスで progress イベントと complete イベントを発生させるのか (event モードおよび polled モード)、または bytesLoaded プロパティと bytesTotal プロパティを公開するのか (polled モード)を指定します。また、ProgressBar コンポーネントを manual モードで使用することもできます。その場合は、maximum、minimum、および value の各プロパティを設定して、ProgressBar.setProgress()メソッドを呼び出します。indeterminate プロパティを設定して、ProgressBar にサイズ不明のソースをストライプ 模様のバーで表示するのか (true)、またはサイズのわかっているソースを塗りつぶして表示するのか (false) を指定できます。

ProgressBar のモードは、mode プロパティを設定して指定します。このプロパティは、プロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ] パネルの mode パラメータを設定するか、ActionScript を使用して設定します。

100,000 個のアイテムを解析するような処理の状況を ProgressBar を使用して表示する場合、その処理が単一フレーム内でループするときは、画面が再描画されないため、ProgressBar には目に見える更新は表示されません。

ProgressBar のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで ProgressBar コンポーネントの各インスタンスに設定できるパラメータは、direction、mode、および source です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。

ActionScript を記述すれば、ProgressBar コンポーネントのプロパティ、メソッド、イベントを使用して、これらのオプションやその他のオプションを制御できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の ProgressBar クラスを参照してください。

ProgressBar を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に ProgressBar コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、ProgressBar で event モードを使用します。event モードでは、コンテンツのロードで progress イベントと complete イベントが発生します。このイベントを ProgressBar が送り出して進行状況を示します。progress イベントが発生すると、ラベルが更新されて、ロードされたコンテンツのパーセンテージが表示されます。complete イベントが発生すると、"ロード完了"というメッセージと、ファイルのサイズを示す bytesTotal プロパティの値が表示されます。

event モードの ProgressBar コンポーネントを使用したアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ProgressBar コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグします。
 - プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aPb」と入力します。
 - 「パラメータ]セクションで、Xの値として「200」と入力します。
 - Yの値として「260」と入力します。
 - mode パラメータで event を選択します。
- 3. Button コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
 - プロパティインスペクタで、インスタンス名として「loadButton」と入力します。
 - Xパラメータとして「220」と入力します。
 - Yパラメータとして「290」と入力します。
 - labelパラメータとして「**サウンドをロード**」と入力します。
- **4.** Label コンポーネントをステージにドラッグし、インスタンス名を progLabel にします。
 - Wの値として「150」と入力します。
 - Xパラメータとして「200」と入力します。
 - Yパラメータとして「230」と入力します。
 - 「パラメータ] セクションで、text パラメータの値をクリアします。
- **5.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のActionScript コードを入力します。このコードで、.mp3オーディオファイルがロードされます。

```
import fl.controls.ProgressBar;
import flash.events.ProgressEvent;
import flash.events.IOErrorEvent;
var aSound:Sound = new Sound();
aPb.source = aSound:
```

```
var url:String = "http://www.helpexamples.com/flash/sound/song1.mp3";
var request:URLRequest = new URLRequest(url);
aPb.addEventListener(ProgressEvent.PROGRESS, progressHandler);
aPb.addEventListener(Event.COMPLETE, completeHandler);
aSound.addEventListener(IOErrorEvent.IO_ERROR, ioErrorHandler);
loadButton.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
function progressHandler(event:ProgressEvent):void {
  progLabel.text = ("Sound loading ... " + aPb.percentComplete);
function completeHandler(event:Event):void {
  trace("Loading complete");
  trace("Size of file: " + aSound.bytesTotal);
  aSound.close():
  loadButton.enabled = false;
function clickHandler(event:MouseEvent) {
  aSound.load(request);
function ioErrorHandler(event:IOErrorEvent):void {
  trace("Load failed due to: " + event.text);
```

6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

次の例では、ProgressBar を polled モードに設定します。polled モードでは、ロードされているコンテンツで発生する progress イベントを待機し、コンテンツの bytesLoaded プロパティと bytesTotal プロパティを使用して計算することにより進行状況を確認します。この例では、Sound オブジェクトをロードします。そのオブジェクトの progress イベントを待機し、bytesLoaded プロパティと bytesTotal プロパティを使用してロードされたパーセンテージを計算します。ラベルと [出力] パネルの両方に、ロードされたパーセンテージが表示されます。

polled モードの ProgressBar コンポーネントを使用したアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ProgressBar コンポーネントを[コンポーネント]パネルからステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を入力します。
 - インスタンス名として「aPb」と入力します。
 - Xの値として「185」と入力します。
 - Yの値として「225」と入力します。
- 3. Label コンポーネントをステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を入力します。
 - インスタンス名として「progLabel」と入力します。
 - Xの値として「180」と入力します。
 - Yの値として「180」と入力します。
 - 「パラメータ]セクションで、text パラメータの値をクリアします。
- **4.** [アクション] パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム 1を選択し、次の Action Script コードを入力します。このコードで Sound オブジェクト (a Sound) を作成し、load Sound() を呼び出して Sound オブジェクトにサウンドをロードします。

```
import fl.controls.ProgressBarMode;
import flash.events.ProgressEvent;
import flash.media.Sound;

var aSound:Sound = new Sound();
var url:String = "http://www.helpexamples.com/flash/sound/song1.mp3";
var request:URLRequest = new URLRequest(url);

aPb.mode = ProgressBarMode.POLLED;
aPb.source = aSound;
aSound.addEventListener(ProgressEvent.PROGRESS, loadListener);
aSound.load(request);

function loadListener(event:ProgressEvent) {
   var percentLoaded:int = event.target.bytesLoaded / event.target.bytesTotal
   * 100;
   progLabel.text = "Percent loaded: " + percentLoaded + "%";
   trace("Percent loaded: " + percentLoaded + "%");
}
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

次の例では、ProgressBar を manual モードに設定します。manual モードでは、現在の値と最大の値を指定して setProgress() メソッドを呼び出し、どこまで進んだかを確認して、進行状況を手動で設定する必要があります。manual モードでは source プロパティを設定しません。この例では、NumericStepper コンポーネントを使用し、ProgressBar を最大値 250 までインクリメントできるようにしています。NumericStepper の値が変更されて CHANGE イベントがトリガされると、イベントハンドラ (nsChangeHander) で setProgress() メソッドが呼び出されて ProgressBar の表示を進めます。また、指定された最大値を基準として、進行が完了したパーセンテージも表示されます。

manual モードの ProgressBar コンポーネントを使用したアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ProgressBar コンポーネントを[コンポーネント]パネルからステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を設定します。
 - インスタンス名として「aPb」と入力します。
 - Xの値として「180」と入力します。
 - Yの値として「175」と入力します。
- **3.** NumericStepper コンポーネントをステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を入力します。
 - インスタンス名として「aNs」と入力します。
 - Xの値として「220」と入力します。
 - Yの値として「215」と入力します。
 - **■** [パラメータ] セクションで、maximum パラメータとして「**250**」、minimum の値として「**0**」、stepSize パラメータとして「**1**」、value パラメータとして「**0**」をそれぞれ入力します。
- 4. Label コンポーネントをステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を入力します。
 - インスタンス名として「progLabel」と入力します。
 - Wの値として「150」と入力します。
 - Xの値として「180」と入力します。
 - Yの値として「120」と入力します。
 - 「パラメータ」タブで、text パラメータの Label の値をクリアします。
- 5. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力します。

```
import fl.controls.ProgressBarDirection;
import fl.controls.ProgressBarMode;
import flash.events.Event;
aPb.direction = ProgressBarDirection.RIGHT;
aPb.mode = ProgressBarMode.MANUAL;
```

```
aPb.minimum = aNs.minimum;
aPb.maximum = aNs.maximum;
aPb.indeterminate = false;
aNs.addEventListener(Event.CHANGE, nsChangeHandler);
function nsChangeHandler(event:Event):void {
   aPb.value = aNs.value;
   aPb.setProgress(aPb.value, aPb.maximum);
   progLabel.text = "Percent of progress = " + int(aPb.percentComplete) + "%";
}
```

- 6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。
- 7. NumericStepper の上矢印ボタンをクリックし、ProgressBar の表示を進めます。

次の例では、ActionScript を使用して ProgressBar を作成しています。これは、manual モードで ProgressBar を作成することを除けば、前の例の機能を複製したものです。

ActionScript を使用して ProgressBar を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ProgressBar コンポーネントを [ライブラリ]パネルにドラッグします。
- 3. NumericStepper コンポーネントを [ライブラリ]パネルにドラッグします。
- **4.** Label コンポーネントを [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **5.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力します。

```
import fl.controls.ProgressBar;
import fl.controls.NumericStepper;
import fl.controls.Label;
import fl.controls.ProgressBarDirection;
import fl.controls.ProgressBarMode;
import flash.events.Event;
var aPb:ProgressBar = new ProgressBar();
var aNs:NumericStepper = new NumericStepper();
var progLabel:Label = new Label();
addChild(aPb);
addChild(aNs):
addChild(progLabel);
aPb.move(180.175):
aPb.direction = ProgressBarDirection.RIGHT;
aPb.mode = ProgressBarMode.MANUAL;
progLabel.setSize(150, 22);
progLabel.move(180, 150);
progLabel.text = "";
aNs.move(220, 215);
aNs.maximum = 250:
aNs.minimum = 0;
```

```
aNs.stepSize = 1;
aNs.value = 0;
aNs.addEventListener(Event.CHANGE, nsChangeHandler);
function nsChangeHandler(event:Event):void {
    aPb.setProgress(aNs.value, aNs.maximum);
    progLabel.text = "Percent of progress = " + int(aPb.percentComplete) +
    "%";
```

- 6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。
- 7. NumericStepper の上矢印ボタンをクリックし、ProgressBar の表示を進めます。

RadioButton の使用

RadioButton コンポーネントを使用すると、複数の選択肢の中から1つだけをユーザーに選択させることができます。このコンポーネントを使用する場合は、少なくとも2つの RadioButton インスタンスが含まれるグループを構成して使用します。グループ内のメンバーは一度に1つしか選択できません。1つのラジオボタンを選択すると、同じグループ内でそれまで選択されていたラジオボタンは選択解除されます。各ラジオボタンが所属するグループは、groupName パラメータによって設定します。

ラジオボタンは、Web 上の多くのフォームアプリケーションに使用される基本的な要素です。いくつかの選択肢から1つをユーザーに選択させる場合に、ラジオボタンを使用します。たとえば、フォームでユーザーが使用するクレジットカードを選択させる場合などはラジオボタンを使用します。

RadioButton のユーザー操作

ラジオボタンは有効または無効にすることができます。無効なラジオボタンは、マウスおよびキーボードからの入力を受け付けません。ユーザーが RadioButton コンポーネントグループをクリックするか、Tab キーで移動すると、選択されているラジオボタンだけがフォーカスを取得します。これにより、ユーザーは次のキーを使用した操作が可能になります。

+-	説明
上向き矢印、 左向き矢印	そのラジオボタングループ内で、選択を前のラジオボタンに移動します。
下向き矢印、 右向き矢印	そのラジオボタングループ内で、選択を次のラジオボタンに移動します。
Tab	フォーカスを現在のラジオボタングループから次のコンポーネントに移動します。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の IFocusManager インターフェイスおよび FocusManager クラスと、51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ]パネルでパラメータに加えた変更が、ステージ上の各 RadioButton インスタンスに反映されます。ただし、一度に1つしか選択できないという動作はライブプレビューでは再現されません。同じグループ内にある2つのラジオボタンについて selected パラメータを true に設定した場合、両方が選択状態になったように見えますが、実行時には後に作成した方のインスタンスだけが選択状態になります。詳細については、112ページの「RadioButtonのパラメータ」を参照してください。

RadioButton コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次のコード行を追加することで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.RadioButtonAccImpl;

RadioButtonAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、そのコンポーネントのインスタンスをいくつ使用するかに関係なく、一度だけ実行します。詳細については、『Flash ユーザーガイド』の第18章「アクセシビリティコンテンツの作成」を参照してください。

RadioButton のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで RadioButton コンポーネント の各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、groupName、label、LabelPlacement、selected、および value です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティ があります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の RadioButton クラスを参照してください。

ActionScript を記述すれば、RadioButton クラスのメソッド、プロパティ、イベントを使用して、RadioButton インスタンスのその他のオプションを設定できます。

RadioButton を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に RadioButton コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、" はい " または " いいえ " で回答する質問を表示するために RadioButtonを使用します。 RadioButton で選択されたデータは TextArea に表示されます。

RadioButton コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. 2つの Radio Button コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 3. 1番目のラジオボタンを選択します。プロパティインスペクタで、インスタンス名を yesRb、グループ名を rbGroup にします。

- **4.** 2 番目のラジオボタンを選択します。プロパティインスペクタで、インスタンス名を noRb、グループ名を rbGroup にします。
- **5.** TextArea コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタン ス名を aTa にします。
- **6.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
yesRb.label = "Yes";
yesRb.value = "For";
noRb.label = "No";
noRb.value = "Against";

yesRb.move(50, 100);
noRb.move(100, 100);
aTa.move(50, 30);
noRb.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
yesRb.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
function clickHandler(event:MouseEvent):void {
   aTa.text = event.target.value;
}
```

7. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

次の例では、ActionScript を使用して、赤、青、緑の各カラーの 3 つの RadioButton を作成します。また、灰色のボックスを描画します。各 RadioButton の value プロパティでは、ボタンに関連付けられたカラーの 16 進数値を指定します。ユーザーがいずれかの RadioButton をクリックすると、clickHandler() 関数で drawBox() が呼び出され、RadioButton の value プロパティからカラーが渡されて、ボックスが塗られます。

ActionScript を使用して RadioButton を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. RadioButton コンポーネントを [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.RadioButton;
import fl.controls.RadioButtonGroup;

var redRb:RadioButton = new RadioButton();
var blueRb:RadioButton = new RadioButton();
var greenRb:RadioButton = new RadioButton();
var rbGrp:RadioButtonGroup = new RadioButtonGroup("colorGrp");

var aBox:MovieClip = new MovieClip();
drawBox(aBox, OxCCCCCCC);

addChild(redRb);
addChild(blueRb);
addChild(greenRb);
addChild(aBox);
```

```
redRb.label = "Red";
redRb.value = 0xFF0000:
blueRb.label = "Blue";
blueRb.value = 0x0000FF;
greenRb.label = "Green";
greenRb.value = 0x00FF00;
redRb.group = blueRb.group = greenRb.group = rbGrp;
redRb.move(100, 260);
blueRb.move(150, 260);
greenRb.move(200, 260);
rbGrp.addEventListener(MouseEvent.CLICK, clickHandler);
function clickHandler(event:MouseEvent):void {
  drawBox(aBox, event.target.selection.value);
function drawBox(box:MovieClip,color:uint):void {
       box.graphics.beginFill(color, 1.0);
       box.graphics.drawRect(125, 150, 100, 100);
       box.graphics.endFill();
```

4. 「制御]-「ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の RadioButton クラスを参照してください。

ScrollPane の使用

ScrollPane コンポーネントを使用すると、ロードされた領域に収まりきらないほど大きなコンテンツでも表示することができます。たとえば、大きなイメージがあり、アプリケーションに小さなスペースしかない場合でも、ScrollPane にロードすれば表示できます。ScrollPane には、ムービークリップ、JPEG、PNG、GIF、および SWF ファイルをロードできます。

ScrollPane や UlLoader などのコンポーネントには、コンテンツのロードがいつ完了したかを判別できる complete イベントがあります。ScrollPane コンポーネントや UlLoader コンポーネントのコンテンツにプロパティを設定する場合は、complete イベントを待機し、イベントハンドラ内でプロパティを設定します。たとえば、次のコードでは、Event.COMPLETE イベントのリスナーと、ScrollPaneのコンテンツの alpha プロパティを 0.5 に設定するイベントハンドラを作成しています。

```
function spComplete(event:Event):void{
  aSp.content.alpha = .5;
}
aSp.addEventListener(Event.COMPLETE, spComplete);
```

ScrollPane にコンテンツをロードするときに位置を指定する場合は、その位置 (X 座標および Y 座標) を 0,0 と指定する必要があります。たとえば、次のコードでは、ボックスが 0,0 の位置に描画されるため、ScrollPane が正しくロードされます。

```
var box:MovieClip = new MovieClip();
box.graphics.beginFill(0xFF0000, 1);
box.graphics.drawRect(0, 0, 150, 300);
box.graphics.endFill();
aSp.source = box;//load ScrollPane
```

詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の ScrollPane クラスを参照してください。

ScrollPane のユーザー操作

ScrollPane は有効または無効にすることができます。無効な ScrollPane は、マウスおよびキーボードからの入力を受け付けません。フォーカスを取得している ScrollPane では、次のキーを使用した操作が可能です。

+-	説明
→ (下矢印)	コンテンツを垂直方向に1行上にスクロールします。
↑(上矢印)	コンテンツを垂直方向に1行下にスクロールします。
End	コンテンツを ScrollPane の一番下に移動します。
←(左矢印)	コンテンツを水平方向に1行右にスクロールします。
→(右矢印)	コンテンツを水平方向に1行左にスクロールします。
ホーム	コンテンツを ScrollPane の最上部に移動します。
End	コンテンツを ScrollPane の一番下に移動します。
PageDown	コンテンツを垂直方向に1ページ上にスクロールします。
PageUp	コンテンツを垂直方向に1ページ下にスクロールします。

ユーザーはマウスを使用し、コンテンツ上および垂直スクロールバーや水平スクロールバー上で ScrollPane を操作することができます。scrollDrag プロパティが true に設定されている場合、ユーザーは、マウスを使用してコンテンツをドラッグすることができます。コンテンツ上で表示されるハンドポインタは、ユーザーがそのコンテンツをドラッグできることを示しています。他の多くのコントロールとは異なり、アクションはマウスボタンが押されると発生し、ボタンが離されるまで継続します。コンテンツに有効なタブストップが指定されている場合は、scrollDrag を false に設定する必要があります。そうしないと、マウスでコンテンツをクリックするたびにスクロールドラッグが実行されます。

ScrollPane のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで ScrollPane の各インスタンス に設定できるパラメータは、horizontalLineScrollSize、horizontalPageScrollSize、horizontalPageScrollSize、horizontalScrollPolicy、scrollDrag、source、verticalLineScrollSize、verticalPageScrollSize、および verticalScrollPolicy です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の ScrollPane クラスを参照してください。

ActionScript を記述すると、ScrollPane コンポーネントのプロパティ、メソッド、およびイベントを使用して、コンポーネントのこれらのオプションやその他のオプションを制御できます。

ScrollPane を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に ScrollPane コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。次の例では、source プロパティで指定されたパスから ScrollPane に画像をロードします。

ScrollPane コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ScrollPane コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタンス名を aSp にします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

4. 「制御]-「ムービープレビュー] を選択してアプリケーションを実行します。

この例では、ScrollPane を作成し、そのサイズを設定して、source プロパティを使用してイメージをロードします。さらに、リスナーを2つ作成します。1番目のリスナーは、scroll イベントを待機し、ユーザーが垂直方向または水平方向にスクロールしたときに、イメージの位置を表示します。2番目のリスナーは、complete イベントを待機し、イメージのロードが完了したことを通知するメッセージを「出力 1パネルに表示します。

この例では、ActionScript を使用して ScrollPane を作成し、150 ピクセル (幅) x 300 ピクセル (高さ)の MovieClip (赤色のボックス)を配置します。

ActionScript を使用して ScrollPane インスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ScrollPane コンポーネントを [コンポーネント] パネルから [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- 3. DataGrid コンポーネントを [コンポーネント] パネルから [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

Slider の使用

Slider コンポーネントを使用すると、ユーザーは、値の範囲に対応するトラックの端から端までの間でグラフィカルなサムをスライドさせることによって、値を選択することができます。スライダを使用すると、たとえば、数値やパーセンテージなどの値をユーザーが選択できます。また、ActionScriptを使用すると、スライダの値で別のオブジェクトの動作を制御することもできます。たとえば、スライダを画像に関連付け、スライダのサムの相対的な位置や値に応じて、その画像を拡大または縮小することが可能です。

Slider の現在の値は、トラックの両端の間、または Slider の最小値と最大値の間のサムの相対的な位置によって判別します。

Slider は、最小値と最大値の間の値を連続的に変化させるものですが、snapInterval パラメータを設定して、最小値と最大値の間で変化する間隔を指定することもできます。Slider では、スライダに割り当てられた値とは関係なく、指定した間隔でトラックに沿って目盛りを表示できます。

デフォルトでは、スライダは水平方向になりますが、direction パラメータの値を vertical に設定することで垂直方向にすることができます。スライダのトラックは、端から端まで広がっており、目盛りはトラックのすぐ上に左側から右側に向かって配置されます。

Slider コンポーネントのユーザー操作

フォーカスを取得している Slider インスタンスでは、次のキーを使用した操作が可能です。

+-	説明
→(右矢印)	水平方向のスライダに関連付けられた値を増加させます。
↑(上矢印)	垂直方向のスライダに関連付けられた値を増加させます。
←(左矢印)	水平方向のスライダに関連付けられた値を減少させます。
↓ (下矢印)	垂直方向のスライダに関連付けられた値を減少させます。
Shift+Tab	フォーカスを前のオブジェクトに移動します。
Tab	フォーカスを次のオブジェクトに移動します。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の IFocusManager インターフェイスおよび FocusManager クラスと、51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ]パネルで各 Slider インスタンスのパラメータに加えた変更が反映されます。

Slider のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで Slider コンポーネントの各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、direction、liveDragging、maximum、minimum、snapInterval、tickInterval、および value です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の Slider クラスを参照してください。

Slider を使用したアプリケーションの作成

次の例では、Slider インスタンスを作成し、ユーザーが、ある特定の事項に関する満足度を回答できるようにしています。ユーザーは Slider を左右に移動させることで、回答する満足度の値を低下または増加させることができます。

Slider コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージの中央にドラッグします。
 - インスタンス名を valueLabel にします。
 - text パラメータに、値として「**Oパーセント**」を割り当てます。
- 3. Slider コンポーネントを[コンポーネント]パネルからドラッグし、value_1bl の下の中央に配置します。
 - インスタンス名を aSlider にします。
 - 幅(W)として 200 を割り当てます。
 - 高さ(H)として10を割り当てます。
 - 値として100を maximum パラメータに割り当てます。
 - 値として **10** を snapInterval パラメータと tickInterval パラメータの両方に割り当てます。
- 4. 別のLabel インスタンスをライブラリからドラッグし、aSlider の下の中央に配置します。
 - インスタンス名を promptLabel にします。
 - 幅(W)として250を割り当てます。
 - 高さ(H)として22を割り当てます。
 - text パラメータとして「満足度を入力してください」と入力します。
- **5.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.Slider;
import fl.events.SliderEvent;
import fl.controls.Label;
aSlider.addEventListener(SliderEvent.CHANGE, changeHandler);
function changeHandler(event:SliderEvent):void {
   valueLabel.text = event.value + "percent";
}
```

6. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

この例では、スライダのサムを特定の間隔位置から別の場所に移動したときに、 Slides Front CHANCS くない人のリスナーによっているいますのようにある。

SliderEvent.CHANGE イベントのリスナーによって valueLabel の text プロパティを更新し、 サムの位置に対応するパーセンテージを表示しています。

次の例では、ActionScript を使用して Slider を作成します。この例では、花のイメージをダウンロードし、ユーザーが Slider を使用してそのイメージの明暗を調整できるようにしています。具体的には、Slider の値に応じてイメージの alpha プロパティを変更します。

ActionScript を使用して、Slider コンポーネントを使用するアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** Label コンポーネントと Slider コンポーネントを [コンポーネント] パネルから現在のドキュメントの [ライブラリ] パネルにドラッグします。

これにより、アプリケーションには表示されませんが、コンポーネントはライブラリに間違いな く追加されます。

3. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力してコンポーネントインスタンスを作成し、配置します。

```
import fl.controls.Slider;
import fl.events.SliderEvent;
import fl.controls.Label;
import fl.containers.UILoader;
var sliderLabel:Label = new Label();
sliderLabel.width = 120:
sliderLabel.text = "< Fade - Brighten >";
sliderLabel.move(170, 350);
var aSlider:Slider = new Slider();
aSlider.width = 200;
aSlider.snapInterval = 10:
aSlider.tickInterval = 10;
aSlider.maximum = 100;
aSlider.value = 100;
aSlider.move(120, 330);
var aLoader:UILoader = new UILoader();
aLoader.source = "http://www.flash-mx.com/images/image1.jpg";
aLoader.scaleContent = false;
addChild(sliderLabel);
addChild(aSlider);
addChild(aLoader):
aLoader.addEventListener(Event.COMPLETE, completeHandler);
function completeHandler(event:Event) {
  trace("Number of bytes loaded: " + aLoader.bytesLoaded);
```

```
aSlider.addEventListener(SliderEvent.CHANGE, changeHandler);
function changeHandler(event:SliderEvent):void {
    aLoader.alpha = event.value * .01;
}
```

- 4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。
- 5. スライダのサムを左右に移動して、イメージの明暗を調整します。右側に移動するほど明るくなります。

TextArea の使用

TextArea コンポーネントは、ネイティブの ActionScript TextField オブジェクトのラッパーです。 TextArea コンポーネントは、テキストの表示に使用できます。また、editable プロパティが true の場合は、テキスト入力の編集や受け取りにも使用できます。このコンポーネントでは、複数行のテキストを表示または入力することができます。wordWrap プロパティが true に設定されていると、行数の多いテキストが折り返されます。restrict プロパティを使用すると、ユーザーが入力できる文字を制限することができます。また、maxChars を使用すると、ユーザーが入力できる最大文字数を指定することができます。テキストが、テキスト領域の水平方向または垂直方向の範囲を超えた場合は、水平スクロールバーまたは垂直スクロールバーが自動的に表示されます。ただし、テキスト領域に関連付けられたプロパティである horizontal Scroll Policy と vertical Scroll Policy が offに設定されている場合は表示されません。

TextArea コンポーネントは、複数行のテキストフィールドが必要な場所ならどこでも使用できます。たとえば、TextArea コンポーネントをフォームのコメントフィールドに使用することが考えられます。また、ユーザーが Tab キーでフィールドの外に移動したときに、フィールドが空かどうかをチェックするリスナーをセットアップすることができます。このリスナーを使うと、フィールドにコメントを入力する必要があることをユーザーに知らせるエラーメッセージを表示できます。

単一行のテキストフィールドが必要な場合は、TextInput コンポーネントを使用します。

setStyle() メソッドを使用して textFormat スタイルを設定すると、**TextArea** インスタンスに表示するテキストのスタイルを変更できます。**ActionScript** で htmlText プロパティを使用すると、**TextArea** コンポーネントを **HTML** でフォーマットすることもできます。また、

displayAsPassword プロパティを true に設定すると、テキストをアスタリスクでマスクすること もできます。condenseWhite プロパティを true に設定すると、スペースや改行などによる余分な 空白が新しいテキストから削除されます。これは、既にコントロールに入力済みのテキストでは無効です。

TextArea のユーザー操作

アプリケーション内で TextArea コンポーネントを有効または無効にすることができます。無効状態 のときは、マウスおよびキーボードからの入力を受け付けることができません。有効状態のときは、 ActionScript TextField オブジェクトと同じフォーカス、選択、およびナビゲーションの規則に従い ます。フォーカスを取得している TextArea インスタンスでは、次のキーを使用した操作が可能です。

+-	説明
矢印キー	テキストが編集可能な場合は、挿入ポインタをテキスト内で上、下、 左、右に移動します。
PageDown	テキストが編集可能な場合は、挿入ポインタをテキストの末尾に移動し ます。
PageUp	テキストが編集可能な場合は、挿入ポインタをテキストの先頭に移動し ます。
Shift+Tab	タブループ内で、フォーカスを前のオブジェクトに移動します。
Tab	タブループ内で、フォーカスを次のオブジェクトに移動します。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FocusManager クラスと 51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

TextArea のパラメータ

プロパティインスペクタまたは「コンポーネントインスペクタ] パネルで TextArea コンポーネントの各 インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、condenseWhite、editable、 hortizontalScrollPolicy、maxChars、restrict、text、verticalScrollPolicy、お よ び wordwrap です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。こ れらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』 の TextArea クラスを参照してください。

各 TextArea インスタンスのライブプレビューには、オーサリング時にプロパティインスペクタまた は「コンポーネントインスペクタ」パネルでパラメータに加えた変更が反映されます。スクロールバー が必要な場合は、ライブプレビューに表示されますが、このスクロールバーは機能しません。ライブ プレビューではテキストを選択できず、ステージ上のコンポーネントインスタンスにテキストを入力 することはできません。

ActionScript を記述すれば、TextArea コンポーネントのプロパティ、メソッド、イベントを使用し て、これらのオプションやその他のオプションを制御できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の TextArea クラスを参照してください。

TextArea を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に TextArea コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、TextArea インスタンスの focusOut イベントハンドラをセットアップし、インターフェイスの別の箇所にフォーカスを移す前に、ユーザーがテキスト領域に何か入力したかどうかを確認します。

TextArea コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) を作成します。
- 2. TextArea コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタン ス名を aTa にします。パラメータは、デフォルト設定のままにします。
- 3. 2番目の TextArea コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、1番目の下に配置して、インスタンス名を bTa にします。パラメータは、デフォルト設定のままにします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import flash.events.FocusEvent;
aTa.restrict = "a-z,'\" \"";
aTa.addEventListener(Event.CHANGE, changeHandler);
aTa.addEventListener(FocusEvent.KEY_FOCUS_CHANGE, k_m_fHandler);
aTa.addEventListener(FocusEvent.MOUSE_FOCUS_CHANGE, k_m_fHandler);
function changeHandler(ch_evt:Event):void {
   bTa.text = aTa.text;
}
function k_m_fHandler(kmf_event:FocusEvent):void {
   kmf_event.preventDefault();
}
```

この例では、aTa テキスト領域に入力できる文字を、小文字、カンマ、アポストロフィ、およびスペースに制限しています。また、aTa テキスト領域の change、KEY_FOCUS_CHANGE、およびMOUSE_FOCUS_CHANGE の各イベントのイベントハンドラも設定します。changeHandler() 関数によって、各 change イベントの発生時に aTa.text を bTa.text に割り当てることで、aTa テキスト領域に入力するテキストが bTa テキスト領域に自動的に表示されるようになります。KEY_FOCUS_CHANGE イベントと MOUSE_FOCUS_CHANGE イベントに対する k_m_fHandler() 関数は、ユーザーがテキストを入力せずに Tab キーを押して次のフィールドに移動できないようにします。この動作は、デフォルトのビヘイビアを回避することで実行されます。

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

テキストを入力せずに Tab キーを押して 2 番目のテキスト領域にフォーカスを移動した場合は、エラーメッセージが表示され、1番目のテキスト領域にフォーカスが戻ります。1番目のテキスト領域にテキストを入力すると、そのテキストが複製されて 2番目のテキスト領域に表示されます。

次の例では、ActionScript を使用して TextArea コンポーネントを作成します。空白を詰めるために condenseWhite プロパティを true に設定し、HTML テキストフォーマットの属性を使用するため に htmlText プロパティにテキストを割り当てています。

ActionScript を使用して TextArea インスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. TextArea コンポーネントを [ライブラリ]パネルにドラッグします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.TextArea;
var aTa:TextArea = new TextArea():
aTa.move(100,100);
aTa.setSize(200, 200);
aTa.condenseWhite = true;
aTa.htmlText = '
                    <br/>b>Lorem ipsum dolor</b> sit amet, consectetuer
  adipiscing elit. <u>Vivamus quis nisl vel tortor nonummy vulputate.</u>
  Quisque sit amet eros sed purus euismod tempor. Morbi tempor. <font
  color="#FF0000">Class aptent taciti sociosqu ad litora torquent per conubia
  nostra, per inceptos hymenaeos.</font> Curabitur diam. Suspendisse at purus
  in ipsum volutpat viverra. Nulla pellentesque libero id libero.';
addChild(aTa);
この例では、htmlText プロパティを使用してテキストブロックに HTML の bold 属性と
underline 属性を適用し、a ta テキスト領域にそのテキストを表示します。また、
condenseWhite プロパティを true に設定してテキストブロック内の空白を詰めています。
```

setSize()メソッドでテキスト領域の高さと幅を設定し、move()メソッドでその位置を設定し

ます。addChild() メソッドで TextArea インスタンスをステージに追加します。

4. 「制御]-「ムービープレビュー] を選択します。

TextInput の使用

TextInput コンポーネントは、ネイティブの ActionScript TextField オブジェクトのラッパーである単一行コンポーネントです。複数行のテキストフィールドが必要な場合は、TextArea コンポーネントを使用します。たとえば、TextInput コンポーネントをフォームのパスワードフィールドに使用することが考えられます。また、ユーザーが Tab キーでフィールドの外に移動したときに、フィールドに十分な文字が入力されているかどうかをチェックするリスナーをセットアップすることができます。このリスナーを使うと、適切な文字数を入力する必要があることをユーザーに知らせるエラーメッセージを表示できます。

setStyle() メソッドを使用して textFormat プロパティを設定すると、TextInput インスタンスに表示するテキストのスタイルを変更できます。TextInput コンポーネントは、HTML 形式でフォーマットすることも、テキストを隠すパスワードフィールドとしてフォーマットすることもできます。

TextInput のユーザー操作

アプリケーション内で TextInput コンポーネントを有効または無効にすることができます。無効状態のときは、マウスおよびキーボードからの入力を受け付けません。有効状態のときは、ActionScript TextField オブジェクトと同じフォーカス、選択、およびナビゲーションの規則に従います。フォーカスを取得している TextInput インスタンスでは、次のキーを使用した操作も可能です。

+-	説明
矢印キー	挿入ポインタを1文字左または右に移動します。
Shift+Tab	フォーカスを前のオブジェクトに移動します。
Tab	フォーカスを次のオブジェクトに移動します。

フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FocusManager クラスと 51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

各 TextInput インスタンスのライブプレビューには、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルでパラメータに加えた変更が反映されます。ライブプレビューではテキストを選択できず、ステージ上のコンポーネントインスタンスにテキストを入力することはできません。

TextInput コンポーネントをアプリケーションに追加する際に [アクセシビリティ] パネルを使用することで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

TextInput のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで TextInput コンポーネントの各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、editable、displayAsPassword、maxChars、restrict、および text です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに指定できる値については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の TextInput クラスを参照してください。

ActionScript を記述すれば、TextInput コンポーネントのプロパティ、メソッド、イベントを使用して、これらのオプションやその他のオプションを制御できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の TextInput クラスを参照してください。

TextInput を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、TextInput コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示しています。この例では、2つの TextInput フィールドを使用して、パスワードを入力および確認します。イベントリスナーを使用して、最小文字数である8文字が入力されたことと、2つのフィールドのテキストが一致していることを確認します。

TextInput コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、プロパティインスペクタで次の値を設定します。
 - インスタンス名として「pwdLabel」と入力します。
 - Wの値として「100」と入力します。
 - Xの値として「50」と入力します。
 - Yの値として「150」と入力します。
 - [パラメータ]セクションで、text パラメータの値として「**パスワード**:」と入力します。
- 3. 2番目の Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、次の値を設定します。
 - インスタンス名として「confirmLabel」と入力します。
 - Wの値として「100」と入力します。
 - Xの値として「50」と入力します。
 - Yの値として「200」と入力します。
 - [パラメータ]セクションで、text パラメータの値として「**パスワードの確認**:」と入力します。
- **4.** TextInput コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、次の値を設定します。
 - インスタンス名として「pwdTi」と入力します。
 - Wの値として「150」と入力します。
 - Xの値として「190」と入力します。
 - Yの値として「150」と入力します。
 - [パラメータ]セクションで、displayAsPasswordパラメータの値をダブルクリックし、 true を選択します。これにより、テキストフィールドに入力された値がアスタリスクでマス クされるようになります。
- 5. 2番目の TextInput フィールドを [コンポーネント] パネルからステージにドラッグし、次の値を 設定します。
 - インスタンス名として「confirmTi」と入力します。
 - Wの値として「150」と入力します。
 - Xの値として「190」と入力します。
 - Yの値として「200」と入力します。
 - [パラメータ] セクションで、displayAsPassword パラメータの値をダブルクリックし、 true を選択します。これにより、テキストフィールドに入力された値がアスタリスクでマス クされるようになります。

6. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
function tiListener(evt_obj:Event){
    if(confirmTi.text != pwdTi.text || confirmTi.length < 8)
    {
        trace("Password is incorrect. Please reenter it.");
    }
    else {
        trace("Your password is: " + confirmTi.text);
    }
} confirmTi.addEventListener("enter", tiListener);

    Zのコードでは、confirmTiという TextInput インスタンスの enter イベントハンドラをセット
    アップします。2つのパスワードが一致しない場合や、ユーザーの入力した文字数が8文字未満
    である場合は、"パスワードが正しくありません。再入力してください"というメッセージを表示
します。パスワードが8文字以上で2つが一致している場合は、入力された値を[出力]パネル
```

7. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

に表示します。

次の例では、ActionScript を使用して TextInput コンポーネントを作成します。さらに、ユーザー に名前の入力を要求するために使用する Label も作成します。この例では、コンポーネントの restrict プロパティを設定して、大文字と小文字、ピリオド、およびスペースだけを許可しています。また、Label コンポーネントと TextInput コンポーネントの両方のテキストをフォーマットする ために使用する TextFormat オブジェクトも作成します。

ActionScript を使用して TextInput インスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. TextInput コンポーネントを[コンポーネント]パネルから[ライブラリ]パネルにドラッグします。
- 3. Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルから [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **4.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.Label;
import fl.controls.TextInput;

var nameLabel:Label = new Label();
var nameTi:TextInput = new TextInput();
var tf:TextFormat = new TextFormat();

addChild(nameLabel);
addChild(nameTi);

nameTi.restrict = "A-Z .a-Z";

tf.font = "Georgia";
tf.color = 0x0000CC;
tf.size = 16;
```

```
nameLabel.text = "Name: "
nameLabel.setSize(50, 25);
nameLabel.move(100,100);
nameLabel.setStyle("textFormat", tf);
nameTi.move(160, 100);
nameTi.setSize(200, 25);
nameTi.setStyle("textFormat", tf);
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

TileList の使用

TileList コンポーネントは、データプロバイダによってデータを供給される行と列で作成されたリストで構成されます。アイテムとは、TileList のセル内に格納されるデータの単位です。データプロバイダによって供給されるアイテムには、通常、label プロパティと source プロパティがあります。label プロパティでセル内に表示するコンテンツを識別し、source プロパティでその値を取得します。

Array インスタンスは、作成することも、サーバーから取得することもできます。TileList コンポーネントには、データプロバイダの代理となるメソッドが用意されています (たとえば addItem()メソッドや removeItem()メソッドなど)。リスト用に外部のデータプロバイダを用意しない場合は、これらのメソッドによってデータプロバイダインスタンスが自動的に作成され、List.dataProviderを通じて公開されます。

TileList のユーザー操作

TileList は、ICellRenderer インターフェイスを実装した Sprite を使用して、各セルをレンダリングします。このレンダラーは、TileList の cellRenderer プロパティで指定できます。TileList コンポーネントのデフォルトの CellRenderer は ImageCell です。これにより、イメージ (クラス、ビットマップ、インスタンス、または URL) やオプションのラベルを表示します。このラベルは単一行で、常にセルの下部に配置されます。TileList は、1方向だけにスクロールすることができます。

フォーカスを取得している TileList インスタンスでは、次のキーを使用して中のアイテムにアクセスすることも可能です。

+ -	説明
↑(上矢印)/↓(下矢印)	列を上下に移動できます。allowMultipleSelection プロパティが true の場合は、これらのキーを Shift キーと組み合わせて使用し、 複数のセルを選択することができます。
←(左矢印)/→(右矢印)	行を左右に移動できます。allowMultipleSelection プロパティが true の場合は、これらのキーを Shift キーと組み合わせて使用し、 複数のセルを選択することができます。
ホーム	TileList の先頭のセルを選択します。allowMultipleSelection プロパティが true の場合は、

+-	説明
End	TileList の最後のセルを選択します。
Ctrl	allowMultipleSelection プロパティが true に設定されている場合は、複数のセルを自由な順序で選択できます。

TileList コンポーネントをアプリケーションに追加する際に、次の ActionScript コード行を追加する ことで、そのコンポーネントをスクリーンリーダーが読み取れるように設定できます。

import fl.accessibility.TileListAccImpl;

TileListAccImpl.enableAccessibility();

1つのコンポーネントに対してアクセシビリティ機能を有効化する処理は、そのコンポーネントがインスタンスをいくつ持つかに関係なく、一度だけ実行します。詳細については、『Flash ユーザーガイド』の第18章「アクセシビリティコンテンツの作成」を参照してください。

TileList のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで TileList コンポーネントの各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、allowMultipleSelection、columnCount、columnWidth、dataProvider、direction、horizontalScrollLineSize、horizontalScrollPageSize、labels、rowCount、rowHeight、ScrollPolicy、verticalScrollLineSize、および verticalScrollPageSizeです。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。dataProvider パラメータの使用については、

ActionScript を記述すれば、TileList コンポーネントのメソッド、プロパティ、イベントを使用して、TileList インスタンスのその他のオプションを設定できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の TileList クラスを参照してください。

TileList を使用したアプリケーションの作成

55 ページの「dataProvider パラメータの使用」を参照してください。

この例では、複数の MovieClip を使用して、TileList にペイントカラーの配列を格納します。

TileList コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. TileList コンポーネントをステージにドラッグし、インスタンス名を aTl にします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

import fl.data.DataProvider;
import flash.display.DisplayObject;

```
var aBoxes:Array = new Array();
var i:uint = 0;
var\ colors:Array = new\ Array(0x00000,\ 0xFF0000,\ 0x0000CC,\ 0x000CC00,
  0xFFFF00);
var colorNames:Array = new Array("Midnight", "Cranberry", "Sky", "Forest",
  "Julv"):
var dp:DataProvider = new DataProvider();
for(i=0: i < colors.length: i++) {
  aBoxes[i] = new MovieClip();
  drawBox(aBoxes[i], colors[i]):// draw box w next color in array
  dp.addItem( {label:colorNames[i], source:aBoxes[i]} );
aTl.dataProvider = dp;
aTl.columnWidth = 110;
aTl.rowHeight = 130;
aTl.setSize(280,150);
aTl.move(150, 150);
aTl.setStyle("contentPadding", 5);
function drawBox(box:MovieClip.color:uint):void {
       box.graphics.beginFill(color, 1.0);
       box.graphics.drawRect(0, 0, 100, 100);
       box.graphics.endFill();
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションをテストします。

次の例では、TileList インスタンスを動的に作成し、ColorPicker、ComboBox、NumericStepper、 および CheckBox の各コンポーネントのインスタンスを追加します。表示するコンポーネントのラベ ルと名前が格納された Array を作成し、その Array (dp) を TileList の data Provider プロパティに割 り当てます。columnWidth プロパティと rowHeight プロパティを使用し、setSize() メソッドで TileList のレイアウトを指定して、move() メソッドで TileList をステージに配置します。また、 content Padding スタイルで TileList インスタンスの境界線とコンテンツの間に空白をあけて、 sortItemsOn()メソッドではコンテンツをラベルの順序で並べ替えています。

ActionScript を使用して TileList コンポーネントを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ColorPicker、ComboBox、NumericStepper、CheckBox、および TileList の各コンポーネン トを[コンポーネント]パネルから[ライブラリ]パネルにドラッグします。
- 3. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import fl.controls.CheckBox;
import fl.controls.ColorPicker;
import fl.controls.ComboBox;
import fl.controls.NumericStepper;
import fl.controls.TileList;
import fl.data.DataProvider;
var aCp:ColorPicker = new ColorPicker();
var aCb:ComboBox = new ComboBox();
var aNs:NumericStepper = new NumericStepper();
var aCh:CheckBox = new CheckBox();
```

4. 「制御]-「ムービープレビュー」を選択してアプリケーションをテストします。

UILoader の使用

UILoader コンポーネントは、SWF、JPEG、プログレッシブ JPEG、PNG、および GIF の各ファイルを表示できるコンテナです。異なる場所からコンテンツを取得して Flash アプリケーションに読み込む必要がある場合には UILoader コンポーネントを使用します。たとえば、UILoader を使用して企業のロゴ (JPEG ファイル)をフォームに追加することが可能です。また、アプリケーションで UILoader コンポーネントを使用すると、写真を表示することもできます。load()メソッドを使用してコンテンツをロードし、percentLoaded プロパティでどれだけのコンテンツがロードされたかを確認して、complete イベントではロードが完了するタイミングを検出します。

UlLoader のコンテンツを拡大および縮小したり、コンテンツのサイズに合わせて UlLoader 自身のサイズを変更したりできます。デフォルトでは、UlLoader に合わせてコンテンツが拡大または縮小されます。さらに、実行時にコンテンツをロードして、ロードの進行状況を監視できます (ただし、コンテンツは一度ロードされるとキャッシュに残るので、ロードの進行状況はすぐに 100% に達します)。UlLoader にコンテンツをロードするときに位置を指定する場合は、その位置 (X 座標および Y 座標) を 0,0 と指定する必要があります。

UILoader のユーザー操作

UlLoader コンポーネントはフォーカスを取得できません。ただし、UlLoader コンポーネント内にロードしたコンテンツ自体は、フォーカスの取得やフォーカス操作が可能です。フォーカスの制御の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FocusManager クラスと 51 ページの「FocusManager の操作」を参照してください。

UILoader のパラメータ

プロパティインスペクタまたは [コンポーネントインスペクタ] パネルで UlLoader コンポーネント の各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、autoLoad、maintainAspectRatio、 source、および scaleContent です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プ ロパティがあります。

ライブプレビューでは、オーサリング時にプロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペ クタ 1 パネルで各 UILoader インスタンスのパラメータに加えた変更が反映されます。

ActionScript を記述すれば、UILoader コンポーネントのメソッド、プロパティ、イベントを使用し て、UILoader インスタンスのその他のオプションを設定できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の UILoader クラスを参照してください。

UILoader を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に UILoader コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示し ています。この例では、ローダーでロゴの GIF イメージをロードします。

UILoader コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. UILoader コンポーネントを「コンポーネント]パネルからステージまでドラッグします。
- 3. プロパティインスペクタで、インスタンス名として「aUI」と入力します。
- 4. ステージ上および [コンポーネントインスペクタ] パネルでローダーを選択して、source パラメー タに「http://www.helpexamples.com/images/logo.gif」と入力します。

この例では、ActionScript を使用して UlLoader コンポーネントを作成し、花の JPEG イメージを ロードします。complete イベントが発生すると、ロードされたバイト数が [出力] パネルに表示され ます。

ActionScript を使用して UILoader コンポーネントインスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. UILoader コンポーネントを「コンポーネント」パネルから「ライブラリ」パネルにドラッグします。
- 3. 「アクション] パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム 1 を選択し、次の Action Script コードを入力します。

```
import fl.containers.UILoader;
var aLoader:UILoader = new UILoader();
aLoader.source = "http://www.flash-mx.com/images/image1.jpg";
aLoader.scaleContent = false:
addChild(aLoader):
aLoader.addEventListener(Event.COMPLETE, completeHandler);
```

```
function completeHandler(event:Event) {
  trace("Number of bytes loaded: " + aLoader.bytesLoaded);
}
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

UIScrollBar の使用

UlScrollBar コンポーネントを使用すると、テキストフィールドにスクロールバーを追加できます。テキストフィールドのスクロールバーは、オーサリング時に追加することも、ActionScript を使用して実行時に追加することもできます。UlScrollBar コンポーネントを使用するには、テキストフィールドをステージ上に作成し、UlScrollBar コンポーネントを[コンポーネント]パネルからテキストフィールドの境界ボックス上の任意の辺にドラッグします。

スクロールバーの長さが、両端の矢印ボタンの合計サイズより小さい場合は、正しく表示されません。 矢印ボタンの一方が、もう一方の下に隠れます。Flashでは、これに関するエラーチェックは実行されません。そのような場合は、ActionScriptを使用してスクロールバーを非表示にすることをお勧めします。スクロールバーのサイズがスクロールボックス(サム)を表示できないほど小さい場合、Flashではスクロールボックスが非表示になります。

UlScrollBar コンポーネントは、他のスクロールバーと同じように機能します。両端に矢印ボタンがあり、その間にスクロールトラックとスクロールボックス(サム)があります。UlScrollBar コンポーネントは、テキストフィールドの任意の端に追加でき、垂直にも水平にも使用できます。

TextField については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の TextField クラスを参照してください。

UIScrollBar のユーザー操作

他の多くのコンポーネントとは異なり、UIScrollBar コンポーネントでは、連続的なマウス入力を受け付けます。たとえば、クリックを繰り返すのではなくマウスボタンを押したままでの操作ができます。UIScrollBar コンポーネントは、キーボードで操作することはできません。

UIScrollBar パラメータ

プロパティインスペクタまたは[コンポーネントインスペクタ]パネルで UlScrollBar コンポーネント の各インスタンスに設定できるオーサリングパラメータは、direction および scrollTargetName です。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。

ActionScript を記述すれば、UIScrollBar コンポーネントのメソッド、プロパティ、イベントを使用して、UIScrollBar インスタンスのその他のオプションを設定できます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の UIScrollBar クラスを参照してください。

UIScrollBar を使用したアプリケーションの作成

次の手順は、オーサリング時に UIScrollBar コンポーネントをアプリケーションに追加する方法を示 しています。

UIScrollBar コンポーネントを使用してアプリケーションを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 1 行または 2 行のテキストを格納するのに十分な高さを持つダイナミックテキストフィールドを 作成し、プロパティインスペクタで、そのフィールドのインスタンス名を myText にします。
- プロパティインスペクタで、テキスト入力フィールドの「行タイプ」を「複数行」に設定します。 あるいは、スクロールバーを水平方向で使用する場合は、[折り返しなし]に設定します。
- 4. 「アクション 1 パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム 1 を選択し、次の Action Script コードを入力します。このコードで、ユーザーがテキストをすべて表示するにはスクロールが必 要となるように、text プロパティが設定されます。
 - myText.text="When the moon is in the seventh house and Jupiter aligns with Mars, then peace will guide the planet and love will rule the stars."

スクロールしないとすべてのテキストを表示できないように、ステージ上のテキスト フィールドは小さくしておいてください。そうしないと、スクロールバーが表示されない か、サムグリップ(内容をスクロールする際にドラッグする部分)のない2行のみで表示 されることになります。

- 5. オブジェクトの吸着がオンになっていることを確認します([表示]-[吸着]-[オブジェクトの吸着])。
- 6. テキスト入力フィールド上の、UIScrollBar インスタンスを追加する端の付近に、「コンポーネン ト 1 パネルから UIScrollBar インスタンスをドラッグします。コンポーネントをテキストフィー ルドに適切にバインドするためには、マウスを離すとき、コンポーネントがテキストフィールド に重なっている必要があります。インスタンス名を mySb にします。

コンポーネントの scrollTargetName プロパティには、プロパティインスペクタおよび [コン ポーネントインスペクタ 1パネルでのテキストフィールドのインスタンス名が自動的に反映され ます。[パラメータ] タブに表示されない場合は、UIScrollBar インスタンスの重なりが十分でな い可能性があります。

7. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

また、ActionScript を使用して、実行時に UIScrollBar インスタンスを作成し、テキストフィールド に関連付けることもできます。次の例では、水平方向の UIScrollBar インスタンスを作成し、myTxt という名前のテキストフィールドインスタンスの下部に割り当てます。このフィールドには、特定の URL からテキストがロードされます。また、テキストフィールドのサイズに一致するように、スク ロールバーのサイズを設定します。

ActionScript を使用して UIScrollBar コンポーネントインスタンスを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ScrollBar コンポーネントを [ライブラリ]パネルにドラッグします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次の ActionScript コードを入力します。

```
import flash.net.URLLoader;
import fl.controls.UIScrollBar;
import flash.events.Event;
var myTxt:TextField = new TextField();
myTxt.border = true;
myTxt.width = 200;
myTxt.height = 16;
myTxt.x = 200;
myTxt.y = 150;
var mvSb:UIScrollBar = new UIScrollBar():
mySb.direction = "horizontal";
// Size it to match the text field.
mySb.setSize(myTxt.width, myTxt.height);
// Move it immediately below the text field.
mySb.move(myTxt.x, myTxt.height + myTxt.y);
// put them on the Stage
addChild(myTxt);
addChild(mySb);
// load text
var loader:URLLoader = new URLLoader():
var request:URLRequest = new URLRequest("http://www.helpexamples.com/flash/
  lorem.txt");
loader.load(request):
loader.addEventListener(Event.COMPLETE, loadcomplete);
function loadcomplete(event:Event) {
  // move loaded text to text field
  myTxt.text = loader.data;
  // Set myTxt as target for scroll bar.
  mySb.scrollTarget = myTxt;
```

4. 「制御]-「ムービープレビュー]を選択します。

UI コンポーネントのカスタマイズ

この章では、Flash ActionScript 3.0 の UI コンポーネントをカスタマイズする方法について説明します。次に示す各トピックを扱います。

UI コンポーネントのカスタマイズについて	138
スタイルの設定	138
新規スキンの作成	145
Button のカスタマイズ	147
CheckBox のカスタマイズ	149
ColorPicker のカスタマイズ	152
ComboBox のカスタマイズ	154
DataGrid のカスタマイズ	157
Label のカスタマイズ	163
List のカスタマイズ	164
NumericStepper のカスタマイズ	167
ProgressBar のカスタマイズ	170
RadioButton のカスタマイズ	172
ScrollPane のカスタマイズ	174
Slider のカスタマイズ	175
TextArea のカスタマイズ	177
TextInput のカスタマイズ	180
TileList のカスタマイズ	182
UILoader のカスタマイズ	185
UIScrollBar のカスタマイズ	186
FLVPlayback コンポーネントのカスタマイズの詳細については、第5	
ネントの使用」を参照してください。	

UI コンポーネントのカスタマイズについて

次の1つまたは両方のエレメントを変更すると、アプリケーションでのコンポーネントの外観をカスタマイズできます。

スタイル 各コンポーネントには、その外観を描画するために Flash で使用する値を設定できる、一連のスタイルがあります。スタイルによって、通常はコンポーネントのさまざまな状態に使用するスキンとアイコン、および使用するテキストフォーマットとパディングの値が指定されます。

スキン 特定の状態のコンポーネントのグラフィック表示を構成するシンボルのコレクションです。使用するスキンはスタイルによって指定されますが、スキンはコンポーネントを描画するために Flash で使用されるグラフィカルエレメントです。スキンの適用は、グラフィックを修正または置換することでコンポーネントの外観を変更するプロセスです。

 $^{\rm H}$

ActionScript 3.0 コンポーネントのデフォルトの外観はテーマ (Aeon Halo) と見なすことができますが、これらのスキンはコンポーネントに組み込まれています。ActionScript 3.0 のコンポーネントは、ActionScript 2.0 のコンポーネントのように外部テーマファイルをサポートしていません。

スタイルの設定

Flash でさまざまな状態のコンポーネントが描画されるときに、通常はコンポーネントのスタイルによって、そのスキン、アイコン、テキストフォーマット、およびパディングの値が指定されます。たとえば、Button がダウン状態のときは、アップ状態または通常状態とは異なるスキンで描画されます。これが発生するのは、Button の上でマウスボタンをクリックしたときです。また、無効状態のときは別のスキンが使用されます。これは、enabled プロパティを false に設定すると発生します。

コンポーネントのスタイルは、ドキュメント、クラス、およびインスタンスの各レベルで設定します。 さらに、一部のスタイルプロパティは親コンポーネントから共有できます。たとえば、List コンポーネントは BaseScrollPane からの継承によって ScrollBar スタイルを継承します。

コンポーネントをカスタマイズするスタイルは、次のように設定できます。

- コンポーネントインスタンスにスタイルを設定する。 個々のコンポーネントインスタンスで、カラーやテキストのプロパティを変更することができます。これは場合によっては効果的ですが、ドキュメント内のすべてのコンポーネントについて個別にプロパティを設定する必要がある場合などは、かえって時間がかかる可能性もあります。
- ドキュメントの特定のタイプのすべてのコンポーネントのスタイルを設定する。 ドキュメント内のすべての CheckBox またはすべての Button など、特定のタイプのすべての コンポーネントのスタイルに一貫性を持たせるには、コンポーネントレベルでスタイルを設定し ます。

コンテナにスタイルのプロパティを設定すると、そのコンテナに含まれるコンポーネントにプロパティの値が継承されます。

ライブプレビュー機能を使ってステージにコンポーネントを表示する場合、スタイルプロパティに加えた変更は表示されません。

スタイル設定について

スタイルの使用に関しては次のような点が重要です。

継承 コンポーネントの子は、設計上、親コンポーネントからスタイルを継承するように設定されます。ActionScript 内でスタイルの継承を設定することはできません。

優先順位 同じコンポーネントスタイルを複数の方法で設定した場合、優先順位に従って最初に発見されたスタイルが使用されます。Flash は値が見つかるまで次の順序でスタイルを調べていきます。

- 1. コンポーネントインスタンスのスタイルプロパティを探します。
- 2. 継承スタイルに含まれるスタイルの場合は、親階層から継承される値を探します。
- **3.** コンポーネント上のスタイルを探します。
- **4.** StyleManager のグローバル設定を探します。
- 5. 検索の結果そのプロパティが定義されていない場合は、値として undefined が使用されます。

コンポーネントのデフォルトのスタイルへのアクセス

コンポーネントクラスの静的 getDefaultStyles() メソッドを使用するコンポーネントでは、そのデフォルトのスタイルにアクセスできます。たとえば、次のコードは ComboBox コンポーネントのデフォルトのスタイルを取得し、buttonWidth プロパティおよび downArrowDownSkin プロパティのデフォルト値を表示します。

```
import fl.controls.ComboBox;
var styleObj:Object = ComboBox.getDefaultStyles();
trace(styleObj.buttonWidth); // 21
trace(styleObj.downArrowDownSkin); // downArrowDownSkin
```

コンポーネントインスタンスのスタイルの設定と取得

任意の UI コンポーネントは、直接 setStyle() メソッドおよび getStyle() メソッドを呼び出して、スタイルを設定または取得できます。次のシンタックスで、コンポーネントインスタンスのスタイルと値を指定します。

instanceName.setStyle("styleName", value);

このシンタックスで、コンポーネントインスタンスのスタイルを取得します。

```
var a_style:Object = new Object();
a_style = instanceName.getStyle("styleName");
```

qetStvle()メソッドは Object 型を返します。これは、異なるデータ型を持つ複数のスタイルを返す ことができるためです。たとえば、次のコードは TextArea インスタンス (aTa) のフォントスタイル を設定し、getStyle()メソッドを使用してそのスタイルを取得します。この例では、戻り値を TextFormat オブジェクトにキャストし、その値を TextFormat 変数に割り当てます。キャストを行 わないと、コンパイラは Object 変数を TextFormat 変数に強制しようとしてエラーが発生します。

import flash.text.TextFormat;

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.font = "Georgia";
aTa.setStyle("textFormat",tf);
aTa.text = "Hello World!";
var aStyle:TextFormat = aTa.getStyle("textFormat") as TextFormat;
trace(aStyle.font);
```

TextFormat を使用したテキストプロパティの設定

コンポーネントインスタンスのテキストをフォーマットするには、TextFormat オブジェクトを使用 します。TextFormat オブジェクトには、bold、bullet、color、font、italic、size など、テキ スト特性を指定できるプロパティがあります。これらのプロパティは TextFormat オブジェクトで設 定し、setStvle()メソッドを呼び出してコンポーネントインスタンスに適用します。たとえば、次 のコードでは TextFormat オブジェクトの font、size、および bold プロパティを設定し、それらの プロパティを Button インスタンスに適用します。

```
/* Create a new TextFormat object to set text formatting properties. */
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.font = "Arial";
tf.size = 16:
tf.bold = true;
a_button.setStyle("textFormat", tf);
```

次の図は、Submit ラベルを持つボタンでの、これらの設定の効果を示しています。

Submit

setStyle()を使用してコンポーネントインスタンスに設定したスタイルプロパティは、最も優先度 が高く、その他のスタイル設定よりも優先されます。ただし、単一のコンポーネントインスタンスに 対して setStyle() を使用して設定したプロパティが多ければ多いほど、該当するコンポーネントの 実行時の表示速度は遅くなります。

コンポーネントのすべてのインスタンスへのスタイルの 設定

StyleManager クラスの静的 setComponentStyle() メソッドを使用すると、コンポーネントクラスのすべてのインスタンスのスタイルを設定できます。 たとえば、すべての Button のテキストのカラーを赤に設定するには、最初に Button をステージまでドラッグし、次の ActionScript コードをタイムラインのフレーム1の [アクション] パネルに追加します。

```
import fl.managers.StyleManager;
import fl.controls.Button;

var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.color = 0xFF0000;
StyleManager.setComponentStyle(Button, "textFormat", tf);
ステージにそれ以降に追加するすべての Button のラベルは赤になります。
```

すべてのコンポーネントのスタイルの設定

StyleManager クラスの静的 setStyle() メソッドを使用すると、すべてのコンポーネントにスタイルを設定できます。

すべてのコンポーネントにスタイルを設定するには:

- 1. List コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を aList にします。
- 2. Button コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を aButton にします。
- **3.** 既に開いていない場合は、 $\mathbf{F9}$ キーを押すか、[ウィンドウ] メニューから [アクション] を選択して [アクション] パネルを開きます。タイムラインのフレーム1に次のコードを入力して、すべてのコンポーネントのテキストのカラーを赤に設定します。

import fl.managers.StyleManager;

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.color = 0xFF0000;
StyleManager.setStyle("textFormat", tf);
```

4. 次のコードを [アクション] パネルに追加して List にテキストを埋め込みます。

```
aList.addItem({label:"1956 Chevy (Cherry Red)", data:35000});
aList.addItem({label:"1966 Mustang (Classic)", data:27000});
aList.addItem({label:"1976 Volvo (Xcllnt Cond)", data:17000});
aList.allowMultipleSelection = true;
```

5. [制御]-[ムービーをプレビューする]を選択するか、Ctrl + Enter キーを押してコードをコンパイルし、コンテンツをテストします。ボタンのラベルとリストの両方のテキストが赤になります。

スキンについて

コンポーネントの外観は、アウトライン、塗りのカラー、アイコン、およびその他のコンポーネント のグラフィカルエレメントで構成されます。たとえば、ComboBox には List コンポーネントが含ま れ、List コンポーネントには ScrollBar が含まれます。これらのグラフィカルエレメントによって ComboBox の外観が構成されます。ただし、コンポーネントの外観は現在の状態に応じて変わりま す。たとえば、CheckBox は、ラベルがないとアプリケーションでは次のように表示されます。



通常のアップ状態の CheckBox

CheckBox 上でマウスボタンを押したままにすると、その外観は次のように変わります。



ダウン状態の CheckBox

マウスボタンを離すと、CheckBox は元の外観に戻りますが、選択されたことを示すチェックマーク が付きます。



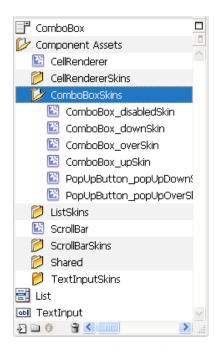
選択状態の CheckBox

コンポーネントをさまざまな状態で表すアイコンを総称してスキンと呼びます。コンポーネントの外観は、Flash のその他のシンボルの場合と同じように、そのスキンを Flash で編集すると、その任意の状態またはすべての状態を変更できます。コンポーネントのスキンには2つの方法でアクセスできます。最も簡単なのは、コンポーネントをステージにドラッグしてダブルクリックする方法です。この操作を行うと、コンポーネントのスキンのパレットが開きます。CheckBox の場合、この外観は次のようになります。



CheckBox のスキン

コンポーネントのスキンは[ライブラリ]パネルから個別にアクセスすることもできます。コンポーネントをステージにドラッグすると、コンポーネントはそのアセットおよび含まれるその他のコンポーネントのフォルダと共にライブラリにコピーされます。たとえば、ComboBoxをステージにドラッグすると、次の項目が[ライブラリ]パネルに表示されます。



ComboBox の [ライブラリ] パネル

[ライブラリ] パネルには、ComboBox 以外にも List、ScrollBar、および TextInput の各コンポーネントが含まれており、これらは各コンポーネントのスキンのフォルダ、およびこれらのコンポーネントが共有するエレメントを含む共有アセットフォルダと共に ComboBox に組み込まれています。これらのコンポーネントのスキンを編集するには、スキンフォルダ ("ComboBoxSkins"、

"ListSkins"、"ScrollBarSkins"、または "TextInputSkins") を開き、編集するスキンのアイコンをダブルクリックします。たとえば、ComboBox_downSkin をダブルクリックすると、次の図のようにスキンがシンボル編集モードで開きます。



ComboBox_downSkin

新規スキンの作成

ドキュメント内のコンポーネントの新しい外観を作成するには、コンポーネントのスキンを編集して外観を変更します。コンポーネントのスキンにアクセスするには、ステージ上のコンポーネントをダブルクリックして、そのスキンのパレットを開きます。次に、変更するスキンをダブルクリックし、シンボル編集モードで開きます。たとえば、ステージ上の TextArea コンポーネントをダブルクリックして、そのアセットをシンボル編集モードで開きます。ズームコントロールを 400% または必要に応じてそれ以上に設定し、シンボルを編集して外観を変更します。完了すると、変更によってドキュメント内のコンボーネントのすべてのインスタンスに影響があります。この他にも、[ライブラリ]パネルの特定のスキンをダブルクリックし、ステージ上でシンボル編集モードで開く方法があります。コンポーネントのスキンは次の方法で変更できます。

- すべてのインスタンスの新しいスキンを作成する
- 一部のインスタンスの新しいスキンを作成する

すべてのインスタンスのスキンの作成

コンポーネントのスキンを編集する場合、デフォルトではドキュメント内のそのコンポーネントのすべてのインスタンスの外観が変更されます。同じコンポーネントに対して異なる外観を作成する場合は、変更するスキンを複製し、別の名前を付けて編集し、適切なスタイルを設定して適用する必要があります。詳細については、145ページの「一部のインスタンスのスキンの作成」を参照してください。

この章では、各 UI コンポーネントのスキンを変更する方法について説明します。これらのいずれかの手順に従って UI コンポーネントのスキンを変更すると、ドキュメント内のすべてのインスタンスのスキンが変更されます。

一部のインスタンスのスキンの作成

次の一般的な手順を使用すると、コンポーネントの一部のインスタンスにスキンを作成できます。

- 「ライブラリ] パネルのコンポーネントの "Assets" フォルダでスキンを選択します。
- スキンを複製し、一意のクラス名を割り当てます。
- スキンを編集して目的の外観を設定します。
- コンポーネントインスタンスに対して setStyle() メソッドを呼び出し、新しいスキンをスキンスタイルに割り当てます。

次の手順では、2 つの Button インスタンスのいずれかに対して、新しい selected Down Skin を作成します。

Button の新しい selected Down Skin を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. [コンポーネント] パネルから 2 つの Button をステージまでドラッグし、インスタンス名を aButton および bButton にします。
- 3. 「ライブラリ] パネルを開きます。次に、このパネル内の "Component Assets" フォルダと "ButtonSkins" フォルダを順に開きます。
- 4. selectedDownSkin スキンをクリックして選択します。
- 5. 右クリックしてショートカットメニューを表示し、「複製」を選択します。
- 6. [シンボルの複製]ダイアログボックスで、新しいスキンに Button_mySelectedDownSkin など の一意の名前を付けます。次に [OK] をクリックします。
- 7. [ライブラリ]パネルの "Component Assets" "ButtonSkins" フォルダで Button_mySelectedDownSkin をクリックし、右クリックしてコンテキストメニューを開きま す。[リンケージ]を選択して[リンケージプロパティ]ダイアログボックスを開きます。
- 8. [ActionScript に書き出し]チェックボックスをオンにします。[最初のフレームに書き出し] チェックボックスをオンのままにし、クラス名が一意であることを確認します。[OK]をクリック します。次に、クラス定義が見つからなかったので作成することを示す警告に対して、もう一度 [OK] をクリックします。
- 9. 「ライブラリ] パネルで Button_mySelectedDownSkin スキンをダブルクリックし、シンボル編 集モードで開きます。
- 10. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーにカラーが表示されるまで、スキンの中央の青い 塗りをクリックします。 カラーピッカーをクリックし、スキンの塗りのカラー #00CC00 を選択
- 11. ステージの上の編集バーの左側にある [戻る] ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻
- 12. プロパティインスペクタで、各ボタンの「パラメータ」タブをクリックし、toggle パラメータを true に設定します。
- 13. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。 bButton.setStyle("selectedDownSkin", Button mySelectedDownSkin); bButton.setStyle("downSkin", Button_mySelectedDownSkin);
- 14. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
- 15. 各ボタンをクリックします。bButton オブジェクトのダウン状態のスキン (選択および非選択)で は、新しいスキンシンボルが使用されます。

Button のカスタマイズ

Button コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形] コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、Buttonクラスの任意の適切なプロパティ(height、width、scaleX、scaleY など)を使用します。

ボタンのサイズを変更しても、アイコンやラベルのサイズは変化しません。Button の境界ボックスは Button の境界線に対応し、インスタンスのヒット領域を指定します。インスタンスのサイズを拡大すると、ヒット領域も広くなります。境界ボックスが小さすぎてラベル全体が収まらない場合は、境界ボックスに合わせてラベルが切り捨てられます。

Button にアイコンがあり、そのアイコンが Button より大きい場合、アイコンは Button の境界線からはみ出します。

Button でのスタイルの使用

さまざまな状態でコンポーネントが描画されるときに、通常は Button のスタイルにより、そのスキン、アイコン、テキストフォーマット、およびパディングの値が指定されます。

次の手順では、2つの Button をステージに配置し、ユーザーがそのいずれかをクリックしたときに、両方の Button の emphasized プロパティを true に設定します。また、ユーザーがクリックしたときに 2番目の Button の emphasizedSkin スタイルを selectedOverSkin スタイルに設定し、2つの Button が同じ状態で異なるスキンを表示するようにします。

Button の emphasizedSkin スタイルを変更するには:

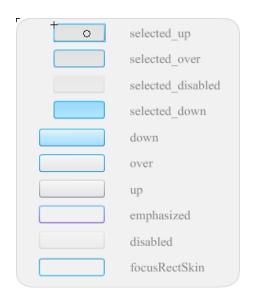
- 1. Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. 2つの Button を 1つずつステージまでドラッグし、インスタンス名を aBtn および bBtn にします。プロパティインスペクタの [パラメータ] タブで、Button A および Button B というラベルを付けます。
- **3.** タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。

```
bBtn.emphasized = true;
aBtn.emphasized = true;
bBtn.addEventListener(MouseEvent.CLICK, Btn_handler);
function Btn_handler(evt:MouseEvent):void {
   bBtn.setStyle("emphasizedSkin", "Button_selectedOverSkin");
}
```

- 4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
- **5.** いずれかのボタンをクリックし、各ボタンでの emphasizedSkin スタイルの効果を確認します。

Button でのスキンの使用

Button コンポーネントは、さまざまな状態に対応する次のスキンを使用します。スキンを編集して Button の外観を変更するには、次の図に示すように、ステージ上の Button インスタンスをダブルク リックして、そのスキンのパレットを開きます。

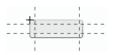


Button のスキン

ボタンが有効状態のとき、マウスポインタがボタン上に移動してくると、そのボタンはオーバー状態で表示されます。クリックすると、そのボタンは入力フォーカスを取得し、ダウン状態で表示されます。ユーザーがマウスボタンを離すと、ボタンはオーバー状態に戻ります。ボタン上でマウスボタンを押し下げ、そのままの状態でマウスポインタをボタンの範囲外に移動すると、そのボタンは最初の状態に戻ります。toggle パラメータが true に設定されている場合、ダウン状態は selected Down Skin、アップ状態は selected Up Skin、オーバー状態は selected Over Skin によってそれぞれ表示されます。

無効状態の Button は、ユーザーの操作に関係なく無効状態の外観で表示されます。

いずれかのスキンを編集するには、次の図に示すように、そのスキンをダブルクリックしてシンボル 編集モードで開きます。



このときに、Flash オーサリングツールを使用してスキンを目的どおりに編集できます。 次の手順では、Button の $selected_over$ スキンのカラーを変更します。

Button の selected over スキンのカラーを変更するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) を作成します。
- 2. Button を [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。 [パラメータ] タブで、 toggle パラメータを true に設定します。
- 3. Button をダブルクリックして、そのスキンのパレットを開きます。
- **4.** selected over スキンをダブルクリックして、シンボル編集モードで開きます。
- 5. ズームコントロールを 400% にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- 6. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーにカラーが表示されるまで、背景をダブルクリッ クします。
- 7. 塗りカラーピッカーでカラー #CC0099 を選択し、selected over スキンの背景に適用します。
- 8. ステージの上の編集バーの左側にある [戻る] ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻 ります。
- 9. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
- 10. ボタンをクリックして選択状態にします。

Button の上にマウスポインタを移動すると、次の図に示すように selected_over 状態が表示されます。



CheckBox のカスタマイズ

CheckBox コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。 オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いず れかの「修正]-「変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、 CheckBox クラスの適切なプロパティを使用します。たとえば、CheckBox のサイズを変更するに は、その height プロパティと width プロパティ、および scaleX プロパティと scaleY プロパティ を設定します。CheckBox のサイズを変更しても、ラベルやチェックボックスアイコンのサイズは変 化しません。境界ボックスのサイズが変化するだけです。

CheckBox インスタンスの境界ボックスは不可視ですが、そのインスタンスのヒット領域を表してい ます。インスタンスのサイズを拡大すると、ヒット領域も広くなります。境界ボックスが小さすぎて ラベル全体が収まらない場合は、境界ボックスに合わせてラベルが切り捨てられます。

CheckBox でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、CheckBox インスタンスの外観を変更できます。たとえば、 次の手順では CheckBox ラベルのサイズとカラーを変更します。

CheckBox ラベルのサイズとカラーを変更するには:

- 1. CheckBox コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタン ス名を myCb にします。
- 2. プロパティインスペクタの[パラメータ]タブをクリックし、labelパラメータの値として 「\$500以下」を入力します。
- 3. メインタイムラインのフレーム1で、[アクション]パネルに次のコードを入力します。

```
var myTf:TextFormat = new TextFormat();
myCb.setSize(150, 22);
myTf.size = 16;
myTf.color = 0xFF0000;
myCb.setStyle("textFormat", myTf);
```

詳細については、138 ページの「スタイルの設定」を参照してください。スタイルプロパティを設定 してコンポーネントのアイコンとスキンを変更する方法については、145ページの「新規スキンの作 成」および 151 ページの「CheckBox でのスキンの使用」を参照してください。

CheckBox でのスキンの使用

CheckBox コンポーネントには次のスキンがあり、これらを編集して外観を変更することができます。



CheckBox のスキン

この例では、コンポーネントの up 状態および selectedUp 状態のアウトラインカラーと背景色を変更します。他の状態のスキンを変更する場合も、同様の手順に従います。

CheckBox のスキンをカスタマイズするには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. CheckBox コンポーネントをステージまでドラッグします。コンポーネントは、そのアセットのフォルダと共に、ライブラリにも配置されます。
- 3. CheckBox コンポーネントをステージ上でダブルクリックして、スキンアイコンのパネルを開きます。
- **4.** selected up アイコンをダブルクリックして、シンボル編集モードで開きます。
- 5. ズームコントロールを800%にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- **6.** CheckBox の境界線をクリックして選択します。プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーでカラー#0033FF を選択して、境界線に適用します。
- 7. CheckBox の背景をダブルクリックして選択し、再び塗りカラーピッカーで背景色を #00CCFF に設定します。
- 8. CheckBox のアップ状態スキンに対して手順 $4 \sim 8$ を繰り返します。
- 9. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ColorPicker のカスタマイズ

ColorPicker に対するサイズの変更は、swatchWidth、swatchHeight、backgroundPadding、textFieldWidth、および textFieldHeight の各スタイルのみを使用して行うことができます。自由変形ツールまたは setSize() メソッドか width、height、scaleX、scaleY の各プロパティを使用した ActionScript によって ColorPicker のサイズを変更しようとすると、それらの値は SWF ファイルの作成時に無視され、ColorPicker はデフォルトのサイズで表示されます。パレットの背景は、columnCount スタイルの setStyle() を使用して設定された列数に合わせてサイズが変更されます。列のデフォルト数は 18 です。カスタムカラーを 1024 に設定すると、パレットは色見本の数に合わせて垂直方向にサイズが変更されます。

ColorPicker でのスタイルの使用

ColorPicker コンポーネントの外観を変更するには、複数のスタイルを設定できます。たとえば、次の手順では ColorPicker の列数 (columnCount) を 12 に変更し、色見本の高さ (swatchHeight) と幅 (swatchWidth) を変更し、両方のテキストフィールドのパディング (textPadding) と背景 (backgroundPadding)を変更します。

スタイルを使用して ColorPicker の外観を変更するには:

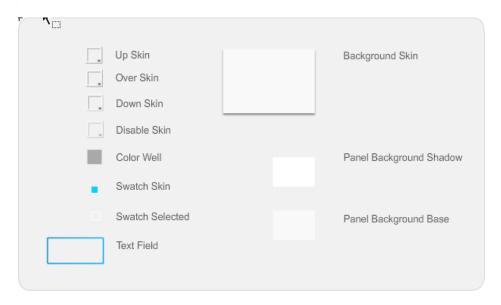
- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ColorPicker コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を aCp にします。
- **3.** [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力します。

```
aCp.setStyle("columnCount", 12);
aCp.setStyle("swatchWidth", 8);
aCp.setStyle("swatchHeight", 12);
aCp.setStyle("swatchPadding", 2);
aCp.setStyle("backgroundPadding", 3);
aCp.setStyle("textPadding", 7);
```

- 4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
- 5. ColorPicker をクリックして開き、設定によって外観がどのように変更されたのかを確認します。

ColorPicker でのスキンの使用

ColorPicker コンポーネントでは、次のスキンを使用して表示状態を表します。



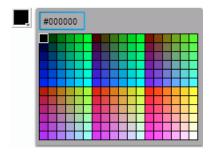
ColorPicker のスキン

Background スキンのカラーを変更すると、パレットの背景のカラーを変更できます。

Background スキンのカラーを変更するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ColorPicker コンポーネントをステージにドラッグします。
- 3. コンポーネントをダブルクリックしてスキンのパレットを開きます。
- **4.** 選択されてプロパティインスペクタに塗りカラーピッカーが表示されるまで、Background スキンをダブルクリックします。
- 5. 塗りカラーピッカーを使用してカラー #999999 を選択し、Background のスキンに適用します。
- **6.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 7. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ColorPicker の上をクリックすると、次の図に示すようにパレットの背景はグレーになります。



ComboBox のカスタマイズ

ComboBox コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの[修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、ComboBox クラスの適切なプロパティ (height、width、scaleX、scaleY など)を使用します。

ComboBox は指定した幅と高さに合わせてサイズが変更されます。dropdownWidth プロパティが設定されていない限り、リストはコンポーネントの幅に合わせてサイズが変更されます。

テキストが長すぎて ComboBox に収まらない場合は、サイズに合わせてテキストが切り捨てられます。ComboBox のサイズを変更し、テキストに合わせて dropdownWidth プロパティを設定する必要があります。

ComboBox でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、ComboBox コンポーネントの外観を変更できます。スタイルにより、コンポーネントのスキン、セルレンダラー、パディング、およびボタンの幅の値が指定されます。次の例では、buttonWidth および textPadding のスタイルを設定します。buttonWidth スタイルは、ボタンのヒット領域の幅を設定します。これは ComboBox が編集可能になったときに有効になり、ボタンを押してのみドロップダウンリストが表示されます。textPadding スタイルでは、テキストフィールドの外側の境界線とテキストの間のスペースの量を指定します。ComboBox の高さを大きくする場合は、テキストフィールド内で垂直方向にテキストを中央に揃えると便利です。この操作を行わないと、テキストはテキストフィールドの上部に表示されることがあります。

ComboBox でスタイルを設定するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ComboBox コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を aCb にします。
- 3. 「アクション] パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力 します。

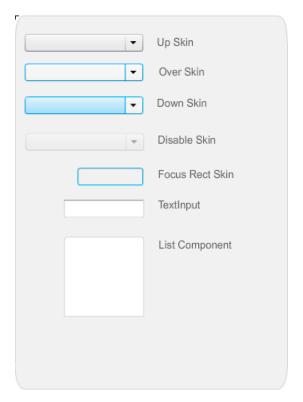
```
import fl.data.DataProvider;
aCb.setSize(150. 35):
aCb.setStyle("textPadding", 10);
aCb.setStyle("buttonWidth", 10);
aCb.editable = true;
var items:Array = [
{label: "San Francisco", data: "601 Townsend St."},
{label: "San Jose", data: "345 Park Ave."},
{label: "San Diego", data: "10590 West Ocean Air Drive, Suite 100"},
{label: "Santa Rosa", data: "2235 Mercury Way, Suite 105"},
{label: "San Luis Obispo", data: "3220 South Higuera Street, Suite 311"}
];
aCb.dataProvider = new DataProvider(items);
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

クリックしてドロップダウンリストを開くことができるボタンの領域が、右側の唯一の狭い領域で す。テキストはテキストフィールドで垂直方向に中央に揃えて配置されます。2つの setStyle() ステートメントを含めずに例を実行すると、その効果を確認できます。

ComboBox でのスキンの使用

ComboBoxでは、次のスキンを使用して表示状態を表します。



ComboBox のスキン

Up スキンのカラーを変更すると、ステージ上の非アクティブ状態のコンポーネントのカラーを変更できます。

Background スキンのカラーを変更するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. ComboBox コンポーネントをステージにドラッグします。
- 3. コンポーネントをダブルクリックしてスキンのパレットを開きます。
- 4. 選択され、編集できるように開くまで Up スキンをダブルクリックします。
- 5. ズームコントロールを 400% に設定します。

- 6. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーにカラーが表示されるまで、スキンの中央の領域をクリックします。
- 7. 塗りカラーピッカーを使用してカラー#33FF99を選択し、Upスキンに適用します。
- 8. ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
 次の図に示すように、ComboBox がステージに表示されます。

DataGrid のカスタマイズ

DataGrid コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、適切なプロパティ (width、height、scaleX、scaleY など)を使用します。横方向のスクロールバーがない場合は、列の幅が相対的に調整されます。列(したがってセル)のサイズが変わると、そのセル内のテキストが切り捨てられる可能性があります。

DataGrid でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、DataGrid コンポーネントの外観を変更できます。DataGrid コンポーネントは、List コンポーネントからスタイルを継承します (164 ページの「List でのスタイルの使用」を参照してください)。

各列のスタイルの設定

DataGrid オブジェクトは複数の列を持つことができ、ユーザーは各列に別々のセルレンダラーを指定できます。DataGrid の各列は DataGridColumn オブジェクトによって表され、DataGridColumn クラスは cellRenderer プロパティを含みます。このプロパティに、ユーザーは列の CellRenderer を定義できます。

DataGrid に複数の列を作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. DataGrid コンポーネントを [ライブラリ]パネルにドラッグします。
- 3. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。このコードは、3番目の列に長いテキストのストリングのある DataGrid を作成します。最後に、列の cell Renderer プロパティを、複数行のセルをレンダリングするセルレンダラーの名前に設定します。

```
/* This is a simple cell renderer example. It invokes
the MultiLineCell cell renderer to display a multiple
line text field in one of a DataGrid's columns. */
import fl.controls.DataGrid:
import fl.controls.dataGridClasses.DataGridColumn;
import fl.data.DataProvider;
import fl.controls.ScrollPolicy;
// Create a new DataGrid component instance.
var aDg:DataGrid = new DataGrid();
var aLongString: String = "An example of a cell renderer class that displays a
  multiple line TextField"
var myDP:Array = new Array();
myDP = [{firstName:"Winston", lastName:"Elstad", note:aLongString, item:100},
  {firstName:"Ric", lastName:"Dietrich", note:aLongString, item:101},
  {firstName: "Ewing", lastName: "Canepa", note:aLongString, item:102},
  {firstName: "Kevin", lastName: "Wade", note: aLongString, item: 103},
  {firstName:"Kimberly", lastName:"Dietrich", note:aLongString, item:104},
  {firstName: "AJ", lastName: "Bilow", note: aLongString, item: 105},
  {firstName: "Chuck", lastName: "Yushan", note:aLongString, item: 106},
  {firstName:"John", lastName:"Roo", note:aLongString, item:107},
];
// Assign the data provider to the DataGrid to populate it.
// Note: This has to be done before applying the cellRenderers.
aDg.dataProvider = new DataProvider(myDP);
/* Set some basic grid properties.
Note: The data grid's row height should reflect
the number of lines you expect to show in the multiline cell.
The cell renderer wil size to the row height.
About 40 for 2 lines or 60 for 3 lines.*/
aDg.columns = ["firstName", "lastName", "note", "item"];
aDg.setSize(430,190);
aDq.move(40.40):
aDg.rowHeight = 40; // Allows for 2 lines of text at default text size.
aDq.columns[0].width = 70;
aDg.columns[1].width = 70;
aDg.columns[2].width = 230;
aDg.columns[3].width = 60;
aDg.resizableColumns = true;
aDg.verticalScrollPolicy = ScrollPolicy.AUTO;
addChild(aDg);
// Assign cellRenderers.
var col3:DataGridColumn = new DataGridColumn();
col3 = aDg.getColumnAt(2);
col3.cellRenderer = MultiLineCell:
```

- 4. FLA ファイルに "MultiLineGrid.fla" という名前を付けて保存します。
- **5.** ActionScript ファイルを新規作成します。
- 6. 次の ActionScript コードをスクリプトウィンドウにコピーします。 package {

```
import fl.controls.listClasses.CellRenderer;
public class MultiLineCell extends CellRenderer
  public function MultiLineCell()
    textField.wordWrap = true:
    textField.autoSize = "left";
  override protected function drawLayout():void {
    textField.width = this.width;
    super.drawLayout();
}
```

- 7. "MultiLineGrid.fla" を保存したのと同じフォルダに、ActionScript ファイルを "MultiLineCell.as" という名前で保存します。
- 8. MultiLineGrid.fla アプリケーションに戻り、[制御]-[ムービープレビュー]を選択します。 DataGrid は、次のように表示されます。

firstName	lastName	note	item	A
Winston	Elstad	An example of a cell renderer class that displays a multiple line TextField	100	=
Ric	Dietrich	An example of a cell renderer class that displays a multiple line TextField	101	
Ewing	Canepa	An example of a cell renderer class that displays a multiple line TextField	102	
Kevin	Wade	An example of a cell renderer class that displays a multiple line TextField	103	

ヘッダースタイルの設定

ヘッダー行にテキストスタイルを設定するには、headerTextFormat スタイルを使用します。次の例 では、TextFormat オブジェクトを使用して headerTextFormat スタイルを設定し、Arial フォント、 赤のカラー、フォントサイズ 14、およびイタリックを設定します。

DataGrid の headerTextFormat スタイルを設定するには:

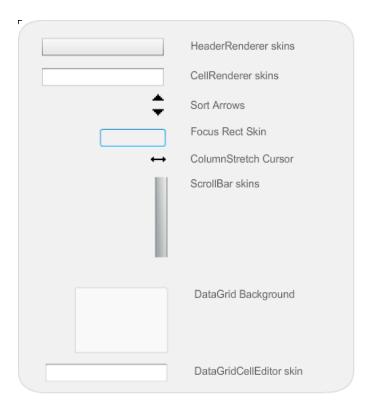
- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- **2.** DataGrid コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を aDg にします。
- 3. [アクション]パネルを開いて、メインタイムライン内でフレーム1を選択し、次のコードを入力 します。

```
import fl.data.DataProvider;
import fl.controls.dataGridClasses.DataGridColumn;
var myDP:Array = new Array();
myDP = [{FirstName:"Winston", LastName:"Elstad"},
  {FirstName:"Ric", LastName:"Dietrich"},
  {FirstName:"Ewing", LastName:"Canepa"},
{FirstName:"Kevin", LastName:"Wade"},
  {FirstName: "Kimberly", LastName: "Dietrich"},
  {FirstName: "AJ". LastName: "Bilow"}.
  {FirstName: "Chuck", LastName: "Yushan"},
  {FirstName: "John", LastName: "Roo"},
1:
// Assign the data provider to the DataGrid to populate it.
// Note: This has to be done before applying the cellRenderers.
aDq.dataProvider = new DataProvider(myDP);
aDq.setSize(160.190):
aDq.move(40,40);
aDg.columns[0].width = 80;
aDg.columns[1].width = 80;
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.size = 14;
tf.color = 0xff0000;
tf.italic = true:
tf.font = "Arial"
aDg.setStyle("headerTextFormat", tf);
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションを実行します。

DataGrid でのスキンの使用

DataGrid コンポーネントでは、次のスキンを使用して表示状態を表します。



DataGrid のスキン

CellRenderer スキンは DataGrid の本文のセルに使用され、HeaderRenderer スキンはヘッダー行に使用されます。次の手順では、ヘッダー行の背景色を変更しますが、同じ手順を使用して CellRenderer スキンを編集し、DataGrid の背景色を変更できます。

DataGrid のヘッダー行の背景色を変更するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. DataGrid コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を aDg にします。
- 3. コンポーネントをダブルクリックしてスキンのパレットを開きます。
- 4. ズームコントロールを 400% にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- 5. HeaderRenderer スキンをダブルクリックして、HeaderRenderer スキンのパレットを開きます。

- 6. Up_Skin をダブルクリックしてシンボル編集モードで開きます。次に、選択されてプロパティインスペクタの塗りカラーピッカーが表示されるまで、背景をクリックします。
- **7.** 塗りカラーピッカーでカラー #00CC00 を選択し、Up_Skin HeaderRenderer スキンの背景に適用します。
- **8.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 9. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加し、DataGrid にデータを 追加します。

```
import fl.data.DataProvider;
bldRosterGrid(aDg);
var aRoster:Array = new Array();
aRoster = [
     {Name: "Wilma Carter", Home: "Redlands, CA"},
     {Name: "Sue Pennypacker", Home: "Athens, GA"},
    {Name: "Jill Smithfield", Home: "Spokane, WA"},
    {Name: "Shirley Goth", Home: "Carson, NV"},
    {Name: "Jennifer Dunbar", Home: "Seaside, CA"}
];
aDq.dataProvider = new DataProvider(aRoster):
function bldRosterGrid(dg:DataGrid){
  dg.setSize(400, 130);
  dq.columns = ["Name". "Home"]:
  dg.move(50.50);
  dg.columns[0].width = 120;
  dg.columns[1].width = 120;
};
```

10. [制御]-[ムービープレビュー]を選択してアプリケーションをテストします。

DataGrid は、次の図のようにヘッダー行の背景が緑の状態で表示されます。

Name	Home
Wilma Carter	Redlands, CA
Sue Pennypacker	Athens, GA
Jill Smith field	Spokane, WA
Shirley Goth	Carson, NV
Jennifer Dunbar	Seaside, CA

Label のカスタマイズ

Label コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形] コマンドを使用します。また、autoSize オーサリングパラメータを設定することもできます。このパラメータを設定してもライブプレビュー内では境界ボックスは変化しませんが、Label はサイズが調整されます。Label のサイズの調整は、wordwrap パラメータに応じて行われます。このパラメータが true の場合、Label はテキストに合わせて垂直方向にサイズが調整されます。このパラメータが false の場合、Label は垂直方向にサイズが調整されます。実行時には、setSize() メソッドを使用します。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の Label .setSize() メソッドおよび Label .autoSize プロパティを参照してください。また、94 ページの「Label を使用したアプリケーションの作成」を参照してください。

Label でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、Label インスタンスの外観を変更できます。1つの Label コンポーネントインスタンス内では、テキスト全体に同じスタイルが適用されます。Label コンポーネントには textFormat スタイルがあります。このスタイルは TextFormat オブジェクトと同じ属性を持ち、通常の Flash TextField に対して行うように、Label.text のコンテンツに同じプロパティを設定できます。次の例では、ラベルのテキストのカラーを赤に設定します。

ラベルのテキストのカラーを変更するには:

- **1.** Label コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタンス名を a_1 abel にします。
- 2. 「パラメータ] タブをクリックし、テキストプロパティの値を次のテキストに置き換えます。

Color me red

3. メインタイムライン内でフレーム1を選択し、[アクション]パネルを開いて、次のコードを入力します。

```
/* Create a new TextFormat object, which allows you to set multiple text
properties at a time. */
```

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.color = 0xFF0000;
/* Apply this specific text format (red text) to the Label instance. */
a_label.setStyle("textFormat", tf);
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

Label のスタイルの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の Label クラスを参照してください。

Label でのスキンの使用

Label コンポーネントには、スキンを使用するビジュアルエレメントはありません。

List のカスタマイズ

List コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの[修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドおよび List クラスの適切なプロパティ(height、width、scaleX、scaleY など)を使用します。

リストのサイズを変更し、リストの行を水平方向に縮めると、行内のテキストの表示が切り詰められます。垂直方向のサイズを変更すると、必要に応じてリストの行数が増減します。スクロールバーは必要に応じて自動的に配置されます。

List でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、List コンポーネントの外観を変更できます。スタイルにより、コンポーネントが描画されるときのスキンとパディングの値が指定されます。

スキンのさまざまなスタイルにより、スキンに使用する別のクラスを指定できます。スキンスタイルの使用の詳細については、142ページの「スキンについて」を参照してください。

次の手順では、List コンポーネントの contentPadding スタイルの値を設定します。この設定の値は、List のサイズから減算してコンテンツの周囲のパディングを求めるので、List 内のテキストがトリミングされないようにするには、List のサイズの増加が必要になることがあります。

List の contentPadding スタイルを設定するには:

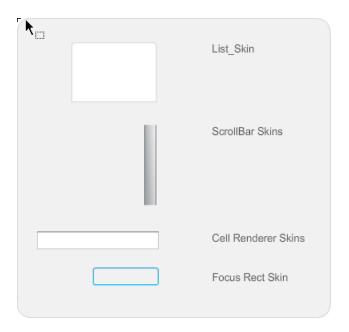
- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. List コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタンス名を aList にします。
- **3.** メインタイムフレーム内でフレーム1を選択し、[アクション]パネルを開いて、次のコードを入力します。このコードでは contentPadding スタイルを設定し、データを List に追加します。

```
aList.setStyle("contentPadding", 5);
aList.setSize(145, 200);
aList.addItem({label:"1956 Chevy (Cherry Red)", data:35000});
aList.addItem({label:"1966 Mustang (Classic)", data:27000});
aList.addItem({label:"1976 Volvo (Xcllnt Cond)", data:17000});
aList.rowCount = aList.length;
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

List でのスキンの使用

List コンポーネントでは、次のスキンを使用して表示状態を表します。



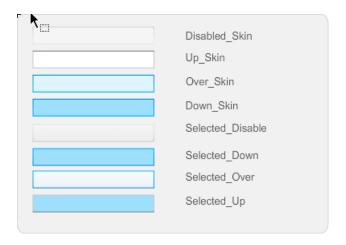
List のスキン

ScrollBar でのスキンの適用の詳細については、186ページの「UIScrollBar のカスタマイズ」を参照 してください。Focus Rect スキンでのスキンの適用の詳細については、177 ページの「TextArea の カスタマイズ」を参照してください。



1つのコンポーネントで ScrollBar スキンを変更すると、ScrollBar を使用するその他のすべて のコンポーネントでスキンが変更されます。

Cell Renderer スキンをダブルクリックして、List セルのさまざまな状態を示す 2 番目のスキンのパレットを開きます。



List の Cell Renderer のスキン

List のセルの外観は、これらのスキンを編集すると変更できます。次の手順では、Up スキンのカラーを変更し、通常の非アクティブ状態の List の外観を変更します。

List の Cell Renderer の Up_Skin を変更するには:

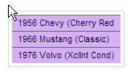
- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) ドキュメントを作成します。
- 2. List コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタンス名を aList にします。
- 3. List をダブルクリックしてスキンのパレットを開きます。
- 4. Cell Renderer スキンをダブルクリックして、そのスキンのパレットを開きます。
- 5. Up_Skin スキンをダブルクリックして、編集のために開きます。
- **6.** スキンの塗り領域をクリックして選択します。プロパティインスペクタに塗りカラーピッカーが表示され、スキンの現在の塗りのカラーが表示されます。
- 7. 塗りカラーピッカーでカラー #CC66FF を選択し、Up_Skin スキンの塗りに適用します。
- **8.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。

9. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加し、List にデータを追加します。

```
aList.setStyle("contentPadding", 5);
aList.setSize(145, 200);
aList.addItem({label:"1956 Chevy (Cherry Red)", data:35000});
aList.addItem({label:"1966 Mustang (Classic)", data:27000});
aList.addItem({label:"1976 Volvo (Xcllnt Cond)", data:17000});
aList.rowCount = aList.length:
```

10. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

List の表示は次の図のようになります。



フレームは contentPadding スタイルの設定によって異なります。

NumericStepper のカスタマイズ

NumericStepper コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形] コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、NumericStepper クラスの任意の適切なプロパティとメソッド (width、height、scaleX、scaleYなど)を使用します。

NumericStepper コンポーネントのサイズを変更しても、上下の矢印ボタンの幅は変化しません。ステッパーの高さをデフォルトよりも大きくすると、デフォルトの動作により、矢印ボタンはコンポーネントの上端と下端に配置されます。それ以外の場合は、9 スライスの拡大 / 縮小によってボタンの描画方法が決定されます。矢印ボタンは常にテキストボックスの右側に表示されます。

NumericStepper でのスタイルの使用

NumericStepper コンポーネントのスタイルプロパティを設定すると、その外観を変更できます。スタイルにより、コンポーネントが描画されるときのスキン、パディング、およびテキストフォーマットの値が指定されます。textFormat スタイルにより、NumericStepper の値のサイズと外観が変更されます。スキンのさまざまなスタイルにより、スキンに使用する別のクラスを指定できます。スキンスタイルの使用の詳細については、142ページの「スキンについて」を参照してください。

Numeric Stepper の値の外観を変更するには:

この手順では、textFormat スタイルを使用して、**NumericStepper** で表示される値の外観を変更します。

- 1. 新しい Flash ファイル (Action Script 3.0) を作成します。
- **2.** NumericStepper コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグし、インスタンス名を myNs にします。
- 3. メインタイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
myNs.setSize(100, 50);
tf.color = 0x0000CC;
tf.size = 24;
tf.font = "Arial";
tf.align = "center";
myNs.setStyle("textFormat", tf);
```

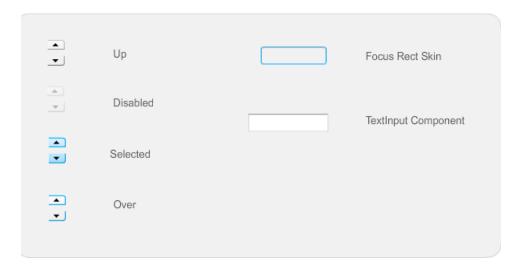
4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

NumericStepper でのスキンの使用

NumericStepper コンポーネントには、ボタンのアップ、ダウン、無効、および選択の各状態を表すスキンがあります。

ステッパーが有効状態のとき、マウスポインタが上下の矢印ボタン上に移動してくると、そのボタンはオーバー状態で表示されます。クリックすると、ボタンはダウン状態で表示されます。ユーザーがマウスボタンを離すと、ボタンはオーバー状態に戻ります。ボタン上でマウスボタンを押し下げ、そのままの状態でマウスポインタをボタンの範囲外に移動すると、そのボタンは最初の状態に戻ります。無効状態のステッパーは、ユーザーの操作に関係なく無効状態の外観で表示されます。

NumericStepper コンポーネントには次のスキンがあります。



NumericStepper のスキン

NumericStepper テキストの背景とアップ状態のボタンのカラーを変更するには:

- **1.** FLA ファイルを新規作成します。
- 2. NumericStepper コンポーネントをステージにドラッグします。
- 3. ズームコントロールを 400% にして、編集のためにイメージを大きくします。
- **4.** [グループ] レベルまでドリルダウンし、プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに背景色が表示されるまで、スキンパネルの TextInput スキンの背景をダブルクリックします。
- 5. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーでカラー #9999FF を選択し、TextInput スキンの 背景に適用します。
- **6.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 7. 再度 NumericStepper をダブルクリックしてスキンパレットをもう一度開きます。
- 8. 背景が選択され、そのカラーがプロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されるまで、 [Up] グループの上矢印ボタンの背景をクリックします。
- 9. カラー #9966FF を選択し、上矢印ボタンの背景に適用します。
- 10. [Up] グループの下矢印ボタンに対して手順8 および9 を繰り返します。
- 11. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

NumericStepperインスタンスは次の図のように表示されます。



ProgressBar のカスタマイズ

ProgressBar コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができま す。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、 いずれかの[修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、 ProgressBar クラスの適切なプロパティ (height、width、scaleX、scaleY など) を使用します。

ProgressBar には、トラックスキン、バースキン、および無限スキンの3つのスキンがあります。 9 スライスの拡大 / 縮小機能を使用してアセットが拡大または縮小されます。

ProgressBar でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、ProgressBarインスタンスの外観を変更できます。 ProgressBarのスタイルにより、コンポーネントが描画されるときのスキンとパディングの値が指定 されます。次の例では、ProgressBar インスタンスのサイズを拡大し、その barPadding スタイルを設 定します。

ProgressBar インスタンスのパディングスタイルを設定するには:

- 1. FLA ファイルを新規作成します。
- 2. ProgressBar コンポーネントを[コンポーネント]パネルからステージまでドラッグし、インスタ ンス名を myPb にします。
- 3. メインタイムラインのフレーム1で、[アクション]パネルに次のコードを入力します。

```
mvPb.width = 300:
myPb.height = 30:
myPb.setStyle("barPadding", 3);
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

スキンのスタイルの設定の詳細については、142ページの「スキンについて」を参照してください。

ProgressBar でのスキンの使用

次の図に示すように、ProgressBar コンポーネントはスキンを使用して、プログレスバートラック、 完了したバー、および無限のバーを表現します。



ProgressBar のスキン

バーはトラックスキンに配置され、barPadding を使用して配置が決定されます。アセットは9スライスの拡大/縮小を使用して拡大または縮小されます。

無限パーは、ProgressBar インスタンスの indeterminate プロパティが true に設定されている場合に使用します。スキンは ProgressBar のサイズに合わせて垂直方向および水平方向にサイズが変更されます。

これらのスキンを編集して、ProgressBar の外観を変更できます。たとえば、次の例では無限バーのカラーを変更します。

スキンを編集して無限バーのカラーを変更するには:

- **1.** FLA ファイルを新規作成します。
- 2. ProgressBar コンポーネントをステージにドラッグし、ダブルクリックしてスキンアイコンのパネルを開きます。
- 3. 無限バーのスキンをダブルクリックします。
- 4. ズームコントロールを 400% にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- **5.** 対角線のバーの 1 つをダブルクリックし、Shift キーを押しながら他の各バーをクリックします。 現在のカラーが、プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されます。
- **6.** プロパティインスペクタで塗りカラーピッカーをクリックして開き、カラー #00CC00 を選択して、選択された対角線のバーに適用します。
- 7. ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。

8. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ProgressBar は次の図のように表示されます。



RadioButton のカスタマイズ

RadioButton コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができま す。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、 いずれかの[修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用します。

RadioButton コンポーネントの境界ボックスは不可視ですが、そのコンポーネントのヒット領域を表 しています。コンポーネントのサイズを拡大すると、ヒット領域も広くなります。

コンポーネントの境界ボックスが小さすぎてコンポーネントラベル全体が収まらない場合は、境界 ボックスに合わせてラベルが切り捨てられます。

RadioButton でのスタイルの使用

一連のスタイルプロパティを設定して、RadioButton の外観を変更できます。ScrollPane のスタイ ルプロパティにより、コンポーネントが描画されるときのスキン、アイコン、テキストフォーマット、 およびパディングが指定されます。ScrollPane のスタイルにより、コンポーネントが描画されるとき のスキンとパディングの値が指定されます。

次の例では、CheckBox コンポーネントから textFormat スタイルを取得し、RadioButton に適用 して、そのラベルのスタイルを同じにします。

textFormat スタイルを CheckBox から RadioButton に適用するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. CheckBox コンポーネントをステージにドラッグし、プロパティインスペクタで myCh というイ ンスタンス名を付けます。
- 3. RadioButton をステージにドラッグし、プロパティインスペクタで myRb というインスタンス名 を付けます。

4. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.color = 0x00FF00;
tf.font = "Georgia";
tf.size = 18;
myCh.setStyle("textFormat", tf);
myRb.setStyle("textFormat", myCh.getStyle("textFormat"));
このコードは CheckBox に textFormat スタイルを設定し、CheckBox で getStyle()メソッドを呼び出して RadioButton に適用します。
```

5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

RadioButton でのスキンの使用

RadioButton には次のスキンがあり、これらを編集して外観を変更することができます。



RadioButton のスキン

RadioButton が有効状態で選択されていない場合は、マウスポインタが RadioButton 上に移動してくると、その RadioButton はオーバー状態で表示されます。クリックすると、その RadioButton は入力フォーカスを取得し、selected_down スキンで表示されます。ユーザーがマウスボタンを離すと、selected_up スキンで表示されます。マウスボタンを押し下げながらマウスポインタを RadioButton の範囲外に移動すると、その RadioButton にアップ状態のスキンが再表示されます。

無効状態の RadioButton は、ユーザーの操作に関係なく無効状態の外観で表示されます。

次の例では、選択状態を示す selected_up スキンを置き換えます。

新しい RadioButton selected up スキンを作成するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. RadioButton コンポーネントをステージにドラッグし、ダブルクリックしてスキンのパレットを 開きます。
- 3. ズームコントロールを800%にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- **4.** selected up スキンをダブルクリックして選択し、Delete キーを押して削除します。
- 5. ツールパネルから矩形ツールを選択します。
- **6.** プロパティインスペクタで、線のカラーを赤 (#FF0000) に設定し、塗りのカラーを黒 (#000000) に設定します。
- 7. シンボルの基準点(原点、ゼロ点)を示す十字カーソルから開始し、ポインタをクリックおよびドラッグして矩形を描画します。
- 8. ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 9. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
- 10. RadioButton をクリックして選択します。

選択状態の RadioButton は、次の図に似ています。



ScrollPane のカスタマイズ

ScrollPane コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、ScrollPane クラスの任意の適切なプロパティとメソッド (width、height、scaleX、scaleY など)を使用します。

ScrollPane コンポーネントには、次のグラフィカル特性があります。

- コンテンツの基準点(原点、ゼロ点)はペインの左上隅に表示されます。
- 水平スクロールバーがオフのときは、垂直スクロールバーはスクロールペインの右側に沿って上から下に表示されます。垂直スクロールバーがオフのときは、水平スクロールバーはスクロールペインの下部に沿って左から右に表示されます。両方のスクロールバーをオフにすることもできます。

- スクロールペインが小さすぎると、コンテンツが正しく表示されないことがあります。
- スクロールペインのサイズを変更すると、スクロールトラックおよびスクロールボックス(サム) が拡大または縮小し、ヒット領域のサイズが変更されます。ボタンのサイズは同じままです。

ScrollPane でのスタイルの使用

ScrollPane コンポーネントのスタイルプロパティにより、コンポーネントが描画されるときのスキン の値およびレイアウトのパディングの値が指定されます。コンポーネントのスキンのさまざまなスタ イルにより、スキンに使用する別のクラスを指定できます。スキンスタイルの使用の詳細については、 142ページの「スキンについて」を参照してください。

ScrollPane の contentPadding スタイルを設定するには:

- 1. Flash ファイルを新規作成します。
- 2. ScrollPane コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を mySp にします。
- 3. プロパティインスペクタの [パラメータ] タブをクリックし、source パラメータに次の値を入力 します。http://www.helpexamples.com/flash/images/image1.jpg
- 4. メインタイムラインのフレーム1で、[アクション]パネルに次のコードを入力します。 mySp.setStyle("contentPadding", 5); スクロールバーの外側で、コンポーネントの境界線とそのコンテンツの間にパディングが適用さ れます。
- 5. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

ScrollPane でのスキンの使用

ScrollPane コンポーネントはスクロールアセットに対して境界線とスクロールバーを使用します。ス クロールバーへのスキンの適用の詳細については、186 ページの「UIScrollBar でのスキンの使用」を 参照してください。

Slider のカスタマイズ

Slider コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、横方向に変形させることができます。オー サリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれか の「修正]-「変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、Slider クラスの適切なプロパティ(width、scaleX など)を使用します。

スライダは長くできるのみです。その高さを大きくすることはできません。Flash では、setSize() メソッドの height プロパティおよび height パラメータは無視されます。ただし、垂直方向のスライ ダを作成し、垂直方向に長くすることはできます。

Slider でのスタイルの使用

Slider コンポーネントのスタイルでは、そのスキンのクラスと、コンポーネントの境界ボックスと外側の境界の間のパディングに使用するピクセル数を指定する Focus Rect Padding の値のみを指定します。スキンスタイルの使用の詳細については、142ページの「スキンについて」を参照してください。

Slider でのスキンの使用

Slider コンポーネントでは次のスキンを使用します。これらのスキンは編集して外観を変更することができます。



Slider のスキン

次の例では、アップトラックを編集してそのカラーを青に変更します。

Slider のアップトラックのカラーを変更するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. Slider コンポーネントを [コンポーネント] パネルからステージまでドラッグします。
- 3. Slider コンポーネントをダブルクリックしてそのスキンパネルを開きます。
- 4. アップトラックを基準点でダブルクリックし、シンボル編集モードで開きます。
- 5. ズームコントロールを 800% にして、編集のためにアイコンを大きくします。Slider のトラックは 3つのバーで構成されます。
- **6.** 一番上のバーをクリックして選択します。バーを選択すると、そのカラーがプロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されます。

- 7. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーを使用し、カラー #000066 を選択して Slider ト ラックの一番上のバーに適用します。
- 8. Slider トラックの中央部分のバーをクリックして選択します。バーを選択すると、そのカラーが プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されます。
- 9. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーを使用し、カラー #0066FF を選択して Slider ト ラックの中央のバーに適用します。
- 10. Slider トラックの一番下のバーをクリックして選択します。バーを選択すると、そのカラーがプ ロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されます。
- 11. プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーを使用し、カラー #00CCFF を選択して Slider ト ラックの一番下のバーに適用します。
- 12. ステージの上の編集バーの左側にある「戻る」ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻 ります。
- 13. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

Slider の表示は次の図のようになります。



TextArea のカスタマイズ

TextArea コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オー サリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれか の [修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、TextArea クラスの任意の適切なプロパティ(height、width、scaleX、scaleY など)を使用します。

TextArea コンポーネントのサイズを変更すると、境界線が新しい境界ボックスのサイズに合わせて 変更されます。スクロールバーが必要な場合は、下端と右端に配置されます。その後、残りの領域内 でテキストエリアのサイズが変更されます。TextArea コンポーネントには、固定サイズのエレメン トはありません。TextArea コンポーネントの幅が、テキストのサイズを表示するのに狭すぎる場合、 テキストはトリミングされます。

TextArea でのスタイルの使用

TextArea コンポーネントのスタイルにより、コンポーネントが描画されるときのスキン、パディング、およびテキストフォーマットの値が指定されます。textFormat スタイルおよびdisabledTextFormat スタイルにより、TextArea に表示されるテキストのスタイルが管理されます。スキンのスタイルプロパティの詳細については、179ページの「TextArea でのスキンの使用」を参照してください。

次の例では、disabledTextFormat スタイルを設定し、**TextArea** が無効になっているが、有効になっている **TextArea** に対する textFormat スタイルの設定に同じプロセスが適用される場合のテキストの外観を変更します。

TextArea の disabledTextFormat スタイルを設定するには:

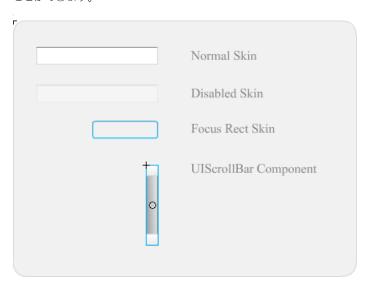
- 1. Flash ファイルを新規作成します。
- 2. TextArea コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を myTa にします。
- 3. メインタイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.color = 0xCC99FF;
tf.font = "Arial Narrow";
tf.size = 24;
myTa.setStyle("disabledTextFormat", tf);
myTa.text = "Hello World";
myTa.setSize(120, 50);
myTa.move(200, 50);
myTa.enabled = false;
```

4. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

TextArea でのスキンの使用

TextArea コンポーネントでは次のスキンを使用します。これらのスキンは編集して外観を変更することができます。



TextArea のスキン

ĿΧ

1つのコンポーネントで ScrollBar スキンを変更すると、ScrollBar を使用するその他のすべてのコンポーネントでスキンが変更されます。

次の手順では、TextArea にフォーカスがある場合に表示される Focus Rect Skin の境界線色と、Normal スキンを変更します。

TextArea 境界線のカラーを変更するには:

- **1.** Flash ファイルを新規作成します。
- 2. TextArea コンポーネントをステージにドラッグし、ダブルクリックしてスキンアイコンのパネルを開きます。
- **3.** Focus Rect Skin をダブルクリックします。
- **4.** Focus Rect Skin の境界線をクリックして選択します。バーを選択すると、現在のカラーがプロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されます。
- **5.** プロパティインスペクタで塗りのカラーピッカーをクリックして開き、カラー #CC0000 を選択して、境界線に適用します。

- **6.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 7. TextArea コンポーネントをダブルクリックして、スキンアイコンのパネルを開きます。
- 8. Normal スキンをダブルクリックします。
- 9. Normal スキンの境界線の端を1つずつ選択し、そのカラーを #990099 に設定します。
- **10.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 11. 「制御]- [ムービープレビュー] を選択します。

TextArea を選択してテキストの入力を開始すると、その境界線は次の図のように表示されます。



外側の境界線が Focus Rect スキンであり、内側の境界線が Normal スキンの境界線です。

UlScrollBar スキンの編集の詳細については、186 ページの「UlScrollBar のカスタマイズ」を参照してください。

TextInput のカスタマイズ

オーサリング時および実行時には、TextInput インスタンスのサイズを変更できます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、TextInput クラスの適切なプロパティ (height、width、scaleX、scaleY など)を使用します。

TextInput コンポーネントのサイズを変更すると、境界線は新しい境界ボックスのサイズに合わせて変更されます。TextInput コンポーネントでは、スクロールバーは使用されませんが、ユーザーがテキストを操作すると挿入ポインタが自動的にスクロールします。テキストフィールドのサイズは残りの領域内で変更されます。TextInput コンポーネントには、固定サイズのエレメントはありません。TextInput コンポーネントが小さすぎてテキスト全体を表示できない場合は、テキストが切り捨てられます。

TextInput でのスタイルの使用

TextInput コンポーネントのスタイルにより、コンポーネントが描画されるときのスキン、パディング、およびテキストフォーマットの値が指定されます。textFormat スタイルおよび disabledTextFormat スタイルにより、コンポーネントに表示されるテキストのスタイルが管理されます。スキンのスタイルプロパティの詳細については、181ページの「TextInput でのスキンの使用」を参照してください。

次の例では、textFormat スタイルを設定して、**TextInput** コンポーネントに表示されるテキストのフォント、サイズ、およびカラーを設定します。同じプロセスが、コンポーネントが無効になってきるときに適用される disabledTextFormat スタイルの設定に適用されます。

TextInput インスタンスに textFormat スタイルを設定するには:

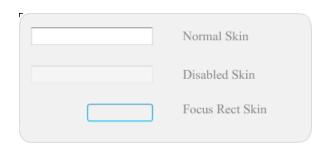
- 1. Flash ファイルを新規作成します。
- 2. TextInput コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を myTi にします。
- 3. メインタイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。

```
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.color = 0x0000FF;
tf.font = "Verdana";
tf.size = 30;
tf.align = "center";
tf.italic = true;
myTi.setStyle("textFormat", tf);
myTi.text = "Enter your text here";
myTi.setSize(350, 50);
myTi.move(100, 50);
```

4. 「制御]-「ムービープレビュー]を選択します。

TextInput でのスキンの使用

TextInput コンポーネントでは次のスキンを使用します。これらのスキンは編集して外観を変更することができます。



TextInput のキャプション

次の手順では、TextInput コンポーネントの境界線と背景色を変更します。

TextInput コンポーネントの境界線と背景色を変更するには:

- 1. Flash ファイルを新規作成します。
- TextInput コンポーネントをステージにドラッグし、ダブルクリックしてスキンのパネルを開きます。
- 3. Normal スキンをダブルクリックします。
- 4. ズームコントロールを800%にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- 5. Normal スキンの境界線の端を1つずつ選択し、そのカラーを #993399 に設定して適用します。
- **6.** プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーにカラーが表示されるまで、背景をダブルクリックします。カラー **#99CCCC** を選択して背景に適用します。
- ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 8. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

TextInput コンポーネントは次の図のように表示されます。

TileList のカスタマイズ

TileList コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、適切なプロパティ (width、height、columnCount、rowCount、scaleX、scaleY など)を使用します。TileList に含まれる ScrollBar は、リストボックスと共に拡大 / 縮小されます。

TileList でのスタイルの使用

TileList のスタイルにより、コンポーネントが描画されるときのスキン、パディング、およびテキストフォーマットの値が指定されます。textFormat スタイルおよび disabledTextFormat スタイル により、コンポーネントに表示されるテキストのスタイルが管理されます。スキンスタイルの詳細については、184ページの「TileListでのスキンの使用」を参照してください。

次の例では、textFormat スタイルを使用して setRendererStyle() メソッドを呼び出し、**TileList** インスタンスを表示するラベルのフォント、サイズ、カラー、およびテキストの各属性を設定します。同じプロセスが、enabled プロパティを false に設定したときに適用される disabledTextFormat スタイルの設定にも適用されます。

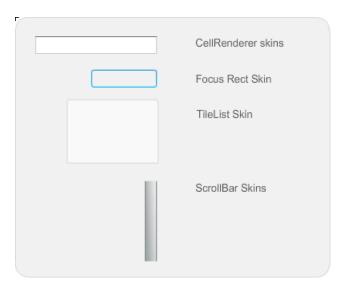
TileList インスタンスに textFormat スタイルを設定するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. TileList コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を myTl にします。
- 3. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。

```
myTl.setSize(100, 100);
myTl.addItem({label:"#1"});
myTl.addItem({label:"#2"});
myTl.addItem({label:"#3"});
myTl.addItem({label:"#4"});
var tf:TextFormat = new TextFormat();
tf.font = "Arial";
tf.color = 0x00FF00;
tf.size = 16;
tf.italic = true;
tf.bold = true;
tf.underline = true;
tf.align = "center";
myTl.setRendererStyle("textFormat", tf);
```

TileList でのスキンの使用

TileList コンポーネントには、TileList スキン、CellRenderer スキン、および ScrollBar スキンがあります。これらのスキンを編集して、TileList の外観を変更できます。



TileList のスキン

¥

1つのコンポーネントで ScrollBar スキンを変更すると、ScrollBar を使用するその他のすべてのコンポーネントでスキンが変更されます。

次の手順では、TileList の CellRenderer Selected_Up スキンのカラーを変更します。

TileList の CellRenderer スキンのカラーを変更するには:

- 1. Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- 2. TileList コンポーネントをステージまでドラッグし、ダブルクリックしてスキンのパネルを開きます。
- **3.** CellRenderer スキンをダブルクリックし、Selected_Up スキンをダブルクリックして、矩形の背景をクリックします。
- **4.** プロパティインスペクタの塗りカラーピッカーを使用してカラー #99FFFF を選択し、 Selected_Up スキンに適用します。
- **5.** ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。

- **6.** プロパティインスペクタの [パラメータ] タブで、dataProvider 行の 2 番目の列をダブルクリックして [値] ダイアログボックスを開きます。1st item、2nd item、3rd item、および 4th item の各ラベルのアイテムを追加します。
- 7. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。
- 8. TileList のいずれかのセルをクリックして選択し、選択したセルからマウスポインタを離します。 選択したセルの表示は次の図のようになります。



UILoader のカスタマイズ

UlLoader コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの[修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、適切なプロパティ(width、height、scaleX、scaleY など)を使用します。

UlLoader コンポーネントのサイズ変更動作は scaleContent プロパティで制御します。 scaleContent が true のときは、Loader の境界線内にちょうど収まるようにコンテンツが伸縮します (setSize() を呼び出すと、コンテンツが再び伸縮します)。 scaleContent が false のときは、コンポーネントのサイズがコンテンツのサイズに合わせて調整され、setSize() およびサイズ調整のプロパティが無効になります。

UlLoader コンポーネントには、スタイルまたはスキンを適用できるユーザーインターフェイスエレメントがありません。

UIScrollBar のカスタマイズ

UIScrollBar コンポーネントは、オーサリング時および実行時に、縦横に変形させることができます。ただし、垂直方向の UIScrollBar の幅、水平方向の UIScrollBar の高さを変更することはできません。オーサリング時には、ステージ上でコンポーネントを選択して、自由変形ツールを使用するか、いずれかの [修正]-[変形]コマンドを使用します。実行時には、setSize()メソッドを使用するか、UIScrollBar クラスの任意の適切なプロパティ (height、width、scaleX、scaleY など)を使用します。

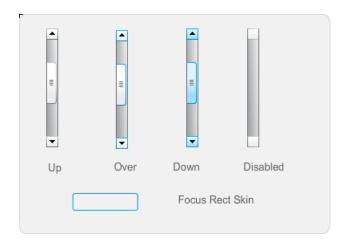
H × setSize()メソッドを使用する場合は、水平スクロールバーの幅、または垂直スクロールバーの高さのみを変更できます。オーサリング時には、水平スクロールバーの高さまたは垂直スクロールバーの幅を設定できますが、ムービーをパブリッシュするときに値はリセットされます。スクロールバーの長さ方向に対応するサイズのみ変更できます。

UIScrollBar でのスタイルの使用

UlScrollBar コンポーネントのスタイルでは、そのスキンのクラスと、コンポーネントの境界ボックスと外側の境界の間のパディングに使用するピクセル数を指定する FocusRectPadding の値のみを指定します。スキンスタイルの使用の詳細については、142ページの「スキンについて」を参照してください。

UIScrollBar でのスキンの使用

UIScrollBar コンポーネントでは次のスキンが使用されます。



UIScrollBar のスキン

水平スクロールバーと垂直スクロールバーはいずれも同じスキンを使用し、水平スクロールバーの表示時に UIScrollBar コンポーネントが必要に応じてスキンを回転させます。

¥

1つのコンポーネントで ScrollBar スキンを変更すると、ScrollBar を使用するその他のすべて のコンポーネントでスキンが変更されます。

次の例は、UIScrollBar のサムと矢印ボタンのカラーを変更する方法を示しています。

UIScrollBar スキンのカラーを変更するには:

- 1. 新しい Flash ファイル (ActionScript 3.0) を作成します。
- **2.** UIScrollBar コンポーネントをステージまでドラッグし、インスタンス名を mySb にします。[パラメータ] タブで、[direction] を [horizontal] に設定します。
- 3. スクロールバーをダブルクリックしてスキンのパネルを開きます。
- 4. Upスキンをクリックして選択します。
- 5. ズームコントロールを 400% にして、編集のためにアイコンを大きくします。
- **6.** 背景が選択され、カラーがプロパティインスペクタの塗りカラーピッカーに表示されるまで、右 矢印(または垂直スクロールバーの上矢印)の背景をダブルクリックします。
- 7. カラー #CC0033 を選択してボタンの背景に適用します。
- 8. ステージの上の編集バーの左側にある[戻る]ボタンをクリックし、ドキュメント編集モードに戻ります。
- 9. サムおよび左矢印(または垂直スクロールバーの下矢印)エレメントに対して、手順6、7、および8を繰り返します。
- **10.** タイムラインのフレーム **1** の [アクション] パネルに次のコードを追加し、スクロールバーを TextField に割り当てます。

```
var tf:TextField = new TextField();
addChild(tf);
tf.x = 150;
tf.y = 100;
mySb.width = tf.width = 200;
tf.height = 22;
tf.text = "All work and no play makes Jack a dull boy. All work and no play makes Jack a dull boy. All . . .";
mySb.y = tf.y + tf.height;
mySb.x = tf.x + tf.width;x
mySb.scrollTarget = tf;
```

11. [制御]-[ムービープレビュー]を選択します。

UIScrollBar コンポーネントの表示は次の図のようになります。

All work and no play makes Jack a dull b

FLVPlayback コンポーネントの 使用

FLVPlayback コンポーネントを使用すると、Adobe Flash CS3 Professional アプリケーションに ビデオプレーヤーを簡単に組み込むことができます。また、HTTP 経由でプログレッシブダウンロードされる Adobe Flash Video (FLV) ファイルの再生、および Adobe の Macromedia Flash Media Server や Flash Video Streaming Service (FVSS) からのストリーミング FLV ファイルの再生も可能です。

FLVPlayback コンポーネントは使いやすく、次のような特徴と長所があります。

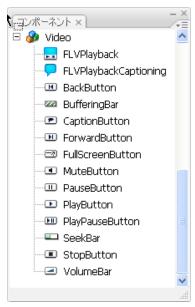
- ステージへのドラッグによって、すばやく確実に実装できる
- フルスクリーンサイズをサポートする
- あらかじめ用意されているデザイン済みスキンのコレクションを使用して、再生コントロールの 外観をカスタマイズできる
- デザイン済みスキンの色とアルファ値を選択できる
- 上級ユーザーは独自スキンを作成できる
- オーサリング中のライブプレビューが可能
- レイアウトプロパティによって、サイズ変更時も FLV ファイルを中央に配置可能
- FLV ファイルのプログレッシブダウンロードがある程度進んだ時点で再生を開始できる
- キューポイントを使用して、ビデオをテキスト、グラフィック、およびアニメーションと同期で きる
- 適度なサイズの SWF ファイルが保持される

FLVPlayback コンポーネントの使用

FLVPlayback コンポーネントを使用するための基本的な手順としては、ステージにコンポーネントを配置する作業と、そのコンポーネントで再生するための FLV ファイルを指定する作業が必要です。また、必要に応じて、動作を管理したり FLV ファイルの内容を説明したりするためのさまざまなパラメータを設定することもできます。

FLVPlayback コンポーネントには、ActionScript アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) も含まれます。API には次のクラスがあります。これらのクラスの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。クラスは、CuePointType、FLVPlayback、FLVPlaybackCaptioning、NCManager、NCManagerNative、VideoAlign、VideoError、VideoPlayer、VideoState、およびいくつかのイベントクラス (AutoLayoutEvent、LayoutEvent、MetadataEvent、SkinErrorEvent、SoundEvent、VideoEvent、および VideoProgressEvent)です。

FLVPlayback コンポーネントには、FLV Playback カスタム UI コンポーネントが含まれています。 FLVPlayback コンポーネントは、FLV ファイルを表示するための表示領域(ビデオプレーヤー)と、 FLV ファイルの操作を可能にするコントロールとの組み合わせです。 FLV Playback カスタム UI コンポーネントには、FLV ファイルの再生、停止、一時停止、およびその他の制御に使用できるコントロールボタンとメカニズムが備わっています。これらのコントロールには、BackButton、 BufferingBar、CaptionButton (FLVPlaybackCaptioning 用)、 ForwardButton、 FullScreenButton、 MuteButton、 PauseButton、 PlayButton、 PlayPauseButton、 SeekBar、 StopButton、 および VolumeBar があります。次の図に示すように、 FLVPlayback コンポーネントと FLV Playback カスタム UI コントロールは [コンポーネント] パネルに表示されます。



[コンポーネント] パネルの FLVPlayback コンポーネント

FLVPlayback コンポーネントに再生コントロールを追加する手順を、「スキンの適用」と呼びます。 FLVPlayback コンポーネントには、最初のデフォルトスキンとして、 SkinOverAll.swf があります。 このスキンには、再生、停止、戻る、進む、シークバー、ミュート、ボリューム、フルスクリーン、 およびキャプションの各コントロールがあります。 このスキンを変更するには、次の方法を使用できます。

- デザイン済みスキンのコレクションから選択する
- カスタムスキンを作成し、デザイン済みスキンのコレクションにそれを追加する
- FLV Playback カスタム UI コンポーネントから個々のコントロールを選択してカスタマイズする

デザイン済みスキンを選択するときには、オーサリング時または実行時のいずれかに、スキンの色とアルファ値を別個に選択できます。詳細については、211ページの「デザイン済みスキンの選択」を参照してください。

別のスキンを選択すると、選択したスキンが新しいデフォルトスキンになります。

FLVPlayback コンポーネントのスキンの選択または作成の詳細については、210 ページの「FLVPlayback コンポーネントのカスタマイズ」を参照してください。

FLVPlayback コンポーネントを使用したアプリケーションの作成

アプリケーションで FLVPlayback コンポーネントを使用するには、次のような方法があります。

- [コンポーネント]パネルからステージに FLVPlayback コンポーネントをドラッグし、source パラメータの値を指定する
- ビデオの読み込みウィザードを使用して、ステージ上にコンポーネントを作成し、スキンを選択 してカスタマイズする
- コンポーネントはライブラリ内にあるものとして、FLVPlayback() コンストラクタを使用してステージ上に FLVPlayback インスタンスを動的に作成する

H X ActionScript で FLVPlayback のインスタンスを作成した場合、ActionScript で skin プロパティを設定してスキンを割り当てる必要があります。その方法で適用するスキンは、SWF ファイルに自動的にはパブリッシュされません。アプリケーションの SWF ファイルとスキンの SWF ファイルの両方をアプリケーションサーバーにコピーする必要があります。そうしないと、アプリケーションを実行するときにスキンの SWF ファイルを利用できません。

FLVPlayback コンポーネントを [コンポーネント] パネルからドラッグするには:

- 1. [コンポーネント]パネルで、プラス[+]ボタンをクリックしてビデオエントリを開きます。
- 2. FLVPlayback コンポーネントをステージにドラッグします。

- 3. ステージ上で FLVPlayback コンポーネントを選択したまま、[コンポーネントインスペクタ]パネルの[パラメータ]タブで source パラメータの[値]セルを見つけ、次のいずれかを指定するストリングを入力します。
 - FLV ファイルのローカルパス
 - FLV ファイルの URL
 - FLV ファイルの再生方法を示す SMIL (Synchronized Multimedia Integration Language) ファイルの URL

SMIL ファイルを作成して1つまたは複数の FLV ファイルについて指定する方法の詳細については、226ページの「SMIL ファイルの使用」を参照してください。

- **4.** ステージ上で FLVPlayback コンポーネントを選択したまま、[コンポーネントインスペクタ]パネルの[パラメータ]タブで、skin パラメータの[値]セルをクリックします。
- 5. 拡大鏡アイコンをクリックして、[スキンの選択]ダイアログボックスを開きます。
- 6. 次のオプションから1つを選択します。
 - [スキン]ドロップダウンリストから、デザイン済みスキンを選択し、再生コントロールのセットをコンポーネントに割り当てます。
 - カスタムスキンを作成してある場合は、ポップアップメニューから [カスタムスキンの URL] を選択し、スキンが含まれる SWF ファイルの URL を [URL] ボックスに入力します。
 - [なし]を選択し、個々の FLV Playback カスタム UI コンポーネントをステージにドラッグして再生コントロールを追加します。



最初の2つのオプションでは、ポップアップメニューの上にある表示ペインにスキンが表示されます。カラーピッカーを使用して、スキンの色を変更できます。カスタム UI コントロールの色を変更するには、カスタマイズが必要です。カスタム UI コントロールの使用方法の詳細については、212ページの「FLV Playback カスタム UI コンポーネントへの個々のスキンの適用」を参照してください。

- 7. [OK] をクリックして、[スキンの選択] ダイアログボックスを閉じます。
- 8. [制御]-[ムービープレビュー]を選択し、SWFファイルを実行してビデオを再生します。 ビデオの読み込みウィザードを使用して FLVPlayback コンポーネントを追加する手順を次に示します。

ビデオの読み込みウィザードを使用するには:

- 1. [ファイル]-[読み込み]-[ビデオの読み込み]を選択します。
- 2. 次のいずれかのオプションを選択して、ビデオファイルの場所を示します。
 - ローカルマシン上
 - Web サーバー、Flash Video Streaming Service、または Flash Media Server に既に展開済み

- 3. 選択内容によって、ビデオファイルの場所を示すパスまたは URL を入力し、[次へ]をクリックします。
- **4.** ファイルパスを選択した場合は、[展開]ダイアログボックスが表示され、次のいずれかのオプションを選択してビデオの展開方法を指定することができます。
 - 標準 Web サーバーからのプログレッシブダウンロード
 - Flash Video Streaming Service (FVSS) からのストリーム
 - Flash Media Server からのストリーム
 - SWF ファイルにビデオを埋め込みタイムラインで再生

鲁

ビデオの埋め込みオプションは選択しないでください。FLVPlayback コンポーネントでは、外部のストリーミングビデオだけを再生します。このオプションを選択すると、FLVPlayback コンポーネントはステージに配置されません。

- 5. [次へ]をクリックします。
- 6. 次のオプションから1つを選択します。
 - [スキン]ドロップダウンリストから、デザイン済みスキンを選択し、再生コントロールのセットをコンポーネントに割り当てます。
 - コンポーネントのカスタムスキンを作成した場合は、ポップアップメニューから[カスタムスキンの URL]を選択し、スキンを含む SWF ファイルの URL を [URL] ボックスに入力します。
 - [なし]を選択し、個々の FLV Playback カスタム UI コンポーネントをステージにドラッグ して再生コントロールを追加します。
 - H ×

最初の2つのオプションでは、ポップアップメニューの上にある表示ペインにスキンが表示されます。

- 7. [OK] をクリックして、[スキンの選択] ダイアログボックスを閉じます。
- 8. [ビデオの読み込みの終了]ダイアログボックスに表示される情報を読み、次の手順について理解してから[終了]をクリックします。
- 9. FLA ファイルを保存していない場合は、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。
- **10.** [制御]-[ムービープレビュー]を選択し、SWFファイルを実行してビデオを再生します。 ActionScript で FLVPlayback コンポーネントを追加する手順を次に示します。

ActionScript を使用して動的にインスタンスを作成するには:

- 2. タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。install_drive の部分に Flash のインストール先ドライブを指定し、実際の "Skins" フォルダの場所に合わせてパスを変更してください。

```
Windows コンピュータの場合:
import fl.video.*;
var my_FLVPlybk = new FLVPlayback();
my FLVPlybk.x = 100;
my_FLVPlybk.y = 100;
addChild(my_FLVPlybk);
my_FLVPlybk.skin = "file:///install_drive|/Program Files/Adobe/Adobe Flash
  CS3/en/Configuration/FLVPlayback Skins/ActionScript 3.0/
  SkinOverPlaySeekMute.swf"
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/water.flv";
Macintosh コンピュータの場合:
import fl.video.*;
var my_FLVPlybk = new FLVPlayback();
my_FLVPlybk.x = 100;
my FLVPlybk.y = 100;
addChild(my FLVPlybk);
my_FLVPlybk.skin = "file:///Macintosh HD:Applications:Adobe Flash
  CS3:Configuration:FLVPlayback Skins:ActionScript
  3.0SkinOverPlaySeekMute.swf"
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/water.flv";
```

x source プロパティおよび skin プロパティを設定しないと、生成されるムービークリップには何も表示されません。

3. [制御]-[ムービープレビュー] を選択し、SWF ファイルを実行して FLV ファイルを再生します。

FLVPlayback コンポーネントのパラメータ

FLVPlayback コンポーネントのインスタンスごとに、[コンポーネントインスペクタ]パネルまたはプロパティインスペクタで次のパラメータを設定できます。align、autoPlay、cuePoints、preview、scaleMode、skin、skinAutoHide、skinBackgroundAlpha、skinBackgroundColor、source、volume。これらの各パラメータには、対応する同名の ActionScript プロパティがあります。これらのパラメータに値を割り当てると、アプリケーション内でプロパティの初期状態が設定されます。ActionScript で設定したプロパティは、パラメータで設定した値よりも優先されます。これらのパラメータに設定できる値の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』のFLVPlayback クラスを参照してください。

source パラメータの指定

source パラメータを使用すると、FLV ファイルの名前と場所を指定できます。この情報により、ファイルの再生方法が Flash に指示されます。

[コンポーネントインスペクタ] パネルで source パラメータの [値] セルをダブルクリックすると、[コンテンツパス] ダイアログボックスが開きます。次のようなダイアログボックスです。



FLVPlayback の[コンテンツパス]ダイアログボックス

このダイアログボックスには、FLVPlayback インスタンスのサイズを決定し、FLV ファイルからサイズおよびキューポイント情報を取得するかどうかを指定する 2 つのチェックボックスがあります。詳細については、196 ページの「FLV ファイルのオプション」を参照してください。

source

FLV ファイルの再生方法を記述した FLV ファイルまたは XML ファイルの URL またはローカルパスを入力します。フォルダアイコンをクリックすると [参照] ダイアログボックスが開き、FLV ファイルの保管場所を検索できます。FLV ファイルを参照する際に、FLV ファイルがターゲット SWFファイルのある場所またはその下位にある場合は、Web サーバーで使用するために、その場所への相対パスが自動的に作成されます。それ以外の場合、パスは Windows または Macintosh の絶対パスとなります。ローカル XML ファイルの名前を入力するには、パスと名前を入力する必要があります。HTTP URL を指定すると、FLV ファイルはプログレッシブダウンロードとして再生されます。RTMP URL を指定すると、FLV ファイルは Flash Media Server または FVSS からストリーミングされます。XML ファイルの URL も、Flash Media Server または FVSS からの FLV ファイルのストリーミングの場合があります。

注意

[コンテンツパス] ダイアログボックスで [OK] をクリックすると、cuePoints パラメータの値が更新されます。これは、コンテンツパスが変更された場合、このパラメータは適用されなくなる可能性があるためです。そのため、ActionScript キューポイント以外の無効なキューポイントは失われる可能性があります。新しい FLV ファイルに同じキューポイントが含まれている場合、無効なキューポイントは失われません。これは、パスを変更した場合に発生する可能性があります。この理由により、ActionScript キューポイント以外のキューポイントを無効にするには、[キューポイント] ダイアログボックスを使用するのではなく、ActionScript を使用します。

複数の帯域幅で複数の FLV ファイルストリームを再生する方法を記述した SMIL ファイルの場所を 指定することもできます。このファイルでは、SMIL (Synchronized Multimedia Integration Language) を使用して FLV ファイルを記述します。SMIL ファイルの詳細については、226 ページの 「SMIL ファイルの使用」を参照してください。

ActionScript の FLVP1ayback.source プロパティ、FLVP1ayback.play() メソッド、および FLVP1ayback.load() メソッドを使用して FLV ファイルの名前と場所を指定することもできます。 これら 3 つの方法は、[コンポーネントインスペクタ] パネルの source パラメータよりも優先されます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVP1ayback クラスの FLVP1ayback.source、FLVP1ayback.play()、および FLVP1ayback.load() の各項目を参照してください。

FLV ファイルのオプション

[コンテンツパス] ダイアログボックスには 2 つのオプションがあります。最初のオプションである [ソースとなる FLV のサイズに合わせる] では、ステージ上の FLVPlayback インスタンスをソースとなる FLV ファイルのサイズに合わせるかどうかを指定します。ソースとなる FLV ファイルには、再生のための推奨の高さと幅が含まれます。最初のオプションを選択した場合、FLVPlayback インスタンスのサイズは、推奨のサイズに合わせて変更されます。ただし、このオプションを使用できるのは、2番目のオプションをオンにした場合のみです。

2番目のオプションである [キューポイントとサイズに合わせて FLV をダウンロードする] が有効になるのは、コンテンツパスが HTTP URL または RTMP URL である場合のみです。つまり、FLV ファイルがローカルではない場合です (末尾が .flv でないパスもネットワークパスであると見なされます。これは、ファイルが XML ファイルである必要があり、任意の場所にある FLV ファイルを示す可能性があるためです)。このオプションでは、FLV ファイルのサイズおよびファイル内に埋め込まれたキューポイントの定義を取得するために、FLV ファイルの一部をダウンロードするかストリーミングするかを指定します。 FLV Playback インスタンスのサイズ変更にはサイズが使用され、 [コンポーネントインスペクタ] パネルの cuePoints パラメータにキューポイントの定義がロードされます。このオプションが選択されていない場合は、最初のオプションが無効になります。

ライブプレビューの使用

FLVPlayback の preview パラメータでは、ステージ上のコンポーネントでソース FLV ファイルのフレームを表示でき、コンポーネントに加えた変更も確認できます。preview パラメータをクリックすると、ソース FLV ファイルの SWF ファイルを再生する次のようなダイアログボックスが開きます。



ライブプレビューのフレームを選択するダイアログボックス

ステージ上のコンポーネントのプレビュー用に取り込むシーンに FLV ファイルが到達したら、[OK] をクリックします。ステージ上のコンポーネントに FLV ファイルのフレームを表示すると、アプリケーションの他の要素との関係をふまえてステージ上で確認できます。

また、選択したフレームをエクスポートし、PNG (Portable Network Graphics) ファイルとして任意の場所に保存できます。

フルスクリーンのサポート

ActionScript 3.0 バージョンの FLVPlayback では、フルスクリーンモードがサポートされています。これには、Flash Player 9.0.28.0 を使用していることと、フルスクリーン表示用に HTML が正しく設定されていることが必要です。一部のデザイン済みスキンには、フルスクリーンモードのオンとオフを切り替えるためのトグルボタンが用意されています。FullScreenButton は、次の図のコントロールバーの右側に表示されています。



コントロールバーのフルスクリーンアイコン

フルスクリーンモードのサポートには、fullScreenBackgroundColor、fullScreenSkinDelay、および fullScreenTakeOver の各プロパティが含まれています。これらの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

複数の FLV ファイルの再生でのレイアウトの配置

ActionScript 3.0 の FLV Playback には align プロパティがあります。 FLV ファイルのサイズを変更したときに中央に配置したり、コンポーネントの上、下、左、または右に配置するように指定するプロパティです。コンポーネントの x、y、width、および height の各プロパティに加えて、ActionScript 3.0 のコンポーネントには、registrationX、registrationY、registrationWidth、および registrationHeight の各プロパティもあります。 最初は、これらは x、y、width、および height の各プロパティと同じです。 続いて別の FLV ファイルを読み込んだときに、自動再レイアウトではこれらは変更されないので、新しい FLV ファイルを同じ場所の中央に配置できます。 scaleMode = VideoScaleMode MAINTAIN_ASPECT_RATIO の場合、コンポーネントの幅と高さを変更するのではなく、後から読み込んだ FLV ファイルをコンポーネントの元のサイズに合わせることができます。

プログレッシブダウンロードされる FLV ファイルの自動 再生

プログレッシブダウンロードされる FLV ファイルを FLV Playback で読み込む場合、再生が開始されるのは、FLV ファイルのダウンロードが十分に済み、FLV ファイルを最初から最後まで再生できるようになってからです。

ダウンロードが途中の段階で FLV ファイルを再生するには、パラメータを付けずに play() メソッドを呼び出します。

十分な FLV ファイルがダウンロードされるまで待機する状態に戻るには、pause() メソッドを呼び出し、playWhenEnoughDownloaded() メソッドを呼び出します。

キューポイントの使用

キューポイントは、FLV ファイルの再生中にビデオプレーヤーが cuePoint イベントを送出するポイントです。キューポイントは、Web ページ上の別のエレメントでアクションを発生させたいときに、FLV ファイルに追加することができます。たとえばテキストやグラフィックを表示する、Flash アニメーションと同期する、FLV ファイルを一時停止して再生を操作する、ビデオの別のポイントをシークする、別の FLV ファイルに切り替えることなどがあります。キューポイントを使用すると、ActionScript コードで制御を受け取り、FLV ファイルのそれらのポイントを Web ページ上の他のアクションと同期することができます。

キューポイントには、ナビゲーションキューポイント、イベントキューポイント、および ActionScript キューポイントの 3 種類があります。ナビゲーションキューポイントおよびイベントキューポイントは、埋め込みキューポイントとも呼ばれます。これは、FLV ファイルストリームおよび FLV ファイルのメタデータパケットに埋め込まれるためです。

ナビゲーションキューポイントを使用すると、FLV ファイルの特定のフレームをシークすることができます。これは、FLV ファイル内で、指定する時間に可能な限り近い時間にキーフレームが作成されるためです。キーフレームは、FLV ファイルストリーム内のイメージフレーム間で発生するデータセグメントです。ナビゲーションキューポイントをシークすると、コンポーネントはキーフレームをシークし、cuePoint イベントを開始します。

イベントキューポイントを使用すると、FLV ファイル内の時点を、Web ページ上の外部イベントと同期することができます。cuePoint イベントは、指定した時間に正確に発生します。FLV ファイルにナビゲーションキューポイントおよびイベントキューポイントを埋め込むには、ビデオの読み込みウィザードまたは Flash Video Encoder を使用します。ビデオの読み込みウィザードと Flash Video Encoder の詳細については、『Flash ユーザーガイド』の第16章「ビデオの操作」を参照してください。

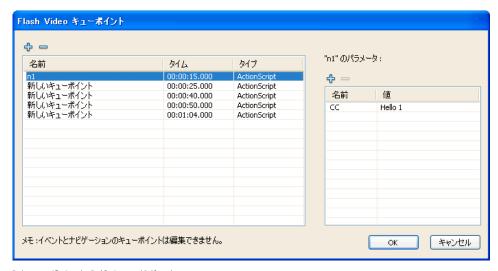
ActionScript キューポイントは、コンポーネントの [Flash Video キューポイント] ダイアログボックスまたは FLVP1ayback.addASCuePoint() メソッドを使って追加できる外部キューポイントです。コンポーネントは FLV ファイルとは別に ActionScript キューポイントを格納および追跡します。その結果、最終的な正確さは埋め込みキューポイントよりも劣ります。ActionScript キューポイントは、1/10 秒単位までは正確です。ActionScript キューポイントの精度を上げるには、playheadUpdateInterval プロパティの値を下げます。これは、再生ヘッドが更新されるときに、コンポーネントが ActionScript キューポイント用の cuePoint イベントを生成するためです。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.playheadUpdateInterval プロパティを参照してください。

ActionScript および FLV ファイルのメタデータ内では、キューポイントは name、time、type、および parameters の各プロパティを持つオブジェクトとして表されます。name プロパティは、キューポイントに割り当てられた名前を含むストリングです。time プロパティは、キューポイントが発生する時、分、秒、およびミリ秒 (HH:MM:SS.mmm) を表す数値です。type プロパティは、作成したキューポイントの種類に応じて値が "navigation"、"event"、または "actionscript" となるストリングです。parameters プロパティは、指定した名前と値のペアの配列です。

cuePoint イベントが発生すると、info プロパティを通じてイベントオブジェクトでキューポイントオブジェクトを使用できるようになります。詳細については、203 ページの「cuePoint イベントの監視」を参照してください。

[Flash Video キューポイント] ダイアログボックスの使用

[Flash Video キューポイント] ダイアログボックスを開くには、[コンポーネントインスペクタ] パネルで cuePoints パラメータの [値] セルをダブルクリックします。このダイアログボックスの外観を次の図に示します。



[キューポイント]ダイアログボックス

このダイアログボックスには、埋め込みキューポイントおよび ActionScript キューポイントが表示されます。このダイアログボックスを使用すると、ActionScript キューポイントおよびキューポイントパラメータの追加と削除ができます。埋め込みキューポイントを有効または無効にすることもできます。ただし、埋め込みキューポイントを追加、変更、または削除することはできません。

ActionScript キューポイントを追加するには:

- キューポイントのリストの上の左上隅にあるプラス記号(+)をクリックして、デフォルトの ActionScript キューポイント項目を追加します。
- **3.** [名前]列の[新しいキューポイント]というテキストをクリックし、テキストを編集してキューポイントに名前を付けます。

- **4.** 時間値 [OO:OO:OO:OOO] をクリックして編集し、キューポイントが発生する時間を割り当てます。 時間は、時、分、秒、およびミリ秒 (HH:MM:SS.mmm) で指定します。
 - 複数のキューポイントが存在する場合、新しいキューポイントはリスト内で時系列順に移動されます。
- 5. 選択したキューポイントのパラメータを追加するには、[パラメータ]セクションの上のあるプラス記号(+)をクリックして、[名前]列および[値]列に値を入力します。パラメータごとに、この手順を繰り返します。
- 6. さらに多くの ActionScript キューポイントを追加するには、パラメータごとに手順 $2\sim5$ を繰り返します。
- 7. [OK] をクリックして変更を保存します。

ActionScript キューポイントを削除するには:

- [コンポーネントインスペクタ] パネルで cuePoints パラメータの[値] セルをダブルクリックし、 [Flash Video キューポイント] ダイアログボックスを開きます。
- 2. 削除するキューポイントを選択します。
- 3. キューポイントのリストの上の左上隅にあるマイナス記号 (-) をクリックして、キューポイントを 削除します。
- **4.** 削除するキューポイントごとに手順2および3を繰り返します。
- 5. [OK] をクリックして変更を保存します。

FLV ファイルの埋め込みキューポイントを有効または無効にするには:

- [コンポーネントインスペクタ] パネルで cuePoints パラメータの[値] セルをダブルクリックし、 [Flash Video キューポイント] ダイアログボックスを開きます。
- 2. 有効または無効にするキューポイントを選択します。
- 3. [タイプ]列で値をクリックしてポップアップメニューを開くか、下矢印ボタンをクリックします。
- **4.** キューポイントを有効にするには、そのタイプの名前(たとえば[イベント]または[ナビゲーション])をクリックします。 キューポイントを無効にするには、「無効]をクリックします。
- 5. [OK] をクリックして変更を保存します。

ActionScript とキューポイントの使用

ActionScript を使用すると、ActionScript キューポイントの追加、cuePoint イベントの監視、任意 のタイプまたは特定のタイプのキューポイントの検索、ナビゲーションキューポイントのシーク、 キューポイントの有効化または無効化、キューポイントが有効であるかどうかの確認、およびキュー ポイントの削除ができます。

このセクションの例では、"cuepoints.flv" という名前の FLV ファイルを使用します。このファイル には、次の3つのキューポイントが含まれています。

名前	時刻	種類
point1	00:00:00.418	ナビゲーション
point2	00:00:07.748	ナビゲーション
point3	00:00:16.020	ナビゲーション

ActionScript キューポイントの追加

ActionScript キューポイントを FLV ファイルに追加するには、addASCuePoint() メソッドを使用し ます。次の例では、再生の準備ができたときに2つの ActionScript キューポイントを FLV ファイル に追加します。キューポイントオブジェクトを使用して最初のキューポイントを追加します。キュー ポイントのプロパティで、その時間、名前、およびタイプを指定します。2番目の呼び出しでは、メ ソッドの time パラメータおよび name パラメータを使って時間と名前を指定します。

```
import fl.video.*;
import fl.video.MetadataEvent;
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv"
var cuePt:Object = new Object(); //create cue point object
cuePt.time = 2.02;
cuePt.name = "ASpt1";
cuePt.type = "actionscript";
my_FLVPlybk.addASCuePoint(cuePt); //add AS cue point
// add 2nd AS cue point using time and name parameters
my_FLVPlybk.addASCuePoint(5, "ASpt2");
```

詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.addASCuePoint()メソッドを参照してください。

cuePoint イベントの監視

cuePoint イベントを使用すると、cuePoint イベントが発生したときに、ActionScript コードで制 御を受け取ることができます。次の例でキューポイントが発生したときに、cuePoint リスナーは playheadTime プロパティの値およびキューポイントの名前とタイプを表示するイベントハンドラ関 数を呼び出します。

```
my_FLVPlybk.addEventListener(MetadataEvent.CUE_POINT, cp_listener);
function cp listener(event0bject:MetadataEvent):void {
     trace("Elapsed time in seconds: " + my_FLVPlybk.playheadTime);
    trace("Cue point name is: " + eventObject.info.name);
    trace("Cue point type is: " + eventObject.info.type);
```

cuePoint イベントの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.cuePoint イベントを参照してください。

キューポイントの検索

ActionScript を使用すると、任意のタイプのキューポイントの検索、時間に対して最も近いキューポ イントの検索、または指定した名前を持つ次のキューポイントの検索ができます。

次の例の ready_listener() イベントハンドラは、findCuePoint() メソッドを呼び出してキュー ポイント ASpt1 を検索し、findNearestCuePoint() メソッドを呼び出して、キューポイント ASpt1 の時間に最も近いナビゲーションキューポイントを検索します。

```
import fl.video.FLVPlayback:
import fl.video.CuePointType;
import fl.video.VideoEvent;
my FLVPlvbk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv"
var rtn obj:Object; //create cue point object
my_FLVPlybk.addASCuePoint(2.02, "ASpt1"); //add AS cue point
function ready_listener(event0bject:VideoEvent):void {
  rtn obj = my FLVPlybk.findCuePoint("ASpt1", CuePointType.ACTIONSCRIPT);
  traceit(rtn obj);
  rtn_obj = my_FLVPlybk.findNearestCuePoint(rtn_obj.time.
  CuePointType.NAVIGATION);
  traceit(rtn obj);
my FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.READY, ready listener);
function traceit(cuePoint:Object):void {
  trace("Cue point name is: " + cuePoint.name);
  trace("Cue point time is: " + cuePoint.time);
  trace("Cue point type is: " + cuePoint.type);
```

次の例では、ready_listener() イベントハンドラはキューポイント ASpt を検索し、 findNextCuePointWithName()メソッドを呼び出して、同じ名前を持つ次のキューポイントを検索 します。

```
import fl.video.*;
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv"
var rtn_obj:Object; //create cue point object
my_FLVPlybk.addASCuePoint(2.02, "ASpt"); //add AS cue point
mv FLVPlvbk.addASCuePoint(3.4. "ASpt"): //add 2nd Aspt
my FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.READY, ready listener);
function ready_listener(eventObject:VideoEvent):void {
  rtn_obj = my_FLVPlybk.findCuePoint("ASpt", CuePointType.ACTIONSCRIPT);
  traceit(rtn obj);
  rtn_obj = my_FLVPlybk.findNextCuePointWithName(rtn_obj);
  traceit(rtn obi):
function traceit(cuePoint:Object):void {
  trace("Cue point name is: " + cuePoint.name);
  trace("Cue point time is: " + cuePoint.time);
  trace("Cue point type is: " + cuePoint.type);
キューポイントの検索の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の
```

FLVPlayback.findCuePoint()メソッド、FLVPlayback.findNearestCuePoint()メソッド、 および FLVPlayback.findNextCuePointWithName() メソッドを参照してください。

ナビゲーションキューポイントのシーク

```
ナビゲーションキューポイントのシーク、指定した時間から後の次のナビゲーションキューポイント
のシーク、および指定した時間から前のナビゲーションキューポイントのシークができます。次の例
では、FLV ファイル cuepoints.flv を再生し、ready イベントが発生したときに、7.748 にある
キューポイントをシークします。cuePoint イベントが発生すると、seekToPrevNavCuePoint()メ
ソッドを呼び出して最初のキューポイントをシークします。この cuePoint イベントが発生すると、
seekToNextNavCuePoint()メソッドを呼び出して、現在のキューポイントの時間である
eventObject.info.time に 10 秒を足して、最後のキューポイントをシークします。
import fl.video.*;
my FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.READY, ready listener);
function ready_listener(eventObject:Object):void {
  my_FLVPlybk.seekToNavCuePoint("point2");
my_FLVPlybk.addEventListener(MetadataEvent.CUE_POINT, cp_listener);
function cp listener(event0bject:MetadataEvent):void {
  trace(eventObject.info.time);
  if(eventObject.info.time == 7.748)
    my_FLVPlybk.seekToPrevNavCuePoint(eventObject.info.time - .005);
  else
   my_FLVPlybk.seekToNextNavCuePoint(eventObject.info.time + 10);
my_FLVPlybk.source = "http://helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv";
```

詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.seekToNavCuePoint()メソッド、FLVPlayback.seekToNextNavCuePoint() メソッド、および FLVPlavback.seekToPrevNavCuePoint() メソッドを参照してください。

FLV ファイルの埋め込みキューポイントの有効化と無効化

FLV ファイルの埋め込みキューポイントを有効または無効にするには、setFLVCuePointEnabled() メ ソッドを使用できます。無効になっているキューポイントは cuePoint イベントをトリガせず、 seekToCuePoint()、seekToNextNavCuePoint()、および seekToPrevNavCuePoint() の各メソッ ドに対して機能しません。ただし、findCuePoint()、findNearestCuePoint()、および findNextCuePointWithName()の各メソッドを使用すると、無効になっているキューポイントを検索 することができます。

FLV ファイルの埋め込みキューポイントが有効になっているかどうかは、isFLVCuePointEnabled() メソッドを使用してテストできます。次の例では、ビデオの再生準備ができたときに、埋め込みキュー ポイント point2 および point3 を無効にします。ただし、最初の cuePoint イベントが発生すると、イ ベントハンドラはキューポイント point3 が無効になっているかどうかを確認し、無効の場合はそれを 有効にします。

```
import fl.video.*:
my FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv";
my_FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.READY, ready_listener);
function ready_listener(eventObject:VideoEvent):void {
  my FLVPlybk.setFLVCuePointEnabled(false, "point2");
  my FLVPlybk.setFLVCuePointEnabled(false, "point3");
my_FLVPlybk.addEventListener(MetadataEvent.CUE_POINT, cp_listener);
function cp_listener(eventObject:MetadataEvent):void {
     trace("Cue point time is: " + eventObject.info.time):
    trace("Cue point name is: " + eventObject.info.name);
    trace("Cue point type is: " + eventObject.info.type);
     if (my_FLVPlybk.isFLVCuePointEnabled("point2") == false) {
       my FLVPlybk.setFLVCuePointEnabled(true, "point2");
     }
```

詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.isFLVCuePointEnabled()メソッドおよび FLVPlayback.setFLVCuePointEnabled() メソッドを参照してください。

ActionScript キューポイントの削除

ActionScript キューポイントを削除するには、removeASCuePoint() メソッドを使用します。次の例 では、キューポイント ASpt1 が発生したときに、キューポイント ASpt2 を削除します。

```
import fl.video.*;
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv"
my_FLVPlybk.addASCuePoint(2.02, "ASpt1"); //add AS cue point
my_FLVPlybk.addASCuePoint(3.4, "ASpt2"); //add 2nd Aspt
my_FLVPlybk.addEventListener(MetadataEvent.CUE_POINT, cp_listener);
function cp_listener(eventObject:MetadataEvent):void {
    trace("Cue point name is: " + eventObject.info.name);
    if (eventObject.info.name == "ASpt1") {
      my_FLVPlybk.removeASCuePoint("ASpt2");
       trace("Removed cue point ASpt2");
詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の
```

FLVPlayback.removeASCuePoint()を参照してください。

複数の FLV ファイルの再生

FLVPlayback インスタンスで FLV ファイルを連続して再生するには、前の FLV ファイルの再生が 終了したときに、source プロパティに新しい URL をロードします。たとえば、次の ActionScript コードでは、complete イベントを監視します。このイベントは、FLV ファイルが再生を終了したと きに発生します。このイベントが発生したら、新しい FLV ファイルの名前と場所を source プロパ ティに設定し、play()メソッドを呼び出して新しいビデオを再生します。

```
import fl.video.*;
my FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/clouds.flv";
my_FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.COMPLETE, complete_listener);
// listen for complete event; play new FLV
function complete_listener(eventObject:VideoEvent):void {
  if (my_FLVPlybk.source == "http://www.helpexamples.com/flash/video/
  clouds.flv") {
    my_FLVPlybk.play("http://www.helpexamples.com/flash/video/water.flv");
}:
```

複数のビデオプレーヤーの使用

FLVPlayback コンポーネントの1つのインスタンス内で複数のビデオプレーヤーを開き、複数のビデオを再生して、再生中にそれらを切り替えることもできます。

FLVPlayback コンポーネントをステージにドラッグすると、最初のビデオプレーヤーを作成できます。最初のビデオプレーヤーには自動的に数値 O が割り当てられ、これがデフォルトプレーヤーとなります。追加のビデオプレーヤーを作成するには、activeVideoPlayerIndex プロパティに新しい数値を設定します。activeVideoPlayerIndex プロパティの設定により、指定したビデオプレーヤーがアクティブなビデオプレーヤーになります。これは、FLVPlayback クラスのプロパティとメソッドによって制御されるビデオプレーヤーです。ただし、activeVideoPlayerIndex プロパティを設定しても、ビデオプレーヤーは表示されません。ビデオプレーヤーを表示するには、visibleVideoPlayerIndex プロパティにビデオプレーヤーの番号を設定します。これらのプロパティと FLVPlayback クラスのメソッドおよびプロパティとの連係の詳細については、「ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド」の FLVPlayback.activeVideoPlayerIndex プロパティおよび FLVPlayback.visibleVideoPlayerIndex プロパティを参照してください。

次の ActionScript コードは、source プロパティをロードしてデフォルトプレーヤーで FLV ファイルを再生し、そのキューポイントを追加します。ready イベントが発生すると、イベントハンドラは activeVideoPlayerIndex プロパティに数値 1を設定して 2 番目のビデオプレーヤーを開きます。また、2 番目のビデオプレーヤーの FLV ファイルおよびキューポイントを指定し、デフォルトプレーヤー (O) を再びアクティブなビデオプレーヤーにします。

```
/**
    Requires:
        - FLVPlayback component on the Stage with an instance name of my_FLVPlybk
*/
// add a cue point to the default player
import fl.video.*;
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/clouds.flv";
my_FLVPlybk.addASCuePoint(3, "1st_switch");
my_FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.READY, ready_listener);
function ready_listener(eventObject:VideoEvent):void {
            // add a second video player and create a cue point for it
            my_FLVPlybk.activeVideoPlayerIndex = 1;
            my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/water.flv";
            my_FLVPlybk.addASCuePoint(3, "2nd_switch");
            my_FLVPlybk.activeVideoPlayerIndex = 0;
}:
```

1つの FLV ファイルが再生中に別の FLV ファイルに切り替えるには、ActionScript コードで切り替えを行う必要があります。キューポイントを使用すると、cuePoint イベントを使用して、FLV ファイルで特定のポイントに介入することができます。次のコードでは、cuePoint イベントのリスナーを作成します。次に、アクティブなビデオプレーヤー (O) を一時停止し、2番目のプレーヤー (1) に切り替え、その FLV ファイルを再生するハンドラ関数を呼び出します。

```
import fl.video.*;
// add listener for a cuePoint event
my_FLVPlybk.addEventListener(MetadataEvent.CUE_POINT, cp_listener);
// add the handler function for the cuePoint event
function cp listener(eventObject:MetadataEvent):void {
    // display the no. of the video player causing the event
    trace("Hit cuePoint event for player: " + eventObject.vp);
    // test for the video player and switch FLV files accordingly
    if (event0bject.vp == 0) {
       my FLVPlybk.pause(); //pause the first FLV file
       my_FLVPlybk.activeVideoPlayerIndex = 1; // make the 2nd player active
       my_FLVPlybk.visibleVideoPlayerIndex = 1; // make the 2nd player visible
       my FLVPlybk.play(); // begin playing the new player/FLV
    } else if (eventObject.vp == 1) {
       my FLVPlybk.pause(); // pause the 2nd FLV
       my_FLVPlybk.activeVideoPlayerIndex = 0; // make the 1st player active
       my_FLVPlybk.visibleVideoPlayerIndex = 0; // make the 1st player visible
       my_FLVPlybk.play(); // begin playing the 1st player
my FLVPlybk.addEventListener(VideoEvent.COMPLETE, complete listener);
function complete listener(eventObject:VideoEvent):void {
    trace("Hit complete event for player: " + eventObject.vp);
    if (eventObject.vp == 0) {
       my_FLVPlybk.activeVideoPlayerIndex = 1;
       my_FLVPlybk.visibleVideoPlayerIndex = 1;
       my FLVPlybk.play();
    } else {
      my_FLVPlybk.closeVideoPlayer(1);
}:
```

新しいビデオプレーヤーを作成すると、FLVPlayback インスタンスはそのプロパティにデフォルト ビデオプレーヤーの値を設定します。ただし、source、total Time、および is Live の各プロパティ は例外であり、これらに関しては常にデフォルト値である空のストリング、O、および false にそれ ぞれ設定されます。また、autoPlay プロパティも設定されます。このプロパティはデフォルトで true になり、デフォルトビデオプレーヤーの場合は false になります。cuePoints プロパティには効果 がなく、デフォルトビデオプレーヤーへのそれ以降のロードには無効です。

ボリューム、位置、サイズ、可視性、およびユーザーインターフェイスコントロールを制御するメソッ ドとプロパティは常にグローバルであり、そのビヘイビアは active Video Player Index プロパティを 設定しても影響を受けません。これらのメソッドとプロパティ、および activeVideoPlayerIndex プ ロパティを設定する効果の詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.activeVideoPlayerIndex プロパティを参照してください。その他のプロパティとメ ソッドは、activeVideoPlayerIndex プロパティの値で識別されるビデオプレーヤーをターゲットと します。

ただし、サイズを制御するプロパティとメソッドは、visibleVideoPlayerIndex プロパティによって影響を受けます。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.visibleVideoPlayerIndex プロパティを参照してください。

Flash Media Server からの FLV ファイルのストリーミング

Flash Media Server から FLV ファイルをストリーミング再生するための要件は、Flash Video Streaming Service プロバイダからネイティブの帯域幅検出を利用できるかどうかによって異なります。ネイティブの帯域幅検出とは、帯域幅検出がストリーミングサーバーに組み込まれているということであり、パフォーマンスに優れています。ネイティブの帯域幅検出を利用できるかどうかについては、プロバイダに確認してください。

Flash Media Server 上の FLV ファイルにアクセスするには、rtmp://kmy_servername/my_application/stream.xflv のような URL を使用します。

Flash Media Server を使用してライブストリームを再生する場合は、FLVPlayback の isLive プロパティを true に設定する必要があります。詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の FLVPlayback.isLive プロパティを参照してください。

ライブストリームの設定方法を含めた Flash Media Server の管理の詳細については、Flash Media Server のドキュメント (www.adobe.com/support/documentation/jp/flashmediaserver/) を参照してください。

ネイティブの帯域幅検出の場合と帯域幅検出なしの場合

NCManagerNative クラスは NCManager のサブクラスで、一部の Flash Video Streaming Service プロバイダがサポートするネイティブな帯域幅検出に対応しています。NCManagerNative を使用するとき、Flash Media Server 上に特別なファイルは不要です。また、NCManagerNative では、帯域幅検出が不要な場合、どのバージョンの Flash Media Server にも main.asc ファイルなしで接続できます。

デフォルトの NCManager クラスの代わりに NCManagerNative を使用するには、FLA ファイルの 最初のフレームに次のコードを追加します。

import fl.video*;

VideoPlayer.iNCManagerClass = fl.video.NCManagerNative;

非ネイティブの帯域幅検出の場合

Flash Video Streaming Service プロバイダでネイティブの帯域幅検出を利用できないが、帯域幅検出が必要な場合には、Flash Media Server の FLV アプリケーションに main.asc ファイルを追加する必要があります。"main.asc" ファイルは、Flash アプリケーションフォルダの "Adobe Flash CS3/ Samples and Tutorials/Samples/Components/FLVPlayback/main.asc" にあります。

FLV ファイルのストリーミングのために Flash Media Server をセットアップするには:

- 1. Flash Media Server アプリケーションフォルダにフォルダを作成し、my_application のような 名前を付けます。
- 2. "main.asc" ファイルを "my_application" フォルダにコピーします。
- 3. "streams" という名前のフォルダを "my_application" フォルダ内に作成します。
- 4. "definst "という名前のフォルダを "streams" フォルダ内に作成します。
- 5. FLV ファイルを "_definst_" フォルダに配置します。

FLVPlayback コンポーネントのカスタマイズ

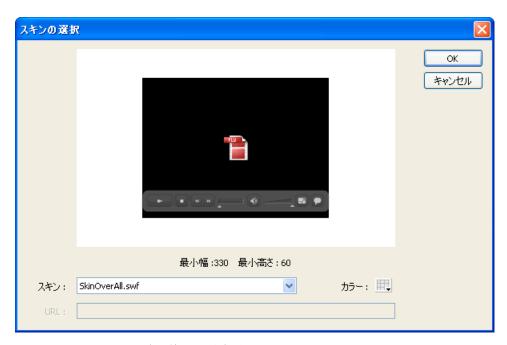
ここでは、FLVPlayback コンポーネントをカスタマイズする方法について説明します。なお、他のコンポーネントのカスタマイズに使用されるほとんどの方法は、FLVPlayback コンポーネントでは機能しません。FLVPlayback コンポーネントをカスタマイズするには、このセクションで説明しているテクニックのみを使用します。

FLVPlayback コンポーネントのカスタマイズでは、デザイン済みスキンの選択、FLV Playback カスタム UI コンポーネントへの個々のスキンの適用、または新規スキンの作成の選択肢があります。 FLVPlayback プロパティを使用してスキンのビヘイビアを変更することもできます。

H X スキンが FLVPlayback コンポーネントで機能するためには、スキン SWF ファイルをアプリケーション SWF ファイルと共に Web サーバーにアップロードする必要があります。

デザイン済みスキンの選択

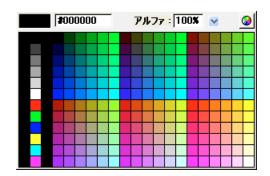
FLVPlayback コンポーネントのスキンを選択するには、[コンポーネントインスペクタ]パネルで skin パラメータの[値]セルをクリックします。次に、拡大鏡アイコンをクリックして、次に示す[スキンの選択]ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、スキンを選択するか、スキン SWF ファイルの場所を示す URL を指定します。



FLVPlayback の [スキンの選択] ダイアログボックス

[スキン] ポップアップメニューに表示されるスキンは、"Flash Configuration/FLVPlayback Skins/ActionScript 3.0/" フォルダに配置されています。このダイアログボックスで新しいスキンを使用できるようにするには、スキンを作成して、SWF ファイルをこのフォルダに置きます。この名前は、.swf 拡張子と共にポップアップメニューに表示されます。スキンセットの作成の詳細については、220 ページの「新規スキンの作成」を参照してください。

skin プロパティを設定して割り当てるスキン (オーサリングの際に skin パラメータを設定するか、または実行時に ActionScript で割り当てるスキン) については、スキンの選択とは別個に、色およびアルファ (透明度)の値を割り当てることができます。オーサリング時に色およびアルファ値を割り当てるには、「スキンの選択] ダイアログボックスで、次のようなカラーピッカーを開きます。



色を選択するには、パネルの色見本をクリックするか、またはテキストボックスに数値を入力します。 アルファ値を選択するには、スライダを使用するか、[アルファ]テキストボックスにパーセントの 値を入力します。

実行時に色およびアルファ値を割り当てるには、skinBackgroundColor プロパティと skinBackgroundAlpha プロパティを設定します。skinBackgroundColor プロパティは OxRRGGBB (赤、緑、青)の値で設定します。skinBackgroundAlpha プロパティは $0.0\sim1.0$ の 数値に設定します。次の例では、skinBackgroundColor を OxFFOOOO (赤)に、skinBackgroundAlpha を .5 に、それぞれ設定しています。

my_FLVPlybk.skinBackgroundColor = 0xFF0000; my_FLVPlybk.skinBackgroundAlpha = .5;

デフォルト値は、ユーザーが最後に選択した値です。

FLV Playback カスタム UI コンポーネントを使用して FLVPlayback コンポーネントにスキンを適用する場合は、ポップアップメニューから [なし]を選択します。

FLV Playback カスタム UI コンポーネントへの個々のスキンの適用

FLV Playback カスタム UI コンポーネントを使用すると、FLA ファイル内で FLV Playback コントロールの外観をカスタマイズし、Web ページをプレビューしたときに結果を表示することができます。ただし、これらのコンポーネントは、拡大 / 縮小するようにはなっていません。ムービークリップとそのコンテンツは特定のサイズとなるように編集する必要があります。このため、通常は FLV Playback コンポーネントを目的のサイズでステージに配置し、scale Mode を exact Fit に設定することをお勧めします。

最初に、[コンポーネント] パネルから FLV Playback カスタム UI コンポーネントをドラッグし、ステージ上の目的の場所に配置して、インスタンス名を付けます。

これらのコンポーネントは ActionScript なしでも機能します。これらを FLVPlayback コンポーネントと同じタイムラインおよびフレームに配置し、FLVPlayback コンポーネントにスキンが設定されていない場合、FLVPlayback コンポーネントはこれらのコンポーネントに自動的に接続します。ステージ上に複数の FLVPlayback コンポーネントがある場合、またはカスタムコントロールと FLVPlayback インスタンスが同じタイムラインにない場合には、ActionScript が必要です。

ステージにコンポーネントを配置したら、他のシンボルと同じように編集します。コンポーネントを開くと、各コンポーネントの設定は他のコンポーネントと少し異なることがわかります。

ボタンコンポーネント

ボタンコンポーネントは同じような構造を持っています。ボタンには、BackButton、ForwardButton、MuteButton、PauseButton、PlayButton、PlayPauseButton、および StopButton があります。ほとんどのボタンには、placeholder_mc というインスタンス名を持つフレーム1に1つのムービークリップがあります。通常、これはボタンの通常状態のインスタンスですが、必ずしもそうであるとは限りません。フレーム 2 では、各表示状態(通常、オーバー、ダウン、無効)に対して、ステージ上に 4つのムービークリップがあります。実行時には、コンポーネントが実際にフレーム 2 に移動することはありません。ムービークリップがここに配置されるのは、編集を簡単にし、[シンボルプロパティ]ダイアログボックスの[最初のフレームに書き出し]チェックボックスをオンにすることなく SWF ファイルにロードするためです。ただし、[最初のフレームに書き出し]チェックボックスはオンにする必要があります。

ボタンにスキンを適用するには、各ムービークリップを編集します。そのサイズと外観を変更することができます。

通常、一部の ActionScript はフレーム 1 に表示されます。このスクリプトを編集する必要はありません。フレーム 1 で再生ヘッドが停止され、どのムービークリップをどの状態で使用するのかが指定されます。

PlayPauseButton ボタン、MuteButton ボタン、FullScreenButton ボタン、および CaptionButton ボタン

PlayPauseButton ボタン、MuteButton ボタン、FullScreenButton ボタン、および CaptionButton ボタンは、他のボタンとは設定が異なり、これらのボタンには、2つのレイヤーがありスクリプトの ない1つのフレームのみが含まれます。このフレームには2つのボタンがあり、上下に重ねて配置されています。PlayPauseButton の場合は [再生]ボタンと [一時停止]ボタン、MuteButton の場合は [ミュートオン]ボタンと [ミュートオフ]ボタン、FullScreenButton の場合は [フルスクリーンオン]ボタンと [フルスクリーンオフ]ボタン、CaptionButton の場合は [キャプションオン]ボタンと [キャプションオフ]ボタンです。これらのボタンにスキンを適用するには、212ページの「FLV Playback カスタム UI コンボーネントへの個々のスキンの適用」に示す方法で、これら 2つの内部ボタンそれぞれにスキンを適用します。それ以外の操作は不要です。

CaptionButton は FLVPlaybackCaptioning コンポーネント用であり、そちらに接続する必要があります。 FLVPlayback コンポーネントではありません。

BackButton ボタンおよび ForwardButton ボタン

BackButton ボタンおよび ForwardButton ボタンも、他のボタンとは設定が異なります。フレーム 2 には、1 つまたは両方のボタンの周囲のフレームとして使用できる追加のムービークリップがあります。このムービークリップは必須ではなく、特別な機能はありません。便宜上の目的のためだけに用意されています。このムービークリップを使用するには、[ライブラリ]パネルからステージにドラッグし、目的の場所に配置します。必要ない場合は、使用しないか、[ライブラリ]パネルから削除します。

用意されているほとんどのボタンは、共通のムービークリップセットに基づいているので、すべてのボタンの外観を一度に変更することができます。この機能を使用するか、共通クリップを置き換えて、すべてのボタンの外観を異なるものに変更できます。

BufferingBar コンポーネント

バッファリングバーコントロールは簡単です。バッファリングバーコントロールは、コンポーネントがバッファリング状態に移行したときに表示されるアニメーションで構成され、設定するのに特別な ActionScript は必要ありません。デフォルトでは、"理髪店の看板柱"のようなエフェクトを与える ために、矩形のマスクを持つ、左から右に移動するストライプのバーとなりますが、この設定に特別 なことはありません。

スキン SWF ファイルのバッファリングバーでは、実行時に拡大 / 縮小する必要があるために 9 スライスの拡大 / 縮小が使用されますが、BufferingBar FLV カスタム UI コンポーネントにはネストされたムービークリップが含まれるため、9 スライスの拡大 / 縮小を使用することはできません。BufferingBar の幅や高さを大きくする場合は、拡大するのではなくコンテンツを変更してください。

SeekBar コンポーネントおよび VolumeBar コンポーネント

SeekBar コンポーネントと VolumeBar コンポーネントは似ていますが、機能は異なります。各コンポーネントはハンドルを備え、同じハンドル追跡メカニズムを使用し、内部にネストされたクリップの再生状況とロード状況を追跡する機能をサポートしています。

FLVPlayback コンポーネントの ActionScript コードでは、SeekBar コンポーネントまたは VolumeBar コンポーネントの基準点 (原点、ゼロ点)はコンテンツの左上隅にあると見なされる場所が多くあるので、この規則を守ることが重要です。守らないと、ハンドル、再生状況ムービークリップ、およびロード状況ムービークリップに関して問題が発生する可能性があります。

スキン SWF ファイルのスキンバーでは、実行時に拡大 / 縮小する必要があるために 9 スライスの拡大 / 縮小が使用されますが、SeekBar FLV カスタム UI コンポーネントにはネストされたムービークリップが含まれるため、9 スライスの拡大 / 縮小を使用することはできません。SeekBar の幅や高さを大きくする場合は、拡大するのではなくコンテンツを変更してください。

ハンドル

ハンドルムービークリップのインスタンスはフレーム 2 にあります。BackButton コンポーネントおよび ForwardButton コンポーネントと同様に、コンポーネントが実際にフレーム 2 に移動することはありません。ムービークリップがここに配置されるのは、編集を簡単にし、[シンボルプロパティ]ダイアログボックスの[最初のフレームに書き出し]チェックボックスをオンにすることなく SWFファイルにロードするためです。ただし、[最初のフレームに書き出し]チェックボックスはオンにする必要があります。

ハンドルムービークリップは、アルファが O に設定されて背景に矩形を持つことがわかります。この 矩形はハンドルのヒット領域のサイズを増やし、ボタンのヒット状態のように、外観を変更すること なくハンドルをつかみやすくします。ハンドルは実行時に動的に作成されるので、ボタンではなく ムービークリップである必要があります。アルファが O に設定されたこの矩形が必要となるのには他 の理由はなく、通常、ハンドルの内部は任意のイメージで置き換えることができます。ただし、ハンドルムービークリップの中央で基準点を水平方向の中央に維持することが最適です。

次の ActionScript コードは SeekBar コンポーネントのフレーム 1 にあり、ハンドルを管理します。 stop():

handleLinkageID = "SeekBarHandle"; handleLeftMargin = 2; handleRightMargin = 2; handleY = 11:

stop() 関数の呼び出しは、フレーム 2 のコンテンツのために必要となります。

2行目では、ハンドルとして使用するシンボルを指定します。フレーム2のハンドルムービークリップインスタンスを編集するだけの場合は、これを変更する必要はありません。FLVPlayback コンポーネントは実行時に、指定したムービークリップのインスタンスを Bar コンポーネントインスタンスの子としてステージ上に作成します。これにより、同じ親ムービークリップを持つことになります。そのため、バーがルートレベルにある場合は、ハンドルもルートレベルにある必要があります。

変数 handleLeftMargin によりハンドルの元の場所 (0%) が指定され、変数 handleRightMargin により最後の場所 (100%) が指定されます。数値はパーコントロールの左右の端からのオフセットを示し、正の数値はパー内部に限度をマークし、負の数値はパー外部に限度をマークします。これらのオフセットは、基準点に基づいてハンドルが移動できる場所を示します。ハンドルの中央に基準点を配置した場合、ハンドルの左右の端はマージンを越えます。シークパームービークリップが正常に機能するには、そのコンテンツの左上隅に基準点がある必要があります。

変数 handleY により、バーインスタンスを基準にしたハンドルの y 位置が指定されます。これは、各ムービークリップの基準点に基づいています。サンプルハンドルの基準点は、表示される部分に相対的に配置されるように三角形の頂点にあります。非表示のヒット状態矩形は無視されます。また、バームービークリップが正常に機能するには、そのコンテンツの左上隅に基準点を維持する必要があります。

そのため、これらの限度を設定すると、バーコントロールが (100, 100) に設定され、幅が 100 ピクセルである場合、ハンドルは水平方向では 102 \sim 198 の範囲となり、垂直方向では 111 の位置となります。 handleLeftMargin および handleRightMargin に -2 を設定し、handleY に -11 を設定した場合、ハンドルは水平方向では 98 \sim 202 の範囲となり、垂直方向では 89 の位置となります。

再生状況ムービークリップとロード状況ムービークリップ

SeekBar コンポーネントには再生状況ムービークリップがあり、VolumeBar コンポーネントにはロード状況ムービークリップがあります。ただし、実際の個々の SeekBar コンポーネントやVolumeBar コンポーネントには、いずれか一方または両方のムービークリップがある場合もあれば、いずれのムービークリップもない場合もあります。これらのムービークリップは構造的には同じであり、同じように動作しますが、異なる値を追跡します。再生状況ムービークリップは FLV ファイルがダウンロードされると塗りつぶされ (FMS からのストリーミングの場合は常に塗りつぶされるので、HTTP ダウンロードのみに有効です)、ロード状況ムービークリップはハンドルが左から右に移動すると塗りつぶされます。

FLVPlayback コンポーネントは特定のインスタンス名を検索してこれらのムービークリップインスタンスを検索するので、再生状況ムービークリップインスタンスは、その親としてバームービークリップを持ち、インスタンス名が progress_mc である必要があります。ロード状況ムービークリップインスタンスでは、インスタンス名が fullness_mc である必要があります。

再生状況ムービークリップおよびロード状況ムービークリップは、fill_mc ムービークリップインスタンスを内側にネストして設定することも、ネストしないで設定することもできます。VolumeBar fullness_mc ムービークリップでは fill_mc ムービークリップをネストした方法、SeekBar progress_mc ムービークリップは fill_mc ムービークリップをネストしない方法を示します。

 $fill_mc$ ムービークリップを内側にネストした方法は、外観を湾曲しないと拡大 / 縮小できない塗りが必要な場合に便利です。

VolumeBar fullness_mc ムービークリップでは、ネストされた fill_mc ムービークリップインスタンスがマスクされます。マスクは、ムービークリップの作成時に行うか、実行時に動的に作成されます。ムービークリップを使ってマスクする場合は、インスタンスに "mask_mc" という名前を付け、パーセンテージが 100% のときに fill_mc が表示されるように設定します。 fill_mc をマスクしない場合、動的に作成されるマスクは矩形になり、fill_mc (100%) と同じサイズとなります。

fill_mc ムービークリップは、fill_mc.slideReveal が true であるか false であるかにより、2 つの方法のうちいずれかで表示されます。

 $fill_mc.slide$ Reveal が true である場合、 $fill_mc$ は左から右に移動され、マスクを通じて表示されます。0% では左端に配置されるので、マスクを通じて何も表示されません。パーセンテージが増えると 100% になるまで右に移動し、ステージ上で作成された場所に戻ります。

fill_mc.slideReveal が false または undefined (デフォルトのビヘイビア) の場合、マスクは左から右にサイズ変更され、fill_mc のより多くの部分が表示されます。0% の場合、マスクは水平方向に05 まで拡大され、パーセントが増えるにつれて、scaleX は 100% まで増えます。このときに、fill_mc のすべての部分が表示されます。これは必ずしも scaleX = 100 であるとは限りません。 $mask_mc$ は 作成時に拡大 / 縮小されている可能性があるためです。

fill_mc を使用しない方法は fill_mc を使用する方法よりも簡単ですが、塗りは水平方向に湾曲されます。この湾曲を望まない場合は、fill_mc を使用する必要があります。SeekBar progress_mc で、この方法を示します。

再生状況ムービークリップまたはロード状況ムービークリップは、パーセンテージに基づいて水平方向に拡大 / 縮小されます。0% では、インスタンスの scaleX は 0 に設定され、非表示になります。パーセンテージが大きくなると scaleX は調整され、100% で、クリップのサイズは作成時のステージ上のサイズと同じになります。これは必ずしも scaleX = 100 であるとは限りません。クリップインスタンスは作成時に拡大 / 縮小されている可能性があるためです。

FLV Playback カスタム UI コンポーネントの接続

カスタム UI コンポーネントを FLVPlayback コンポーネントと同じタイムラインおよびフレームに 配置し、skin プロパティを設定していない場合、FLVPlayback はそれらのコンポーネントに自動的 に接続され、ActionScript は必要ありません。

ステージ上に複数の FLVPlayback コンポーネントがある場合、またはカスタムコントロールと FLVPlayback が同じタイムラインにない場合には、ActionScript コードを記述して、カスタム UI コンポーネントを FLVPlayback コンポーネントのインスタンスに接続する必要があります。最初に、FLVPlayback インスタンスに名前を割り当て、次に ActionScript を使用して FLV Playback カスタム UI コンポーネントインスタンスを対応する FLVPlayback プロパティに割り当てる必要があります。次の例では、FLVPlayback インスタンスは my_FLVPlybk であり、ピリオド (.) の後に FLVPlayback プロパティ名が続きます。また、FLV Playback カスタム UI コントロールインスタンスは等号 (=) の右側になります。

```
//FLVPlayback instance = my_FLVPlybk
my_FLVPlybk.playButton = playbtn; // set playButton prop. to playbtn, etc.
my_FLVPlybk.pauseButton = pausebtn;
my_FLVPlybk.playPauseButton = playpausebtn;
my_FLVPlybk.stopButton = stopbtn;
my_FLVPlybk.muteButton = mutebtn;
my_FLVPlybk.backButton = backbtn;
my_FLVPlybk.forwardButton = forbtn;
my_FLVPlybk.volumeBar = volbar;
my_FLVPlybk.seekBar = seekbar;
my_FLVPlybk.bufferingBar = bufbar;
```

例

次の手順では、StopButton、PlayPauseButton、MuteButton、および SeekBar の各コントロールを作成します。

StopButton、PlayPauseButton、MuteButton、および SeekBar の各コントロールを作成するには:

- FLVPlayback コンポーネントをステージにドラッグし、インスタンス名を my_FLVPlybk にします。
- 2. [コンポーネントインスペクタ]パネルを通じて source パラメータに http://www.helpexamples.com/flash/video/cuepoints.flv を設定します。
- **3.** Skin パラメータに [None] を設定します。
- **4.** StopButton、PlayPauseButton、および MuteButton をステージにドラッグし、FLVPlayback インスタンスの上に配置して、左側に垂直に重ねます。プロパティインスペクタで、各ボタンにインスタンス名を付けます (my_stopbttn、my_plypausbttn、my_mutebttn など)。
- **5.** [ライブラリ]パネルで "FLVPlayback Skins" フォルダを開き、その下位にある "SquareButton" フォルダを開きます。
- 6. SquareBgDown ムービークリップを選択し、ダブルクリックしてステージ上で開きます。
- 7. 右クリック (Windows)、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ショートカットメニューから [すべて選択]を選択してシンボルを削除します。
- 8. 楕円ツールを選択し、同じ場所に楕円を描画して、塗りに青(#0033FF)を設定します。
- 9. プロパティインスペクタで、[W](幅)に 40 を設定し、[H](高さ)に 20 を設定します。[X](x 座標)に 0.0 を設定し、[Y](y 座標)に 0.0 を設定します。
- 10. SquareBgNormal に対して手順 $6\sim 8$ を繰り返します。ただし、塗りには黄色 (#FFFFOO) を設定します。
- 11. SquareBgOver に対して手順 $6\sim 8$ を繰り返します。ただし、塗りには緑 (#006600) を設定します。

- 12. ボタン内のさまざまなシンボルアイコン (Pauselcon、Playlcon、MuteOnlcon、MuteOfflcon、および Stoplcon) のムービークリップを編集します。これらのムービークリップは、"FLV Playback Skins/、ラベル、Button/Assets" の下位にあります。ここで、、ラベル、は[再生]、[一時停止]などのボタン名を表します。各クリップに対して次のいずれかの操作をします。
 - a. 「すべて選択]オプションを選択します。
 - b. カラーを赤 (#FF0000) に変更します。
 - c. 300% に拡大します。
 - **d.** コンテンツの [X 位置] を **7.0** に変更し、各ボタンの状態のアイコンの水平方向の配置を変更します。
 - | このように場所を変更することで、各ボタンの状態を開き、アイコンのムービークリップインスタンスを移動せずに済みます。
- 13. タイムラインの上にある青の戻る矢印をクリックして、シーン1、フレーム1に戻ります。
- **14.** SeekBar コンポーネントをステージにドラッグし、FLVPlayback インスタンスの右下隅に配置します。
- **15.** [ライブラリ]パネルで SeekBar をダブルクリックしてステージ上で開きます。
- 16. 400% に拡大します。
- 17. アウトラインを選択し、カラーに赤 (#FF0000) を設定します。
- **18.** "FLVPlayback Skins/Seek Bar" フォルダで SeekBarProgress をダブルクリックして、カラーに黄色 (#FFFF00) を設定します。
- **19.** "FLVPlayback Skins/Seek Bar" フォルダで SeekBarHandle をダブルクリックして、カラーに 赤 (#FF0000) を設定します。
- 20. タイムラインの上にある青の戻る矢印をクリックして、シーン1、フレーム1に戻ります。
- 21. ステージ上の SeekBar インスタンスを選択し、インスタンス名として my_seekbar を付けます。
- **22.** 次の例に示すように、タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルで、ビデオクラスの読み 込みステートメントを追加し、対応する FLVPlayback プロパティにボタン名とシークバー名を 割り当てます。

import fl.video.*;
my_FLVPlybk.stopButton = my_stopbttn;
my_FLVPlybk.playPauseButton = my_plypausbttn;
my_FLVPlybk.muteButton = my_mutebttn;
my_FLVPlybk.seekBar = my_seekbar;

23. Ctrl + Enter を押してムービーをテストします。

新規スキンの作成

スキン SWF ファイルを作成する最善の方法は、Flash に付属のスキンファイルをコピーし、それを 土台として使用することです。これらのスキンの FLA ファイルは、"Configuration/FLVPlayback Skins/FLA/ActionScript 3.0/" の Flash アプリケーションフォルダにあります。完了したスキン SWF ファイルを [スキンの選択]ダイアログボックスのオプションとして使用できるようにするに は、"Configuration/FLVPlayback Skins/ActionScript 3.0" フォルダにそのファイルを配置します。 このフォルダは、Flash アプリケーションフォルダ、またはユーザーのローカルの "Configuration/ FLVPlayback Skins/ActionScript 3.0" フォルダにあります。

スキンの色はスキンの選択とは別個に設定できるので、FLAファイルを編集して色を変更する必要はあ りません。特定の色を持つスキンを作成した場合に、[スキンの選択]ダイアログボックスで編集でき ないようにするには、スキンの FLA ファイルの ActionScript コードで this.border mc.colorMe = false; に設定します。スキンの色の設定の詳細については、211ページの「デザイン済みスキンの選 択」を参照してください。

インストールされた Flash スキンの FLA ファイルを見ると、ステージ上の特定のものが不要に思わ れることもありますが、これらのうち多くのものはガイドレイヤーに配置されています。Scale-9を 使用したライブプレビューでは、SWF ファイルの実際の表示をすばやく確認できます。

以降のセクションでは、SeekBar、BufferingBar、および VolumeBar の各ムービークリップに対 する、より複雑なカスタマイズと変更について説明します。

スキンレイアウトの使用

Flash のスキンの FLA ファイルを開くと、スキンのムービークリップがメインタイムラインにレイア ウトされています。これらのクリップと、同じフレームにある ActionScript コードにより、実行時に コントロールがどのようにレイアウトされるかが定義されます。

レイアウトレイヤーの外観は実行時のスキンの外観と似ていますが、このレイヤーのコンテンツは実 行時には表示されません。これは、コントロールを配置する場所を計算するためだけに使用されます。 実行時にはステージ上の他のコントロールが使用されます。

レイアウトレイヤー内には、video mc という名前の FLVPlayback コンポーネント用のプレースホ ルダがあります。その他のすべてのコントロールは、video_mc を基準にしてレイアウトされます。 Flash FLA ファイルのいずれかを使用して作業を開始し、コントロールのサイズを変更する場合は、 これらのプレースホルダクリップを移動するとレイアウトを修正できることがあります。

各プレースホルダクリップには、特定のインスタンス名があります。プレースホルダクリップの名前 は、playpause_mc、play_mc、pause_mc、stop_mc、captionToggle_mc、fullScreenToggle_mc、 back_mc.bufferingBar_mc.bufferingBarFill_mc.seekBar_mc.seekBarHandle_mc. seekBarProgress_mc、volumeMute_mc、volumeBar_mc、および volumeBarHandle_mc です。ス キンの色を選択したときに再度色が設定される部分は border_mc といいます。

コントロールに対してどのクリップが使用されるかは重要ではありません。通常、ボタンには通常状態クリップが使用されます。他のコントロールに対しては、そのコントロールのクリップが使用されますが、これは便宜上の目的のみです。重要なのは、プレースホルダのx(x + 1)位置、y(x + 1)位置、y(x + 1)位置、y(x + 1)位置、y(x + 1)0位置、幅、および高さです。

標準のコントロール以外にも、いくつでも追加クリップを持つことができます。これらのクリップで必要なのは、ライブラリシンボルで、[リンケージ]ダイアログボックスの[ActionScript に書き出し]がオンになっていることだけです。レイアウトレイヤーのカスタムクリップは、前述の予約済みインスタンス名以外の任意のインスタンス名を持つことができます。インスタンス名は、クリップでActionScript を設定してレイアウトを決定するためにのみ必要です。

border_mc クリップは特別なクリップです。F1vP1ayback.skinAutoHide プロパティに true を設定すると、ポインタが border_mc クリップの上にあるときにスキンが表示されます。これは、ビデオプレーヤーの境界の外側に表示されるスキンにとって重要です。skinAutoHide プロパティの詳細については、225 ページの「スキンのビヘイビアの変更」を参照してください。

Flash FLA ファイルでは、クロムおよび [進む] ボタンと [戻る] ボタンの周囲の境界に border_mcが使用されます。

 $border_mc$ クリップは、スキンの部分のうちで、skinBackgroundAlpha プロパティと skinBackgroundColor プロパティによってアルファ値と色が変更される部分でもあります。カスタマイズ可能な色とアルファ値を使用するには、スキンの FLA ファイルの ActionScript に次のものが必要です。

border_mc.colorMe = true;

ActionScript

次の ActionScript コードは、通常はすべてのコントロールに適用されます。一部のコントロールには、追加のビヘイビアを定義する特定の ActionScript がありますが、これについては、そのコントロールのセクションで説明します。

最初の ActionScript は、各コンポーネントの各状態のクラス名を示す大きなセクションです。これらのすべてのクラス名は、SkinOverAll.fla ファイルで確認できます。たとえば、[再生] ボタンおよび [一時停止] ボタンについては、コードは次のようになります。

this.pauseButtonDisabledState = "fl.video.skin.PauseButtonDisabled";
this.pauseButtonDownState = "fl.video.skin.PauseButtonDown";
this.pauseButtonNormalState = "fl.video.skin.PauseButtonNormal";
this.pauseButtonOverState = "fl.video.skin.PauseButtonOver";
this.playButtonDisabledState = "fl.video.skin.PlayButtonDisabled";
this.playButtonDownState = "fl.video.skin.PlayButtonDown";
this.playButtonNormalState = "fl.video.skin.PlayButtonNormal";
this.playButtonOverState = "fl.video.skin.PlayButtonOver";

これらのクラス名は、実際の外部クラスファイルを持ちません。ライブラリのすべてのムービークリップについて、「リンケージ] ダイアログボックスで指定されているだけです。

ActionScript 2.0 コンポーネントでは、実行時に実際に使用されるムービークリップがステージ上に ありました。ActionScript 3.0 コンポーネントでも、これらのムービークリップは FLA ファイルに 含まれていますが、編集の便宜のためだけに用意されています。現在では、これらはすべてガイドレ イヤーにあり、書き出されません。ライブラリのすべてのスキンアセットは最初のフレームに書き出 されるように設定されており、たとえば次のようなコードで動的に作成されます。

new fl.video.skin.PauseButtonDisabled()

続くセクションの ActionScript コードでは、スキンの最小の幅と高さを定義します。[スキンの選択] ダイアログボックスにはこれらの値が表示されます。これらの値は、実行時にスキンが最小サイズ以 下に縮小されないようにするために使用されます。 最小サイズを指定しない場合は、undefined のまま にしておくか、ゼロ以下にします。

// minimum width and height of video recommended to use this skin, // leave as undefined or <= 0 if there is no minimum this.minWidth = 270; this.minHeight = 60;

各プレースホルダには、次のプロパティを適用することができます。

プロパティ	説明
anchorLeft	Boolean。FLVPlayback インスタンスの左側を基準にしてコントロールを配置します。anchorRight が明示的に true に設定されていない限り、デフォルトは true です。それ以外の場合、デフォルトは false です。
anchorRight	Boolean。FLVPlayback インスタンスの右側を基準にしてコントロールを配置します。デフォルトは false です。
anchorBottom	Boolean。FLVPlayback インスタンスの下を基準にしてコントロールを配置します。anchorTop が明示的に true に設定されていない限り、デフォルトは true です。それ以外の場合、デフォルトは false です。
anchorTop	Boolean。FLVPlayback インスタンスの上を基準にしてコントロールを配置します。デフォルトは false です。

anchorLeft プロパティおよび anchorRight プロパティが true の場合、コントロールは実行時に水 平方向に拡大 / 縮小されます。anchorTop プロパティおよび anchorBottom プロパティが true の場 合、コントロールは実行時に垂直方向に拡大/縮小されます。

これらのプロパティの効果を表示するには、Flash スキンでの使用方法を確認します。BufferingBar コントロールおよび SeekBar コントロールのみが拡大 / 縮小するコントロールであり、これらは重ね てレイアウトされます。また、両方のコントロールとも、anchorLeft プロパティおよび anchorRight プロパティが true に設定されます。BufferingBar および SeekBar の左側にあるすべ てのコントロールでは、anchorLeft が true に設定され、右側にあるすべてのコントロールでは、 anchorRight が true に設定されます。すべてのコントロールでは、anchorBottomが true に設定

レイアウトレイヤーでムービークリップの編集を試みて、コントロールが下ではなく上に位置するよ うにスキンを設定することができます。video_mcを基準にしてコントロールを上に移動し、すべて のコントロールについて anchorTop を true にするだけです。

バッファリングバー

バッファリングバーには、bufferingBar_mc および bufferingBarFill_mc の 2 つのムービークリップ があります。ステージ上における両クリップの相対位置は重要です。なぜなら、この相対的な位置関 係が維持されるからです。バッファリングバーは2つの別個のクリップを使用します。これはコン ポーネントが bufferingBar_mc を拡大 / 縮小しますが、bufferingBarFill_mc は拡大 / 縮小しないた めです。

bufferingBar_mc クリップには 9 スライスの拡大 / 縮小が割り当てられているので、拡大 / 縮小しても 境界は湾曲しません。bufferingBarFill mc クリップは非常に幅が広いので、常に十分な幅となり、拡 大する必要はありません。実行時に自動的にマスクされ、伸縮された bufferingBar mc の上の部分の みが表示されます。デフォルトでは、bufferingBar_mc および bufferingBarFill_mc の x (水平方向)の 位置の差に基づいて、bufferingBar mc内の左右の同じマージンがマスクのサイズで維持されます。 ActionScript コードを使ってポジショニングをカスタマイズすることができます。

バッファリングバーを拡大 / 縮小する必要がないか、9 スライスの拡大 / 縮小を使用しない場合は、 FLV Playback カスタム UI BufferingBar コンポーネントのように設定する必要があります。詳細に ついては、214 ページの「BufferingBar コンポーネント」を参照してください。

バッファリングバーには、次の追加のプロパティがあります。

プロパティ	説明
fill_mc:MovieClip	バッファリングバーの塗りのインスタンス名を指定します。デフォルト は bufferingBarFill_mc です。

シークバーとボリュームバー

シークバーにも、seekBar_mc および seekBarProgess_mc の 2 つのムービークリップがあります。レイアウトレイヤー上における両クリップの相対位置は重要です。なぜなら、この相対的な位置関係が維持されるからです。両方のクリップとも拡大 / 縮小されますが、seekBarProgress_mc は seekBar_mc 内にネストできません。これは、seekBar_mc はネストされたムービークリップに適していない 9 スライスの拡大 / 縮小を使用するためです。

seekBar_mc クリップには 9 スライスの拡大 / 縮小が割り当てられているので、拡大 / 縮小しても境界は湾曲しません。seekBarProgress_mc クリップも拡大 / 縮小されますが、湾曲があります。9 スライスの拡大 / 縮小を使用しないのは、塗りであるために、湾曲されても外観は問題ないためです。

seekBarProgress_mc クリップは fill_mc がなくても機能します。これは、progress_mc クリップが FLV Playback カスタム UI コンポーネントで機能するのと同様です。つまり、マスクされずに水平方向に拡大 / 縮小されます。100% での seekBarProgress_mc の正確なサイズは、seekBarProgress_mc クリップの左右のマージンによって定義されます。このサイズはデフォルトで同じになり、

seekBar_mc および seekBarProgress_mc の x (水平方向) 位置の差に基づきます。次の例のように、シークバームービークリップのサイズは、ActionScript を使用してカスタマイズすることができます。

```
this.seekBar_mc.progressLeftMargin = 2;
this.seekBar_mc.progressRightMargin = 2;
this.seekBar_mc.progressY = 11;
this.seekBar_mc.fullnessLeftMargin = 2;
this.seekBar_mc.fullnessRightMargin = 2;
this.seekBar_mc.fullnessY = 11;
```

このコードは、SeekBar ムービークリップのタイムラインか、またはメインタイムラインの他のActionScript コードのいずれかに配置できます。レイアウトの変更ではなくコードでカスタマイズした場合、ステージ上に塗りは必要ありません。ライブラリに含まれていて、正しいクラス名でフレーム1の ActionScript に書き出すよう設定されていれば十分です。

FLV Playback カスタム UI SeekBar コンポーネントと同じように、シークバーのロード状況ムービークリップを作成することができます。シークバーを拡大 / 縮小する必要がない場合や、拡大 / 縮小するが 9 スライスの拡大 / 縮小は使用しない場合は、FLV Playback カスタム UI コンポーネントに使用される任意の方法を使って progress_mc または fullness_mc を設定することができます。詳細については、216 ページの「再生状況ムービークリップとロード状況ムービークリップ」を参照してください。

Flash スキンのボリュームバーは拡大 / 縮小されないので、VolumeBar FLV Playback カスタム UI コンボーネントと同じ方法で作成されます。詳細については、215 ページの「SeekBar コンボーネント および VolumeBar コンボーネント」を参照してください。例外は、ハンドルの実装が異なることです。この詳細については、次に示す各セクションを参照してください。

ハンドル

SeekBar ハンドルおよび VolumeBar ハンドルは、レイアウトレイヤー上でバーの横に配置されま す。デフォルトでは、ハンドルの左マージン、右マージン、および y 軸はバームービークリップを基 準とした位置によって設定されます。左マージンはハンドルのx(水平方向)位置およびバーのx(水 平方向)位置の差によって設定され、右マージンは左マージンと同じになります。これらの値は、 SeekBar ムービークリップまたは VolumeBar ムービークリップで ActionScript を通じてカスタマ イズできます。次の例は、FLV Playback カスタム UI コンポーネントと共に使用される同じ ActionScript コードです。

```
this.seekBar_mc.handleLeftMargin = 2;
this.seekBar mc.handleRightMargin = 2;
this.seekBar mc.handleY = 11;
```

このコードは、SeekBar ムービークリップのタイムラインか、またはメインタイムラインの他の ActionScript コードのいずれかに配置できます。レイアウトの変更ではなくコードでカスタマイズし た場合、ステージ上にハンドルは必要ありません。ライブラリに含まれていて、正しいクラス名でフ レーム1の ActionScript に書き出すよう設定されていれば十分です。

これらのプロパティ以外については、ハンドルは単純なムービークリップであり、FLV Playback カ スタム UI コンポーネントと同じ方法で設定されます。両方とも、alpha プロパティが O に設定され た矩形の背景を持ちます。これらはヒット領域を増やすためだけに存在するものであり、必須ではあ りません。

背景クリップと前景クリップ

ムービークリップ chrome_mc および forwardBackBorder_mc は背景クリップとして実装され

ステージ上の ForwardBackBorder、ForwardBorder、BackBorder の各ムービークリップ、およ びプレースホルダの[進む]ボタンと[戻る]ボタンのうち、ガイドレイヤー上にないのは ForwardBackBorder だけです。これは、実際に [進む] ボタンおよび [戻る] ボタンを使用するス キンのみにあります。

これらのクリップで必要なのは、ライブラリでフレーム1の ActionScript に書き出されることだけ です。

スキンのビヘイビアの変更

bufferingBarHidesAndDisablesOthers プロパティおよび skinAutoHide プロパティを使用する と、FLVPlayback スキンのビヘイビアをカスタマイズできます。

bufferingBarHidesAndDisablesOthers プロパティに true を設定すると、FLVPlayback コン ポーネントがバッファリング状態に移行したときに SeekBar とそのハンドルを非表示にし、[再生] ボタンおよび「一時停止〕ボタンを無効にします。これは、bufferTime プロパティに高い値 (たとえ ば 10) を設定し、FLV ファイルを低速接続で FMS からストリーミングする場合に便利です。この状 況では、一部のユーザーが「再生 1 ボタンおよび 「一時停止 1 ボタンをクリックしてシークを開始しよ うとすることが考えられます。この場合は、さらにファイルの再生が遅れます。このような操作を防 止するには、bufferingBarHidesAndDisablesOthers に true を設定し、コンポーネントがバッ ファリング状態になっている間は、SeekBar エレメント、「再生 1 ボタン、および「一時停止 1 ボタ ンを無効にします。

skinAutoHide プロパティは、デザイン済みスキン SWF ファイルのみに影響し、FLV Playback カ スタム UI コンポーネントによって作成されたコントロールには影響しません。このプロパティが true に設定されている場合、表示領域の上にポインタがないときは、スキンが非表示になります。こ のプロパティのデフォルト値は false です。

SMIL ファイルの使用

VideoPlayer クラスは、複数の帯域幅の複数のストリームを処理するために、SMIL のサブセットを サポートするヘルパークラス (NCManager) を使用します。SMIL はビデオストリームの位置、FLV ファイルのレイアウト(幅と高さ)、および異なる帯域幅に対応するソース FLV ファイルを識別する ために使用されます。FLVファイルのビットレートと継続時間を指定するためにも使用されます。

SMIL ファイルの場所を指定するには、source パラメータまたは FLVP1 ayback . source プロパティ (ActionScript) を使用します。詳細については、195 ページの「source」 および『ActionScript 3.0 コ ンポーネントリファレンスガイド』の FLVP1 ayback. source プロパティを参照してください。

次の例では、RTMP を使用して FMS から複数の帯域幅の FLV ファイルをストリーミングする SMIL ファイルを示します。

```
<smil>
   <head>
        <meta base="rtmp://myserver/myapp/" />
        <lavout>
            <root-layout width="240" height="180" />
        </lavout>
    </head>
   <body>
       <switch>
            <ref src="myvideo_cable.flv" dur="3:00.1"/>
            <video src="myvideo isdn.flv" system-bitrate="128000" dur="3:00.1"/>
            <video src="myvideo_mdm.flv" system-bitrate="56000" dur="3:00.1"/>
       </switch>
   </body>
</smil>
```

<head> タグは、<meta> タグおよび <1ayout> タグを含むことができます。<meta> タグは base 属性のみをサポートします。この属性は、ストリーミングビデオ (FMS からの RTMP) の URL を指定するために使用されます。

<1ayout> タグは root-1ayout エレメントのみをサポートします。このエレメントは height 属性および width 属性を設定するために使用されるので、FLV ファイルをレンダリングするウィンドウのサイズが決定されます。これらの属性では、パーセンテージではなくピクセル値のみを使用できます。

SMIL ファイルの本体内では、FLV ファイルへの1つのリンクを含めるか、〈switch〉タグを使用してソースファイルをリストすることができます(前述の例のように FMS から複数の帯域幅用に複数のファイルをストリーミングする場合)。

〈switch〉 夕グ内の video タグおよび ref タグは同義であり、いずれのタグも src 属性を使って FLV ファイルを指定できます。 さらに、いずれのタグも region、system-bitrate、および dur 属性を使用して、領域、必要な最低の帯域幅、および FLV ファイルの継続時間を指定できます。

<body> タグ内では、<video>、<src>、または <switch> の各タグは1回のみ使用できます。

次の例では、帯域幅の検出を使用しない、1つの FLV ファイル用のプログレッシブダウンロードを示します。

<smil>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

```
<smil>
...
child tags
...
</smil>
属性
なし
```

```
子タグ
```

<head>, <body>

親タグ

なし

説明

SMIL ファイルを識別する最上位のタグ。

例

```
次の例では、3つの FLV ファイルを指定する SMIL ファイルを示します。
<smil>
   <head>
       <meta base="rtmp://myserver/myapp/" />
       <layout>
           <root-layout width="240" height="180" />
       </layout>
   </head>
   <body>
       <switch>
         <ref src="myvideo_cable.flv" dur="3:00.1"/>
         <video src="myvideo_isdn.flv" system-bitrate="128000" dur="3:00.1"/>
         <video src="myvideo_mdm.flv" system-bitrate="56000" dur="3:00.1"/>
      </switch>
   </body>
</smil>
```

<head>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

```
<head>
...
child tags
...
</head>

属性
```

/|----

なし

子タグ

<meta>, <layout>

親タグ

<smil>

説明

<meta> タグおよび <layout> タグをサポートし、ソース FLV ファイルの場所とデフォルトレイアウ ト(高さと幅)を指定します。

```
次の例では、ルートレイアウトを 240 × 180 ピクセルに設定します。
<head>
  <meta base="rtmp://myserver/myapp/" />
  <layout>
    <root-layout width="240" height="180" />
  </layout>
</head>
```

<meta>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

<meta/>

属性

base

子タグ

<layout>

親タグ

なし

説明

ソース FLV ファイルの場所 (RTMP URL) を指定する base 属性を含みます。

例

次の例では、myserver上のベース位置の meta タグを示します。

```
<meta base="rtmp://myserver/myapp/" />
```

<layout>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

<layout>
...
child tags
...
</layout>

属性

なし

子タグ

<root-layout>

親タグ

<meta>

説明

FLV ファイルの幅と高さを指定します。

例

<root-layout>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

<root-layout...attributes.../>

属性

Width, height

子タグ

なし

親タグ

<layout>

説明

FLV ファイルの幅と高さを指定します。

例

次の例では、レイアウトを 240 x 180 ピクセルに設定します。 <root-layout width="240" height="180" />

<body>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

```
<body>
...
child tags
...
</body>

<pr
```

子タグ

なし

<video>, <ref>, <switch>

親タグ

<smil>

説明

<video>、<ref>、および <switch> の各タグを含みます。これらのタグは、ソース FLV ファイルの名前、最低の帯域幅、および FLV ファイルの継続時間を指定します。system-bitrate 属性は、<switch> タグを使用する場合のみサポートされます。<body> タグ内では、<switch>、<video>、または <ref> タグの1つのインスタンスのみを使用できます。

例

次の例では、3つの FLV ファイルを指定します。そのうち 2つは video タグを使用し、1つは ref タグを使用します。

```
<body>
     <switch>
          <ref src="myvideo_cable.flv" dur="3:00.1"/>
```

<video>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

<video...attributes.../>

属性

src, system-bitrate, dur

子タグ

なし

親タグ

<body>

説明

 $\langle ref \rangle$ タグと同義です。src 属性および dur 属性をサポートします。これらの属性は、ソース FLV ファイルの名前と継続時間を指定します。dur 属性は完全な時間フォーマット (00:03:00:01) および 部分的な時間フォーマット (03:00:01) をサポートします。

例

次の例では、ビデオのソースと継続時間を設定します。 <video src="myvideo_mdm.flv" dur="3:00.1"/>

<ref>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

<ref...attributes.../>

属性

src, system-bitrate, dur

子タグ

なし

親タグ

<body>

説明

<video> 夕グと同義です。src 属性および dur 属性をサポートします。これらの属性は、ソース FLV ファイルの名前と継続時間を指定します。dur 属性は完全な時間フォーマット (OO:O3:OO:O1) および 部分的な時間フォーマット (03:00:01) をサポートします。

例

次の例では、ビデオのソースと継続時間を設定します。 <ref src="myvideo_cable.flv" dur="3:00.1"/>

<switch>

使用できるバージョン

Flash Professional 8

シンタックス

<switch> child tags <switch/>

属性

なし

子タグ

<video>, <ref>

親タグ

<body>

説明

<video> 子夕グまたは <ref> 子夕グと共に使用し、複数の帯域幅のビデオストリーミング用の FLV ファイルを列挙します。〈switch〉 タグは system-bitrate 属性をサポートします。この属性は、最 低の帯域幅、src 属性、および dur 属性を指定します。

例

次の例では、3つの FLV ファイルを指定します。そのうち 2 つは video タグを使用し、1つは vefタグを使用します。

```
<switch>
  <ref src="myvideo_cable.flv" dur="3:00.1"/>
  \label{linear_system} $$ \video src="myvideo_isdn.flv" system-bitrate="128000" dur="3:00.1"/> $$ $$
  \volume{$<$video src="myvideo_mdm.flv" system-bitrate="56000" dur="3:00.1" /> }
</switch>
```

FLVPlayback キャプションコン ポーネントの使用

FLVPlayback コンポーネントを使用すると、Adobe Flash CS3 Professional アプリケーションにビデオプレーヤーを組み込み、ダウンロードした Adobe Flash Video (FLV) ファイルやストリーミング FLV ファイルを再生できます。FLVPlayback の詳細については、189 ページ、第 5 章の「FLVPlayback コンポーネントの使用」を参照してください。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを使用すると、ビデオでクローズドキャプションをサポートできるようになります。キャプションコンポーネントは、W3C 標準の XML 形式、Timed Text をサポートしており、次のような機能があります。

- 埋め込まれたイベントキューポイントを使用したキャプション。Timed Text XML ファイルを使用するのではなく、FLV ファイルに埋め込まれたイベントキューポイントを XML と関連付けてキャプションを付けます。
- **複数の FLVPlayback キャプション**。複数の FLVPlayback インスタンス用に複数の FLVPlayback キャプションインスタンスを作成します。
- **トグルボタンコントロール**。ユーザーはキャプショントグルボタンを使用してキャプションを付けることができます。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントの使用

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは、1つまたは複数の FLVPlayback コンポーネントと共に使用します。最も単純なシナリオでは、FLVPlayback コンポーネントをステージ上にドラッグし、FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを同じステージ上にドラッグして、キャプション URL を識別し、表示するキャプションを設定します。さらに、FLVPlayback キャプションをカスタマイズするさまざまなパラメータも設定できます。

FLVPlayback コンポーネントへのキャプションの追加

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを任意の FLVPlayback コンポーネントに追加できます。 アプリケーションに対する FLVPlayback コンポーネントの追加については、191ページの 「FLVPlayback コンポーネントを使用したアプリケーションの作成」を参照してください。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを [コンポーネント] パネルから追加するには:

- 1. 「コンポーネント]パネルで "Video" フォルダを開きます。
- 2. FLVPlaybackCaptioning コンポーネントをドラッグ (またはダブルクリック) し、これを FLVPlayback コンポーネントと同じ、キャプションを追加するステージに追加します。
 - FLVPlaybackCaptioning コンポーネントの学習に役立つ 2 つのサンプル、caption video.flv (FLVPlayback サンプル)と caption_video.xml(キャプションのサンプル)を用意していま す。これらのファイルには http://www.helpexamples.com/flash/video からアクセスしてく ださい。
- 3. (オプション) Caption Button コンポーネントを、FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントと同じステージにドラッグします。CaptionButton コ ンポーネントを使用すると、キャプションのオンとオフを切り替えることができます。
 - CaptionButton コンポーネントを有効にするには、このコンポーネントを FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントと同じステージにドラッグする必要があ ります。
- 4. ステージ上で FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを選択したまま、プロパティインスペク タの[パラメータ]タブで次の必要な情報を指定します。
 - showCaptions を true に設定します。
 - ダウンロードする Timed Text XML ファイルの source を指定します。

Flash でのキャプションのテスト中は、showCaptions プロパティを true に設定する必要 があります。ただし、ユーザーがキャプションのオンとオフを切り替えられるように CaptionButton コンポーネントを含めるには、showCaptions プロパティを false に設定 する必要があります。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントのカスタマイズに役立つその他のパラメータもありま す。詳細については、244ページの「FLVPlaybackCaptioning コンポーネントのカスタマイズ」 および『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

5. 「制御]-「ムービープレビュー]を選択して、ビデオを再生します。

ActionScript を使用して動的にインスタンスを作成するには:

- **2.** FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを [コンポーネント] パネルから [ライブラリ] パネルにドラッグします。
- **3.** タイムラインのフレーム1の[アクション]パネルに次のコードを追加します。 import fl.video.*:

X H D

次の例は Adobe Flash CS3 for Windows のものです。Macintosh の FLVPlayback Skins の場所は、"Macintosh HD/Applications/Adobe Flash CS3/ Configuration/FLVPlayback Skins/ActionScript 3.0/SkinUnderPlaySeekCaption.swf"です。

```
var my_FLVPlybk = new FLVPlayback();
my_FLVPlybk.x = 100;
my_FLVPlybk.y = 100;
addChild(my_FLVPlybk);
my_FLVPlybk.skin = "install_drive:/Program Files/Adobe/Adobe Flash CS3/en/
    Configuration/FLVPlayback Skins/ActionScript 3.0/
    SkinUnderPlaySeekCaption.swf";
my_FLVPlybk.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/
    caption_video.flv";
var my_FLVPlybkcap = new FLVPlaybackCaptioning();
addChild (my_FLVPlybkcap);
my_FLVPlybkcap.source = "http://www.helpexamples.com/flash/video/
    caption_video.xml";
my_FLVPlybkcap.showCaptions = true;
```

4. *install_drive* の部分に Flash のインストール先ドライブを指定し、実際の "Skins" フォルダの場所 に合わせてパスを変更してください。

H X ActionScript で FLVPlayback インスタンスを作成する場合は、ActionScript を使用してスキンプロパティを設定し、スキンも割り当てる必要があります。ActionScript を使用してスキンを適用しても、SWF ファイルと共に自動的にパブリッシュされることはありません。スキン SWF ファイルとアプリケーション SWF ファイルをサーバーにコピーします。コピーしないと、実行したときにスキン SWF ファイルを使用できません。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントパラメータの 設定

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントの各インスタンスで、プロパティインスペクタまたはコン ポーネントインスペクタの次のパラメータを設定し、コンポーネントをさらにカスタマイズできます。 次のリストでは、プロパティを挙げ、それぞれについて簡単に説明します。

- autoLayout。FLVPlaybackCaptioning コンポーネントがキャプション領域のサイズを制御する かどうかを指定します。デフォルト値は true です。
- captionTargetName。キャプションが含まれる TextField または MovieClip インスタンス名を識 別します。デフォルト値は auto です。
- flvPlaybackName。キャプションを付ける FLVPlayback インスタンス名を識別します。デフォ ルト値は auto です。
- simpleFormatting。true に設定されている場合は、Timed Text XML ファイルのフォーマッ ト手順が制限されます。デフォルト値は false。
- showCaptions。キャプションを表示するかどうかを指定します。デフォルト値は true です。
- source。Timed Text XML ファイルの場所を指定します。

すべての FLVPlaybackCaptioning パラメータの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネン トリファレンスガイド』を参照してください。

source パラメータの指定

source パラメータを使用して、ムービーのキャプションが含まれる Timed Text XML ファイルの名 前と場所を指定します。コンポーネントインスペクタの source セルに URL パスを直接入力します。

キャプションの表示

キャプションを表示するには、showCaptions パラメータを true に設定します。

すべての FLVPlaybackCaptioning コンポーネントパラメータの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』を参照してください。

前の例では、キャプションを表示する FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを作成し、有効にす る方法を学習しました。キャプションに使用できるソースには、(1)キャプションが含まれる Timed Text XML ファイルと、(2) 埋め込まれたイベントキューポイントと関連付けるキャプションテキス トを持つ XML ファイルの 2 つがあります。

Timed Text キャプションの使用

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントを使用すると、Timed Text (TT) XML ファイルをダウン ロードすることにより、関連付けられた FLVPlayback コンポーネントのキャプション付けが可能に なります。Timed Text 形式の詳細については、http://www.w3.org で AudioVideo Timed Text の情 報を参照してください。

このセクションでは、サポートされている Timed Text タグの概要、必要なキャプションファイルタ グ、Timed Text XML ファイルの例を説明します。サポートされているすべての Timed Text タグの詳 細については、付録 A の「Timed Text タグ」を参照してください。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは次の Timed Text タグをサポートしています。

- 段落の書式情報のサポート
 - 段落を右揃え、左揃え、または中央揃えにします。
- テキストの書式情報のサポート
 - テキストのサイズを、絶対ピクセルサイズまたは Delta スタイル (+2、-4 など) で設定します。
 - テキストカラーとフォントの設定
 - テキストをボールドまたはイタリックにします。
 - テキストの位置揃えを設定します。
- その他の書式情報のサポート
 - キャプションの TextField の背景色を設定します。
 - キャプションの TextField の背景色を透明 (アルファ O) に設定します。
 - キャプションの TextField の折り返しを設定します (オンまたはオフ)。

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは FLV ファイルの時間コードに一致します。すべてのキャ プションには、キャプションを表示する時刻を指定する begin 属性が必要です。キャプションに dur または end 属性がない場合は、次のキャプションが表示されたとき、または FLV ファイルが終了し たときにキャプションが消去されます。

次に Timed Text XML ファイルの例を示します。このファイル (caption video.xml) は "caption video.flv" ファイルのキャプションを提供します。これらのファイルには http://www.helpexamples.com/flash/video/からアクセスしてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<tt xml:lang="en" xmlns="http://www.w3.org/2006/04/ttaf1" xmlns:tts="http://</pre>
  www.w3.org/2006/04/ttaf1#styling">
 <head>
   <styling>
      <style id="1" tts:textAlign="right"/>
      <style id="2" tts:color="transparent"/>
     <style id="3" style="2" tts:backgroundColor="white"/>
      <style id="4" style="2 3" tts:fontSize="20"/>
  </styling>
  </head>
```

```
<body>
  <div xml:lang="en">
   tts:fontFamily="monospaceSansSerif,proportionalSerif,TheOther"tts:fontSize="+
  2">Macromedia</span> in 1996,
   <p begin="00:00:03.07" dur="00:00:03.35">and we were trying to figure out
  what to do about the internet.
   \langle p \text{ begin} = "00:00:06.42" dur = "00:00:03.15" \rangle And the company was in dire
  straights at the time.
   <p begin="00:00:09.57" dur="00:00:01.45">We were a CD-ROM authoring
  company, 
   \sqrt{p} begin="00:00:11.42" dur="00:00:02.00">and the CD-ROM business was going
  away.
   p = 00:00:13.57 dur="00:00:02.50">One of the technologies I remember
  seeing was Flash.
   <p begin="00:00:16.47" dur="00:00:02.00">At the time, it was called <span
  tts:fontWeight="bold" tts:color="#ccc333">FutureSplash</span>.
   \langle p \text{ begin} = "00:00:18.50" \text{ dur} = "00:00:01.20" > So this is where Flash got its
  start.
   {\sf Vp} begin="00:00:20.10" dur="00:00:03.00">This is smart sketch running on the
  <span tts:fontStyle="italic">EU-pin computer</span>,
   <p begin="00:00:23.52" dur="00:00:02.00">which was the first product that
  FutureWave did.
   So our vision for this product was
  to
   p = 00:00:27.52" dur="00:00:01.10">make drawing on the computer
   as <span</pre>
  tts:color="#ccc333">easy</span> as drawing on paper.
   </div>
 </body>
</t.t.>
```

キャプションでのキューポイントの使用

キューポイントを使用するとビデオを操作できます。たとえば、FLV ファイルの再生を制御したり、 特定の時刻にビデオにテキストを表示したりできます。FLV ファイルに使用する Timed Text XML ファイルがない場合は、イベントキューポイントを FLV ファイルに埋め込み、これらのキューポイ ントをテキストと関連付けることができます。このセクションでは、FLVPlaybackCaptioning コン ポーネントのキューポイントの標準に関する情報を提供し、これらのキューポイントをキャプション ニング用のテキストと関連付ける方法について説明します。ビデオの読み込みウィザードを使用して イベントキューポイントを埋め込む方法の詳細については、『Using Flash ユーザーガイド』の第16章 「ビデオの使用」を参照してください。

FLVPlaybackCaptioning キューポイントの標準について

FLV ファイルのメタデータ内では、キューポイントは name、time、type、および parameters の各プロパティを持つオブジェクトとして表されます。FLVPlaybackCaptioning ActionScript キューポイントには次の属性があります。

- name。name プロパティは、キューポイントに割り当てられた名前を含むストリングです。name プロパティの先頭は接頭辞 "f1.video.caption.2.0." でなければならず、この接頭辞の後に ストリングが続きます。ストリングは、それぞれの名前を一意にするために毎回増分される一連 の正の整数です。接頭辞には、FLVPlayback バージョン番号にも一致するバージョン番号が含まれます。Adobe Flash CS3 では、バージョン番号を 2.0 に設定する必要があります。
- time。timeプロパティはキャプションを表示する時刻です。
- type。typeプロパティは、値が "event" のストリングです。
- parameters。parameters プロパティは、次の名前と値のペアをサポートする配列です。
 - text:String。キャプションの HTML 形式のテキスト。このテキストは TextField.htmlText プロパティに直接渡されます。FLVPlaybackCaptioning コンポーネ ントは、オプションの text:nプロパティをサポートしており、このプロパティは、複数の 言語トラックの使用をサポートしています。詳細については、243 ページの「埋め込まれたキューポイントを使用した複数の言語トラックのサポート」を参照してください。
 - endTime: Number。キャプションを消去する時刻。このプロパティを指定しないと、FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは、これを数値ではないもの (NaN) とみなし、FLV ファイルが終了するまで (FLVPlayback インスタンスが VideoEvent.COMPLETE イベントを送出するまで) キャプションが表示されます。endTime: Number プロパティは秒単位で指定します。backgroundColor: uint パラメータは TextField.backgroundColor を設定します。このプロパティは省略可能です。
 - backgroundColorAlpha:Boolean。backgroundColorのアルファが 0% の場合は、このパラメータは TextField.background = !backgroundColorを設定します。このプロパティは省略可能です。
 - wrapOption:Boolean。このパラメータは TextField.wordWrap を設定します。このプロパティは省略可能です。

埋め込まれたイベントキューポイントのキャプションの作成について

FLV ファイルのキャプションが含まれる Timed Text XML ファイルがない場合は、キャプションが含まれる XML ファイルと、埋め込まれたイベントキューポイントを関連付けることによってキャプションニングを作成します。 XML のサンプルでは、次の手順を実行して、埋め込まれたイベントキューポイントをビデオで作成しているものと仮定しています。

- FLVPlaybackCaptioning の標準に従ってイベントキューポイントを追加し、ビデオをエンコードします。
- Flash で、FLVPlayback コンポーネントと FLVPlaybackCaptioning コンポーネントをステージ にドラッグします。
- FLVPlayback と FLVPlaybackCaptioning コンポーネントのソースプロパティ (FLV ファイル の場所と XML ファイルの場所)を設定します。
- パブリッシュします。

次のサンプルでは、XML をエンコーダに読み込みます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<FLVCoreCuePoints>
```

```
<CuePoint>
  <Time>9136</Time>
  <Type>event</Type>
  <Name>f1.video.caption.2.0.index1
  <Parameters>
    <Parameter>
       <Name>text</Name>
       <Value><![CDATA[Captioning text for the first cue point]]></Value>
  </Parameters>
</CuePoint>
<CuePoint>
  <Time>19327</Time>
  <Type>event</Type>
  <Name>fl.video.caption.2.0.index2
  <Parameters>
    <Parameter>
       <Name>text</Name>
       <Value><![CDATA[Captioning text for the second cue point]]></Value>
    </Parameter>
  </Parameters>
</CuePoint>
<CuePoint>
  <Time>24247</Time>
  <Type>event</Type>
```

```
<Name>fl.video.caption.2.0.index3</Name>
    <Parameters>
       <Parameter>
         <Name>text</Name>
         <Value><![CDATA[Captioning text for the third cue point]]></Value>
       </Parameter>
    </Parameters>
  </CuePoint>
  <CuePoint>
    <Time>36546</Time>
    <Type>event</Type>
    <Name>fl.video.caption.2.0.index4
    <Parameters>
       <Parameter>
         <Name>text</Name>
         <Value><![CDATA[Captioning text for the fourth cue point]]></Value>
       </Parameter>
    </Parameters>
</CuePoint>
```

</FIVCoreCuePoints>

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは、埋め込まれたキューポイントを使用して複数の言語ト ラックもサポートしています。詳細については、243ページの「埋め込まれたキューポイントを使用 した複数の言語トラックのサポート」を参照してください。

埋め込まれたキューポイントを使用した複数の言語トラックのサ ポート

Timed Text XML ファイルが FLVPlaybackCaptioning のキューポイントの標準に従っている限り、 FLVPlaybackCaptioning の track プロパティは、埋め込まれたキューポイントを使用して複数の言 語トラックをサポートします。詳細については、241 ページの「FLVPlaybackCaptioning キューポ イントの標準について」を参照してください。ただし、FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは個 別の XML ファイルでは複数の言語トラックをサポートしません。 track プロパティを使用するには、 このプロパティを O 以外の値に設定します。たとえば、track プロパティを 1(track == 1)に設定す ると、FLVPlaybackCaptioning コンポーネントはキューポイントパラメータを検索します。一致が 見つからない場合は、キューポイントパラメータのテキストプロパティが使用されます。詳細につい ては、『ActionScript 3.0 コンポーネントリファレンスガイド』の track プロパティを参照してくだ さい。

キャプションを使用した複数の FLV ファイルの 再生

FLVPlayback コンポーネントの1つのインスタンス内で複数のビデオプレーヤーを開き、複数のビデオを再生して、再生中にそれらを切り替えることもできます。キャプションニングを FLVPlayback コンポーネント内部の各ビデオプレーヤーと関連付けることもできます。複数のビデオプレーヤーを開く方法の詳細については、207ページの「複数のビデオプレーヤーの使用」を参照してください。複数のビデオプレーヤーでキャプションを使用するには、VideoPlayer ごとに FLVPlaybackCaptioning コンポーネントの1つのインスタンスを作成し、FLVPlaybackCaptioning videoPlayerIndex を対応するインデックスに設定します。VideoPlayer が1つだけの場合は、VideoPlayer インデックスのデフォルト値は 0 です。

一意のキャプションを一意のビデオに割り当てるコードの例を次に示します。この例を実行するには、例の架空の URL を有効な URL に置き換える必要があります。

```
captioner0.videoPlayerIndex = 0;
captioner0.captionURL = "http://www.[yourDomain].com/mytimedtext0.xml";
flvPlayback.play("http://www.[yourDomain].com/myvideo0.flv");
captioner1.videoPlayerIndex = 1;
captioner1.captionURL = "http://www.[yourDomain].com/mytimedtext1.xml";
flvPlayback.activeVideoIndex = 1;
flvPlayback.play ("http://www.[yourDomain].com/myvideo1.flv");
```

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントのカスタマイズ

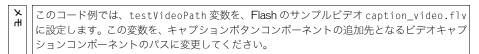
FLVPlaybackCaptioning コンポーネントをすばやく使い始めるには、キャプションを FLVPlayback コンポーネントに直接配置する FLVPlaybackCaptioning のデフォルトを使用できます。キャプションをビデオから離すように FLVPlaybackCaptioning コンポーネントをカスタマイズすることもできます。

次のコードでは、キャプショントグルボタンを使用して、FLVPlayback オブジェクトを動的に作成する方法を説明します。

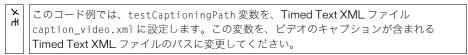
キャプショントグルボタンを使用して FLVPlavback オブジェクトを動的に作成するには

- 1. FLVPlayback コンポーネントをステージ上の 0,0 の位置に配置し、インスタンス名 player を指定します。
- **2.** FLVPlaybackCaptioning コンポーネントをステージ上の 0,0 の位置に配置し、インスタンス名 captioning を指定します。
- 3. CaptionButton コンポーネントをステージ上に配置します。

4. 次のコード例では、testVideoPath:String 変数を、FLV ファイルの絶対パスまたは相対パス に設定します。



5. 次のコード例では、testCaptioningPath:String 変数を、適切な Timed Text XML ファイルの 絶対パスまたは相対パスに設定します。



- 6. FLVPlayback および FLVPlaybackCaptioning コンポーネントをライブラリに追加します。
- 7. 次のコードを "FLVPlaybackCaptioningExample.as" として、FLA ファイルと同じディレクト リに保存します。
- 8. FLA ファイルで、DocumentClass を FLVPlaybackCaptioningExample に設定します。

```
import flash.display.Sprite;
import flash.text.TextField:
import fl.video.FLVPlayback;
import fl.video.FLVPlaybackCaptioning;
public class FLVPlaybackCaptioningExample extends Sprite {
  private var testVideoPath:String = "http://www.helpexamples.com/flash/
video/caption video.flv";
  private var testCaptioningPath:String = "http://www.helpexamples.com/flash/
video/caption_video.xml";
  public function FLVPlaybackCaptioningExample() {
    player.source = testVideoPath;
    player.skin = "SkinOverAllNoCaption.swf";
    player.skinBackgroundColor = 0x666666;
    player.skinBackgroundAlpha = 0.5;
    captioning.flvPlayback = player:
    captioning.source = testCaptioningPath;
    captioning.autoLayout = false;
    captioning.addEventListener("captionChange".onCaptionChange):
  private function onCaptionChange(e:*):void {
    var tf:* = e.target.captionTarget;
    var player:FLVPlayback = e.target.flvPlayback;
    // move the caption below the video
```

```
tf.y = 210;
 }
すべての FLVPlaybackCaptioning パラメータの詳細については、『ActionScript 3.0 コンポーネン
トリファレンスガイド』を参照してください。
```

A

Timed Text タグ

FLVPlaybackCaptioning コンポーネントは、XML ファイルのキャプショニング用に Timed Text タグをサポートしています。オーディオビデオの Timed Text タグの詳細については、http://www.w3.org の情報を参照してください。次の表に、サポートされているタグとサポートされていないタグを示します。

機能	タグ / 値	用途 / 説明	例
無視される タグ	metadata	無視されるか、ドキュメントの いずれかのレベルで許可され ます。	
	set	無視されるか、ドキュメントの いずれかのレベルで許可され ます。	
	xml:lang	無視されます。	
	xml:space	無視されるか、ビヘイビアが xml:space="default" よりも優 先されます。	
	layout	無視されるか、レイアウトタク セクションに任意の領域タグを 含みます。	
	br タグ	すべての属性とコンテンツが無 視されます。	Ę

機能	タグ / 値	用途 / 説明	例
キャプション のメディアの タイミング	begin 属性	p タグだけで使用されます。 キャプションのメディアに時刻 を展開するために必要です。	
	dur 属性	p タグだけで使用されます。推 奨属性です。この属性を含めない場合は、キャプションは FLV ファイルの終了時か、他のキャ プションが開始されたときに終 了します。	
	end 属性	p タグだけで使用されます。推 奨属性です。この属性を含めない場合は、キャプションは FLV ファイルの終了時か、他のキャ プションが開始されたときに終 了します。	
キャプション	00:03:00.1	フルクロック形式	
のクロックタ イミング	03:00.1	部分クロック形式	
イミング	10	単位のないオフセット時間。オ フセットは秒を表します。	
	00:03:00:05 00:03:00:05.1 30f 30t	サポートされません。フレー ムや目盛が含まれる時間形式 はサポートされません。	
本文タグ	body	必須、または1つの body タグ だけがサポートされます。	<body>div></body>
コンテンツ タグ	div タグ	指定しないことも、1つ以上を指 定することもできます。最初の タグが使用されます。	
	pタグ	指定しないことも、1つ以上を 指定することもできます。	
	span タグ	連続したテキストコンテンツの 単位の論理コンテナ。ネストされ た span はサポートされません。 属性スタイルタグをサポートし ます。	
	br タグ	明示的な改行を示します。	

機能	タグ / 値	用途 / 説明	例
スタイル指定 タグ (p タグ内部で はすべてのス タイルタグが 使用される)	style	1つまたは複数のスタイルエレメントを参照します。タグや属性として使用できます。タグとして使用する場合は ID 属性が必要です (style はドキュメントで再使用できる)。 style タグ内部で1つまたは複数の style タグをサポートします。	
	tts:background Color	領域の背景色を定義するスタイルプロパティを指定します。ゼロに設定して (アルファの)背景を透明にしない限り、アルファは無視されます。カラー形式は#RRGGBBAAです。	
	tts:color	前景色を定義するスタイルプロパティを指定します。どの色についてもアルファはサポートされません。値transparentは黒に変換されます。	<pre>cstyle id="3" style="2" tts:backgroundColor="white"/> "transparent" = #00000000 "black"=#000000FF "silver"=#COCOCFF "grey"=#808080FF "white"=#FFFFFFF "maroon"=#80000FF "red"=#FF000FF "purple"=#800080FF "fuchsia"("magenta")= #FF00FFFF "green"=#008000FF "lime"=#00FF00FF "olive"=#808000FF "yellow"=#FFF00FF "navy"=#00080FF "blue"=#0000FFFF "teal"=#008080FF</pre>

機能	タグ / 値	用途 / 説明	例
	tts:fontFamily	フォントファミリーを定義す るスタイルプロパティを指定 します。	"default" = _serif "monospace" = _typewriter "sansSerif" = _sans "serif" = _serif "monospaceSansSerif" = _typewriter "monospaceSerif" = _typewriter "proportionalSansSerif" = _sans
	tts:fontSize	フォントサイズを定義するスタイルプロパティを指定します。2つの値が指定されている場合は、最初の(垂直)値が使用されます。パーセント値と単位は無視されます。絶対ピクセル(12など)と相対スタイル(+2など)のサイズがサポートされています。	
	tts:fontStyle	フォントスタイルを定義するス タイルプロパティを指定します。	"normal" "italic" "inherit"* * デフォルトのビヘイビア。スタ イルは、それを囲んでいるタグから継承されます。
	tts:fontWeight	フォントの太さを定義するスタ イルプロパティを指定します。	"normal" "bold" "inherit"* * デフォルトのビヘイビア。スタ イルは、それを囲んでいるタグか ら継承されます。
	tts:textAlign	含まれるブロック領域内部でインライン領域を揃える方法を定義するスタイルプロパティを指定します。	"left" "right" "center" "start" (="left") "end" (="right") "inherit"* * スタイルは、それを囲んでいる タグから継承されます。textAlign タグを設定しないと、デフォルト 値は"left"になります。

機能	タグ / 値	用途 / 説明	例
	tts:wrapOption	影響を受けるエレメントのコンテキスト内で行の自動的な折り返し(改行)を適用するかどうかを定義するスタイルプロパティを指定します。この設定は、キャプションエレメントのすべての段落に影響を与えます。	"noWrap" "inherit"* * スタイルは、それを囲んでいる タグから継承されます。
サポートされていない属性	tts:direction tts:display tts:displayAlign tts:dynamicFlow tts:extent tts:lineHeight tts:opacity tts:origin tts:overflow tts:padding tts:showBackg round tts:textOutline tts:unicodeBidi tts:visibility tts:writingMode		

tts:zIndex

索引

A	В
ActionScript FLVPlayback コンポーネントの追加 193 コンポーネント API 36 コンポーネントの追加 22 ActionScript キューポイント FLVPlayback 199 削除 201 追加 201 無効化と有効化 201	Button コンポーネント ActionScript による作成 76 カスタマイズ 146 作成 75 使用 73 スキンの使用 148 スタイルの使用 147 操作 74 パラメータ 75
ActionScript、作成 Button 76 CheckBox 79	С
ColorPicker 83 ComboBox 86 DataGrid 92 Label 95 List 100	CellRenderer SWF の使用 71 イメージの使用 71 実装、ICellRenderer 66 セルの形式化 64
NumericStepper 103 ProgressBar 110 RadioButton 113 ScrollPane 117 Slider 120	操作 64 プロパティ 70 編集可能セルの 71 ムービークリップの使用 71 ライブラリシンボルの使用 68
TextArea 124 TextInput 127 TileList 130 UILoader 132 UIScrollBar 134	CheckBox コンポーネント ActionScript による作成 79 カスタマイズ 149 作成 78 使用 77
データプロバイダ 57 addChild() メソッド 22、49 addChildAt() メソッド 49 addEventListener() メソッド、イベント処理 24	スキンの使用 151 スタイルの使用 150 操作 77 パラメータ 78
addItem() メソッド 59 addItem() メソッド 60 addItemAt() メソッド 60 API、コンポーネント 15	ColorPicker コンポーネント ActionScript による作成 83 Greetings アプリケーション 26 Greetings2 アプリケーション 29

カスタマイズ 152	FLVPlayback コンポーネント
作成 82	ActionScript による追加 193
使用 81	・ FLV ファイルのストリーミング 210
スキンの使用 153	SMIL ファイルの使用 226
スタイルの使用 152	source パラメータの指定 195
操作 81	アプリケーションの作成 191、236
パラメータ 82	カスタマイズ 210
ComboBox コンポーネント	キューポイントの使用 199
ActionScript による作成 86	コンポーネントパラメータ 238
Greetings アプリケーション 27	使用 189
Greetings2アプリケーション 29	スキンの作成 220
カスタマイズ 154	説明 189
作成 85	デザイン済みスキン 211
使用 84	バージョンの検索 24
スキンの使用 156	パラメータ 194
スタイルの使用 154	ビデオの読み込みウィザードによる追加 192
操作 84	ビデオプレーヤーの使用 207
パラメータ 85	複数の FLV の再生 206
Component Assets フォルダ 44	FLVPlaybackCaptioning コンポーネント
Component Assets 7 / 707 44	ActionScript を使用した追加 237
	Timed Text キャプションの使用 239
D	キャプションでの埋め込まれたキューポイントの
	使用 242
DataGrid オブジェクト、CellRenderer の適用 71	キューポイントの標準 241
DataGrid コンポーネント	コンポーネントパネルからの追加 236
ActionScript による作成 92	サインドハイルからの追加 230 使用 235
XML の格納 93	igh 233 バージョンの検索 24
カスタマイズ 157	
作成 90	複数の言語トラックのサポート 243
使用 88	
スキンの使用 161	G
スタイルの使用 157	
操作 88	getChild() メソッド 49
パラメータ 90	getChildAt() メソッド 49
dataProviderパラメータ 55	getChildByName() メソッド 49
defaultPushButtonプロパティ 53	getStyle() メソッド 140
	Greetings アプリケーション
F	ColorPicker 26
Γ	ComboBox 27
fl/accessibility/package-detail.html 72	FLA ファイルでの作成 26
FLA ベースのコンポーネント 34	RadioButton 26
Flash Media Server 210	TextArea 26
Flash Video キューポイントダイアログボックス 200	外部クラスファイル 28
FLV ファイル	
オブション 196	1
切り替え 207	
再生 189	ICellRenderer インターフェイス、実装 66
複数の再生 206	.com tondoror 127 7 1 17 17 XX 00
12.50 L	

	カスタマイス 170
Label コンポーネント	作成 106
ActionScript による作成 95	使用 105
カスタマイズ 163	スキンの使用 171
	スタイルの使用 170
作成 94	操作 105
使用 94	パラメータ 105
スキンの使用 164	
スタイルの使用 163	П
操作 94	R
パラメータ 94	RadioButton コンポーネント
List コンポーネント	ActionScript による作成 113
ActionScript による作成 100	Greetings アプリケーション 26
MovieClip の操作 100	Greetings2アプリケーション 29
カスタマイズ 164	アプリケーションの作成 112
作成 98	カスタマイズ 172
使用 96	作成 112
スキンの使用 165	使用 111
スタイルの使用 164	スキンの使用 173
操作 97	スタイルの使用 172
データプロバイダの格納 99	
パラメータ 98	操作 111
	パラメータ 112
NI	
N	S
numChildren プロパティ 49、50	
NumericStepper コンポーネント	ScrollPane コンポーネント
ActionScript による作成 103	ActionScript による作成 117
アプリケーションの作成 103	アプリケーションの作成 116
カスタマイズ 167	カスタマイズ 174
使用 101	作成 116
スキンの使用 168	使用 114
スタイルの使用 167	スキンの使用 175
操作 102	スタイルの使用 175
パラメータ 102	操作 115
	パラメータ 116
	setFocus() メソッド 52
\circ	setSize()メソッド 45
on(event) 25	Slider コンポーネント
on(event) 25	ActionScript による作成 120
	カスタマイズ 175
P	作成 119
	使用 117
ProgressBar コンポーネント	スキンの使用 176
ActionScript による作成 110	スタイルの使用 176
event モード 106	操作 118
manual モード 109	パラメータ 118
polled $ = - $ $ 107 $	SMIL ファイル、場所の指定 196
アプリケーションの作成 106	

SWC	UILoader コンポーネント
FLVPlayback 35	ActionScript による作成 132
FLVPlaybackCaptioning 35	カスタマイズ 185
書き出し 35	作成 132
コンポーネント 35	使用 131
SWC、FLAベースのコンポーネント 35	操作 131
	パラメータ 132
_	UIScrollBar コンポーネント
T	ActionScript による作成 134
TextArea コンポーネント	カスタマイズ 186
ActionScript による作成 124	作成 134
•	使用 133
Greetings アプリケーション 26	スキンの使用 187
Greetings2 アプリケーション 29	スタイルの使用 186
カスタマイズ 177	操作 133
作成 123	パラメータ 133
使用 121	777 7 100
スキンの使用 179	
スタイルの使用 178	あ
操作 122	
パラメータ 122	アーキテクチャ、コンポーネント 33
TextFormat、テキストプロパティを設定 140	アクセシビリティ、コンポーネント 72
TextInput コンポーネント	
ActionScript による作成 127	()
カスタマイズ 180	()
作成 125	イベント
使用 124	イベントオブジェクト 48
スキンの使用 181	処理 47
スタイルの使用 181	リスナー 47
操作 125	イベント処理 47
パラメータ 125	ActionScript 2.0 との違い 24
TileList コンポーネント	addEventListener() メソッド 24
ActionScript による作成 130	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
カスタマイズ 182	インストール、コンポーネント 18、20
作成 129	
使用 128	
スキンの使用 184	お
スタイルの使用 182	オーサリング、コンポーネントの追加 21
操作 128	オーササング、コンボーネンドの追加 21
パラメータ 129	
Timed Text タグ 247	か
	, -
	外部クラスファイル 28
U	カスタマイズ、説明 138
エルコンポーラント	カスタムコンポーネント 15
UI コンポーネント 毎粒 10	
種類 18	
バージョンの検索 23	
UIComponent クラスおよびコンポーネントの継承 36	

き	スキンの作成 145
	スキン、FLA ベース 34
キューポイント、FLVPlayback 199	スタイルを設定 141
Flash Video キューポイントダイアロ	すべてにスタイルを設定 141
グボックス 200	設定、プロパティ 42
埋め込みの有効化と無効化 205	説明 15
監視 203	ソースファイル、場所 37
検索 203	ダウンロード 20
削除 206	単純なアプリケーション 25
使用 199	追加と削除 20
ナビゲーション、シーク 204	デバッグ 40
	ドキュメントへの追加 21
	パラメータの設定 21
	表示 19
クラスとコンポーネントの継承 36	表示リスト 49
クラスパス 38	ファイルの修正 38
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	フォルダの場所 37
	メリット 16
け	ユーザー別の場所 37
継承、コンポーネント 36	ユーザーがの物が 37 ライブプレビュー 46
松本、コンボーネント 30	リロード 39
Z	コンポーネントアプリケーションのデバッグ 40
	コンポーネントインスタンス
この 239	スタイルを取得 139
コンパイル	スタイルを設定 139、141
埋め込み SWC 35	コンポーネントのサイズ変更 45
ムービークリップ 35	コンポーネントの削除 23
コンパイルされたクリップ、ライブラリパネル内 43	コンポーネントパネル 19
コンポーネント	コンポーネントパラメータ
各コンポーネント名も参照	各コンポーネント名も参照
ActionScript API 15	設定 41
ActionScript による追加 22	表示 41
addChild() メソッド 22	
FLAベース 34	I
SWC ベース 35	\cup
UI タイプ 18	システム要件、コンポーネント 12
アーキテクチャ 33	実行、例 32
アクセス可能にする 72	
イベント処理 47	
インストール 18、20	す
埋め込み SWC 35	スキン
オーサリング時の追加 21	作成 145
カスタム 15	ステージ上でアクセス 143
機能 16	説明 142
クラスパス 38	定義 143
継承 36	た我 143 デザイン済み、FLVPlayback 211
サイズ変更 45	ライブラリでアクセス 144
削除 23	ライブラリウ 44 ライブラリ内 44
実行時の追加 22	ノ1 ノ ノソPI 44
深度、コンテナ内 49	
and the second s	

フォンの海田	7
スキンの適用 Button コンポーネント 148	そ
	ソースファイル
CheckBox コンポーネント 151	クラスパス 38
ColorPicker コンポーネント 153 ComboBox コンポーネント 156	修正 38
	ソースファイル、場所 37
DataGrid コンポーネント 161	
FLVPlayback コンポーネント 191	
Label コンポーネント 164	た
List コンポーネント 165	対象となる読者 12
NumericStepper コンポーネント 168	対象となる記者 12 ダウンロード (コンポーネント)、Adobe Exchange 20
ProgressBar コンポーネント 171	単純なアプリケーション 25
RadioButton コンポーネント 173	半胞な人 ノッケーション 20
ScrollPane コンポーネント 175	
Slider コンポーネント 176	7
TextArea コンポーネント 179	
TextInput コンポーネント 181	データプロバイダ
TileList コンポーネント 184	ActionScript による作成 57
UIScrollBar コンポーネント 187	List の設定 99
定義 138	merge() 62
スクリーンリーダー 72	sort() 62
スタイル	sortOn() 62
コンポーネントインスタンスで設定 139	アイテムの削除 61
設定 138	作成 54
設定の理解 139	操作 54、60
デフォルトにアクセス 139	配列の使用 57
スタイル、使用	表示、データフィールド 59
Button 147	データプロバイダオブジェクト、XML の使用 59
CheckBox 150	テキストプロパティを設定 140
ColorPicker 152	デフォルトスタイルにアクセス 139
ComboBox 154	
DataGrid 157	1+
Label 163	は
List 164	バージョン
NumericStepper 167	FLVPLayback のバージョンの検索 24
ProgressBar 170	FLVPlaybackCaptioning のバージョンの検索 24
RadioButton 172	UI コンポーネントのバージョンの検索 23
ScrollPane 175	パッケージ 36
Slider 176	パラメータ
TextArea 178	Button コンポーネント 75
TextInput 181	CheckBox コンポーネント 78
TileList 182	ColorPicker コンポーネント 82
UIScrollBar 186	ComboBox コンポーネント 85
すべてのコンポーネントにスタイルを設定 141	DataGrid コンポーネント 90
	FLVPlayback コンポーネント 194
t	Label コンポーネント 94
	List コンポーネント 98
セル	NumericStepper コンポーネント 102
編集可能、CellRenderer 71	ProgressBar コンポーネント 105
リストベースのコンポーネント 53	RadioButton コンポーネント 112
セルの形式化 64	ScrollPane コンポーネント 116

Slider コンポーネント 118 5 TextArea コンポーネント 122 ライブプレビュー 46 TextInput コンポーネント 125 ライブラリ TileList コンポーネント 129 コンパイルされたクリップ 43 UILoader コンポーネント 132 ライブラリパネル 43 UIScrollBar コンポーネント 133 入力 41 1) 71 リストベースのコンポーネント セル 53 ビデオの読み込みウィザード 192 セルレンダラー 54 ビデオプレーヤー、使用 207 操作 53 表記規則 13 データプロバイダ 53 表示リスト リスナー、イベント 47 移動、コンポーネント 50 リソース、その他の Adobe 13 削除、コンポーネント 51 リロード、コンポーネント 39 追加 49 表示リスト、操作 49 n 131 例、実行 32 フォーカスマネージャ、操作 51 プロパティ CellRenderer 70 設定 42 プロパティインスペクタ 21 編集可能セル 71 ま マニュアル アドビデベロッパーセンターおよびアドビデザインセ ンター 13 説明 12 用語のガイド 13 マニュアル内の用語 13 すい ムービークリップ コンパイル 35

8

メリット 16